

平成 21 年度

20 ~ 30 代働く男性の男女共同参画に  
関する意識と実態

調査研究報告書

大阪市

財団法人大阪市女性協会

## はじめに

クレオ大阪研究室では、男女共同参画社会の実現をめざし、大阪市の男女共同参画施策とクレオ大阪の各種事業に資するため調査研究を行っています。

大阪市においては、平成 20 年度に男女市民 3000 名を対象にした「男女共同参画に関する市民意識調査」を、平成 19 年度には「20 代 30 代女性のライフスタイルと再チャレンジ(再就職)に関する調査」を実施したところ、男性に対する男女共同参画の取り組みが課題として浮びあがりました。

この調査では、将来を担う 25～39 歳の働く若年男性を対象に、男女共同参画に関する意識や実態から、彼らが直面する問題・課題を浮き彫りにし、行政が担う法律・制度、政策・施策等の「社会的側面」や、企業が担う職場の制度・慣習の「労働環境的側面」から課題を探り、また 20 代 30 代男性の「人生観」や「性別役割分業観」を形成する要因を探ることで、今後の施策の推進に資することを目的としております。

本報告書が幅広く活用され、男女共同参画社会の実現に向けた取り組みへの一助となれば幸いです。

最後に、本調査研究の実施にあたり、ご尽力いただきました関西大学与謝野有紀教授をはじめ、市民の皆様に厚くお礼申し上げます。

平成 22 年 3 月

大阪市立男女共同参画センター(クレオ大阪)  
研究室長 榎村 久子

## 目次

. 調査研究の概要	1
1. 調査研究の目的	
2. 調査研究の背景	
3. 調査の方法と回答者のプロフィール	
. 調査研究結果のまとめ	4
. 調査研究結果	8
1. 若年男性の男女共同参画意識を規定する要因 ～若年者男性における階層・仕事・生活満足および「女性への評価」の因果分析～	8
2. 20～30代働く男性の人物像～Webアンケート調査結果より～	14
(1) 雇用	
(2) 仕事	
(3) 若年男性の男女共同参画意識と性別役割分業観	
(4) 現状生活と将来についての意識と実態	
(5) 男女共同参画の実現のために必要と考えるもの	
3. ヒアリング調査結果～量的調査の補完する質的調査として～	31
4. マッピングによる区域別の若年者男性の意識の特徴を探る	43
5. Webアンケートクロス集計	54
(1) 仕事観	
(2) 恋愛観	
(3) 結婚観	
(4) 妻の理想像	
(5) 妻の仕事	
(6) 子ども	
(7) 自分観・社会観	
(8) 男女共同参画のまちづくり	
(9) 行政・企業等へ要望	
(10) 自由記述	
. 参考資料	
・Webアンケート調査票	
・Q1-6-2「あなたの日常(*睡眠を除く)における、「仕事」、「家庭生活」、「個人の生活等」の優先度」で「希望に最も近いもの」を選んだ理由	

## ・調査研究の概要

### 1. 調査研究の目的

20代30代の男性が考える男女共同参画社会とは、どんなものなのだろうか？

今回の調査では、将来世代である20代30代男性の男女共同参画に関する意識や実態から、彼らが直面する問題・課題を浮き彫りにし、行政が担う法律・制度の「社会的側面」や、企業が担う職場の制度・慣習の「労働環境的側面」から課題を探る。

また、20代30代男性の「人生観」や「性別役割分業観」を形成する要因を探り、次世代を担う若年者層における男女共同参画推進のための要点を見つける一助とする。

( なお今回の調査は、25～39歳までの働く男性を対象とし、文中での「若年男性」はこれをいう。 )

### 2. 調査研究の背景

#### クレオ大阪の調査研究結果から

##### 若年男性の男女共同参画に関する意識の変化

～平成20年度「大阪市における男女共同参画に関する市民意識調査」より～

20代30代男性の「好ましい自分の生き方」に対する回答は、『仕事、家事などを配偶者と分担、両立する』が40%と前回調査(平成16年)より11ポイント増えているが、「性別役割分業意識」については肯定する人が7.4ポイント増加している。

また、国の「男女共同参画社会に関する市民意識調査」(平成19年)においても「好ましい生き方」をみると、『仕事と家庭生活と地域、個人の生活をともに優先したい』が20代男性で59%、30代では57%と最も多く、「性別役割分業意識」も『反対』『どちらかといえば反対』の合計は、反対が賛成を上回っている。

しかし、大阪市の市民意識調査でも見られるように、「性別役割分業意識」では『どちらかといえば賛成』の割合が全体では最も多い。

これら調査から「好ましい生き方」では男女共同参画意識が進んでいるといえるが、「性別役割分業意識」ではむしろ後退しているように見える。

今回の調査では、この両者のギャップの背景にあるものを探る。

##### 女性の“合わせ鏡”としての男性

～平成19年度「20代30代女性のライフスタイルと再チャレンジ(再就職)に関する調査」より～

調査からは配偶者、パートナーの帰宅時間の平均が21時前であり、家事・育児のほとんどを女性が担っていることで、女性の勤務時間に制限がかかり、再就職の機会を狭めている。

再就職や継続就業を可能にするには男性の働き方の見直しが望まれるとの調査結果になった。

### 3. 調査の方法と回答者のプロフィール

#### (1) Web アンケート調査

社会調査におけるアンケート調査は従来、郵送による調査票の送付・回収の手法が取り入れられてきたが、

近年、各自治体で実施される社会調査は、郵送による回収率が低下しており、大阪市においても「男女共同参画に関する市民意識調査」の回収率が低下傾向にあり、特に若年者層において顕著である。

若年者層を中心にインターネットが普及し(注)、国で実施されている調査をはじめ、民間の調査機関が実施する調査や民間企業のモニター調査等においても Web アンケート調査の導入が取り入れられてきている。

上記2点を考慮し、今回の調査は、若年者層の働く男性を調査対象としており、サンプル回収が確実な Web アンケート調査により実施した。

ただし、サンプルを保持する Web 無作為抽出ではないため、偏ったサンプルになる可能性があることは留意する。

(注)・20代30代男性(全国)のパソコンからのインターネット利用率は84.4% (「通信利用動向調査」総務省、平成20年度)と大半を占めている。

・平成21年度「男女共同参画に関する市民意識調査」における補完調査「20代30代」Web調査でも大きな差が出なかった点からも、調査に当たっては有効性をもった調査手法であると考ええる。

#### 調査の方法・期間等

調査対象	25歳～39歳の大阪市在住の働く男性 1,136人(外国籍住民含まない)
調査方法	Webアンケート調査
調査期間	平成21年(2009年)10月26日～11月17日
調査内容 (概要)	・仕事観 ・恋愛観 ・結婚観 ・妻の理想像 ・妻の仕事 ・子ども ・自分観、社会観 ・男女共同参画
実施機関	財団法人 大阪市女性協会

#### 回収サンプル数

	未婚男性	既婚男性	合計
25～29歳	171	84	255
30～34歳	220	220	440
35～39歳	220	221	441
合計	611	525	1,136

## (2)ヒアリング調査

定量調査である Web アンケート調査から導き出される調査データを補完し、より若年男性像を浮かび上がらせるために定性調査としてヒアリング調査を実施した。

また、次世代を担うパートナーとして、男女の関係性における課題を明確にするために、同世代女性にも同時に聞き取りを実施した。

### 調査の方法・期間等

調査対象	25 歳～39 歳の大阪市在住の働く男女(外国籍住民含まない)
調査方法	座談会によるグループインタビュー(1 グループ 90 分)
調査期間	平成 21(2009)年 12 月 26 日、平成 22(2010)年 1 月 9 日、1 月 16 日
調査内容 (概要)	・仕事観 ・恋愛観 ・結婚観 ・妻の理想像 ・妻の仕事 ・子ども ・自分観、社会観 ・男女共同参画
実施機関	財団法人 大阪市女性協会

### グループの属性

年齢	25～29 歳	30～34 歳	35～39 歳
人数	男女各 3 名	男女各 3 名	男女各 3 名
属性	既婚・未婚各 1 組	既婚・未婚各 1 組	既婚・未婚各 1 組

25～29 歳・未婚グループの女性 1 名は、開催当日急きょ欠席したため、女性の参加は 2 名。

## ・調査研究結果のまとめ

### “衣食足って「男女共同参画」を知る” 男女の「社会経済的地位の安定」が男女共同参画社会の実現につながる

若年男性にとって、社会経済的地位の安定が男女共同参画意識の基礎となる

若年男性の男女共同参画意識を規定する要因とはどのようなものであるかを明らかにするため、次の5つの概念の関係性をみる因果分析を行った。

#### 【概念】

社会経済的地位	… 学歴、職業上の地位(年収、職業、企業規模)
現在の仕事に求めるもの	… 将来性、充実感、時間的自由
ワーク・ライフ・バランス(＊)	… ワーク・ライフ・バランス希望、ワーク・ライフ・バランス実態
生活満足	… 生活満足、時間的満足、社会的満足
女性への評価	… 女性の仕事能力評価、女性への全般的自立要求、女性への経済的自立要求

その結果、未婚男性、既婚男性ともに、社会経済的地位を獲得し、仕事、生活での充実感、満足感を高く持つに至った人々が、女性を積極的に評価するとともに、さらに男女共同参画社会が進展することを望んでいるという関係性が判明した。

また、未婚男性の場合のみ、女性への評価に対して彼らの年代がマイナスの効果を与えていることも明らかになった。

既婚男性の場合には、年齢が高くなると、社会経済的地位が上昇しながら、女性への評価が上昇し、男女共同参画意識が発展していく。一方、未婚男性では年齢が高くなっても社会経済的地位の上昇は相対的に不確実で、女性への評価は相対的に低くなる傾向がある。その要因のひとつとしては、社会経済的地位の獲得と関係があるものと考えられる。

#### 未婚男性に必要な満足感のある社会システム(制度と仕組み)

分析によると、未婚男性の場合は既婚男性に比べ、「社会的満足」が「女性の仕事能力評価」にややプラスの効果を与えていることがわかる。

これは、自らが正しく評価される社会であるという「社会的満足」があってはじめて「女性の仕事能力評価」を積極的にすることができるのだと考えられ、逆に言えば、「社会的満足」が低く、自分の生活している社会は自分にとって不満足にしか機能していないと考える未婚男性は、女性の仕事能力は低く、不十分だとしか評価できなくなっているということである。

そのため未婚男性についても年齢と社会経済的地位の上昇が比例し、特に自らが正しく評価されているという満足感を生み出すような社会システム(制度や仕組み)の構築がより重要ということになる。

このことは、男女共同参画意識の啓発等の重要性は認められながらも、「生活の安定と満足」の確立が重要な課題であることを示している。(以上、詳細はP8～13の因果分析を参照)

(＊)ワーク・ライフ・バランスとは、仕事、家庭生活、地域生活、個人の自己啓発など、様々な活動について、自ら希望するバランスで展開できる状態を指します。平成19年12月に[仕事と生活の調査(ワーク・ライフ・バランス憲章)および「仕事と生活の調和のための行動指針」が、関係閣僚、経済界、地方公共団体の代表等からなる「官民トップ会議」において策定されました。

若年男性における「男女共同参画意識の高まり」と「アイデンティティとしての家族を養う意識」の二層ねじれ構造

家事に抵抗がなく、家庭が大切

既婚男性の「ワーク・ライフ・バランスの理想」は、『家庭を優先』する回答が最も多く、次いで『仕事と家庭生活を優先』する、『仕事と家庭生活と個人の生活等の3つを両立』するというアンケート結果になった。

ヒアリング結果もこれを証明するように、既婚男性は仕事の制約を受けながらも実際に家事をしている、また、しようとする意識を持つことがわかった。

このように、既婚男性は家事に抵抗感がなく、家庭責任を妻とともに担い、家庭を大切にしようとする考えがうかがえた。

未婚男性においても、最も多い回答が『個人の生活等を優先』するとなったが、続く回答は『仕事と家庭生活と個人の生活等の3つを両立』する、『仕事と個人の生活等を優先』するというアンケート結果となった。

ヒアリング調査でも未婚男性は、ひとり暮らしの男性は「自分でやらざるをえない」状況も手伝い、既婚男性と同様に全般的に家事に抵抗がなく、家庭を大切にしたい考えがうかがえた。

パートナーとしての夫婦が理想

「理想の結婚生活」では、『何でも分かり合えるように会話を重視』『お互いのライフスタイルを尊重する』『お互いに気を使わない関係性』の回答で、『そう思う』と『ある程度そう思う』の合計が8割から9割と大半を占めるアンケート結果となった。

ヒアリング調査でも、既婚男性と既婚女性から『話し合いながら』『協力しながら』といった発言があり、『何でも分かり合えて、互いに尊重するパートナー』としての夫婦を理想としている。そして、『お互いに気を使わない関係性』を重視していることがうかがえた。

結婚後の妻の働き方は「妻の自由に」

アンケート結果において、「男性が希望する妻の働き方」は、未婚・既婚とも一番多い回答が『妻の自由にしてほしい』であった。これは、前述の「お互いのライフスタイルを尊重する」回答が大半を占める結果とも合致している。

ヒアリング調査では、『結婚後も働いてほしい』『専業主婦になってほしい』という希望もあるが、『妻の意思を尊重する』『好きにしてほしい』という考えを持ち、若年男性の特徴のひとつとしてみる事ができる。

アイデンティティとしての家族を養う意識

『家族を養いたい』割合が未婚30代後半男性の6割を最低として、既婚男性では約8割という未婚・既婚ともに相対的に高い割合を示すアンケート調査結果となった。

これについては、関連する結果として、若年男性が「これから働く上で望むこと」は『収入』と『安定』があげられ、特に既婚男性では、『収入をあげたい』割合が未婚男性より高くなっている。

また、未婚男性の「結婚したいができない、結婚したくない」理由としては、『収入が少ない・経済的に自信がない』が、「結婚する決め手」としても『経済的見通し』や『準備資金』といった経済面での要因があげられている。

同様に、ヒアリング調査においても、総じて男性には『家族を養いたい』という声があり、未婚男性では結婚の決め手として経済面や安定といった経済的側面の要件があげられた。

その他、「家族を養う意識」と通じるものとして、『家庭、家族の重要なことは最終的には自分が決定したい』とする回答が、未婚・既婚ともに5割を超えるアンケート結果となった。

このように、若年男性のアイデンティティとして家族を養う意識を根強く持つことが明らかになった。



以上のように、若年男性は、男女共同参画意識が高まり( )つつある一方で、家族を養う意識( )を根強く持つという二層ねじれ構造となっている。

#### 女性が変わる必要性

女性は「頼りたい」、男性は「頼られたい」

若年男性の家族を養う意識と呼応するように、ヒアリング調査ではサンプル数は少ないながらも女性は「生活費の基本は男性が担い、女性はプラスアルファとして家計を補いながら、自分自身や子どものために使えるように」というように、男性を「経済的に頼りにしたい」存在としてとらえている。

また、「自分より上の立場、何かあれば男性が引っ張ってくれる」というように、男性には「精神的にも頼りにしたい」として、女性は「男性を立てる」という関係性が良い、うまくいくという声がみられた。男性には「立ててほしい」「妻に頼る状況は嫌だ」と感じている声がある。

#### 女性にも求められる経済的責任

ヒアリング調査では、若年男性は社会経済状況の厳しい現実からプレッシャーを感じており、また、「養う、養われる関係」ではなく、お互いが自立した存在でいたい、という考えも少なくなかった。

アンケート調査の結果においても『夫婦ともに仕事を持ち、経済的に自立して家計をともに支える』割合として未婚では7割、既婚でも5割を超え、結婚後の妻の働き方でも『専業主婦』『子どもが生まれるまで』は、約1割を切る少数意見という結果になった。

若年男性は、現実的には女性に対して経済責任を期待していると考えられる。

#### 男女が自分らしい人生を送ることをめざす男女共同参画社会の実現のために

若年男性の男女共同参画意識について、「社会経済的地位の安定」「若年男性のアイデンティティとしての家族を養う意識」「女性が変わる必要性」の点から述べてきたが、では、男女共同参画社会を実現するために、今、若年層にとって何が必要なかを考察していく。

まず、「若年男性の社会経済的地位の安定」には、若年男性に対する行政による雇用や失業対策、セーフティネット、企業による安定した正規雇用や均等待遇の保障などが必要である。

これらは、若年男性が直面している経済的な問題を実質的に解消するものであり、社会経済的地位を安定させるという課題解決につながる。

次に、「若年男性のアイデンティティとしての家族を養う意識」「女性が変わる必要性」という2つの課題については、若年男性だけの「社会経済的地位の安定」では十分でないと考えられる。そこで、この2つの課題を解決する方向性を示しているのが、次のアンケート結果とヒアリングでの意見である。

#### ・アンケート結果

「大阪市男女共同参画の基本計画の10の課題でより取り組みが必要なもの」「男女共同参画社会の実現に行政が取り組む必要があるもの」「男女共同参画社会の実現に企業が取り組む必要があるもの」の上位3つが次のとおり共通した結果となった。

就業において、男女の均等な機会を確保し、正当な評価に基づく処遇を行う

男女が職業生活と家庭・地域生活を両立できるように、育児・介護休業、短時間勤務など多様な働きを選択でき、利用しやすい職場風土づくりの推進を図る

社会制度・慣行の見直しのため実効性を持つ男女共同参画に関わる法律や制度を整え、行政や経営トップがリーダーシップを発揮して意識改革を図る

## ・ヒアリング結果

「それぞれが自分らしい人生を送るために、男女平等の社会が実現するために、行政や、企業に望むこと、また男性や女性に望むこと」として、アンケート結果よりも具体的な意見が出された。

女性に対しては均等待遇や正当な評価を行い、男性に対しては育休や、休暇を取りやすい環境の整備など、実質的な取り組みが必要である。

自分達(若年層)の意識は変わってきているので、経営者、管理職、親など、自分たちより上の世代の意識の変化を強く望む。

「男は仕事で女は家庭」を肯定的に捉えている女性の意識が変わる必要がある。

これらの結果をふまえ、具体的な方策としては、次のように考えられる。

男女の均等な機会を確保し、正当な評価に基づく処遇を行う、特に女性に対する均等待遇を保障することは、就業面において今まで男性より低い地位にあり「男性に頼らざるを得ない」ともいえる若年女性の社会経済的地位の安定をもたらす。これは、女性が経済的に自立でき、女性も経済責任を担うことが可能になり、これまで主に担ってきた男性の経済責任の軽減にもつながる。

また、育児・介護休業、短時間勤務など多様な働き方を選択でき、利用しやすい職場風土をつくる、特に男性に対して育児休業や休暇がとれる状況をつくることは、これまで女性が主に担ってきた家事・育児といった家庭生活の役割を家事に抵抗がない若年男性が果たすことができる。これは、女性が経済責任を担う機会の拡大にもつながる。

このように、女性には社会経済的地位を安定させて経済責任を担えるように、男性には家庭責任が担えるような環境を整備することで、男女がともに経済責任と家庭責任を分担できるようになる。

その結果、「若年男性のアイデンティティとしての家族を養う意識」を軽減させ、男性に頼りたいという「女性が変わること(必要性)」を実現させる。

以上、男女共同参画意識と要因の因果関係分析、アンケート調査、ヒアリング調査の結果から導き出される結論として、男女が自分らしい人生を送ることをめざす男女共同参画社会の実現のためには、将来世代の若年層にとっては、男女がともに社会経済的地位が安定していることが必要である。

まさに男女ともに、“衣食足って「男女共同参画」を知る”と言えるだろう。

## 調査研究結果

### 1. 若年男性の男女共同参画意識を規定する要因

若年男性において男女共同参画を推進するためには、何が男女共同参画意識に影響を与えるのかについて知る必要がある。

そのため、アンケート調査の設問をもとに、次の表のとおり5つの概念を整理し、その因果関係を明らかにすることで、若年男性の男女共同参画意識を規定する要因を判明しようと試みた。

関西大学社会学部の与謝野有紀教授に分析を依頼し、分析結果は次のとおりとなった。

### 階層、仕事、生活満足および「女性への評価」の因果分析

- 与謝野有紀(関西大学社会学部教授) -

図1,2は、共分散構造分析( )を用いて、「社会経済的地位」、「仕事にもとめるもの」、「ワーク・ライフ・バランス」、「生活満足」、「女性への評価」の間の因果構造を統計的にモデル化したものである。パラメータの推定に当たっては、AMOS7(共分散構造分析ソフトウェア)を利用した。図1,2のいずれの分析でも、学歴、年代、ワーク・ライフ・バランス以外は、複数の指標の合成変数として構成している。以下に変数を構成した指標群を表にまとめた。

表 変数を構成すると指標の概要

概念	合成変数	指標	指標の概要
社会経済的地位	学歴	単一指標	教育年数に変換。「年」単位
	職業上の地位	年収	金額に変換。「万円」単位
		職業	伝統的職業分類に類比的に順序付け
		企業規模	人数に変換。「人」単位
現在の仕事に求めるもの	将来性	「今の仕事を選んだ理由」(Q1-1)の主成分得点	Q1-1を主成分分析にかけ、斜交回転。固有値が1以上の第1~3主成分の得点(タミー変数の主成分分析であり方法的には問題があるが、解釈の有用性から利用した)。
	充実感		
	時間的自由		
ワーク・ライフ・バランス(WLB)	WLB希望	単一指標	Q1-6-1Aを順序変数となるように再コード化
	WLB実態	単一指標	Q1-6-1Bを順序変数となるように再コード化
生活満足	生活満足	「満足度」(Q7-5)の14指標の主成分得点	Q7-5を主成分分析にかけ、斜交回転。固有値が1以上の第1~3主成分の得点。
	社会的満足		
	時間的満足		
女性への評価	女性の仕事能力評価	「女性の働きぶり」(Q8-1)の11指標の主成分得点	Q7-5を主成分分析にかけた結果、固有値が1以上の基準で1成分のみ析出。
	女性への全般的自立要求	「女性に望むこと」(Q8-7)の主成分得点	Q8-7の1位を3点、2位を2点、3位を1点、選ばれなかったものを0点に再コード化したうえで、主成分分析。斜交回転。固有値が1以上の第1,2主成分の得点。
	女性への経済的自立要求		

共分散構造分析とは、さまざまな事象の因果関係を分析する統計的手法です。

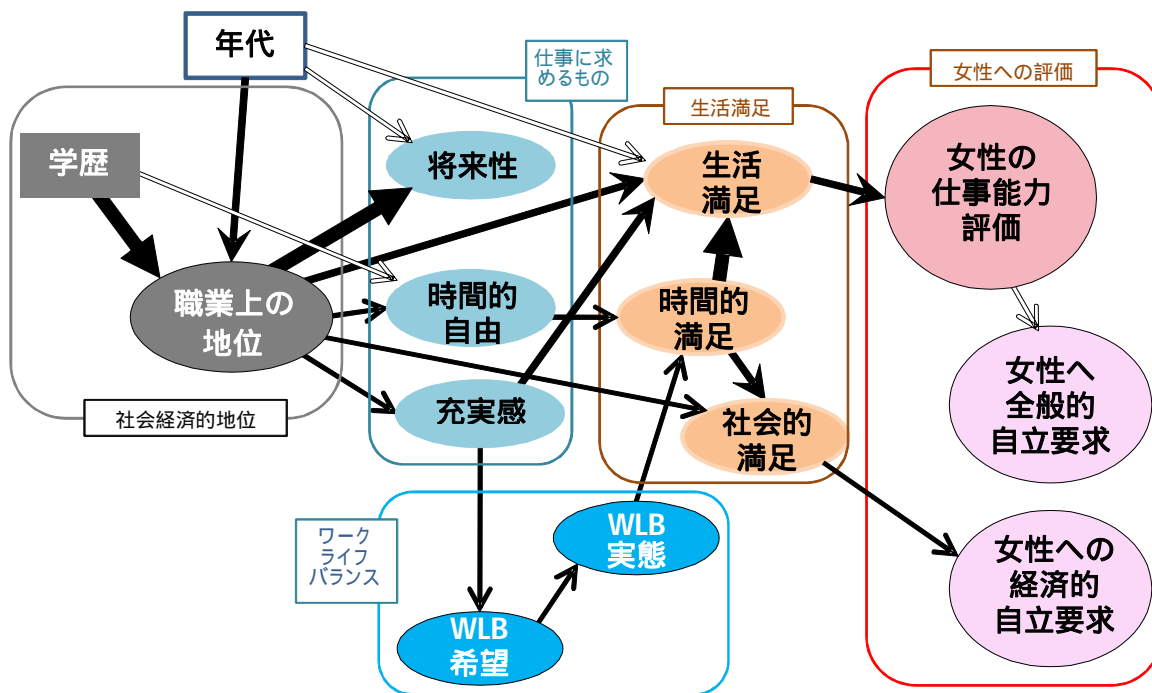


図1 既婚男性の階層、仕事、生活満足および「女性への評価」の因果分析

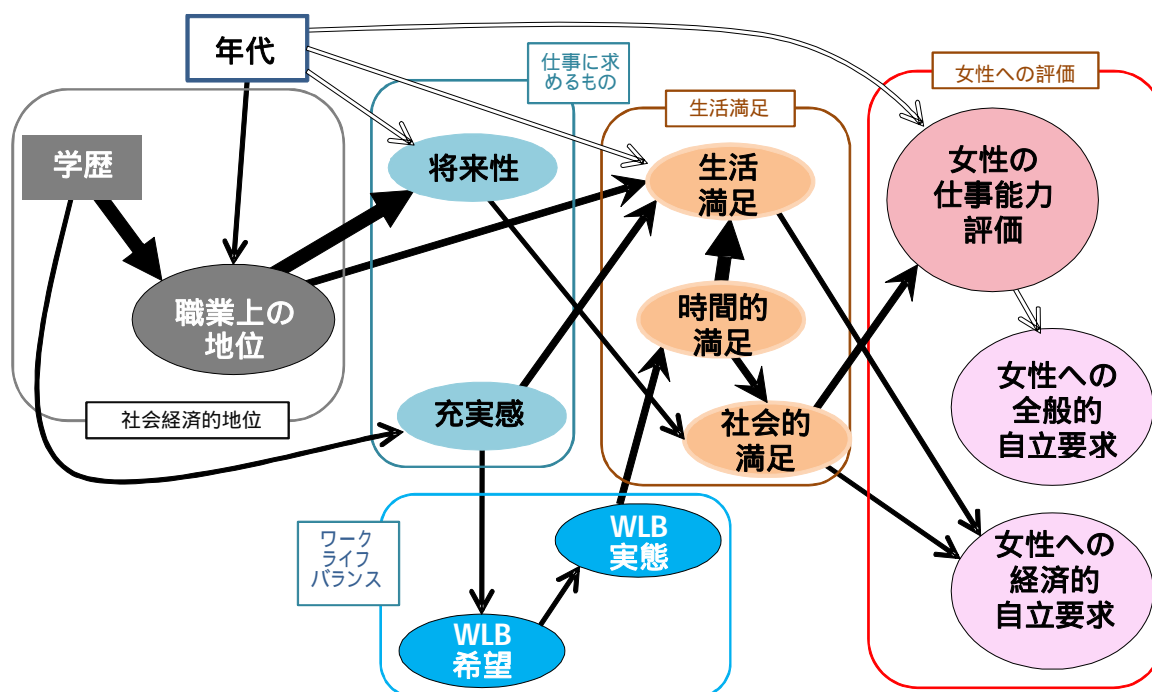


図2 未婚男性の階層、仕事、生活満足および「女性への評価」の因果分析

図 1,2 とともに、黒の線の矢印はプラスの効果、白抜き線の矢印はマイナスの効果を表している。また、矢印の太さは、標準化係数の値にしたがって変えている。もっとも太い矢印は 0.3 以上、2 番目に太い矢印は 0.2 以上、もっとも細い矢印は 0.2 未満の標準化係数に対応している。すべての矢印は 10%水準で統計的に有意な効果を有している。

モデルのあてはまりのよさを RMSEA (P13 参照) で判定したところ、どちらのモデルも通常の基準「0.05 未満」を満たしており、図 1,2 とともに、もとの相関係数の情報をうまく表現しているといえることができる。

まず、図 1 について、モデルの意味するところを概観する。既存研究で指摘されているように、学歴は「職業上の地位」を強く規定している。また「職業上の地位」は、「現在の仕事にもとめるもの」、「生活満足」に直接の影響を与えていることがわかる。より詳細にみると、職業上の地位の高さは、職業(あるいは、勤め先)の将来性、時間的自由、充実感の 3 者にプラスの効果をもっているから、職業上の地位が高い人ほど、安定、自由、仕事自体の満足のある仕事に就くことができると解釈することができよう。逆に、職業上の地位の低い人は、安定、自由、仕事自体の満足といった点から職を探ることができず、「他に行くところがない」、「やむを得ない」などの理由で働いている傾向がより高いと推測される。

さらに、「職業上の地位」の高さは「生活満足」、「社会的満足」を直接に上昇させるが、「職業上の地位」が高い場合、「時間的自由」を獲得し、また、「ワーク・ライフ・バランス」のある生活することで、「時間的満足」も間接的に上昇する傾向がある。平成 21 年度の『国民生活白書』などでは、生活満足を幸福感と読み替えた解釈がなされているが、このような解釈にしたがうなら、既婚男性においては、社会経済的地位の高さが幸福感の高さにつながるということになるだろう。逆にいえば、社会経済的地位の獲得がうまくいかなかった場合、満足度が低くなっており、幸福が階層的な地位によって決まるという古典的な階層社会モデルに近い状況にあるともいえる。いいかえれば、一部の市民が、「幸福で充実感ある生活をする機会」から排除されている可能性があることを否定できない。

図 1 には、女性に対する評価が、既婚男性の幸福感(「生活満足」)によって影響されている様子も示されている。幸福感の高い男性は、「女性の仕事能力」を高く評価する傾向があり、男性の生活状況への満足が、女性に対する平等的な、あるいは、女性重視の能力評価へと結びつく傾向がある。また、「女性の仕事能力」を高く評価するものは、男女平等参画社会の実現のためには、女性が精神的側面、能力的側面、責任感の側面などで十分な資質を有しており、さらに自立(「女性の全般的自立」)が必要であるとは考えないことが分かる。一方、「女性の経済的自立」については、「社会的満足」の高いものほど、強く望む傾向がある。この点に関してはいくつかの解釈の可能性があるが、社会の在り方が承認できると考え、そのような社会に満足している人ほど、男女共同参画の現状がより展開し、女性の経済的自立がさらに進むことが望ましいと考えているという解釈もありえよう。

上記を全体としてまとめるならば、社会経済的地位の獲得を基礎として、仕事、生活での充実感、満足感を高く持つ人々が、女性のありようを積極的に評価するとともに、さらに男女共同参画社会が展開することを望んでいるといえることができる。いいかえれば、階層的な安定を得た既婚男性たちは、全体の傾向として、女性に対する平等意識をよりいだけやすい傾向があるということになる。この意味で、男女共同参画意識は全体として浸透しつつあるが、既婚男性たちが、自分自身の生活の安定があり、自らの人生に余裕をもっているときに、共同意識はもっとも顕著になると推測できる。ただし、職業上の地位などをコントロールした上記のモデルも、女性への評価の説明

力自体は必ずしも強いものではなく、いまだ説明されない分散が大きく残るから、このような解釈は概観的なものとして理解するべきである。すなわち、全体的な傾向としては図1のような流れが見て取れるが、個別ケースとしてはこのような傾向と異なる場合も多く存在しうることに留意が必要であろう。このことは、個別のケースとしては、たとえば、「仕事、生活の充実感、満足感は低い」が、「平等意識が高く、男女共同参画の展開を望む」人々も存在しうるし、その逆もまたありうるということの意味する。

とはいえ、全体としては、自らの生活の安定の上に、他者への評価と平等への志向が成立しているという図1のモデルは、既存の計量研究や歴史研究が明らかにしてきたところと即応するものとなっている。男女共同参画意識の啓発の重要性、有効性はモデルからも間接的に読み取れるところではあるが、そのような啓発が人々に根付いていく基礎としての「生活の安定と満足」の確立がやはり重要な課題といえることができる。

図1を概観する最後に、年代の効果について手短かにまとめておこう。年代は「職業上の地位」をプラスにやや強く規定している。既婚者においては、年代が上がるほど職業上の地位が上昇するという、いわゆるオーダリーキャリア(P13 参照)に乗っている人々が多いと解釈できる。このようなキャリアの上昇は、仕事の充実感、生活満足感をもたらすが、他方で、年代は直接的には「仕事の将来性」、「生活満足」を低下させる傾向がある。既婚男性で、年齢が高くなるほど、仕事に望む事柄として「将来性」が少なくなっていくのは、希望するキャリアを実現した人は、「将来性」以外のものをより一層求めるようになっていき、また、希望するキャリアをそれまでに形成することができなかった場合には、将来性よりも直近の問題(職に就けることや給与など)を重視する傾向が高くなるためと解釈できる。

年代があがるほど、「生活満足」が低下して言っている点については、年齢の効果、世代の効果、時代の効果のいずれが影響しているか解釈上難しい問題があり、インタビューなど質的情報の分析と組み合わせながら、今後解くべき課題としたい。

次に、図2の未婚男性のモデルであるが、全体としては、図1と同様の因果の流れが見て取れる。すなわち、社会経済的地位の獲得が、仕事・生活の充実感、満足感を上昇させ、男女平等意識、男女共同参画意識を伸ばしていくという全体的な構造においては、既婚男性と共通しているといっていよいであろう。ただし、図1,2の間には重要な差異がいくつか存在している。以下、図1と異なる点を中心に、図2を解釈する。

まず、「現在の仕事に求めるもの」として、「時間的自由」が変数のなかから消えている。これは、「時間的自由」を変数として投入しても他の変数との間に有意な関係を持たないため、モデルから削除したためである。既婚男性においては、「時間的自由」は「職業上の地位」によってプラスに規定されていたが、未婚男性では、「職業上の地位」が高いことが「時間的自由」には必ずしもつながっていない。これには、2つの解釈ができるだろう。1つ目は、未婚男性の場合、プライベートな生活時間の自由度が高く、仕事での時間の束縛を既婚男性ほど厳しく感じないために、職業に対して求めるものとして「時間的自由」の位置付が低くなっているという解釈である。別の解釈は、未婚男性と既婚男性では、同じ職業的位置についているようにみえても、時間的自由という面では差があり、未婚男性は時間的自由を現実には得られておらず、また仕事に求められるものとして考えていないという解釈である。どちらの解釈が妥当かについては、別の側面からの分析がさらに必要であるが、もし後者の解釈が妥当だとするならば、未婚男性は「時間的自由」が少ない職場にいるために、メイティング(P13 参照)の機会も少なく、未婚が継続しやすくなっている可能性がある。また、年代が職業上の地位に対して与える影響が、既婚男性より小さいことは、未婚男性のキャリアアップが

既婚男性よりもなされにくいと解釈できるだろう。このように考えると、収入、職種、企業規模の3つの指標で同じに見える社会経済的地位にいる場合でも、未婚男性の方が既婚男性よりも、年功的なキャリアアップがしにくく、時間的束縛が強い職場にいる可能性がある。

未婚男性の場合にも、「仕事の充実感」が「ワーク・ライフ・バランス」に結びついており、それがまた「時間的満足」を生み出すという点では同一である。しかしながら、「生活満足」と「女性への評価」の間の関係はいくぶん異なる構造を持っている。「女性への評価」という変数群の中の関連をみると、「女性の仕事能力評価」が「女性への全般的自立要求」とマイナスに関連している点では、既婚男性と同一である。しかし、「女性の仕事能力評価」が、未婚男性の「社会的満足」からやや強いプラスの影響を受けている点は、既婚男性の場合と異なっているし、またやや意外なものでもある。既婚男性の場合、自らの幸福感（「生活満足」）が高いときに、「女性の仕事能力評価」が高くなっており、自らの余裕ある生活が、女性への積極的評価の基盤を形成していた。未婚男性の場合には、社会システムの承認ともいえる「社会的満足」が「女性の仕事能力評価」とプラスにやや強く関係しており、自らが正当に評価される社会であるという「社会的満足」があって初めて「女性の仕事能力評価」を積極的にすることができると考えることができる。これは、逆にいえば、「社会的満足」が低く、自分の生活している社会システムは自分にとって不満足にしか機能していないと考える未婚男性は、女性の仕事能力は低く、不十分だとしか評価できなくなっているということでもある。これについては、社会に対する全般的な不満が、女性全般の能力評価を低く見積もらせるという社会心理的過程が働いている可能性があるし、逆に、自らよりも高く評価される他者（女性を含む）の存在が社会的満足を低下させている可能性もある。統計モデルの識別の過程では、因果の逆順についても、想定すべきものは実際に計算して適合の程度を比較しているが、図2の因果順序がよりよいモデルとして採択されたことを考えるならば、社会全体への不満が、女性を含む他者の評価を下げている可能性がより高いと考えられる。

また、未婚男性の場合のみ、「女性の仕事能力評価」に対して年代がマイナスの効果を有している点も注意が必要であろう。先述のとおり、年代の「職業上の地位」に対するプラスの影響は、既婚男性にくらべるとかなり小さいから、このことを同時に考えるならば、次のように推測することができよう。

未婚男性では、年齢が上がっても「職業上の地位」の上昇は限定的であり、年齢が上がるに従って、職場での女性との共同時の不満、自らとの比較での相対的剥奪感などから、女性全般について積極的な高い評価をしにくくなっている可能性がある。もちろん、未婚であることは、自らの選択である場合と、結婚を望みながら社会経済的な状況を含む種々の事情から結婚が困難な場合の両者があり、この2つを同じものとして扱うことはできない。このため、今後、2つを分けた分析がさらに必要となるが、未婚者全体について概観するならば、年齢とともに、男女共同参画意識が後退する傾向が指摘できる。ただし、このような年齢による男女共同参画意識の後退傾向は決して大きなものではない。しかしながら、未婚男性において、「社会的満足」と年代が「女性の仕事能力評価」に対して、既婚男性では観測されなかった効果を示したことは、興味深く、また未婚男性の抱える問題を考える上で興味深い視点を提供する。既婚男性の場合には、年齢が高くなると、社会経済的地位が上昇しながら、女性への評価が上昇していく。言い換えれば、30代までの既婚男性においては、年齢が高くなるにつれて男女共同参画意識が発展していくと考えてよいだろう。一方、未婚男性では、年齢が高くなっても社会経済的地位の上昇は相対的に不確実であり、また、女性への評価に対する年齢の直接効果はマイナスであり、女性への評価は相対的に低くなる傾向がある。

このことは、「女性への評価」を「男女共同参画意識の基礎」として考えるならば、既婚男性と未婚男性では、年代が高くなるに従って男女共同参画意識の差が大きくなっていくと考えられる。また、政策的な側面から言うならば、男女共同参画意識の社会全体への普及を目指す場合、既婚、未婚ともに、社会経済的地位の安定を目指すことが政策の基礎となるが、年齢が高い未婚男性について、自らが正しく評価されているという満足感を生み出すような社会システム(制度や仕組み)の構築がより重要ということになるだろう。

用語説明:

R M S E A (root mean square error of approximation) :

適合度指標(モデルの分布と真の分布との乖離を表現した指標)

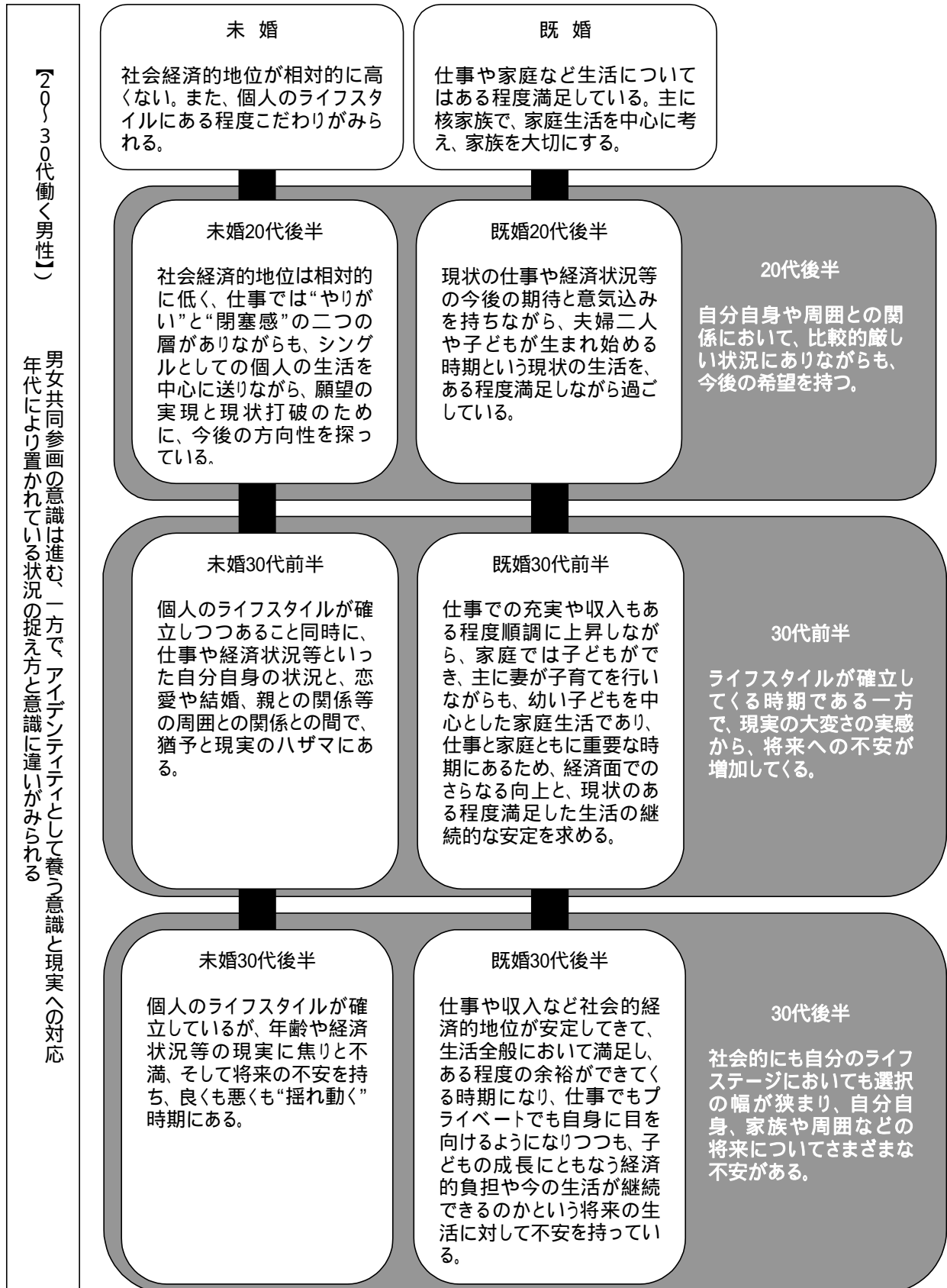
オーダリーキャリア: 整除的職歴(年齢が上がるに従いキャリアをきちんと形成、構築できている)

メイティング: 異性との出会い



## 2. 20～30代働く男性の人物像 ～Web アンケート調査結果より～

Webアンケート調査の集計結果から、20～30代の働く男性の意識と実態を分析し、今の若年男性の人物像を考察した。次の図は20～30代の働く男性のイメージ像としてまとめたものである。なお、分析結果は14ページ以降に記載している。



## (1) 雇用

### 雇用形態

- ・未婚の7割前後、既婚の8割前後が正規雇用。
- ・非正規雇用は未婚が全ての年代で2割弱、既婚は年代が上がるにつれて減少し1割を切る。

#### “正規雇用”

未婚: 70.8% (20代後半)、66.8% (30代前半)、72.2% (30代後半)

既婚: 77.4% (20代後半)、82.7% (30代前半)、79.7% (30代後半)

#### “非正規雇用”

未婚: 19.8% (20代後半)、19.5% (30代前半)、15.5% (30代後半)

既婚: 14.3% (20代後半)、9.1% (30代前半)、6.0% (30代後半)

正規雇用 = 民間企業の正社員 + 公務員等の正職員

非正規雇用 = 契約社員 + 嘱託社員 + 常勤のパート・アルバイト・非常勤職員 + 短時間勤務のパート・アルバイト・非常勤職員

## 年収

- ・既婚では年代が上がるに従い順調に上昇するが、未婚では上昇が緩やか。
- ・また、未婚は“300万未満”の層が3割を占める。

### 年代別の最も多い回答の推移

未婚: 「300～400万円」(20代後半) 35.1%

「300～400万円」(30代前半) 29.1%

「400～500万円」(30代後半) 26.8%

既婚: 「300～400万円」(20代後半) 40.5%

「400～500万円」(30代前半) 27.7%

「500～750万円」(30代後半) 33.9%

### 「300万円未満」の回答者

未婚: 41.0% (20代後半)、30.9% (30代前半)、29.1% (30代後半)

既婚: 19.1% (20代後半)、13.6% (30代前半)、10.0% (30代後半)

## (2) 仕事

### 現在の仕事を選んだ理由

・未婚では、どの年代でも「能力・個性を活かせる」が相対的に他の回答より高くなっている。

・既婚では、年代が上がるに従い、「個性・能力」の割合が上る一方、「安定」の割合が下る。

「自分の能力、個性を活かせる」

未婚: 28.7% (20代後半)、30.0% (30代前半)、26.8% (30代後半)

既婚: 28.6% (20代後半)、30.9% (30代前半)、35.7% (30代後半)

「仕事がおもしろい」

未婚: 23.4% (20代後半)、17.7% (30代前半)、17.3% (30代後半)

既婚: 22.6% (20代後半)、22.7% (30代前半)、27.1% (30代後半)

「技術が習得できる」

未婚: 25.1% (20代後半)、20.5% (30代前半)、16.4% (30代後半)

既婚: 17.9% (20代後半)、27.7% (30代前半)、22.2% (30代後半)

「会社が安定している」

未婚: 18.7% (20代後半)、19.5% (30代前半)、17.3% (30代後半)

既婚: 31.0% (20代後半)、28.6% (30代前半)、22.2% (30代後半)

・未婚では「どこにも行くところがなく、やむなく」「特にやりたいことがなかったから」の割合が既婚よりも高い。

「どこにも行くところがなく、やむなく」

未婚: 5.8% (20代後半)、7.7% (30代前半)、12.3% (30代後半)

既婚: 4.8% (20代後半)、5.0% (30代前半)、3.6% (30代後半)

「特にやりたいことがなかったから」

未婚: 16.4% (20代後半)、12.3% (30代前半)、10.9% (30代後半)

既婚: 9.5% (20代後半)、9.1% (30代前半)、7.7% (30代後半)

### これから働く上で望むこと

- ・未婚・既婚ともに全体として「収入」そして「安定」を望む。既婚は「収入をあげたい」割合が未婚より高い。未婚の30代後半は「安定」をより強く望んでいる。

「収入を上げたい」(1位で最も多い回答)

未婚: 39.8% (20代後半)、39.5% (30代前半)、36.4% (30代後半)

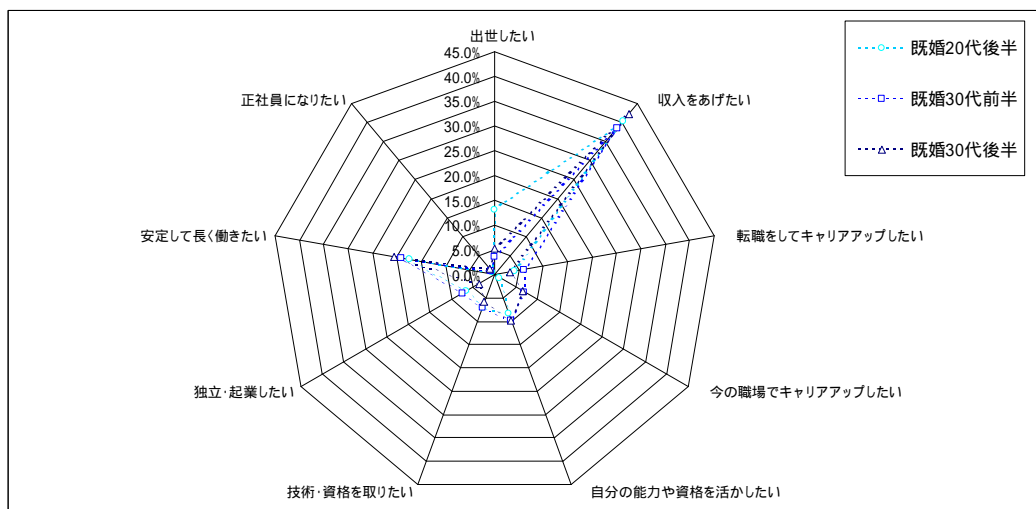
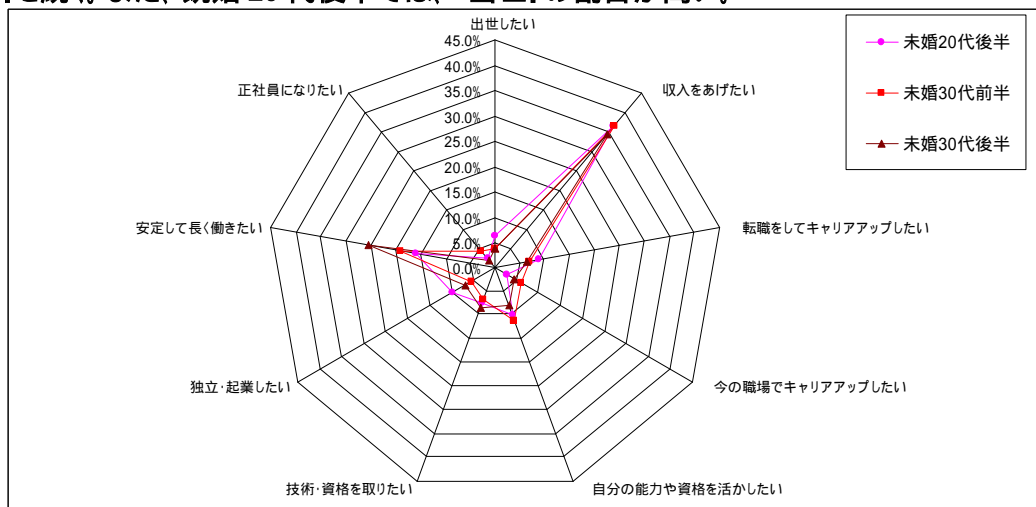
既婚: 41.7% (20代後半)、43.6% (30代前半)、53.4% (30代後半)

「安定して長く働きたい」(1位で2番目に多い回答)

未婚: 12.3% (20代後半)、18.2% (30代前半)、27.7% (30代後半)

既婚: 15.5% (20代後半)、17.3% (30代前半)、14.0% (30代後半)

- ・1位を2点、2位を1点で点数化してみると、「収入」「安定」の次には「自分の能力や資格を活かしたい」と続く。また、既婚20代後半では、「出世」の割合が高い。



## 働くことの意味

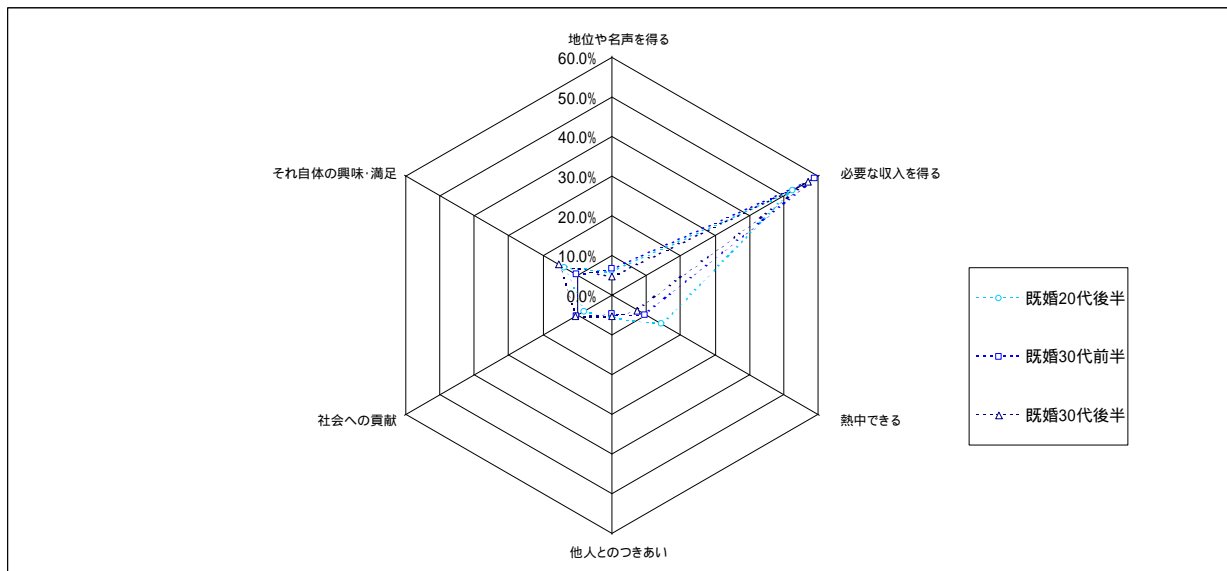
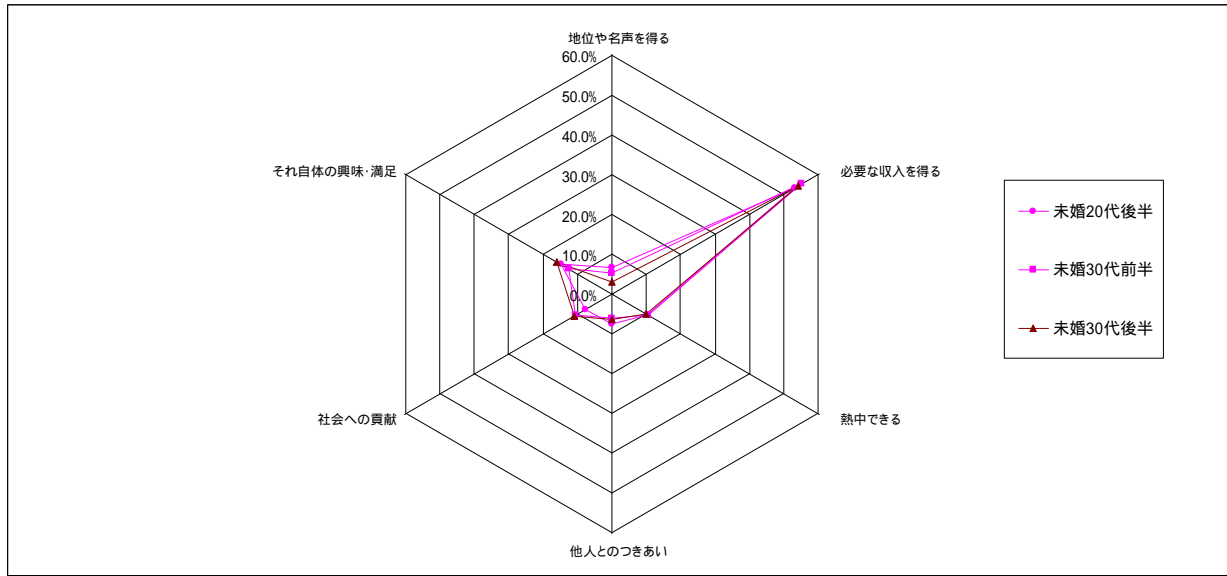
### ・まずは「収入を得る」。

「必要な収入を得る」(1位の回答で最も多い)

未婚: 69.6% (20代後半)、74.1% (30代前半)、72.3% (30代後半)

既婚: 70.2% (20代後半)、80.0% (30代前半)、77.8% (30代後半)

・1位を2点、2位を1点で点数化してみると、「収入」の次には「それ自体の興味」、そして、20代後半は「熱中」で、30代前半からは「社会貢献」に移行する。



### 仕事上の不満や不安

- ・未婚・既婚とも上位3つは「給料が少ない」「勤務先の将来の安定性」「上司との人間関係」。  
既婚は、「給料が少ない」が未婚より割合が低い。  
未婚は、「自分の雇用の安定性」「仕事がおもしろくない」が既婚より割合が高く、「自分の雇用の安定性」は、年代が上がるにつれて上昇する。

「給料が少ない」

未婚:57.3%(20代後半)、48.2%(30代前半)、47.3%(30代後半)

既婚:44.0%(20代後半)、46.8%(30代前半)、38.9%(30代後半)

「自分の雇用の安定性」

未婚:18.7%(20代後半)、23.2%(30代前半)、27.7%(30代後半)

既婚:15.5%(20代後半)、19.5%(30代前半)、15.8%(30代後半)

「仕事がおもしろくない」

未婚:21.1%(20代後半)、22.3%(30代前半)、25.0%(30代後半)

既婚:19.0%(20代後半)、17.7%(30代前半)、15.8%(30代後半)

### (3) 若年男性の男女共同参画意識と性別役割分業観

#### ワーク・ライフ・バランスの理想

- ・全ての年代で一番多いものは、既婚では「家庭生活を優先」、未婚では「個人の生活等を優先」。  
一方で、「仕事を優先」が既婚・未婚ともにすべての年代で1割を切る。

「家庭生活を優先」

既婚:31.0%(20代後半)、26.8%(30代前半)、24.4%(30代後半)

「個人の生活等を優先」

未婚:31.6%(20代後半)、32.3%(30代前半)、40.0%(30代後半)

「仕事を優先」

未婚:9.4%(20代後半)、3.6%(30代前半)、6.4%(30代後半)

既婚:3.6%(20代後半)、2.3%(30代前半)、6.3%(30代後半)

- ・両立の側面からみると、既婚では「仕事と家庭生活を優先」「3つを両立」の回答の割合が、  
未婚では「仕事と個人の生活等を優先」「3つを両立」の回答の割合が相対的に高い。

未婚:「3つを両立」19.3%(20代後半)

「仕事と個人の生活等」19.5%(30代前半)、18.2%(30代後半)

既婚:「仕事と家庭生活」25.0%(20代後半)

「3つを両立」25.0%(30代前半)、24.0%(30代後半)

「3つを両立」=「仕事」と「家庭生活」と「個人の生活等」の3つを両立

## 妻の働き方

- ・妻の意思を尊重しながらも、妻にも働いてほしい思い。

「妻の自由にしてほしい」割合が既婚・未婚ともすべての年代で一番。

未婚: 38.1% (20代後半)、35.0% (30代前半)、35.8% (30代後半)

既婚: 29.8% (20代後半)、33.6% (30代前半)、46.2% (30代後半)

- ・次いで「子どもができて、ずっと働いてほしい」「子どもが生まれるたら一旦退職し、子育てしながら働いてほしい」の2つの回答が続く。

- ・既婚の30代では「子どもが生まれるたら一旦退職し、子育て後に再び働いてほしい」が相対的に未婚より高い割合を示す。

「子どもができて、ずっと働いてほしい」

未婚: 17.5% (20代後半)、23.3% (30代前半)、25.7% (30代後半)

既婚: 16.7% (20代後半)、20.0% (30代前半)、11.8% (30代後半)

「子どもが生まれるたら一旦退職し、子育てしながら働いてほしい」

未婚: 18.6% (20代後半)、20.8% (30代前半)、13.8% (30代後半)

既婚: 23.8% (20代後半)、15.9% (30代前半)、12.7% (30代後半)

「子どもが生まれるたら一旦退職し、子育て後に再び働いてほしい」

未婚: 13.4% (20代後半)、10.8% (30代前半)、14.7% (30代後半)

既婚: 13.1% (20代後半)、15.9% (30代前半)、17.2% (30代後半)

- ・“専業主婦”子どもが生まれるまで”は、約1割を切る少数意見。

「結婚したら専業主婦になってほしい」

未婚: 1.0% (20代後半)、3.3% (30代前半)、2.8% (30代後半)

既婚: 9.5% (20代後半)、8.6% (30代前半)、8.1% (30代後半)

「子どもが生まれるまで働いてほしい」

未婚: 10.3% (20代後半)、6.7% (30代前半)、4.6% (30代後半)

既婚: 4.8% (20代後半)、5.0% (30代前半)、3.2% (30代後半)

## 理想の結婚生活

- ・“何でも分かり合えて、互いに尊重する”パートナーとしての夫婦、そして、「お互いに気を使わない関係性」を重視する。

以下の数値は、「そう思う」+「ある程度そう思う」の合計

「何でも分かり合えるように会話を重視」

未婚: 95.9% (20代後半)、96.6% (30代前半)、89.9% (30代後半)

既婚: 92.9% (20代後半)、90.9% (30代前半)、91.4% (30代後半)

「お互いのライフスタイルを尊重する」

未婚: 94.9% (20代後半)、93.4% (30代前半)、86.2% (30代後半)

既婚: 88.1% (20代後半)、90.0% (30代前半)、87.8% (30代後半)

「お互いに気を使わない関係性」

未婚: 82.4% (20代後半)、82.5% (30代前半)、77.1% (30代後半)

既婚: 70.2% (20代後半)、80.0% (30代前半)、78.3% (30代後半)

- ・経済面での「責任の平等」も肯定的。

「夫婦ともに仕事を持ち、経済的に自立して家計をともに支える」

未婚: 75.2% (20代後半)、77.5% (30代前半)、67.9% (30代後半)

既婚: 53.6% (20代後半)、61.4% (30代前半)、54.3% (30代後半)

## 家族を養う意識

- ・未婚では、年代が上がるにつれ減少するが6割を超える。
- ・既婚では、約8割の人が「家族を養いたい」と考えている。

以下の数値は、「そう思う」+「ある程度そう思う」の合計

### 「家族を養いたい」

未婚:74.2%(20代後半)、70.0%(30代前半)、60.5%(30代後半)

既婚:79.7%(20代後半)、77.3%(30代前半)、80.1%(30代後半)

### 「家庭、家族の重要なことは最終的には自分が決定したい」

未婚:50.6%(20代後半)、56.7%(30代前半)、52.2%(30代後半)

既婚:64.3%(20代後半)、60.0%(30代前半)、58.8%(30代後半)

- ・妻に身の回りの世話をしてほしいかどうかについては、未婚は全ての年代で「同感しない」、既婚は全体として「同感する」傾向となっている。

### 「妻に身の回りの世話をしてほしい」

未婚	「そう思う」+「ある程度そう思う」の合計		「そう思わない」+「あまりそう思わない」の合計
20代後半	31.9%	<	67.0%
30代前半	39.2%	<	56.7%
30代後半	47.7%	<	50.5%

既婚	「そう思う」+「ある程度そう思う」の合計		「そう思わない」+「あまりそう思わない」の合計
20代後半	59.5%	>	35.7%
30代前半	48.6%	<	49.1%
30代後半	49.3%	>	48.5%

### 「男らしさ」

- ・「精神的な強さ」と「リーダーシップ」=“タフで引っ張っていく”。

未婚	(1位)	(2位)	(3位)
	精神的な強さ	リーダーシップ	肉体的強さ(20代後半) 家族や恋人を守る(30代前半)(30代後半)

既婚	(1位)	(2位)	(3位)
	精神的な強さ	肉体的強さ(20代後半) 家族や恋人を守る(30代前半) (30代後半)	リーダーシップ(20代後半) (30代後半) 家族を養う(30代前半)

### 自分として「重視するもの」

- ・「男らしさ」同様に「精神的な強さ」に加えて、既婚は「養う」、未婚は「やさしさ」が続く。

未婚	(1位)	(2位)	(3位)
	精神的な強さ	やさしさ	家族や恋人を守る(20代後半)(30代前半) 仕事ができる(30代後半)

既婚	(1位)	(2位)	(3位)
	仕事ができる(20代後半) 精神的な強さ(30代前半) (30代後半)	家族を養う	家族や恋人を守る



#### (4) 現状生活と将来についての意識と実態

##### 将来不安と社会のあり方への不満

- ・未婚は、全般的に不安・不満を持ち、年代が上がるにつれ、その傾向が強まり、特に「将来」不安と「社会のあり方」への不満が顕著。
- ・既婚は、「ゆとり」「仕事」を含む現状の生活にある程度満足しつつも、未婚同様に「将来」不安と「社会のあり方」に不満を抱く。

以下の数値は、「不満」+「やや不満」の合計

##### 「経済的なゆとり」

未婚: 59.0% (20代後半)、57.3% (30代前半)、56.8% (30代後半)

既婚: 47.6% (20代後半)、48.6% (30代前半)、44.3% (30代後半)

##### 「精神的なゆとり」

未婚: 48.6% (20代後半)、47.8% (30代前半)、53.2% (30代後半)

既婚: 36.9% (20代後半)、40.5% (30代前半)、38.9% (30代後半)

##### 「仕事」

未婚: 47.4% (20代後半)、45.9% (30代前半)、50.5% (30代後半)

既婚: 35.7% (20代後半)、44.1% (30代前半)、41.7% (30代後半)

##### 「生活全般」

未婚: 35.1% (20代後半)、40.9% (30代前半)、45.9% (30代後半)

既婚: 20.3% (20代後半)、27.3% (30代前半)、24.4% (30代後半)

##### 「生活の将来性」

未婚: 63.1% (20代後半)、64.1% (30代前半)、70.9% (30代後半)

既婚: 35.7% (20代後半)、53.6% (30代前半)、51.1% (30代後半)

##### 「人々のモラル」

未婚: 46.8% (20代後半)、48.2% (30代前半)、55.0% (30代後半)

既婚: 34.5% (20代後半)、52.8% (30代前半)、47.5% (30代後半)

##### 「雇用のあり方」

未婚: 59.1% (20代後半)、50.9% (30代前半)、60.0% (30代後半)

既婚: 44.1% (20代後半)、56.4% (30代前半)、53.9% (30代後半)

##### 「企業のモラル」

未婚: 51.5% (20代後半)、49.6% (30代前半)、55.9% (30代後半)

既婚: 41.7% (20代後半)、51.8% (30代前半)、52.9% (30代後半)

##### 「政治のあり方」

未婚: 57.3% (20代後半)、68.7% (30代前半)、66.8% (30代後半)

既婚: 54.7% (20代後半)、65.9% (30代前半)、65.6% (30代後半)

##### 「社会全体として」

未婚: 65.5% (20代後半)、65.9% (30代前半)、69.5% (30代後半)

既婚: 53.5% (20代後半)、65.9% (30代前半)、65.6% (30代後半)

##### 妻に働いてほしい理由

- ・既婚全年代、未婚 30代は「共稼ぎ」でないと生活が苦しい、「今までの生活レベル」を維持したい割合が高い。
- ・未婚 20代後半のみは「妻の自己実現を叶えることをサポート」44.4%、「収入」36.1%が理由として高くなっている。

「二人の収入がないと生活が苦しい」

未婚: 36.1% (20代後半)、66.0% (30代前半)、50.0% (30代後半)

既婚: 63.9% (20代後半)、51.9% (30代前半)、48.2% (30代後半)

「今までの生活レベルを下げたくない」

未婚: 27.8% (20代後半)、34.0% (30代前半)、37.0% (30代後半)

既婚: 36.1% (20代後半)、45.7% (30代前半)、39.3% (30代後半)

「妻の自己実現を叶えることをサポート」

未婚: 44.4% (20代後半)、30.2% (30代前半)、21.7% (30代後半)

既婚: 11.1% (20代後半)、25.9% (30代前半)、35.7% (30代後半)

### ワーク・ライフ・バランスの現状

・理想とは逆に「仕事を優先」が最多回答となっている。

次いで未婚では「仕事と個人の生活等」を既婚では「仕事と家庭生活」をともに優先する回答が多くなっている。

「仕事を優先」

未婚: 45.0% (20代後半)、48.2% (30代前半)、45.0% (30代後半)

既婚: 36.9% (20代後半)、31.4% (30代前半)、38.5% (30代後半)

「仕事と個人の生活等をともに優先」

未婚: 15.8% (20代後半)、17.3% (30代前半)、16.8% (30代後半)

「仕事と家庭生活をともに優先」

既婚: 31.0% (20代後半)、30.5% (30代前半)、24.9% (30代後半)

### 既婚者の家族関係

・既婚者の大半は「核家族」。

現在一緒に住んでいる人

「妻」

既婚: 98.8% (20代後半)、97.7% (30代前半)、98.6% (30代後半)

「親」

既婚: 6.0% (20代後半)、3.6% (30代前半)、6.8% (30代後半)

・20代後半の5割強は子どもがいなく、30代前半から子どものいる割合が増え(6割強)、30代後半で7割弱となる。

・また、子どもの数は、20代後半では6割強が「一人」、30代前半から「二人」が増加し、30代後半では、「一人」と「二人」がほぼ同じ割合となる。

「子どもの数は1人」

既婚: 62.5% (20代後半)、55.9% (30代前半)、44.2% (30代後半)

「子どもの数は2人」

既婚: 32.5% (20代後半)、35.9% (30代前半)、43.5% (30代後半)

・妻の職業。

「専業主婦」

既婚: 33.3% (20代後半)、39.1% (30代前半)、45.7% (30代後半)

“正規雇用”

既婚: 26.2% (20代後半)、28.6% (30代前半)、20.5% (30代後半)

“非正規雇用”

既婚: 30.9% (20代後半)、26.3% (30代前半)、25.4% (30代後半)

“非正規雇用”のうち、「短時間勤務のパート・アルバイト・非常勤職員」

既婚: 11.9% (20代後半)、13.2% (30代前半)、13.6% (30代後半)

正規雇用 = 民間企業の正社員 + 公務員等の正職員

非正規雇用 = 契約社員 + 嘱託社員 + 常勤のパート・アルバイト・非常勤職員 + 短時間勤務のパート・アルバイト・非常勤職員

未婚者の家族関係

・未婚者の半数強が「ひとり暮らし」で、3～4割が「実家」住まい。

「単身世帯(ひとり暮らし)」

未婚: 56.1% (20代後半)、53.6% (30代前半)、59.5% (30代後半)

「親」

未婚: 30.4% (20代後半)、39.5% (30代前半)、33.6% (30代後半)

未婚者の恋愛についての意識と実態

・年代が上がるにつれて、恋愛に「より消極的」になる未婚男性。

「積極的でない」

未婚: 41.5% (20代後半)、55.5% (30代前半)、56.8% (30代後半)

・「積極性のなさ」と比例して、恋人がいない人の割合は、年代が上がるにつれて増加する。

「恋人がいない」

未婚: 57.9% (20代後半)、60.9% (30代前半)、68.2% (30代後半)

・恋人がいないのは、「出会いの場がなく」「適当な相手がない」。

「出会いの場がない」

未婚: 59.6% (20代後半)、55.7% (30代前半)、54.7% (30代後半)

「適当な相手がない」

未婚: 55.6% (20代後半)、57.5% (30代前半)、56.0% (30代後半)

・一方で、30代前半と30代後半では、「ひとりの方が楽」「めんどうだ」の回答の割合が高い。

「ひとりの方が楽」

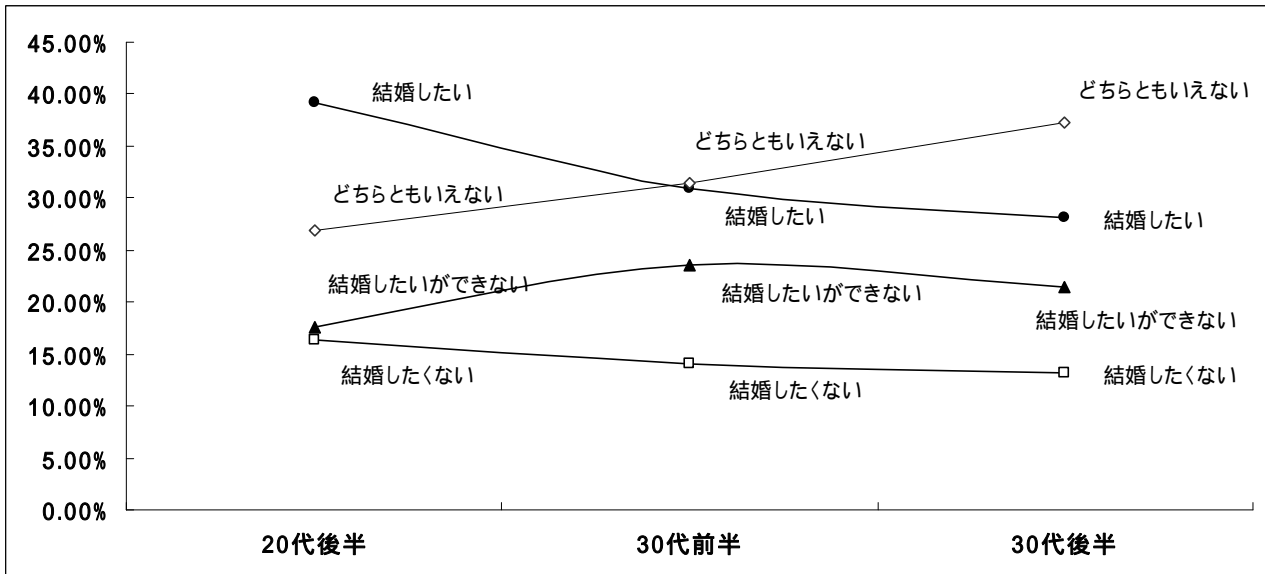
未婚: 27.3% (20代後半)、41.8% (30代前半)、42.7% (30代後半)

「めんどうだ」

未婚: 18.2% (20代後半)、29.9% (30代前半)、34.0% (30代後半)

### 未婚者の結婚についての意識

- ・結婚願望は年代が上がるにつれ減少し、逆に「どちらともいえない」割合が高くなる悩める未婚男性。
- ・結婚願望なしは、どの年代も1割強いる。



#### ・結婚したいができない、結婚したくない理由

できないのは、「経済的なもの」と「適当な相手がいない」。

「収入が少ない・経済的に自信がない」

未婚: 63.8% (20代後半)、53.0% (30代前半)、53.9% (30代後半)

「適当な相手がいない」

未婚: 39.7% (20代後半)、50.6% (30代前半)、46.1% (30代後半)

したくないのは、「自由に使えるお金が少なくなる」「めんどうだ」。

「自分の自由に使えるお金の額が少なくなる」

未婚: 24.1% (20代後半)、21.7% (30代前半)、38.2% (30代後半)

「めんどうだ」

未婚: 17.2% (20代後半)、18.1% (30代前半)、15.8% (30代後半)

#### ・結婚する(した)決め手の違いは、未婚は「経済的理由」、既婚は「年齢」。

「愛情」が、未婚・既婚ともに最多回答で6割。

次に多い回答が、未婚では「経済的見通し」、既婚では「年齢」となる。

「経済的見通し」

未婚: 59.7% (20代後半)、51.5% (30代前半)、48.4% (30代後半)

既婚: 15.5% (20代後半)、19.1% (30代前半)、14.5% (30代後半)

「準備資金」

未婚: 28.4% (20代後半)、25.0% (30代前半)、25.8% (30代後半)

既婚: 6.0% (20代後半)、4.5% (30代前半)、2.7% (30代後半)

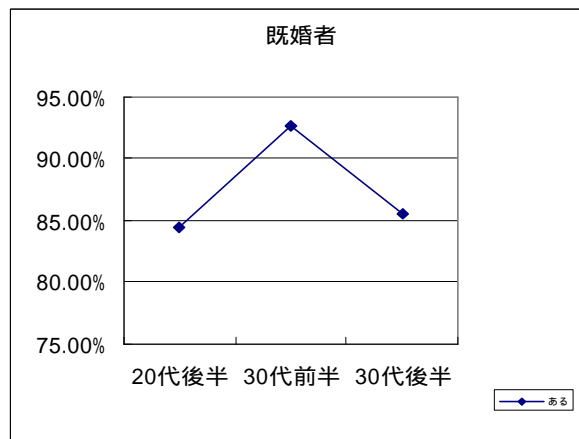
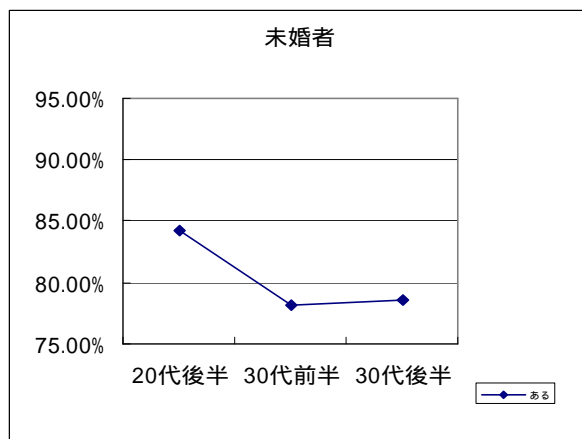
「年齢」

未婚: 34.3% (20代後半)、50.0% (30代前半)、43.5% (30代後半)

既婚: 35.7% (20代後半)、51.8% (30代前半)、51.6% (30代後半)

## 結婚生活の利点

- ・20代後半の割合はほぼ同じだが、未婚は30代では減少し、既婚は30代前半で上昇し、30代後半で20代後半と同じ割合となる。



- ・未婚と既婚の違いは、未婚は「精神的な安らぎの場が得られる」の割合が高く、既婚では「現在愛情を感じている人と暮らせる」の割合が高い。

「精神的な安らぎの場が得られる」

未婚: 45.1% (20代後半)、32.6% (30代前半)、40.5% (30代後半)

既婚: 26.8% (20代後半)、30.4% (30代前半)、36.0% (30代後半)

「現在愛情を感じている人と暮らせる」

未婚: 13.9% (20代後半)、15.7% (30代前半)、10.4% (30代後半)

既婚: 31.0% (20代後半)、29.4% (30代前半)、25.4% (30代後半)

- ・また、未婚 30代前半から割合が上昇するのは、「社会的信用を得たり、周囲と対等になれる」「親を安心させたり周囲の期待にこたえられる」。

「社会的信用、周囲と対等になれる」

未婚: 7.6% (20代後半)、12.8% (30代前半)、11.6% (30代後半)

既婚: 2.8% (20代後半)、5.4% (30代前半)、7.9% (30代後半)

「親を安心させたり周囲の期待にこたえられる」

未婚: 2.1% (20代後半)、6.4% (30代前半)、6.9% (30代後半)

既婚: 0.0% (20代後半)、3.4% (30代前半)、3.2% (30代後半)

## 独身生活の利点

- ・未婚はどの年代も9割が独身生活の利点があると考えている。

既婚は20代後半の9割弱が最も少なく、年代が上がるにつれ割合が増加し、30代後半では未婚と同じ割合を示す。

「独身生活には結婚生活にない利点はあるか」『ある』の回答

未婚: 93.0% (20代後半)、93.2% (30代前半)、93.6% (30代後半)

既婚: 86.9% (20代後半)、90.9% (30代前半)、93.7% (30代後半)

- ・独身生活の利点は「自由」で、未婚は既婚より数値が高い。

「行動や生き方が自由」

未婚: 62.3% (20代後半)、71.2% (30代前半)、70.4% (30代後半)

既婚: 56.2% (20代後半)、50.0% (30代前半)、61.4% (30代後半)

(5) 男女共同参画社会の実現に必要と考えるもの

大阪市男女共同参画基本計画の10の課題のうち、より力をいれるもの

・1位での最多回答は、次のとおり。

20代後半では「両立支援」。

30代前半・後半では「社会制度・慣行の見直し、意識改革」となっている。

「男女の職業生活と家庭・地域生活の両立支援」

未婚 20代後半 (21.6%)

既婚 20代後半 (26.2%)

「社会制度・慣行の見直し、意識の改革」

未婚: 30代前半 (27.7%)、30代後半 (25.5%)

既婚: 30代前半 (25.0%)、30代後半 (28.5%)

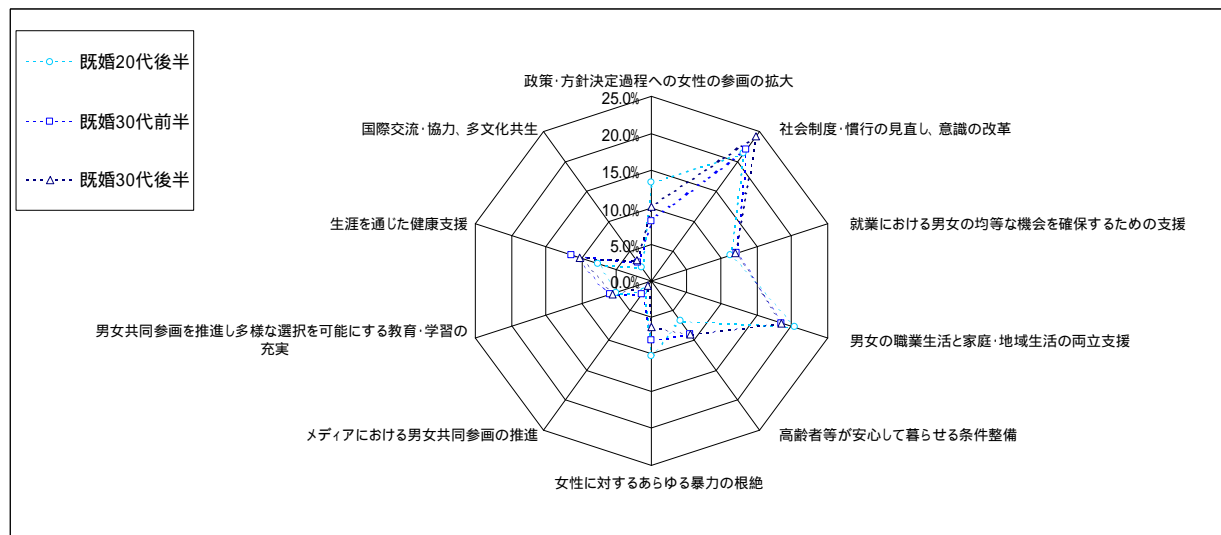
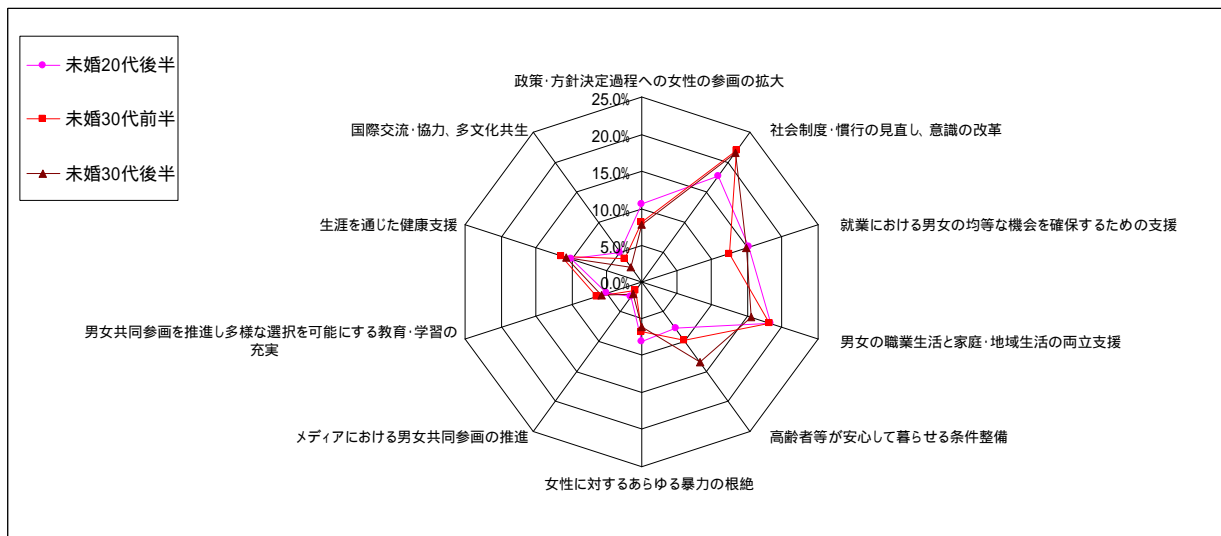
・1位での回答に3点、2位での回答に2点、3位での回答に1点をつけ点数化したものでは、上位3つは次のとおり。

「社会制度・慣行の見直し、意識の改革」、

「男女の職業生活と家庭・地域生活の両立支援」、

「就業における男女の均等な機会を確保するための支援」となる。

・また、未婚の30代後半のみ「高齢者等が安心して暮らせる条件整備」の割合が高い。



行政の取り組みとして望むもの

- ・1位の最多回答は次のとおり。

未婚 20代後半および未婚 30代後半では「男女共同参画に関わる法律や制度を整える」。

未婚 30代前半および既婚 30代前半・後半では「社会通念や偏見等を改める啓発を行う」。

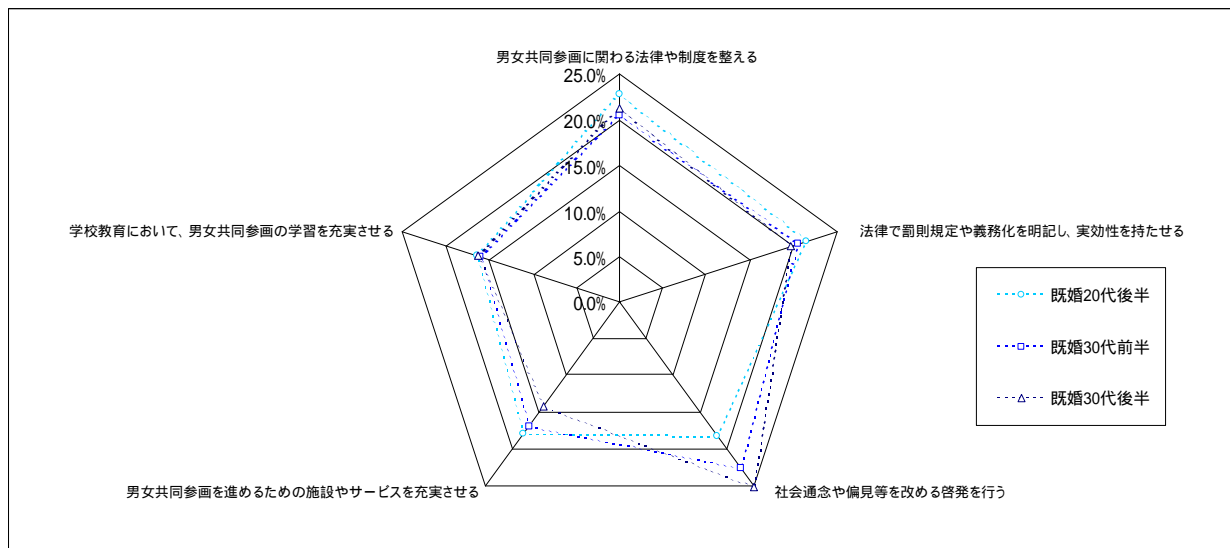
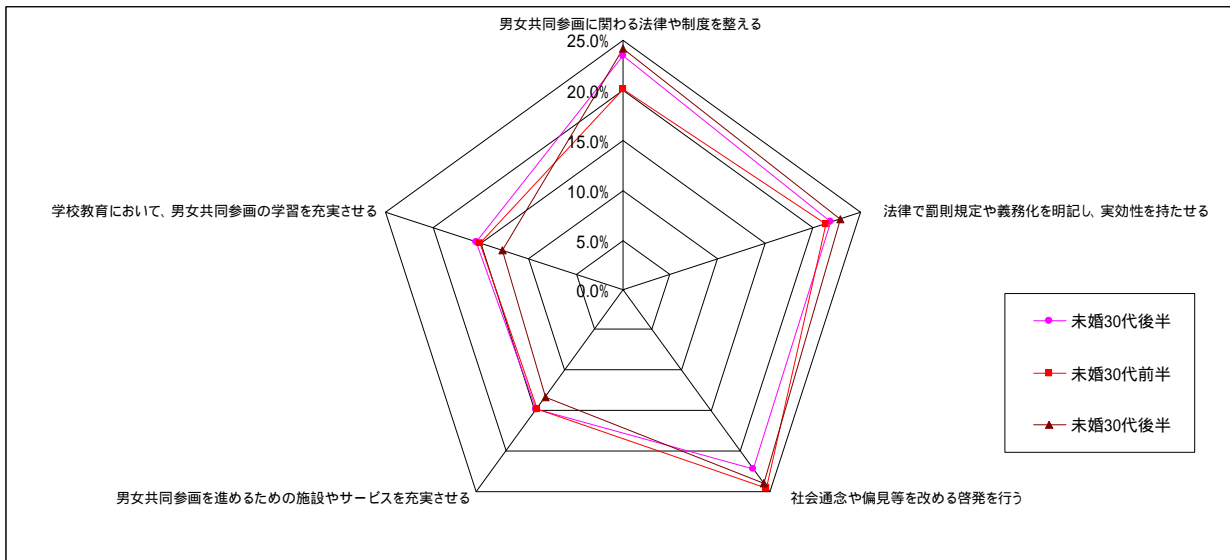
既婚 20代後半 30代前半では「法律で罰則規定や義務化を明記し実効性を持たせる」。

- ・1位での回答に3点、2位での回答に2点、3位での回答に1点をつけ点数化したものでは、上位3つは次のとおり。

「男女共同参画に関わる法律や制度を整える」、

「社会通念や偏見等を改める啓発を行う」、

「法律で罰則規定や義務化を明記し、実効性を持たせる」。



企業の取り組みとして望むもの

・1位の最多回答は次のとおり。

未婚は「性別に関わらず、正当な評価に基づく処遇を行う」。

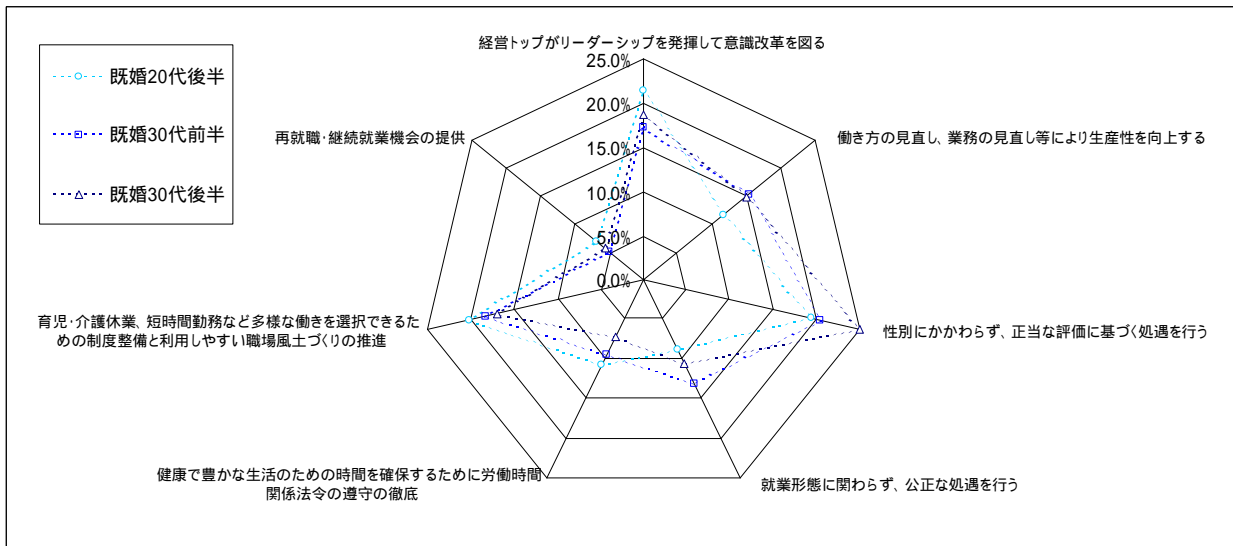
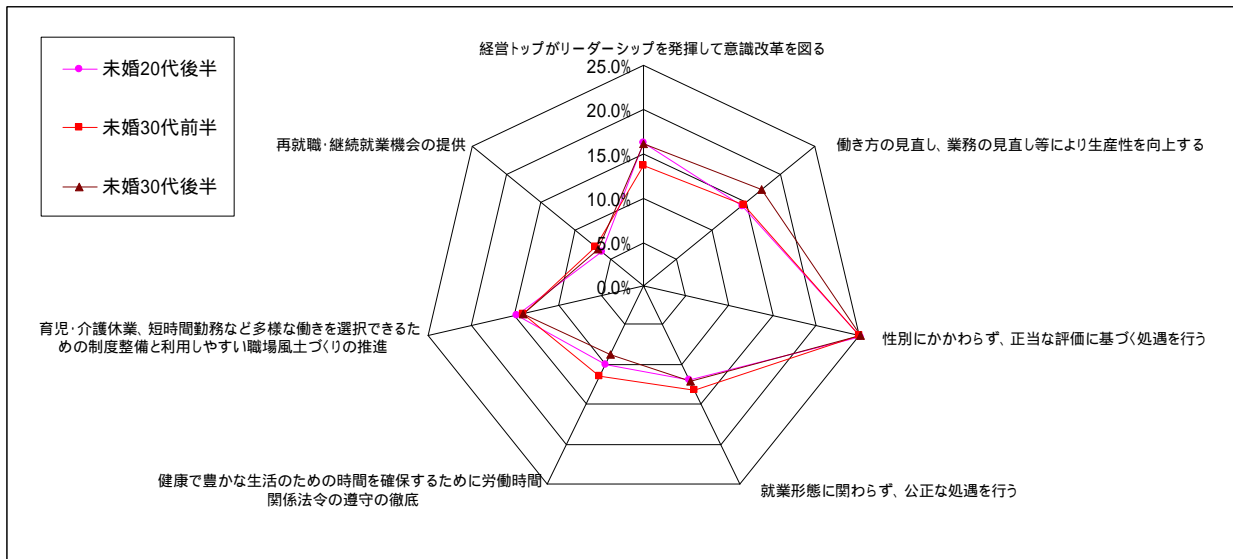
既婚は「経営トップがリーダーシップを発揮して意識改革を図る」。

・1位での回答に3点、2位での回答に2点、3位での回答に1点をつけ点数化したものでは、上位3つは次のとおり。

「性別にかかわらず、正当な評価に基づく処遇を行う」、

「経営トップがリーダーシップを発揮して意識改革を図る」、

「育児・介護休業、短時間勤務など多様な働きを選択できるための制度整備と利用しやすい職場風土づくりの推進」。





女性に望むものは、

・未婚では6割、既婚では6割弱が女性に望むものがある。

・その内容として、1位の最多回答は次のとおり。

未婚 20代後半では「仕事に関する実力をつけてほしい」。

未婚 30代前半・後半では「精神的に自立してほしい」。

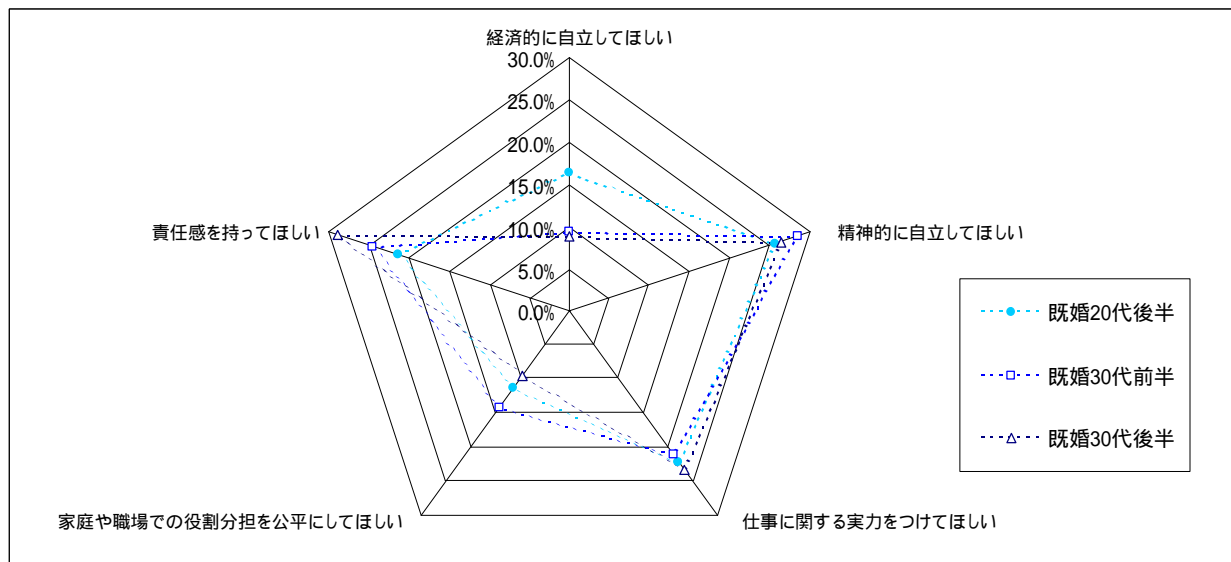
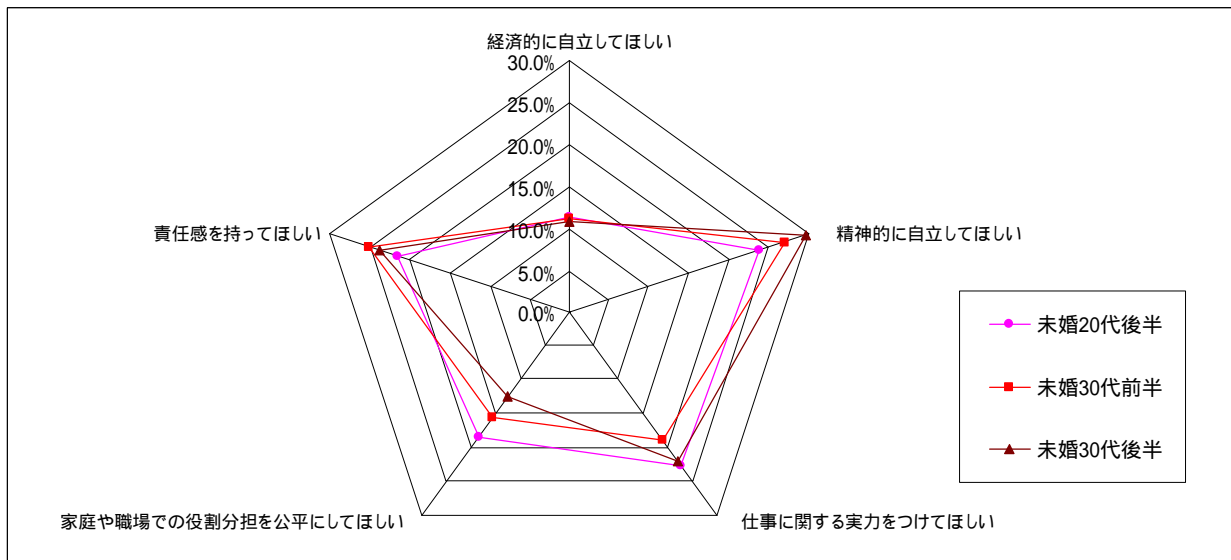
既婚 20代後半では「経済的に自立してほしい」。

既婚 30代前半では「精神的に自立してほしい」。

既婚 30代後半では「責任感を持ってほしい」。

・1位での回答に3点、2位での回答に2点、3位での回答に1点をつけ点数化したものでは上位3つは次のとおり。

「精神的自立」、「責任感を持つ」、「仕事に関する実力」。



### 3. ヒアリング調査結果 ～量的調査の補完する質的調査として～

次のとおり、ヒアリング調査をとりまとめた。

#### 【回答者の属性】

	年代	名前	年齢	家族構成	職業	
					職業	職種
既 婚	20代後半男性	A	25歳	妻	正社員	営業
		B	25歳	妻(25歳)、子ども(3歳女)	正社員	金融関係の営業企画
		C	29歳	妻、子ども(4歳男、4か月女)	正社員	パチンコ設備の営業
	30代前半男性	D	34歳	妻、子ども(中2女、中学1男、7か月男)	今の会社で派遣 アルバイト 正職員	メーカー営業
		E	34歳	妻、子ども(小1男、6才女)	人材会社	営業
		F	30歳	妻、子ども(1歳女)	金融関係(FP)	営業
	30代後半男性	G	35歳	妻、子ども3人(小1女、3歳男、0歳男)	自営業	化成品の卸(家業)
		H	36歳	妻、子どもなし	役員	派遣会社
		I	36歳	妻、子ども(小1)	公務員	
	20代後半女性	a	26歳	夫(29歳)、子ども(6才男、5歳女)	パート(11～14時)	喫茶店
		b	25歳	夫	アルバイト	コンビニ店員
		c	29歳	夫		小学校講師
	30代前半女性	d	34歳	夫、子ども(9歳男、7歳女)	パート(10～14時、月～金)	喫茶店のウェイトレス
		e	31歳	夫、子ども(小3女、小1女、2歳男)	パート(10～15時、月～金)	建築会社の事務
		f	31歳	夫、子ども(3歳男、2歳女)	アルバイト(9～17時、月～金)	ネットショップの封筒・HP等のデザイン
	30代後半女性	g	38歳	妻、子ども2人(小5、小3)	パート	外食産業の品質管理検査員
		h	38歳	子ども2人(中1女、小4男、2歳半女)		泌尿器科クリニックの送迎運転手
		i		子どもなし	正社員	マッサージ師
	未 婚	20代前半男性	J	28歳	ひとり暮らし	バー勤務
K			28歳	一人暮らし	契約社員	広告制作
L			28歳	実家(父、母、妹)	正職員	
30代前半男性		M	31歳	一人暮らし	正社員	SE
		N	32歳	一人暮らし	正社員	映像制作関係
		O	31歳	実家(父、母、兄、姉)	正社員	貿易
30代後半男性		P	36歳	一人暮らし	契約社員	人材派遣会社の営業企画
		Q	35歳	実家で家族と同居	自営業	広告関連の仕事
		R	39歳	一人暮らし	フリー	司会業
20代後半女性		j	27歳	実家(父、母、兄)	正社員	メーカー事務
		k	26歳	実家(父、母、弟)	正社員	商社、営業・貿易事務
30代前半女性		l	34歳	一人暮らし実家(豊中市、母、妹)	派遣社員	不動産の事務
		m	31歳	実家(父、母)	アルバイトの他に短期で派遣社員も。	ドイツ雑貨の店
		n	31歳	実家(父、母、弟)	正職員	介護福祉士
30代後半女性		o	39歳	一人暮らし	今の会社に入って契約社員 正社員	商社で生地の輸出を担当
		p	36歳	一人暮らし(実家近く)	家業手伝い	
		q	36歳	実家(両親がいなく一人暮らし)	アルバイト	飲食関係

名前	仕事	
	今の仕事について	今の働き方について
A	やりたかったことではないが、仕事は楽しい。	公務員のように定時で帰れるので、楽しんでやっている。学校卒業後、1年間はアルバイトをしていた。
B	やりたかった仕事。	勤務地は出身地の沖縄を希望していた。もともと起業をしたかったのですが、今の会社なら人脈も育えると思って、将来は独立を考えているが、支店長になれるなら今の会社に残ってもいい。働く時間が長いのが大変。
C	やりたい仕事ではない。結婚して家族を養うために、独身時代の人材派遣の会社から転職。	派遣会社に勤めていたが、派遣スタッフだった妻と結婚するため、どちらかが辞めることに。派遣の仕事は顧客へのフォローで、朝6時から夜の12時まで働いていたので、妻からその働き方は結婚する意味がないと言われ、自分が転職することに。本当は、今の営業職は合っていないと考えている。
D	営業職の経験がなく、どちらかというやりたくなかったが、やっているうちに楽しさを覚え、今は、やりがいがある。	
E	やりたいとは思っていなかった。コンピューター関係の仕事をしたかったが、就職氷河期で実務経験がないとできなかった。	今でもコンピューター関係の仕事をしたいと思っているが、今の仕事だけで必至なので余裕なし。
F	やりたかったかというそうではなかったが、「この仕事をやっていこう」と思い資格を取り、やりがいを感じている。この仕事を続けていこうと思っている。	
G	やりたい仕事だった。	父が自営業で地盤があり、いずれ継ぐつもりだったが、自分なりのものを見つけるため会社勤めをしていた。父が倒れ急遽仕事を継ぐことになった。タイミングとしては、悪かったが、何とかやっている。
H	好きな仕事をしている。	自営業11年を経て、今の会社に3年、起業をすることが目的だった。他人に使われていると自分が好きなようにできない。
I	なんとなく流れて就職し、今の仕事を担当している。	仕事が合うかどうかはその時による。退職するまでわからない。
a	珈琲の匂いが好きで、ママと二人でやっているのでもいいなと。	結婚前はアルバイト等いろいろしていた。結婚後は専業主婦だったが、時間があがり、お金にゆとりがほしかった。
b	接客業が好きなので、今の仕事は気に入っている。	学校卒業後100円ショップで働いていた。結婚後下の子の手が離れ、4月から保育所に入れ働くことに。今は飲食店に勤めてみた。結婚前は、子どもにかわいいお弁当を作ってあげたいと考えていたが、今は働きに出たいと思っている。
c	やりたい仕事と思って、学校卒業後に資格を取った。	仕事は多いし、拘束時間も長く、帰るのが夜7時、8時になるが、やりがいはある。
d	やりたい、やりたくないとかいうことでない。	仕事は転々としている。高卒後スーパーに就職したが、土日休みたくて辞めた。その後、事務のアルバイトや宛名書きなどをしたが、母親の看病で子どもを保育所入れたのがきつかけ、子どもが2歳くらいから働いている。
e	自分の環境に合う仕事として、今の建築会社の職を見つけて働いている。	卒業後設計事務所の事務をしていた。結婚退職しアルバイトをしていたが、出産を機に辞めて、長女が2歳のときに保育所に入れたので、経理事務の仕事をはじめた。しかし、2人目ができたとき辞めたいと言われ辞めたが、出産後また同じところで働きだした。3人目出産時は9週目まで働き、出産後6か月で復帰。3人目の時は辞めずに仕事をしてきたが、育児と仕事で大変だった。社長は休めばいいと言ってくれたが、忙しい時期と子どもの病気で休むことなど、周りへの気遣いと仕事のプレッシャーで辞めた。
f	仕事は前の仕事と同じことをしているの、楽しい。前の会社からも復帰しないかと言われている。「また正社員で戻れるなら、考慮する。」	高卒後デザイン会社に入り、産休復帰を予定していたが不景気で辞めることに。子どもが小さいので在宅の仕事を探していたが、今の職場は近所なので通っている。
g	子どもを持っていたら、仕事を選べない。今のところは人が多く、子どものことで休みやすく、面接で受かったから。	外食産業の工場に働いているが、椎間板ヘルニアで仕事の担当が変わった。自分が品質管理という理系の仕事をするとおもうなかったが、やってみれば面白い。子どもの手が離れたら、事務の仕事でもっと長時間働きたい。(今は4時間勤務)
h	運転は好きだが、特にやりたいわけではなく、たのまれたので。	子どもが生まれるまで、契約社員として教習所指導員をしていた。2人目の子どもが幼稚園に入ってから事務の仕事をし、一番下が生まれるまでは専業主婦だった。
i	やりたい仕事だった。	OLもしていたが、人に何かしてあげたいと思いい、自分の店をしようと思った。自分がマッサージを受けて癒されたから。
J	あまりやりたい仕事でなかったが、派遣社員の営業を辞め、知り合いからどうしてもと言われ1年半ほど働いている。	物足りない部分があるが、ノルマもなく気楽で重荷にならないので、しばらくはこのまま続けるつもり。
K	アパレルの仕事をしたが、悩んでいるというが、今の会社に不満がないのでしばらくはやっていこう。	卒業後、デザイン会社に入社、転職して他のデザイン会社へ。今の仕事に不満はなく、裁量労働なので、自分の仕事は管理できる。みなし労働で、それを超えると残業もつく。今の自分を評価してもらっている。
L	もともと福祉の勉強をしていたので、やりたい仕事だが、自分に向いていないと思うこともある。	サービス残業が多い。
M	SEはしたかった仕事。	今はシステム構築のプロジェクトのため、顧客先に常駐しており、その会社に合わせた定時の就業時間が嫌。
N	映像の仕事は昔からやりたかった。	仕事の性質上、終わらないと帰れないのでしんどいが、仕方がないと思っている。
O	はじめはしたい仕事でなかったが、今はいいかなと思っている。	サラリーマンには向いていないと思っている。今の仕事は、相手の都合などに合わせる必要があるが、それ以外は、きっちりさえすれば時間は自由なので良いと思っている。司法試験を受けていたが29歳でやめ、しばらくフリーターをしていた。
P	望んでいた仕事。もともとは雑誌製作の仕事をしていたが、給料が安く、30歳を過ぎてこれでは生活できない。結婚できないと思い転職。管理職的な仕事もできないと思い現職に。	雇用形態が営業職は正社員なのに、営業企画である自分は契約社員。会社にはこのような状況ではいつでも辞めると言っている。離職率が高い業種で、ハードな仕事。この業界で4人も過労死をしている。知り合いの女性も過労死を、ちょっとおかしいと思うが、なかなか転職できない年齢になってきている。仕事は好きだが働き方は満足していない。
Q	今の仕事はやればやるだけ収入が入るので、気に入っている。まだ収入は少ないが、いろんな人と出会え勉強できる機会があり楽しいと思っている。	家業の飲食店の店長をしていたが、休みもなく給料も少なかったで辞めた。工場に働くようになったが、事故に遭い辞めて、知り合いの関係で今の仕事に。まだ軌道に乗っていないので、派遣の仕事もしている。
R	望み通りの仕事ができている。	仕事を請け負っていたが、不安定で仕事が全くない時もある。若い時はそれでもよかったが年齢が行くと問題だと移す。起業をしたいと思っていたので、実行に移す。生活費のため就職した時もあったが、だんだん仕事を任せられ、責任を負うようになり、やはり自分のしたいように会社を辞めてフリーに。
j	前に勤めていた商社ではメーカーと顧客との間に立ち大変だった。メーカーは代理店を通すので、仕事がやりやすい。3年勤務中	巨大後、やりたいことが特になく、アパレル関係、商社から今のメーカーへ。アパレルは勤務時間も長く、肉体的にも長年務めることが不安で、転職を希望。今の仕事は残業はあるが、ほとんど時間内。やりやすく(特に不満もない)。
k	英語教師になりたかったので、そのステップとして働いている。	短大卒業後、銀行は一度辞めてもパートとして戻ると親の助言があり、銀行に勤務(2年3カ月)。が、やはり英語に関連した仕事をしたくて、退社し留学。英語を使う仕事ができること今の会社に。忙しい時は残業があるが手当もきちんとつくし、忙しくないときはほぼ定時。体力的に疲れるということはない。特に不満はない。英語以外に取引先や客とのやり取りがあるが勉強になっている。しばらく今の会社に勤めて、ゆくゆくは英語教師をめざしたい。
l	好きかどうかではなく、生活のために割り切っている仕事をしている。手に職もないし、この年齢なので、働ければいいかなと思っている。	短大卒業後、ちよくちよく仕事は変わっている。今の会社は勤めて6年目。会社はフレックス制だったので良かったが、最近は定時制に変わってきて、.....
m	今の仕事は特にやりたいことではなく、やりたいというより、楽なのでという感じで働いている。	20代の頃は本が好きだったので、いくつかの書店で働いていたが、20代後半のときに働いていた近所の書店が潰れてしまい、その後は書店の仕事を見つけれなくなりました。今の仕事は次の仕事までのつなぎと思っていたが、ずるずると2年働いている。知っている人の店で居心地がよく、気分が好いていて勤めやすいし、忙しくないときは入らなくていい、好きな時間に入らせてもらっている。時間のやりくりがなくていいが、そのせいかだらけてしまっている。
n	もともとは障害者福祉を志して転職をし、ヘルパー資格で就業可能な作業所に行っていて、昨年介護福祉士の資格を取得。	学校卒業後、建築関係の仕事をしてきたが、3-4年前に転職して現在に至る。今は技術習得のために高齢者施設にいますが、習得後はやりたい仕事に就きたい。
o	やりたいというか、前の会社と同じ仕事だったので楽だった。家の事情もあり、会社に正社員での雇用と給料について交渉をした。	学校卒業後繊維の商社に勤務。繊維業界が悪くなり、29歳の時、転職を決意。しかし、両親の介護が重なり働かない1時期もあった。しばらく失業保険で英語を勉強。その後派遣で働いたが、父が亡くなり、先行きを考えてやはり正社員にならないかと思い、経験のある繊維関係の商社に勤める。今の職場は派遣社員の若い女性が多いが、ストレスをためずに働いてもらうことを考えている。
p	今の仕事は大嫌い。母の始めた仕事で、休みが取りやすいだけが利点。	大学を出てすぐは別の仕事についていて、やりがいもあり、年収もよかった。前の会社は、やればやるだけ成果も収入も増えたが、今の仕事の嫌なところは仕事を受けて、それを振り分けるだけなので、他力本願で、自分はどうこうできない。違う仕事を探そうと思っているが、何がしたいかを模索中。
q	もともと接客業が好きだったので、知り合いの店長に誘われ、お金より楽しい仕事がいいと選んだ。ただ、好きではあるがやりがいはない。	一昨年、保険の営業職を辞めた。仕事にのめりこみ給料が上がったが、チームリーダーになってからは給料が上らないのに指導する立場になり、後輩の不満を夜中まで聞くなど精神的に疲れた。保険は知らぬ間にあれよあれよと就いた仕事。転職するには雇用環境の厳しい時期で、年齢のこともあり、考えている。

## 男性の家事・育児

- ・全体的に家事には抵抗がなく、分担する意識をもつ若年男性。
- ・家事を実践していることが、より抵抗感をなくす要因に。
- ・家計を支え、仕事が中心になっていると、妻や家族に任せたり、自分のできる範囲で。

### 未婚 20代後半男性

洗濯はするが、ご飯は作らない。買い物や作る時間を考えたら、惣菜を買ったり、食べに出たほうが効率的。親の影響は特にないが、高校から親と離れているので、一通りのことはできる。

一人暮らしなので、基本は自炊で、自炊7割外食3割。

大学から一人暮らしなので、家事に抵抗感はない。親の影響ではなく、自分が好きでやっている。休みの日はやりますが、普段仕事に行っていると家のことはできません。家事に対する抵抗感はないですが、勝手にやると家族から場所がわからなくなると怒られる。

### 未婚 30代前半男性

男性の家事には、一人暮らしをするまでは抵抗があったが、今は抵抗がない。結婚して相手が働いているなら分担しないといけなと思っています。父親が家事を全くなかったので、反面教師になったかと思う。

一人暮らしなので家事には抵抗はない。結婚しても料理などするが、特に親の影響というわけでない。家事に抵抗はない。一緒に分担してやればいいし、気付いた方がやればよいという感じ。

### 既婚 20代後半男性

家事は半々に分担していて、食事・洗濯は妻、掃除・食器洗いは自分がする。

自分自身は育児にもっと時間を取りたいが、仕事が忙しいのでなかなか取れない。

一人暮らしをしたことがないので、家事はしたくないのではなく、できない。今は家事の修行をしている感じだが、平日は仕事で家事をする時間がない。

子どものことは気になる。上の子が小さい時、「どこの人？」という目で見られたので、お父さんとアピールしたい。子どもを優先したいと思っている。

### 既婚 30代前半男性

家事はやれる人間がやればよいと思う。文句を言って関係が悪くなるよりは、自分でやってコミュニケーションをうまく取り、家族の関係がよいことの方が大事。家事は嫌ではない。

家事や子育ての負担は収入の差で決まるという訳ではなく、お互いの関係、それぞれ個別の状況だと思う。一般論では言えないだろう。

洗濯もするし食器も洗う。やり出したらきっちりやりたいタイプだが、妻がちゃんとできてなくても文句は言わないですが...

一緒に生活して子育てしていくように、話し合いながら、理解しながらするのがよいと思う。

妻がやってなければ自分がやればよいが、それが続いてしまうと支障が起きるように感じる。

それに自分が家事をしても、高いものを買ったりして妻に怒られる。それなら、妻に任せたい。

### 既婚 30代後半男性

新婚当初はやっていたが、仕事の責任が重くなってできなくなり、妻に任せることが多い。

母親からは「これからは共働きしなければいけないから、男も家事をしなければだめ」と言われてきたから、一通り家事はできる。そんな環境で育ったので家事に抵抗はない。

自営業なので、仕事には定時がなく、家のことも平日やろうと思えばできる。子どもと接する時間は

長いと思う。妻も、私が一緒に居ることを望んでいるので、家族と過ごす時間は長い。  
家事をすることと男らしさは別で、親からは男だから家事をしなくてよいということはないと言われてきた。男だから仕事はしないといけないが、家事もしないといけないと言われた。  
親が自営業だったので、土曜日の昼などは自分が作らないと食べられないというものがありますが、早く帰るとご飯を作られる。作ったら作ったで、マズイと言われる。早く帰らない方がいいのかな...

#### 結婚について(未婚男性)

- ・結婚願望がある人は、経済面や自分のライフプランなどの条件が整ってから、年齢による変化も。
- ・また、結婚にこだわりがない、独身生活の気楽さや良さを感じる人も。

#### 未婚 20代後半男性

したいともしたくないとも思わない。今はしたくないが、子どもがほしいので将来的にはしたい。  
ただ、自分一人なら何とかなるが、結婚し子どもとなると、金銭面のゆとりが欲しい。  
普通に結婚したいと思う。32歳ぐらいまでに。相手がいるかいないではなく、自分のプランとしては結婚まで猶予がもう少しほしい。  
結婚する人としらない人では、ゆとりや豊かさの価値観の違いが関係しているかも。  
一人で食事を作ってもむなしい気分になることがある。結婚すると心が豊かになる気がする。そうになると、大切なことが経済から心へシフトできるのかなと思ったりする。  
いずれは結婚したいので、一人暮らしをして生活力をつけないと。ただ、今すぐではなく35歳ぐらいまでには、それを過ぎると焦りを感じると思う。確かに結婚には勢いも大事なんだと思う。  
若い人の生き方で何が重要で、そのための支援として何が必要かという、結婚後の病気やけがのリスクの保障と悩みやサポートの相談ができればと思う。必要な情報を入手しやすくなると不安が減少すると思う。それと、結婚したらこんなメリットがあるというような情報もほしい。

#### 未婚 30代前半男性

結婚願望あり。彼女がいるので結婚の話を進めている。子どももいずれ欲しい。30歳ぐらいまでにはしたいと思っていたが。  
昔からずっと結婚したいとも、したくないとも思っていない。単純にこだわりがない。今は、一生独りでいてもいいかなと思っているが、結婚してもよいという相手がいればでもいいし。  
子どもはほしい。年齢や収入によって結婚を決めるということもない。  
結婚はしたいが、相手がいらない。経済面でどうしてもお金がないと結婚してからも不安。  
もう少し収入がないと、という気持ちがあるから及び腰になっている。結婚した友達から喧嘩の原因が一番がお金だと聞くので。

#### 未婚 30代後半男性

結婚願望は全然ない。家族を養えないし、養える状況だとしても、家事など何でもできるタイプだから。忙しい生活の中で恋人がいても自分の自由な時間が制約されるのがストレスになるかな。  
結婚して子どもをもっても、必ずしも自分の思うとおりにしてくれるわけでもないし。  
「子ども = 幸せ」ではないと思う。時間に余裕ができたとしても、はっきりと言えないが結婚には否定的で、紙の契約が嫌で恋人でよいかと思う。  
今までは結婚願望が全くなかった。自由にしたいという気持ちが強かった。  
親が離婚しているのだから、離婚が嫌だからかもしれない。この年になっていい人がいれば結婚してもいいかなと思う。理由は年齢としか言えない。ただし、今は仕事が忙しくて考えられないが、経済的に安定したら、今は結婚したい。親の存在というのが大きい。昔は独身貴族希望だったが、

公私ともに一人だと限界が来る。人間は支えが必要で、困ったときに支えが必要だとわかった。年齢によりいろいろと段階があり、年齢が上がってくると、社会の方で「締切」がある。女性なら出産、男性なら結婚できる年齢があり、モチなくなる。

#### 結婚について(未婚女性)

- ・「いい人がいれば」「いずれは」など、自分だけでなく相手次第のところがある。
- ・また、子どもがほしい願望と、出産の年齢的なりミットを考えている。

#### 未婚 20代後半女性

今すぐではないが、30歳ぐらいまでに結婚したい。結婚するには、収入の金額は気にしないが貯金が全くないのは嫌。ないとすると二人で貯める形になる。出産費用や家賃など最低限生活に必要な資金は必要。ただ、結婚はきっかけが大事だと思う。お金のことを気にしすぎても、結婚してしまえばお互い頑張ると思う。私は女性なので家族を養うという責任感を持ってないから、相手次第、タイミングだと思う。

今の歳には、もう結婚して子どもをもっている予定でしたが…。2年後ぐらいまでに結婚したい。いい人がいたら、今すぐでもいい。

#### 未婚 30代前半女性

いずれは結婚したい。周りは婚活をしているが、私は‘一人’が居心地がいいから…でも、結婚はいつでもできるが、子どもは期間限定だから若いうちに産まない。だけど、子どもを産まないといけないから結婚しようとは思わない。まわりにシングルマザーがいるし。

自分のスタイルができあがり、自分の生活を崩されたくないの、他人と一緒に暮らせるかと思う。

20代の頃に結婚を考えていたが、友達も結婚していなかったのでまだ大丈夫と思っていた。

30を過ぎると周りがバタバタと結婚していき、肩身の狭い思い、まだ大丈夫だという気持ちだったけど、焦らないといけなかなと思う。でも、自分自身は今、結婚したい気持ちはあまりない。子どもはほしいので、産める時までには結婚したいなどは思っている。

一生独身という気持ちではなく、子どものいる家庭を持ちたい。好きな人と結婚して家庭に入ってと考えているが、今は明確ではないし現実的ではないが理想としてある。

結婚願望がなくて…。理由は実家の居心地がよいからだが、両親も少し年齢が高くなり、いつまでも居心地がいい状態ではないと思うので、友達の結婚や子育てを見たり、話を聞いたりしていると、いい人がいれば結婚したいという思い。

#### 未婚 30代後半女性

家庭がほしいと思う。一人暮らしで家庭がないし、子どもが産める年齢がリミットに近付いているので。

結婚願望は特にないが、親から孫がいらないのは親不孝と言われるので、とりあえずカムフラージュで婚活をしている。子どもを産める時期があるので、今までは考えてなかったが、そろそろ相手をと考え始めている。50代60代でも子どもを産めるなら、結婚はいつでもいいが。

子どもがほしいから結婚という気持ち。35歳過ぎてから子どもがほしくなる。優先順位がまず子どもで結婚はその次。

## 結婚相手の条件(男性)

・「結婚後も働いてほしい」「専業主婦」など様々な意見があるが総じて相手の意思を尊重する。

### 未婚 20代後半男性

ずっと家にいてほしいわけではないので、結婚したら妻にはある程度自分の小遣いは稼いでほしい。自分のために自分で働くことを忘れずにいてほしい。

結婚後も働く人がいい。お互いに経済的な制限ができるのが嫌。ただ、絶対に働いてほしいのではなく、妻の意思次第で尊重する。

子どもができるまでは共働きでいいが、パートナーには子育てに専念してもらい、子どもの手が離れたら家に居るのもストレスになると思うので、仕事や趣味等好きなことをしてくれたいと思う。

### 未婚 30代前半男性

結婚相手には働いてほしい。正社員でもパートでも、ずっと働いてほしいので、働かない人は無理。ずっと働いている母親を見ると、若くていきいきとしているので。

相手が働きたいと思っているなら、そうしてもらっていいです。専業主婦もしんどいと思うが、専業主婦がよいならそれでいいし、好きにしてもらいたい。ただ、よほど経済的にしんどかったら働いてもらわないとだめだけど。

たくさん稼ぐ女性との結婚は、この年なので喜んで…。でも、妻が仕事ができたら高収入ならちょっとつらいけど、もともとが裕福ならいいです。

### 未婚 30代後半男性

古いタイプなので、子どもができたら女性には家に居てほしい。両親の離婚が影響しているのかも。親と食事をするのも旅行もほとんどない環境で育ち、離婚は嫌だという気持ちが強くなった。

### 既婚 20代後半男性

専業主婦になってほしいが、妻は専業主婦タイプではないので、働くと思う。相手の気持ちを尊重しようと思っている。(妻は歯科衛生士の正規雇用)

妻には子どもを育ててほしい。ただ、妻に目標があって働くのはいいし我慢もできるが、お金のために働くのは嫌。(妻は専業主婦)

妻は「私はがんばって働く」と思っているのも、もし妻が自分と同じ収入があれば主夫になってもいいかと思う。しかし、現実問題として今から妻が働きに出て得た収入だけでは厳しい。

共働きだとしても、保育所に預けるとなると収入と保育料でプラスマイナスゼロかマイナスになるのではないか。(妻は今、働いていないが土日実家に帰って子どもを預け、アルバイトに出ている。)

### 既婚 30代前半男性

自分の気持ちは、妻には子どもとずっと接してほしいので専業主婦でいてほしいが、本人は仕事をしたいと思っているので、意思を尊重している。(妻は育休中)

最近事件も多いので、働くのはよいが、できるだけ子どもとの時間を取ってほしい。自分は働いていて子育てをできないので、妻にお願いしたいが、妻自身は働きたいと思っている。

女性の意識が昔とは変わってきているのかと思う。妻は医療事務をしたいという目標があり、支障がない限りは尊重したい。(妻は接骨院のパート)

私も妻には家に居てほしいが、もし妻が働きたいというなら、できることがあれば手伝う。一時、妻が働きに出たことがあり経済的に楽だったが、妻も専業主婦を希望している。(妻は専業主婦)

### 既婚 30代後半男性

体調の問題で今は働いていないが、体調が戻れば妻は働きたいと言っていて、好きにしたらいいと思っている。

#### 結婚相手の条件(女性)

- ・生活費の基本は男性とし、女性はプラスアルファとして家計を補いながら、自分自身や子どものために使えるように。
- ・男性は「頼りにしたい」存在で、「男性を立てる」という関係性が居心地よくうまくいく。

### 未婚 20代後半女性

夫に生活費は稼いでほしいし、正社員でしっかり働いてほしい。自分が働いたお金は自分の好きなことに使いたい。夫のお金だと好きなものを買ったり、食事にはいけないので。世間体もあるので、男性を立てている方がいいかと。自分のなかでも男性が少し上の方がいい。夫は正社員がいい。アルバイトや派遣は福利厚生やクビといった不安定な状況なので、職がなくなったら困る。生活費は夫のお金でやりくりし、自分が稼いだお金はプラスアルファとして子どもに使ったり、自分の小遣に。私の母親もパートに出ていたが、家に居ると気分が滅入ったりするので、基本的に外へ働きに行ったほうがよい。経済的な面も含めて男性にしっかりしてほしい。何かあれば男性が引っ張ってくれるなど、頼りにしたいので、男性を立てている方がいい。

### 未婚 30代前半女性

将来結婚しても働きたい。おしゃれをしたり、お出かけしたり。自分の給料は小遣いで、私の給料をあてにされる生活は嫌。女性は強くなっている。職業を持ち給料が安定していたら、男性に頼らなくていいのかも。子どもができたら、何年か子育てに専念したい。友人から「働きたくなる」と聞いているので、仕事があればできる範囲でとは思いますが、自分自身しっかりと働きたいとは思わない。相手に望まれれば専業主婦になってもよいので、特に自分からは働きたいと思っていない。働くとしても、生活費のためでなく、プラスアルファとして。夫の収入が多いに越したことはないが…。自分よりは少しでも上の立場(収入面でも)であってほしい。自分の収入はプラスアルファという意味で、自分で稼いだお金で夫に誕生日プレゼントをあげたいので、働いていたい。でも、自分の収入が多いと、そのことが態度に出たり、お金のことでめめることがあるので、夫は自分より上において、頼りたいという気持ちがある。でも全部頼るのは嫌だし、仕事もしつつ家庭も楽しんでいきたい。

### 未婚 30代後半女性

理想は、夫にある程度稼いでもらい、自分は仕事を辞めて料理の勉強をさせてほしい。収入は低くてもいいが、200万だとちょっと…。精神的に安らげるパートナーだといいいが、毎日私が叱咤激励しないとイケない人は嫌かな。まだ古い考え方があって、男性は立てるべきだと思っている。理想としては、夫の給料で生活できたらと思うが、夫が働いていて、自分の給料と同じくらいなら、不足分を補い合ってやっていけるのではないかと。でもやはり、自分と同じくらいの収入は欲しい。自分が癒され、楽しい人で、お互いに自分の時間が持って、一緒に歩んでいける相手、一緒に改善策を考えられる人なら、収入が少なくてもいい。保険の仕事では、収入の高い女性が多い。夫より多いのは最初の頃はいいと言っているけど、男性がひがむようになり別れることが多いようだ。だから収入だけでなく、精神面でも男性が少し上の方がいいのではないかと。男性が弱くなったとはいえ、やはり下になるのは嫌と思うのではないかと。



### 既婚 20代後半女性

男は男らしく思っているのですが、夫が稼いでいないと。時間ができて、お金にゆとりがほしかったので、今アルバイトをしているが、子どもが大きくなっても仕事の量を増やそうとは考えていない。子育てが趣味なので。

夫は正社員でなければ、ということにはなかったが、夫は結婚を機に正社員になるために他県に就職してくれた。

夫の条件として正社員で働いている人と思ってたので、夫は正社員になってくれて、私の希望に沿うようにしてくれた。正社員でなかったら結婚していないが、私が教師になっていたら、私が稼ぐ選択もあったかも(その頃まだ教師になっていなかった)。ただ、私が稼ぐとしても、彼に夢がありアルバイトをしているという場合ならいいが。

### 既婚 30代前半女性

結婚相手を基準で選んだわけではなく、好きだから結婚した。旦那が希望すれば妥協できる場所はあるが、わが家は女性が稼いで来るのは考えられない(夫も同じ意見)。私は働いても働かなくてもどちらでもいいが、今は気楽な仕事で、働いた分は自分の小遣いと子どものために…。

18歳から付き合い、その先に結婚があった。私自身、今の生活が楽しいので、自分がフルタイムで生活費を稼ぐとなると、今の生活を変えないといけなくて嫌。夫は会社員で安心感はあるが、夫が体力的・精神的に辛くなった時は、今の仕事を辞めて給料が低くなっても、私が働いて二人でやっていこうという気持ちはある。

夫が正社員でないと結婚できないというのはあったが、それよりも好きだという気持ちが強かった。夫は「何とかなるさ」型、私は「先行き不安」型で、二人でやればとできると思った。

### 既婚 30代後半女性

私は養ってもらうのが嫌で自分も働いてと思っていますが、子どもができれば、やっていくのは難しいだろうなと思います。

“家族を養う”という男性のアイデンティティ

- ・妻や家族を養う意識をもち、「妻に頼る」状況は嫌だと感じる。しかし、社会経済状況が厳しい現実から、プレッシャーを感じたり、それぞれの状況により女性に期待していることも伺われる。
- ・一方で、「養う、養われる」ではなく、お互いが自立した存在でいたい、という考えも少なくない。そして、「少し上」でいたい、「女性に立ててほしい」との思いも。

### 未婚 20代後半男性

家族を養う意識はあるが、共働きが理想。逆に相手から「養う」と言われると腹が立つ。

養うとか養われるとかでなく、経済的にも精神的にも自立している人がいい。自分で背負うという気持ちはない。フラットな関係がいい。

養うという意識はある。女性に養うと言われても僕は僕で働くと思う。

### 未婚 30代前半男性

妻を養うというイメージは一応あります。最低限の生活費は稼がないといけないとは思いますが、男女の収入が逆転しても、二人で稼いで生活が成り立つならそれでいいと思うけれど、実際そうなって、妻の言葉の端々から「稼いでいるから」というのがでてきたら嫌だけど。

妻を養うというイメージはある。

妻を養う、男が稼がないといけないという気持ちがあるので、妻の方が稼いでいる場合は、後ろめたさがあるかと思う。とはいいいながら、逆玉の輿には乗りたい。

### 未婚 30 代後半男性

今の女性は、男性に対して月収より貯蓄の有無を重視するのでは？男性の失業等、何かあった場合に貯蓄があるかないかで大きく変わってくるので、男性は、収入や立場が下になるのは嫌と思うのではないか。

自分も女性より下になるのは嫌かもしれない。

結婚する相手に経済力があればいいが、今までに出会った何人かの女性は、男性に安定を求め、自分は好きなことをしたい人が多かった。

### 既婚 20 代後半男性

養うというのは、今はできないけど将来的には養いたいと思っている。

今は、家の購入等の夢があるから二人で働いているし、妻は今後も働くと言っている。

養うという意識はあり、妻には子どもを育ててほしい。私の仕事は金融関係で、経験により収入が上がるし、そのため先行投資が必要で、ある程度自由に使えるお金が必要なので、妻が働いたとしても自分の財布に口を出されるのは嫌なんで。

養う意識はあった。結婚と出産は贅沢なものだと思う。一人暮らしだとやりたいことを優先できるが、結婚・子どもとなると最低限必要な収入が決まってしまうし、仕事を選ぶにも収入重視になり、仕事自体へのこだわりは捨て、家族を養う意識になる。

本質的には女性が収入や立場が上でもOK。でも、表向きは女性が理解したうえで、男を立ててほしい。

上か下かが問題なのではなく、世間体や世間の目が関わってくる。

子どもにとって父が弱く母が強いのは教育的に良くないと思う。精神的にはフラットがいいが、世間的にみて普通というふうにしておくことがうまくいくと思う。

男性を立てている方がいい。世間体もあるし、自分のなかでも男性が少し上の方がいい。

女性には男性を立ててほしい。見た目というか世間体は気になる。

### 既婚 30 代前半男性

会社が成果主義のため、今は妻より収入が多いが、逆転する可能性がある。そうなっても今の関係性は変わらないだろう。

家族を養うというプレッシャーはある。主夫にもなれると思うが、現状の雇用環境が厳しいので、解雇されないような人材になるよう頑張って、先を考えながら何とかやっていこうと思う。

プレッシャーがあり逃げだしたい気持ちもあるが。

私は正直言って妻に養ってもらうのは無理。妻のお金を遣わせてもらっているというのが惨め。日常の家事もできないし。

女性が下の方がいいというこだわりはあまりない。実際そうやって、妻の言葉の端々から「稼いでいるから」というのができたら嫌だけど。

### 既婚 30 代後半男性

景気も悪く先行きが見えなくて結婚に踏み切れなかった時、妻から「私も働くから、一家の主になって自分が何でもしないといけないと思わなくてよい」と言われ結婚した。周りからは結婚はタイミング、結婚したらなんとかなると言われていたが、実際に結婚してみたら何とかなると思う。

男性女性問わず、養われるのは嫌だ。妻と二人の時だと、一人に一人をプラスしただけ。しかし、子どもができると、子育てに必要な費用ができて、養うという意識が出てくると思う。

二人だけだと節約ができるし、結婚してしまうと日常の中で何とかなるという感覚が出てくるので、私の場合、結婚前の方が、養うということをよく考えていた。

状況によっていろいろだと思うが、見栄もあるので養われるより養う方がいいかな。

男性は下になるのは嫌と思うのではないか、私もそうだと思う。

それぞれが自分らしい人生を送るために、男女平等の社会が実現するために、行政や、企業に望むこと、また男性や女性に望むこと(自分や周囲の実態を交えながら)

- ・職場における男女の平等をある程度実感しながらも、女性に対しては、均等待遇や正当な評価を行い、また、男性に対しては育休を取れる、休みが取りやすくするなど、実質的な取り組みが必要だと感じている。
- ・一方で、力仕事为代表的な例として挙げられるように、「男性に向く仕事、女性に向く仕事」があるとも考えていて、男女の区別は必要であり、それを基点として男女平等をとらえている。
- ・また、自分達(若年層)の意識は変わってきているので、自分たちより上の世代の経営者、管理職、親などの意識の変化を望んでいる。
- ・そして「男は仕事、女は家庭」を肯定的に捉えている女性の意識が変わる必要があることを指摘する声も。
- ・行政には情報をもっと入手しやすいように、また男女平等を実践できるようなロールモデルなど、個人や社会としての前向きな方向性を示すものを自分達に届けてほしい。

#### 未婚 20代後半男性

男だから女だからなんてあまりないのでは。女性の方が良く酒も飲むし、タバコも男性はやめる人が多く、女性は吸う人が多い。女性の方がどの年代も元気。男性は元気がない。

今は悪い情報が多く、踏み出しにくくなっているが、前向きな情報があれば自分もやってみようかというようになる。

今の世の中は弱い人間が多いと感じる。一人でいる時間が多いし、一人でいろいろな情報を手に入れてしまうのがよくない。昔はみんなでワイワイと話していたと思うが、今は人が集まって何かすることがなくなっている。

職場では女性も活躍しているので、女性だからと言って向こうは遠慮しないし、こちらも遠慮していない。管理的な職場では女性の管理職がいるが、現場は少ない。理由は制度の問題ではなく、拘束時間が長いことが原因ではないか。確かに、ネガティブな情報だけが流れてくるように思う。地方は価値観が都会と違いゆっくりしている、生き急いでいない、大阪にいと(岡山出身)自分自身も影響を受け不安になることもある。いろんな意味でメディアが過剰反応しすぎている。

女性の多い職場なので、女性が働くことが普通であり意識しない。直属の上司は女性。女性の方がしゃべるのは得意なので、外で話をする場合など強いと思う。

男性が集まる場所・機会が少ないのかもしれない。男性は飲みに行く以外に出かける場所が少なくなった。

#### 未婚 30代前半男性

男女とも自分らしく生きるには、女性の管理職を増やしたり、均等待遇にするなど、会社はしなければいけないかな。私の職場はきつい業界だが、マネージャーに女性が多いし、結婚後に入社したり、育休もとりやすく、職場復帰も可能。

それと、男性も休みを取りやすい社会にしてほしい。女性は家庭のことで取りやすいが、男性は取りにくい。また、認可基準を下げた保育所の数を増やすと待機児童が減って、女性も働きに出やすいのでは。

同じ意見で、女性の管理職を増やしたり、均等待遇にするなど、会社はすべき。

実際に今、女性上司だが全然問題がない。

強制的に制度を変えないといけない。罰則を設けるぐらいに。行政が強制的に企業を調査(監査)できるような制度があってもいいのでは。

### 未婚 30 代後半男性

周りを見ると自分の都合ばかり考える人が多い。自分自身も仕事中心で家庭のことを考えられない。行政がもっと自分たちの話を聞いてもらえる機会を作ってくれればと思う。

家に母親がいることは、子育ての面では良いと思うが、女性も社会進出したい時代だから、女性は家に居るべきではなく、ベビーシッターなどを利用する暮らし方などを国はもっと提案したらいい。30代はいつも他の世代の板挟みになって不利になっている。

男女が共に活用できる、こんな施設(クレオ大阪)があるという情報も届いていない。

大人が悪いから、それを見ている子どもも悪くなっていると思う。大人がもっとまともであればと思う。

男女共同参画ではなく、今は男女独立まで行っているが、共同の仕方がわかっていない。

また、そのモデルがない。ベビーシッターなどを上手に利用して…というように「こんな便利なモデルがあります」とうことを社会に届けてくれたらと思う。

そして、よりわかりやすい情報を提示してもらえる社会にしてほしい。

### 既婚 20 代後半男性

あまり具体的には思いつかないですけど、職場に女性の営業の方もいますし、そんなに男女差というのは感じない。現状ではそこまで差はないので、職場が変わると大分変わってくると思う。

私の職種(営業)は男性だけ採用している。なぜかというと女性は感情的という先入観と、伝統的にスパルタ式の教育のためで、そして、男性は出産がないから。

部長や役員に女性もでてきているが、育休・産休を男女両方が取るようにすれば、職種の差がなくなる。実際は仕事が回らなくなるかもしれないが。

無理だと思うが、流れとしては男性が育休を取れる、取らなければいけない等の制度を作るのが早いように思う。「育休 = 女性」だとすると女性の仕事にブランクができる。男性へのフォローをしないと進まないのでは。ただ、僕自身、会社がOKだとしても仕事関係を考えると休むことができないので、難しいのは事実。

### 既婚 30 代前半男性

男だから、女だからという言葉を出さないように、そういう意識を避けたい。男だから女だから関係ない。ただ、会社のトイレ掃除を男女ともに分担しようとしたとき、男性が女性トイレを掃除することは嫌だという女性がいた。だから、男女の区別は必要だが、役割分業してはいけないと思う。

どちらが正解・不正解ではない。その環境に適應してということだと思う。

男女平等を意識しながら、違いはあるということを理解していきたい。

男性向き、女性向きの仕事があるのではないかな。

### 既婚 30 代後半男性

理屈の上ではジェンダーという考え方もつことはよいことだと思うが、男性だけでなく女性の意識も問題。女性は家事手伝いでOKだが、男性が家事手伝いだとみんな引くでしょ。そこです。男だけではないんですよ、そう思っているのは。そして女性も「男は稼いで女は家庭に」という考え方があるので、男女両方ともにその意識がなければよいが、どちらかにその意識があると難しい。お金があると、家事をアウトソーシングして、どちらがするかというケンカはないので、やはりお金が大きい。働く場での男女差については国レベルではなく、企業レベルの話なので、各企業にジェンダー意識が浸透していけばよいのでは。ただし、区別と差別は違う。仕事にも男性、女性によって向き不向きがある。力仕事は男性で、心遣いが必要なサービス業は女性に向いているというのはあると思う。

男性は「専業主夫」だと「ヒモ」と呼ばれるが、専業主婦はそう呼ばれない。それも男女差別ではないかと思いますが。男性の能力、女性の能力をそれぞれ伸ばしていくのがよいのではないかな。結婚はお互いの欠点を補うことなので、それぞれの不得手な部分を補うような社会になれば、女性でも、女性に向く仕事をして男性並みに収入があればいいが、そうなっていないのをどうしていくかです。

### 未婚 20 代後半女性

私も職場で、男性だから女性だからという遠慮はしない。男性と一緒に海外に出張に行く女性はたくさんいる。一般的に今は個人主義が増えていて、みんなで協力して何かをすることが大事ではないか。いろいろな意見を取り入れることができ、何か変わるのではないかと思う。

私の部署は男性ばかりで、以前は男性が前面に出ていたが、今は上司(40代)から女性も遠慮せずに前に出てほしいと言われているが、父親世代(60代)は、まだ女性は控えめにという感じです。今回のようにいろんな人が集まって、男女平等のことなどの話をする機会は有意義かと思う。

### 未婚 30 代前半女性

今の上司が女性で、前の部長も女性だった。同僚が男性からセクハラにあったが、女性上司が対応してくれて、それは良かった。

周りが変わってくれないと、習慣があると難しい。同世代の人の意識は変化しているが、年配の人たちの意識が変わらないといけない。

私が働いていた建築の仕事は男性社会で、今の介護の仕事は女性の方が向いている部分もあるので、どんな仕事でも、なんでも平等というわけでない。表面的に平等になっていても、現実的には無理だと思う。また、男女半々にしてもすべてうまくいくわけではない。

女性でも仕事ができるので、能力がある人がきちんと処遇されるべき。男、女というより人としてどうかが大事で、いろんな人が存在できるように、均等法等があればいいと思う。女性が独立して生きていくには、縦社会でトップダウンではなく、個人の能力を認めて男女関わりなく、役職を与えてあげるとやる気が出る。

### 未婚 30 代後半女性

介護のことが重大で、核家族化の現状では、夫婦で 4 人を介護しなければいけないという現実がある。女性ばかりの負担になっているので、介護制度が利用しやすいように、もっと意識の広がりができてほしいと思う。

子育て支援より、景気回復が先。男性の低収入、養えないから結婚できない、それが少子化につながっている。一人暮らしだが、行政はどんなことをしているかわからない。もっと行政を利用したいのに、情報量が少ない。自分で探しても、ほしい情報に行きつかない。

日本人は固定概念が強い。みんながしていたらこうしないといけないと考えている。ベビーシッターが普及するためには、行政やマスコミが見本になってしてくれたらできるのでは。会社でも上の人がすれば、みんなする。上が変われば、日本も少しは変わるかな。「右にならえ」はやめていけばよい。

### 既婚 20 代後半女性

男女平等・・・、たぶん無理だと思っている。

子どもが小さい時は、早く帰れるようにできればいいですね。女性教員が自分の子どもが病気の時に早退すると保護者から「辞めたらいいのに」といわれたり、男性教員が子どもを迎えに行くと「奥さんが来ないのはなぜ?」といわれる。このような世間の目を変える必要があるのでは。

### 既婚 30 代前半女性

大学でジェンダーについて勉強はしたが、仕事で男女すべて平等でなければいけないとは思っていない。男性向き、女性向きの仕事はあると思う。女性の気配りという良い面を引き出していければよいのでは。あと、若い男女に差別意識がなくても、働いている場で問題が出てくるのは雇用主である上の世代の意識が問題。他には保育所の問題とか。私見だが、男の子ばかりの母親は、お嫁さんにきっちりしてほしいという人が多い気がする。

全部平等は無理で、女性に向く、男性に向く仕事がある。男女という前に人間として向き不向きがあり、女性がトラック運転手でもいい。それと、親の意識も問題が大きいかな。母親から家で子育てをしたらといわれると、子どもを預けて働きに出られない。

#### 4. マッピングによる区域別の若年者男性の意識の特徴を探る

大阪市の人口は 260 万人と、東京都、横浜市に次いで第 3 番目の都市にあたります。そして、以下の表の区別の人口一覧のとおり、各区においても 5 万 9,076 人(浪速区)～20 万 452 人(平野区)の人口となっており、市町村でいうと浪速区は高石市(5 万 9,933 人)と、平野区は岸和田市(19 万 9,569 人)の人口と同じで、ひとつの区がひとつの市レベルの規模をもっています。(「大阪府市区町村別世帯数および人口(平成 21 年 7 月 1 日現在)」(大阪府HPより))

そのため、大阪市全体としての男女共同参画の推進と合わせて、区域単位での特徴を明確にし、解決のための取り組みも必要だと考えられます。

また、国では第 3 次男女共同参画基本計画において「地域における男女共同参画」が掲げられ、また、大阪市でも男女共同参画基本計画の平成 23 年度からはじまる後半期の重点的取り組み「魅力あるまちづくり」として、地域での男女共同参画の取り組んでいくことになっています。

今後、地域における男女共同参画を進めるにあたり、今回の調査データのから、「属性」「ワーク・ライフ・バランスの両立希望」「満足度」「大阪市男女共同参画基本計画でより力を入れる必要がある課題」についてマッピングした結果、20 代 30 代働く男性の地域別の特徴は次のとおりの結果となりました。

表 区別の人口一覧

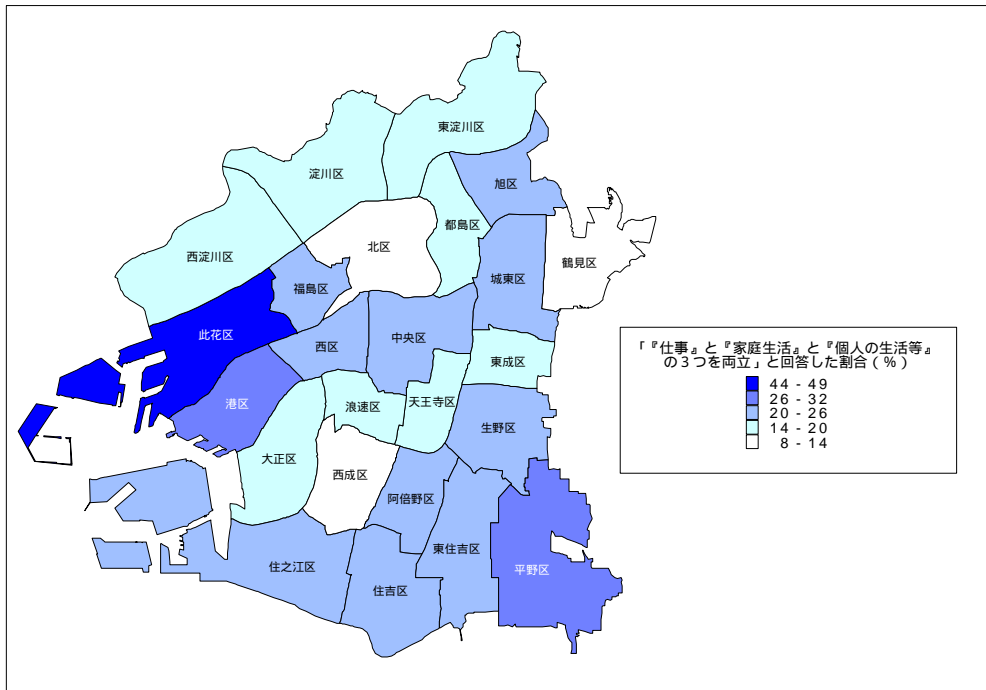
大阪市	平成 21 年 10 月 1 日現在推計人口		
	総数	25 歳～39 歳 男性	25 歳～39 歳 女性
	2,661,700	295,195	298,784

区	総数	25 歳～39 歳 男性	25 歳～39 歳 女性	区	総数	25 歳～39 歳 男性	25 歳～39 歳 女性
北区	106,770	14,034	14,456	東淀川区	177,605	24,190	22,129
都島区	102,491	12,196	12,262	東成区	79,005	8,740	8,821
福島区	64,756	8,469	9,057	生野区	134,352	12,412	12,132
此花区	65,168	6,629	6,577	旭区	93,299	9,808	9,490
中央区	76,113	10,825	11,963	城東区	165,383	18,403	19,387
西区	79,817	9,555	10,641	鶴見区	111,046	12,979	13,618
港区	83,871	9,398	9,368	阿倍野区	107,495	9,878	11,396
大正区	70,883	6,924	6,801	住之江区	127,665	12,613	12,944
天王寺区	68,421	7,482	8,938	住吉区	156,575	15,777	16,700
浪速区	59,076	8,384	7,293	東住吉区	133,260	12,680	13,305
西淀川区	96,436	10,703	10,333	平野区	200,452	19,626	20,626
淀川区	172,142	22,970	21,665	西成区	129,619	10,520	8,882

「大阪市の推計人口(平成 21 年 10 月 1 日現在)(大阪市、平成 21 年)」より

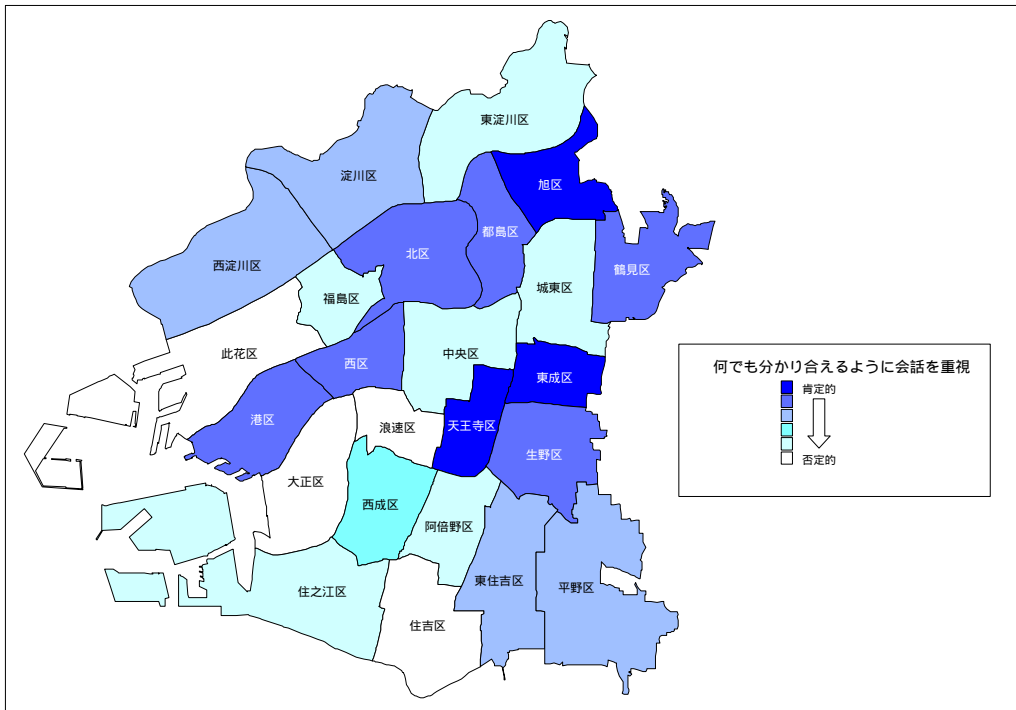
## マッピング

### 日常生活における希望



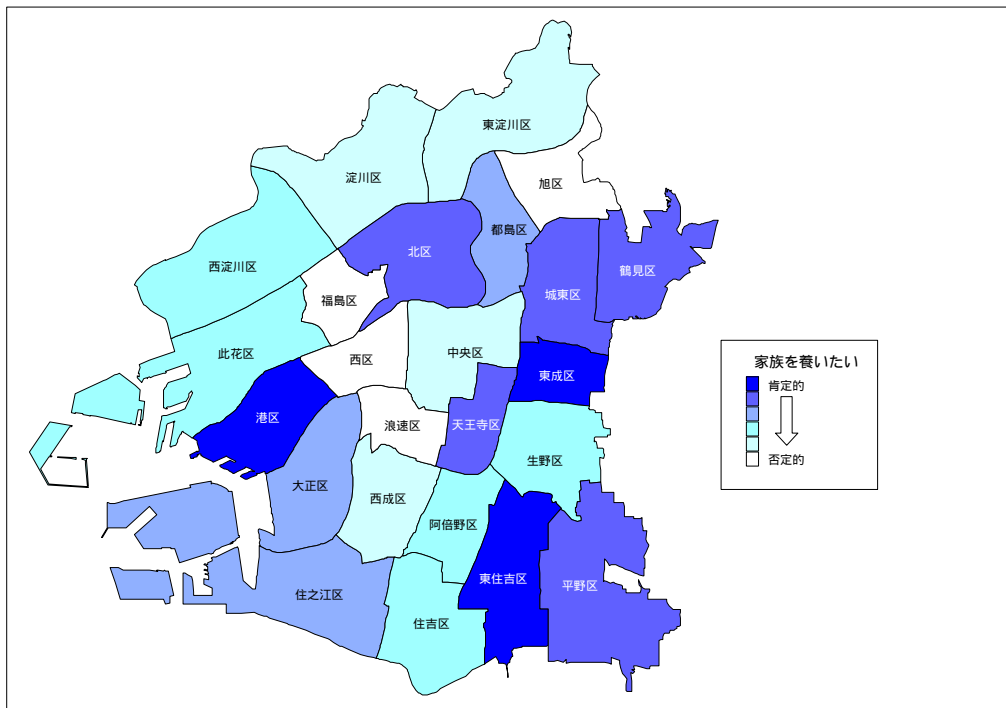
日常生活の希望を24区別にみると、「仕事」と「家庭生活」と「個人の生活等」の3つを両立と回答した人の割合は、此花区、平野区、港区で高くなっている。逆に北区、鶴見区、西成区では低くなっている。

### 理想の結婚生活（何でも分かり合えるように会話を重視）



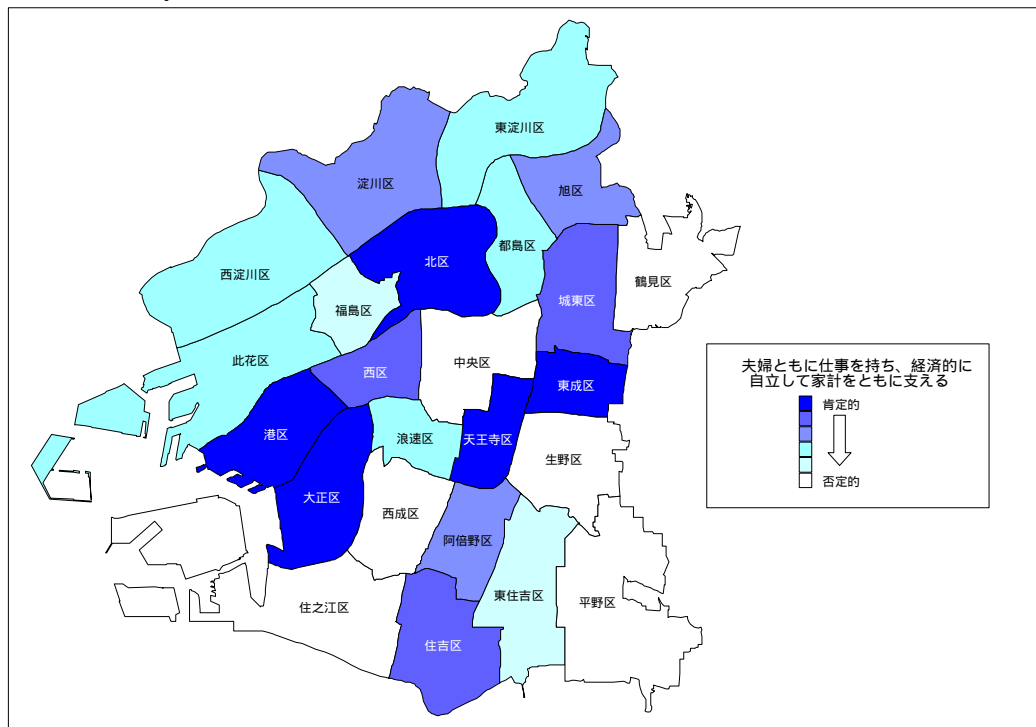
理想の結婚生活を24区別にみると、「何でも分かり合えるように会話を重視」に肯定的な意見が多かったのは、東成区、天王寺区、旭区等となっている。肯定的な意見が少なかったのは、浪速区、此花区、大正区等となっている。

### 理想の結婚生活（家族を養いたい）



理想の結婚生活を 24 区別にみると、「家族を養いたい」に肯定的な意見が多かったのは、港区、東住吉区、東成区等となっている。肯定的な意見が少なかったのは、浪速区、旭区、西区等となっている。

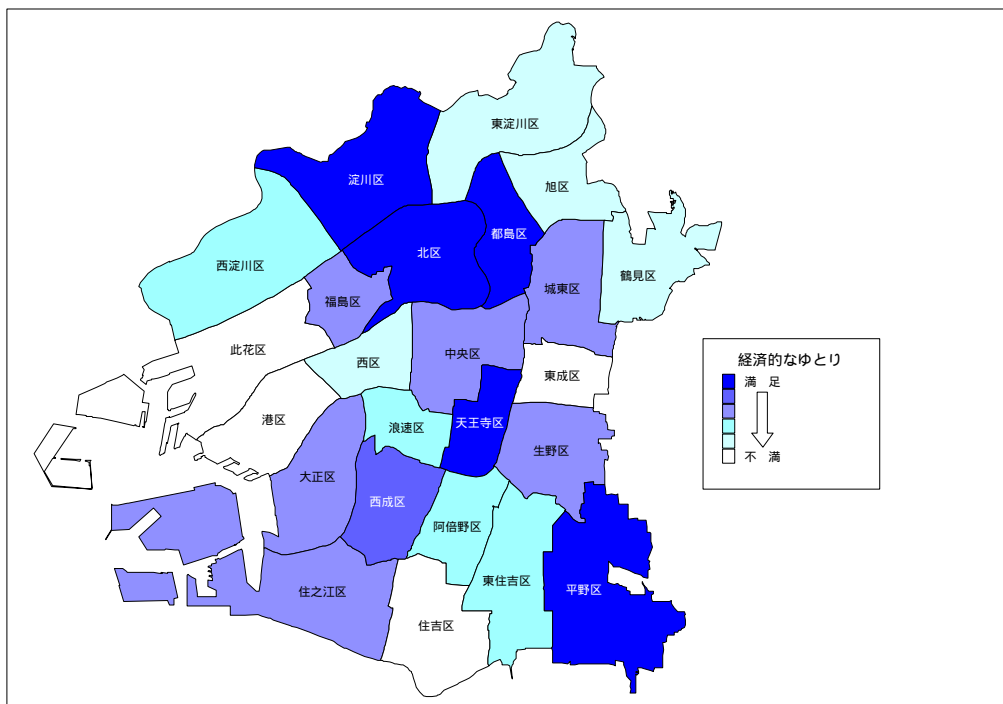
### 理想の結婚生活（夫婦ともに仕事を持ち、経済的に自立して家計をともに支える）



理想の結婚生活を 24 区別にみると、「夫婦ともに仕事を持ち、経済的に自立して家計をともに支える」に肯定的な意見が多かったのは、大正区、港区等となっている。肯定的な意見が少なかったのは、生野区、西成区、平野区等となっている。

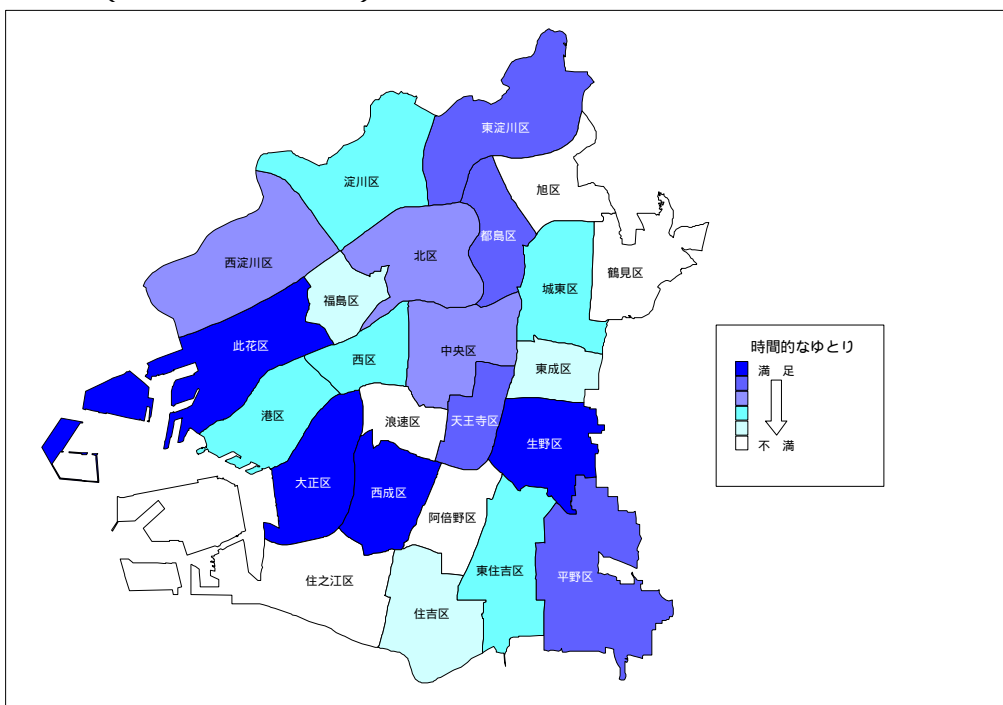


### 生活の満足度（経済的なゆとり）



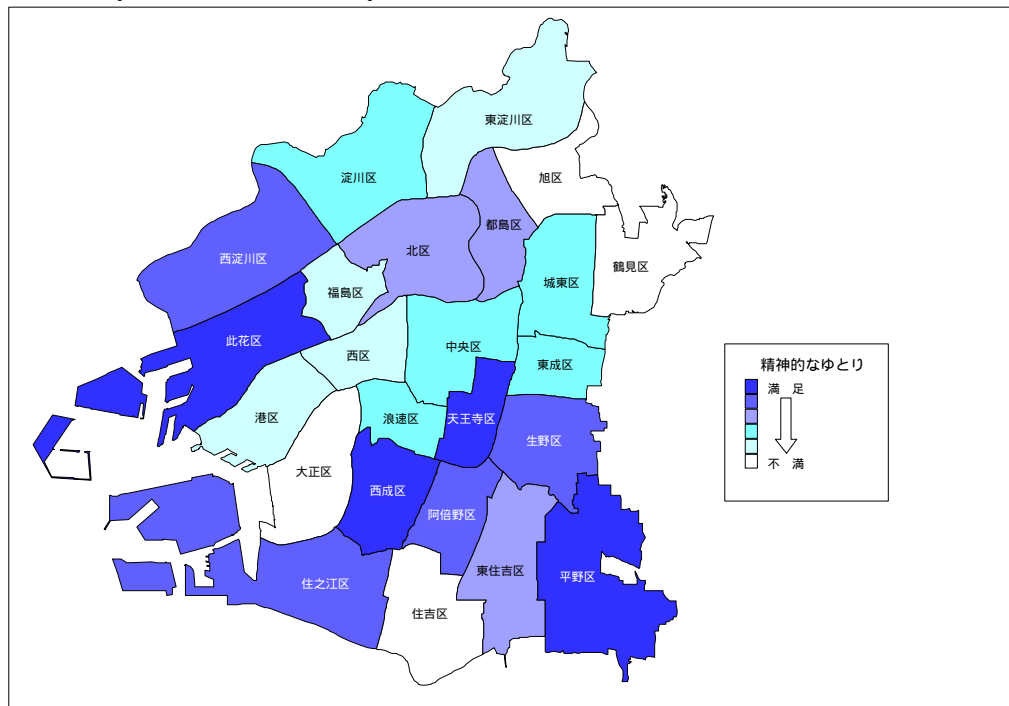
生活の満足度を24区別に見ると、「経済的なゆとり」に満足という意見が多かったのは、都島区、天王寺区、平野区、北区等となっている。満足という意見が少なかったのは、港区、東成区、住吉区等となっている。

### 生活の満足度（時間的なゆとり）



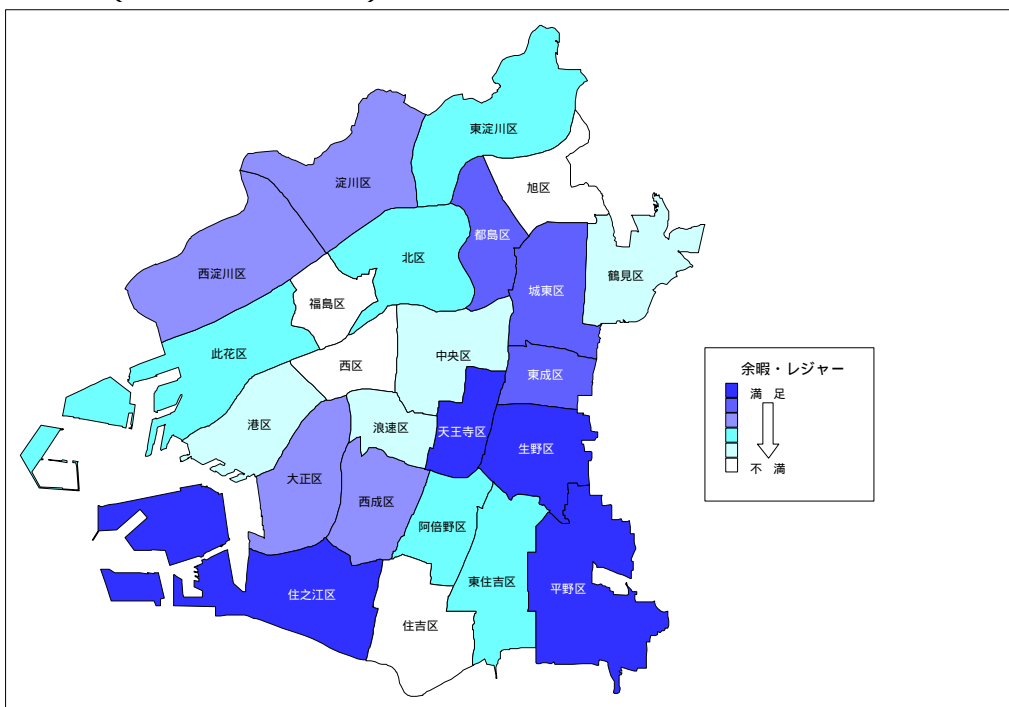
生活の満足度を24区別に見ると、「時間的なゆとり」に満足という意見が多かったのは、西成区、大正区、生野区等となっている。満足という意見が少なかったのは、旭区、浪速区等となっている。

### 生活の満足度（精神的なゆとり）



生活の満足度を24区別に見ると、「精神的なゆとり」に満足という意見が多かったのは、此花区、西成区、平野区等となっている。満足という意見が少なかったのは、旭区、住吉区、大正区等となっている。

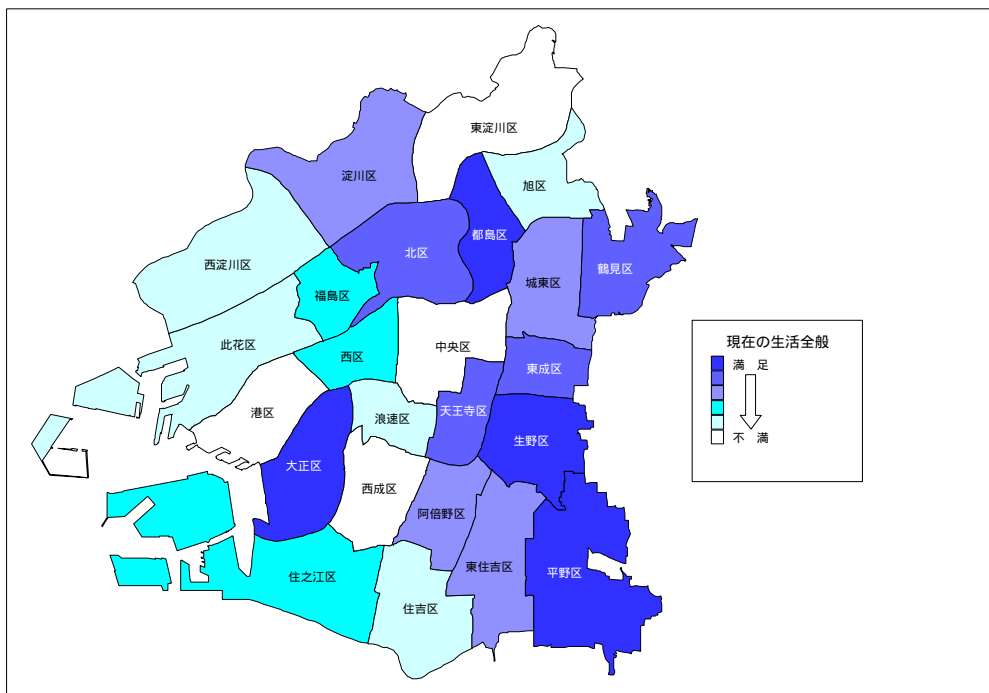
### 生活の満足度（余暇・レジャー）



生活の満足度を24区別に見ると、「余暇・レジャー」に満足という意見が多かったのは、平野区、生野区、住之江区等となっている。満足という意見が少なかったのは、旭区、住吉区等となっている。

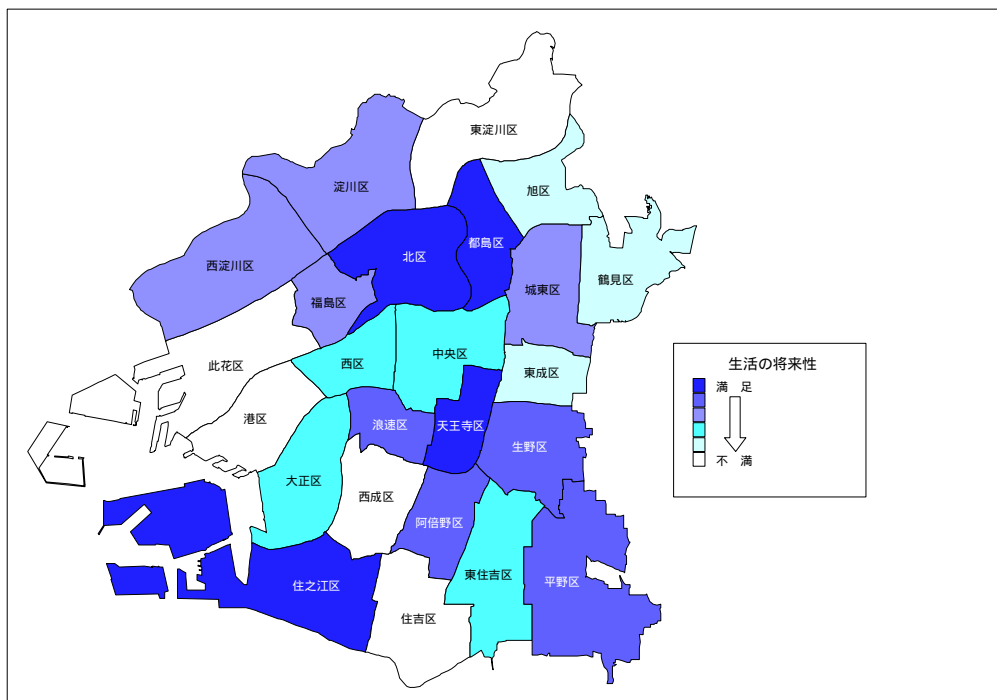


### 生活の満足度（現在の生活全般）



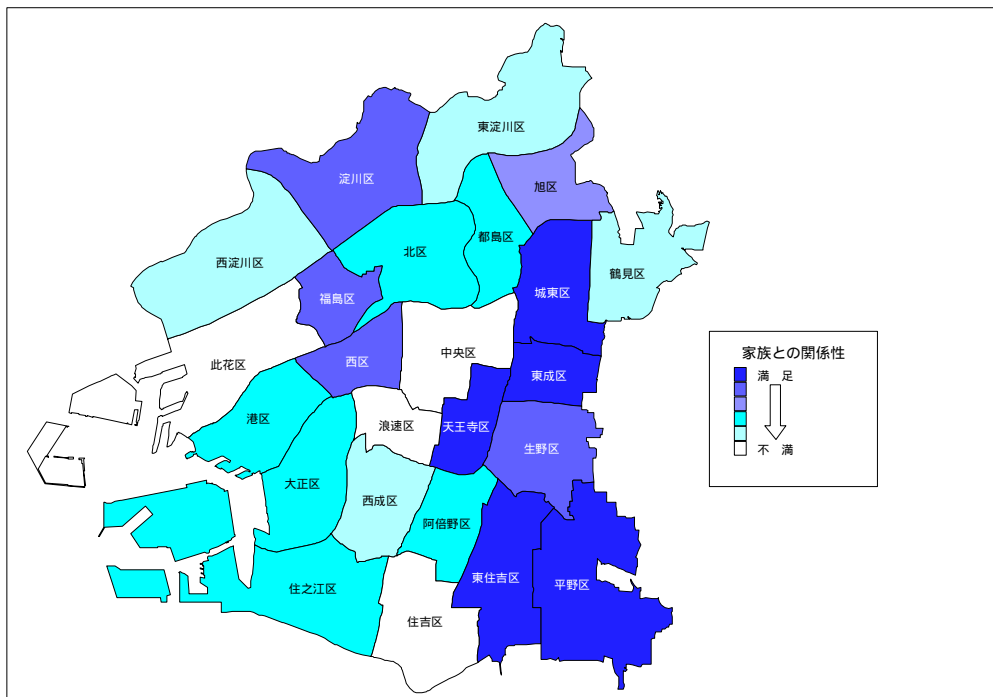
生活の満足度を24区別に見ると、「現在の生活全般」に満足という意見が多かったのは、平野区、都島区、大正区等となっている。満足という意見が少なかったのは、東淀川区、港区、中央区等となっている。

### 生活の満足度（生活の将来性）



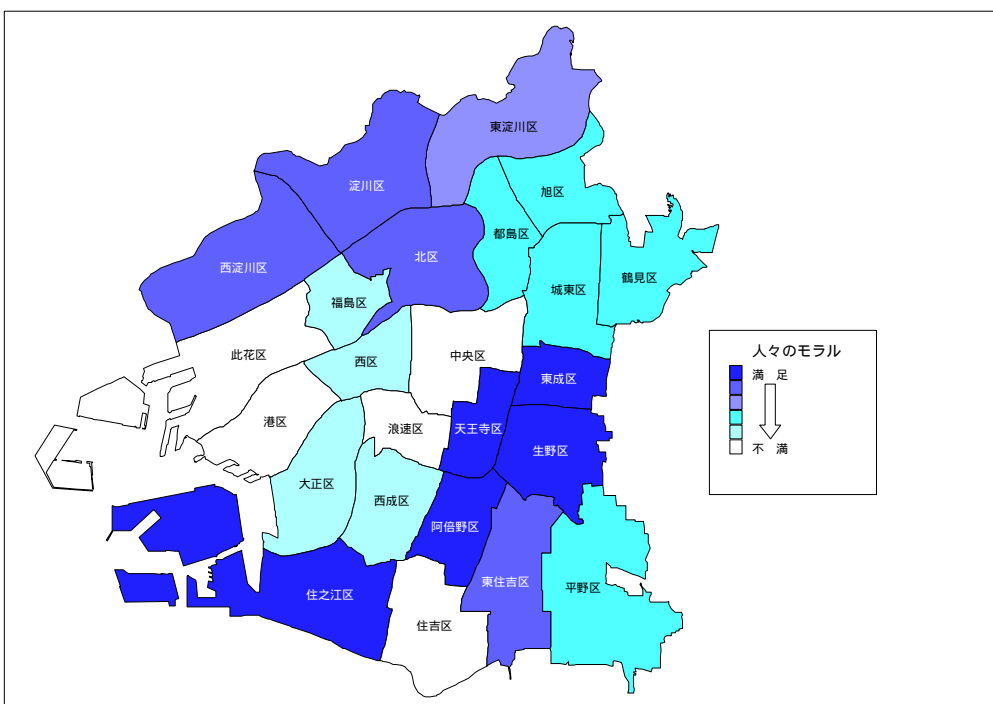
生活の満足度を24区別に見ると、「生活の将来性」に満足という意見が多かったのは、天王寺区、住之江区等となっている。満足という意見が少なかったのは、港区、東淀川区等となっている。

### 生活の満足度（家族との関係性）



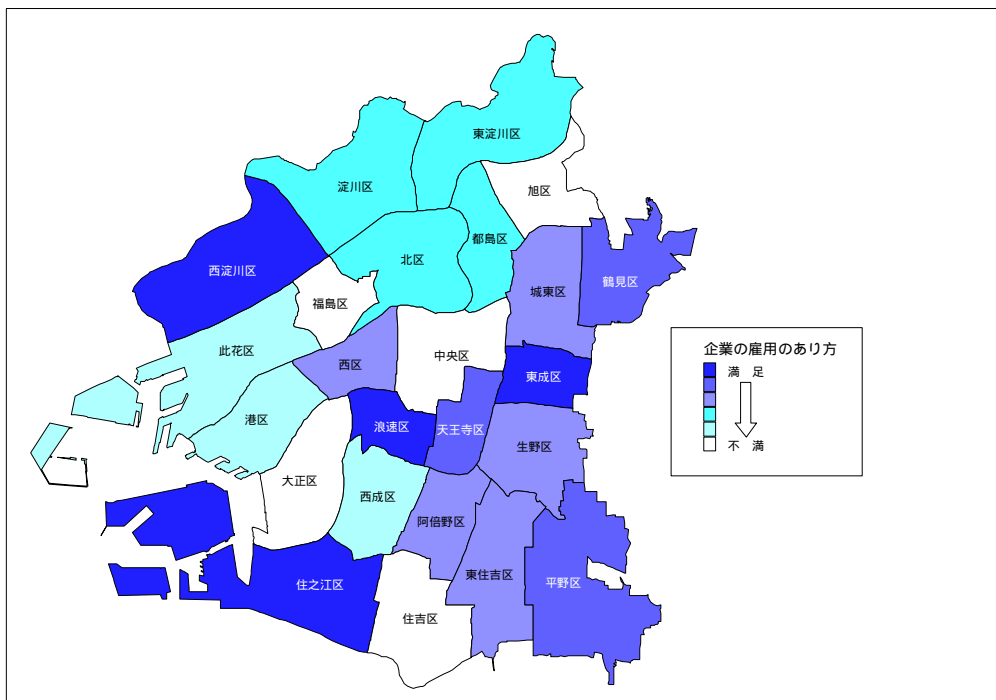
生活の満足度を24区別に見ると、「家族との関係性」に満足という意見が多かったのは、東成区、城東区、東住吉区等となっている。満足という意見が少なかったのは、此花区、浪速区、中央区等となっている。

### 生活の満足度（人々のモラル）



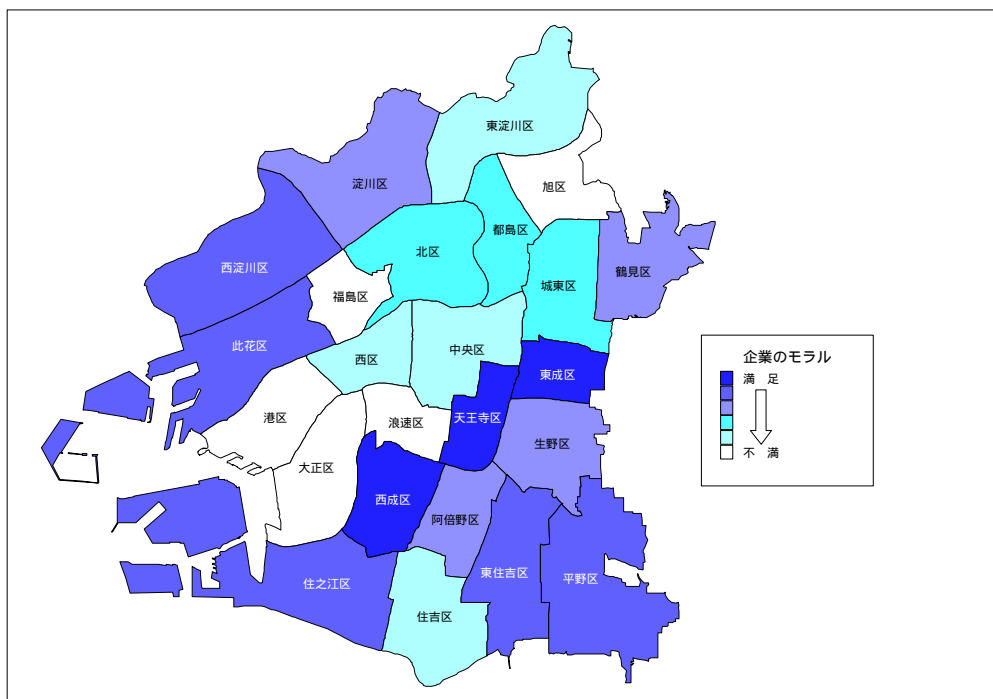
生活の満足度を24区別に見ると、「人々のモラル」に満足という意見が多かったのは、東成区、阿倍野区、住之江区等となっている。満足という意見が少なかったのは、港区、浪速区、此花区等となっている。

### 生活の満足度（企業の雇用のあり方）



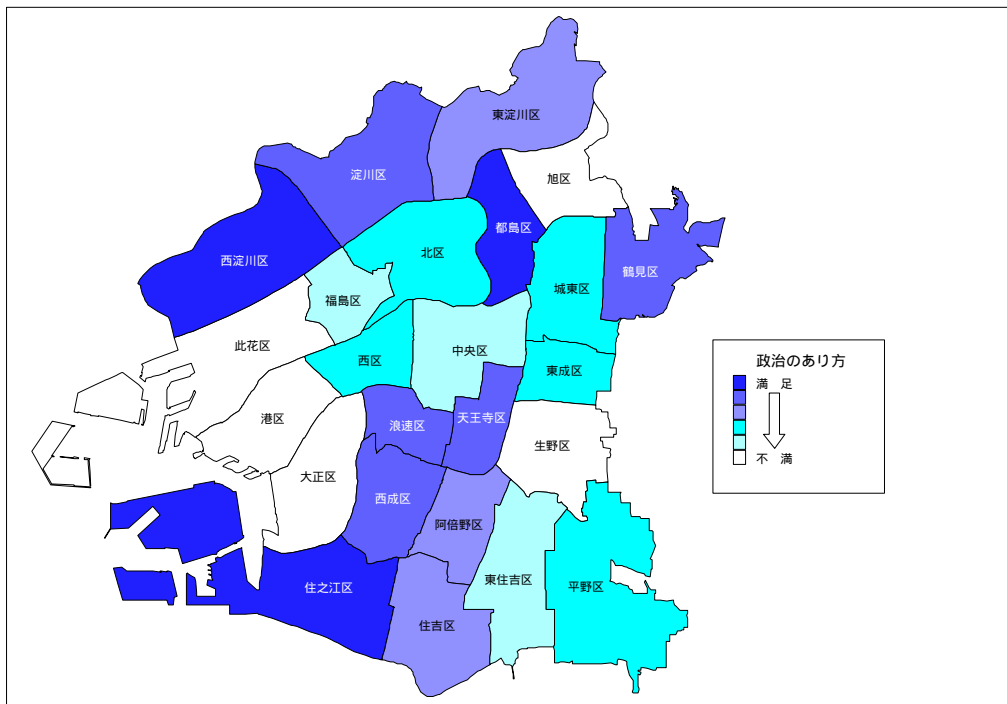
生活の満足度を24区別に見ると、「企業の雇用のあり方」に満足という意見が多かったのは、東成区、住之江区等となっている。満足という意見が少なかったのは、大正区、旭区、住吉区等となっている。

### 生活の満足度（企業のモラル）



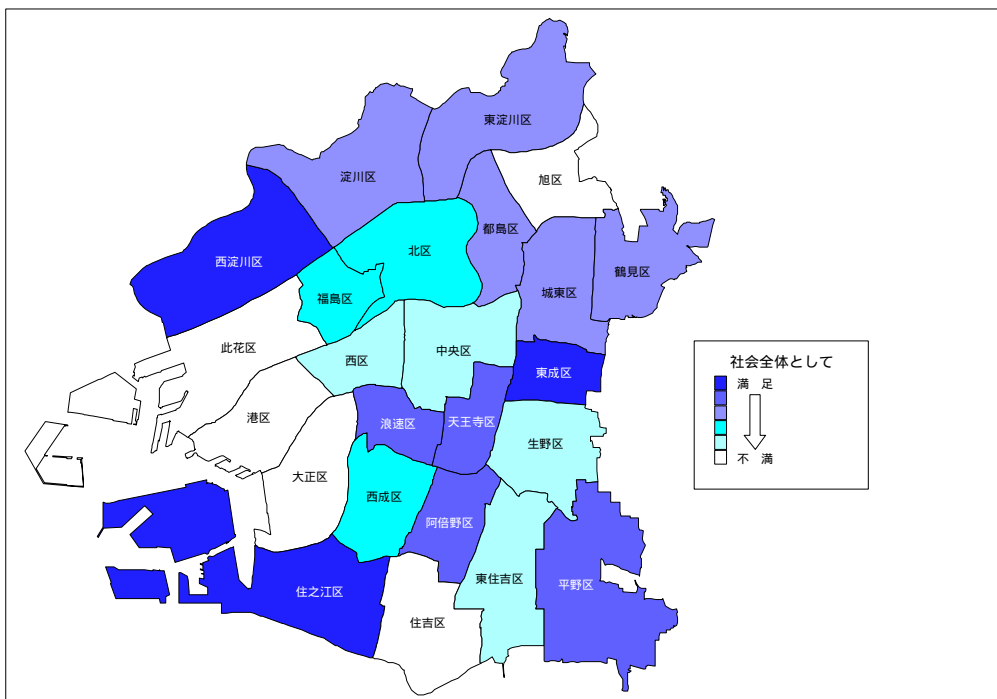
生活の満足度を24区別に見ると、「企業のモラル」に満足という意見が多かったのは、東成区、天王寺区等となっている。満足という意見が少なかったのは、大正区、旭区、福島区等となっている。

### 生活の満足度（政治のあり方）



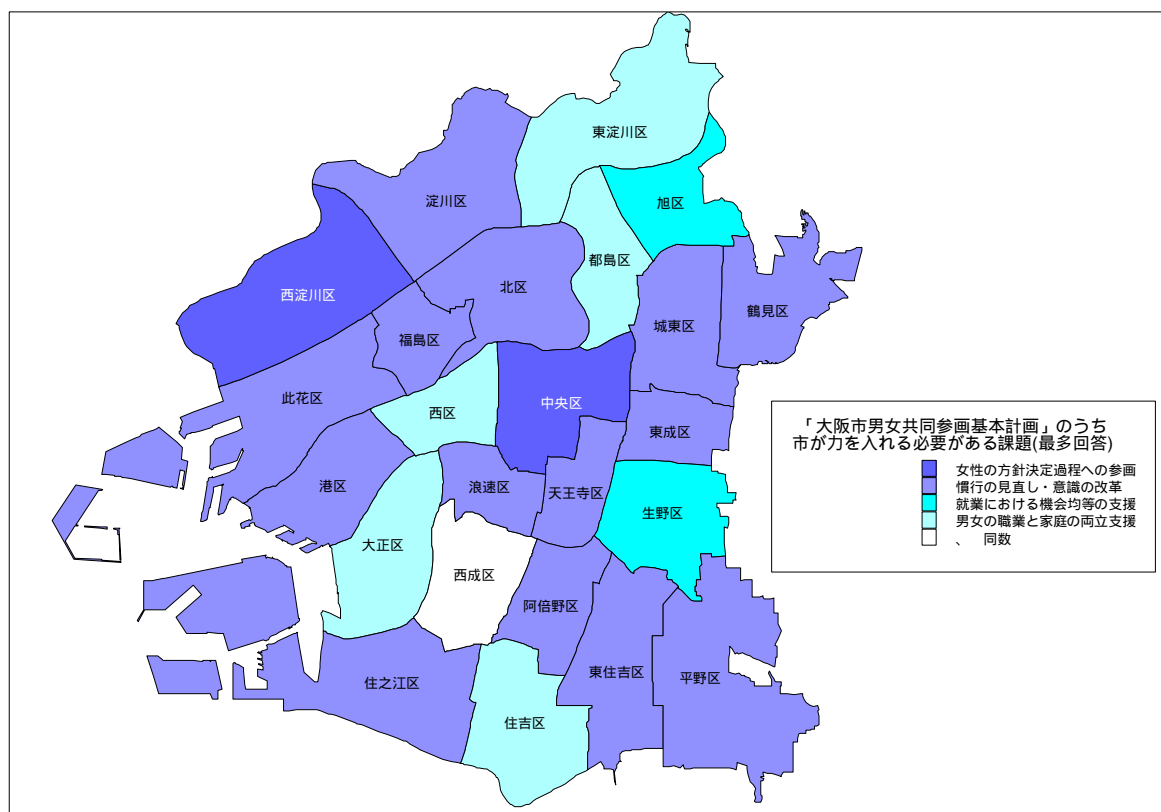
生活の満足度を24区別に見ると、「政治のあり方」に満足という意見が多かったのは、住之江区、西淀川区等となっている。満足という意見が少なかったのは、港区、大正区、此花区等となっている。

### 生活の満足度（社会全体として）



生活の満足度を24区別に見ると、「社会全体として」満足という意見が多かったのは、住之江区、西淀川区等となっている。満足という意見が少なかったのは、大正区、港区、此花区等となっている。

## 市が力を入れる必要があると思う課題



市が力を入れる必要があると思う課題を24区別にみると、多くの区で「慣行の見直し・意識の改革」が最も多い回答となっている。西淀川区、中央区では「女性の方針決定過程への参画」が最も多く、旭区、生野区では「就業における機会均等の支援」が最も多い回答となっている。

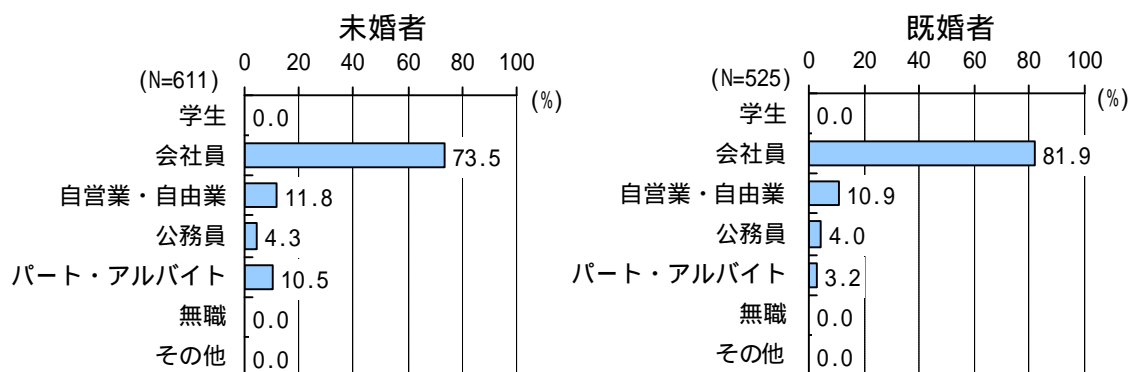


## 5. Web アンケート調査クロス集計

Web アンケート調査のクロス集計をグラフ化し、項目ごとに「概要」、「未婚・既婚別」、「未婚年代別・既婚年代別」にとりまとめた。

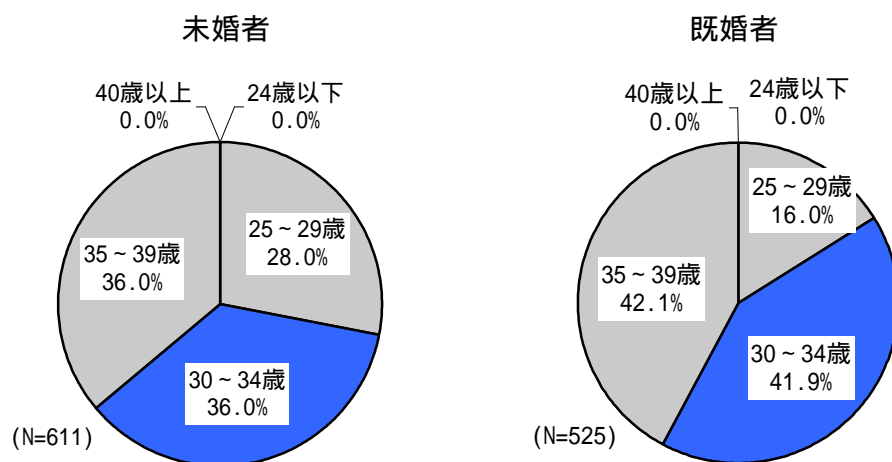
### 属性

・あなたの職業についてお答えください。



未婚者、既婚者ともに「会社員」の割合が最も高く、未婚者 73.5%、既婚者 81.9%、次いで「自営業・自由業」が未婚者 11.8%、既婚者 10.9%となっている。

・あなたの年齢をお答えください。



未婚者は「30~34歳」、「35~39歳」でともに 36.0%、既婚者は「35~39歳」が 42.1%、「30~34歳」が 41.9%となっている。

#### 本資料の見方

アンケート調査結果における各設問の母数n (Number of case の略) は、設問に対する有効回答者数を意味する。

各選択肢の構成比 (%) は小数点第2位以下を四捨五入している。このため、択一式の回答については構成比の合計が 100%にならない場合がある。

複数回答が可能な設問の場合、選択肢の構成比の合計が 100%を超える場合がある。

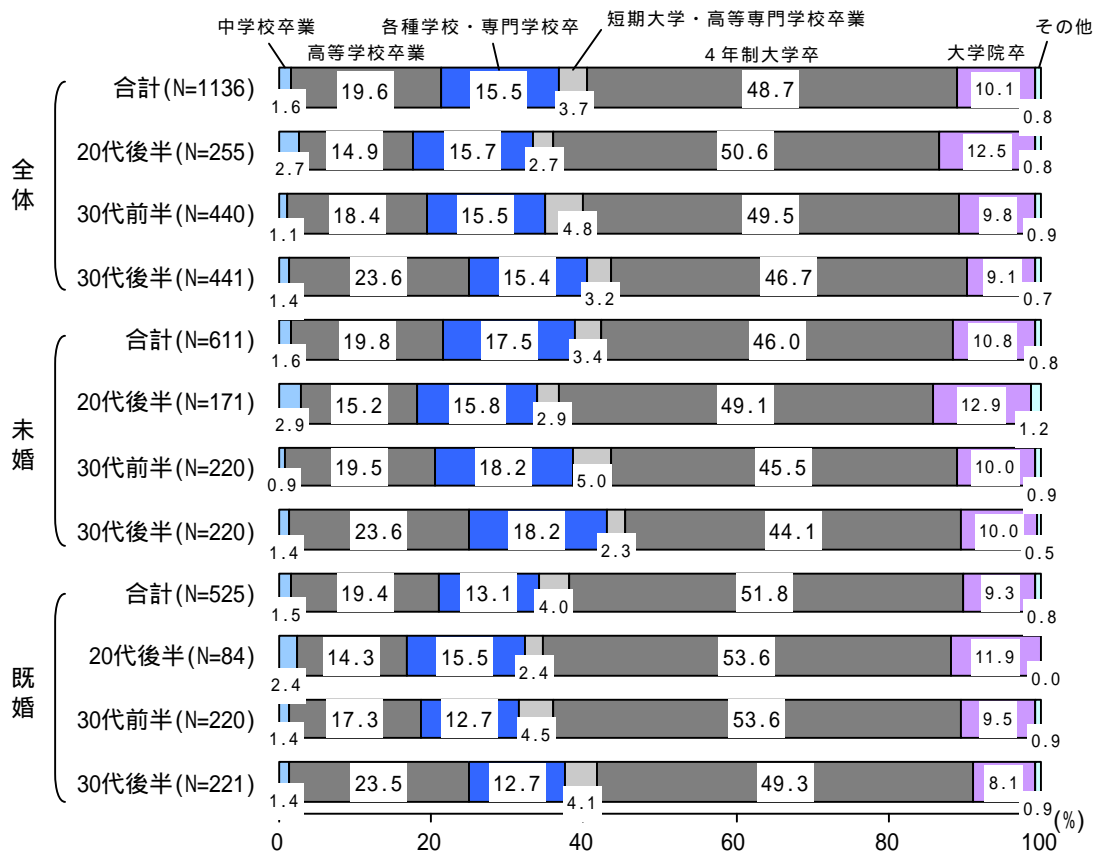
・MA% (Multiple Answer) = 回答選択肢の中からあてはまるものをすべて選択する場合。

・3LA% (3Limited Answer) = 回答選択肢の中からあてはまるものを3つまで選択する場合。

グラフ中の数字は、特に断り書きのない限りすべて構成比を意味し、単位は%である。

百分比 (%) の比較における差は、原則として「...ポイント」という表現とした。

・あなたの最終学歴は。(ひとつだけ)



【概要】

全体では「4年制大学卒」が48.7%、次いで「高等学校卒業」が19.6%となっている。また、未婚者合計、既婚者合計ともに「4年制大学卒」が多くなっている。

【未婚】

合計、全年代ともに「4年制大学卒」が多く、合計46.0%、20代後半49.1%、30代前半45.5%、30代後半44.1%となっている。

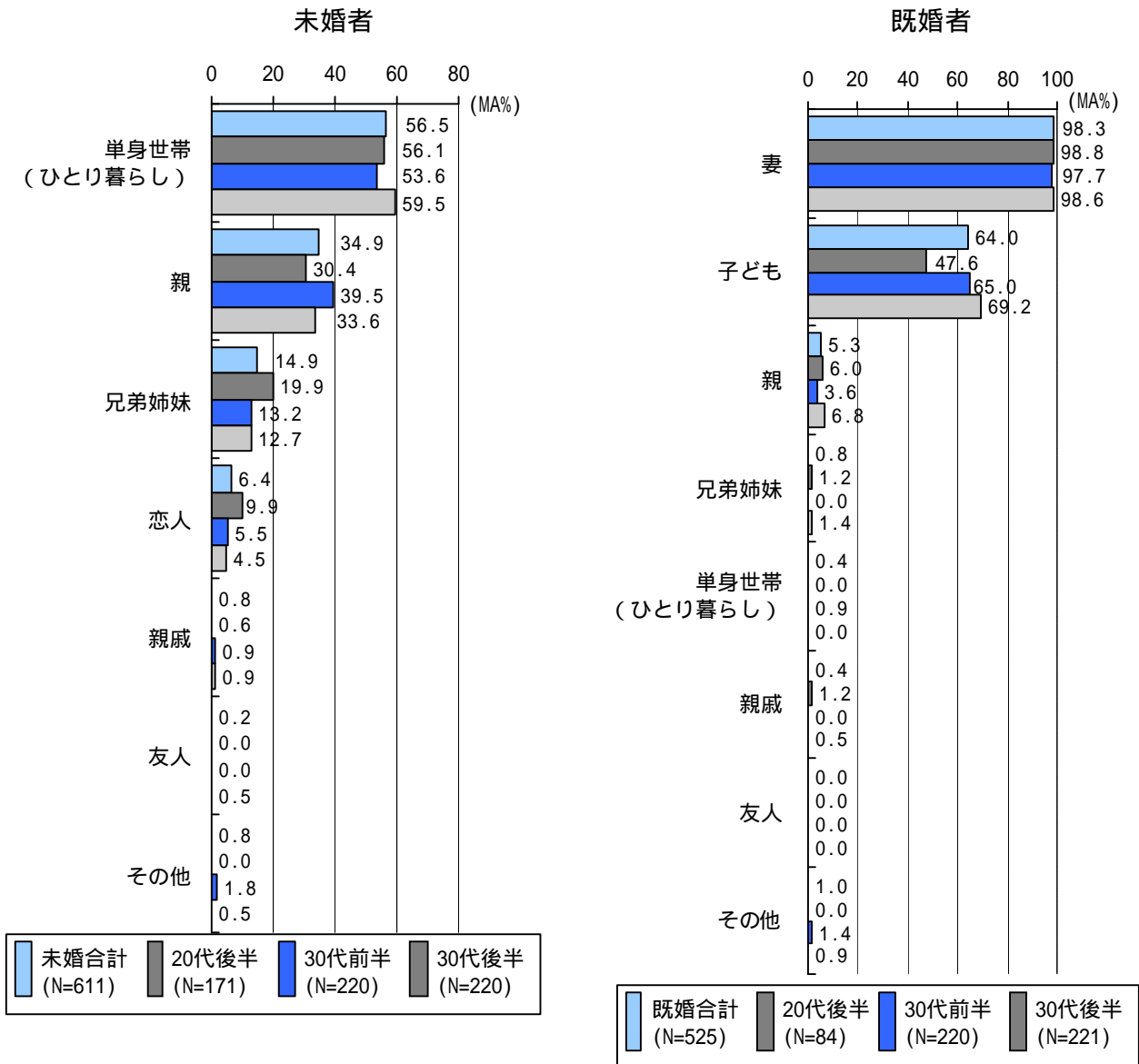
【既婚】

合計、全年代ともに「4年制大学卒」多く、合計51.8%、20代後半53.6%、30代前半53.6%、30代後半49.3%となっている。

【未婚の年代別・既婚の年代別】

未婚全年代・既婚全年代とも「4年制大学卒」が多くなっている。

・あなたが現在一緒に住んでいる人は。(あてはまるものすべて)



**【未婚者】**

合計、全年代ともに「単身世帯(ひとり暮らし)」が多く、合計56.5%、20代後半56.1%、30代前半53.6%、30代後半59.5%となっている。

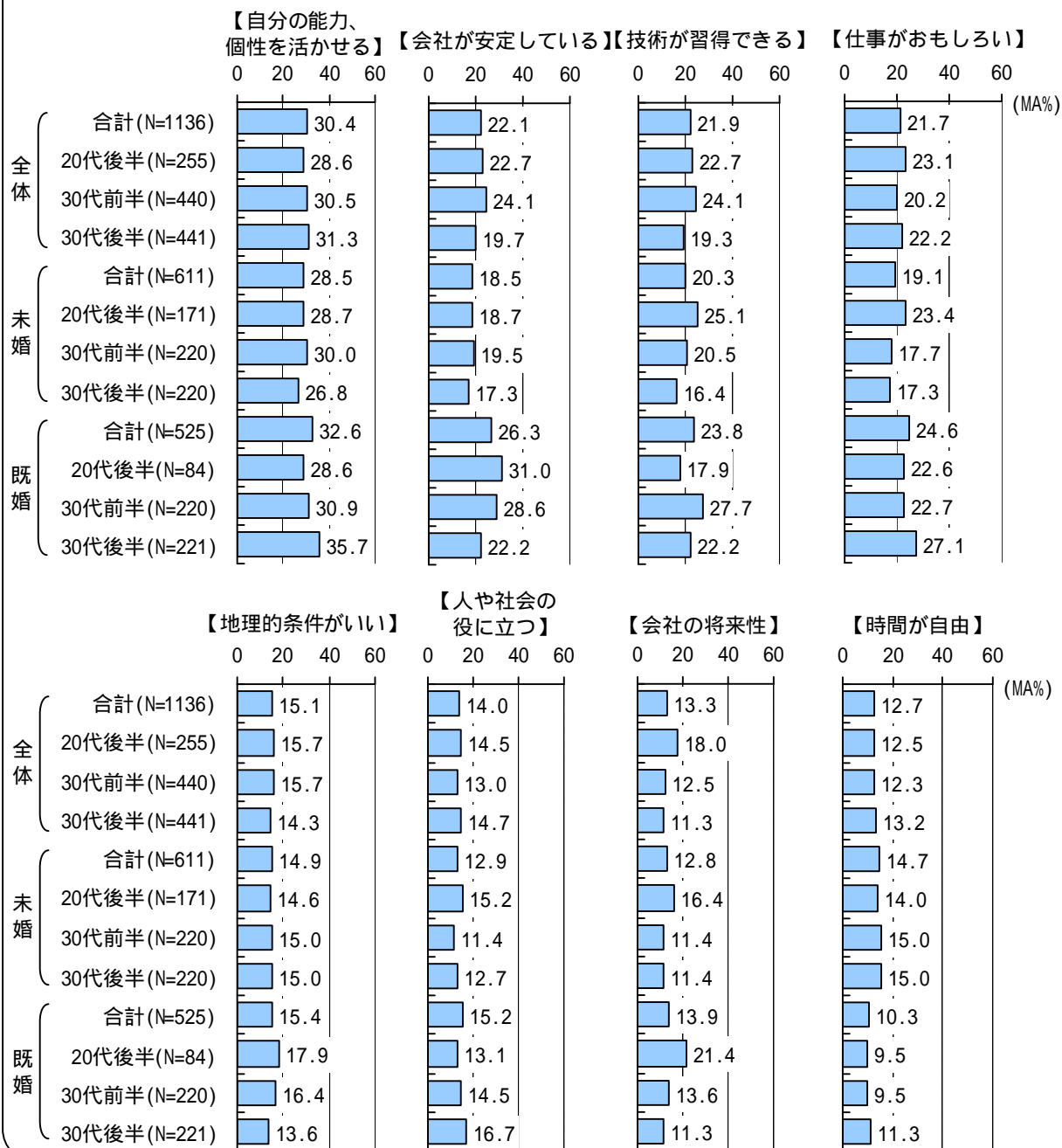
**【既婚者】**

合計、全年代ともに「妻」が多く、9割以上となっている。

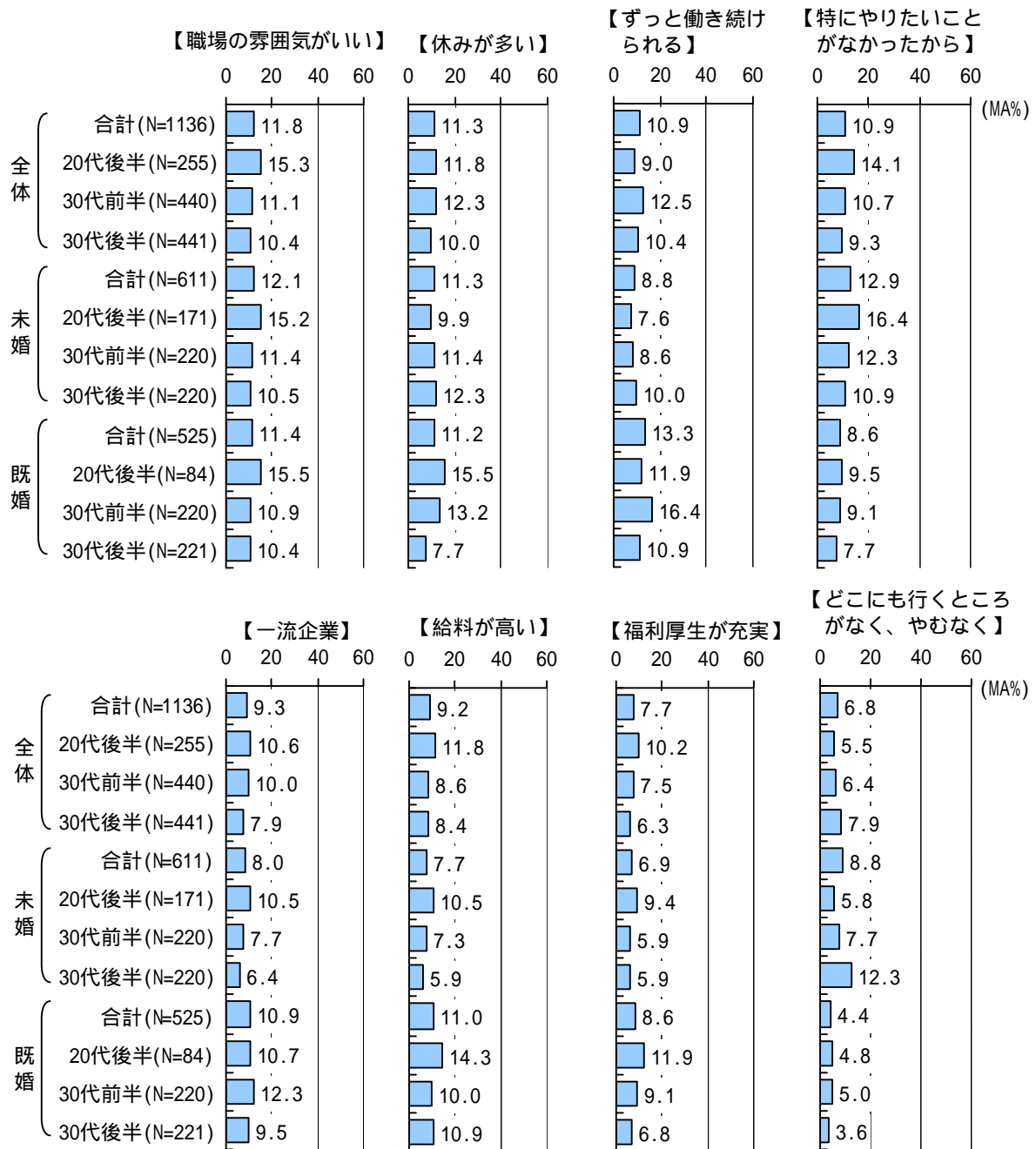
# 1 仕事観

## 仕事を選んだ理由

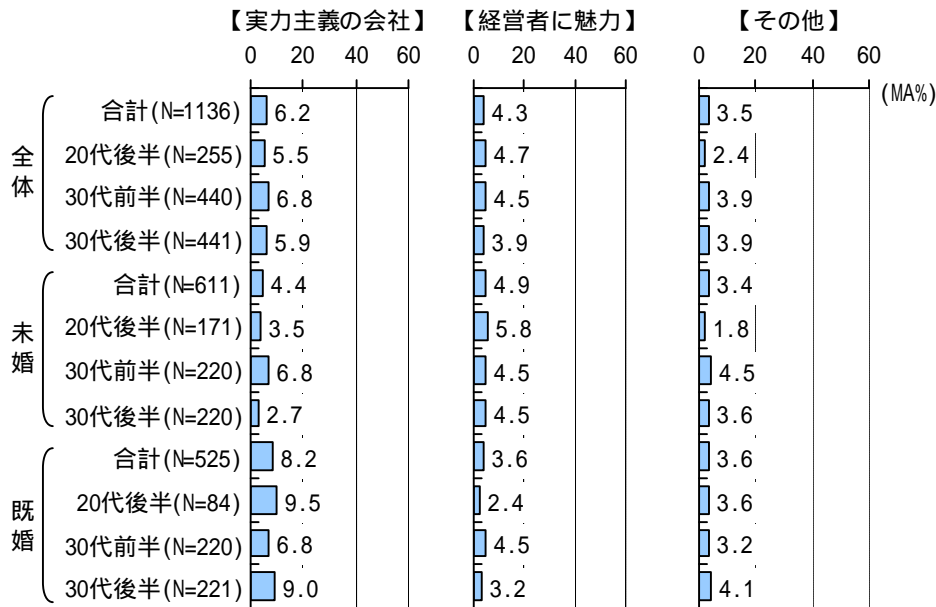
(1) あなたが今の仕事を選んだ理由は。(あてはまるものすべて)



(1) あなたが今の仕事を選んだ理由は。(あてはまるものすべて)



(1)あなたが今の仕事を選んだ理由は。(あてはまるものすべて)



【概要】

全体では「自分の能力、個性を活かせる」が30.4%と最も高く、次いで「会社が安定している」が22.1%となっている。未婚者、既婚者ともに合計で「自分の能力、個性を活かせる」が最も高くなっている。

【未婚】

合計、年代別とも「自分の能力、個性を活かせる」が高く、合計が28.5%、20代後半で28.7%、30代前半で30.0%、30代後半で26.8%となっている。

【既婚】

合計、30代は「自分の能力、個性を活かせる」の割合が高く、合計32.6%、30代前半30.9%、30代後半35.7%となっている。また、20代後半では「会社が安定している」が31.0%と最も高くなっている。

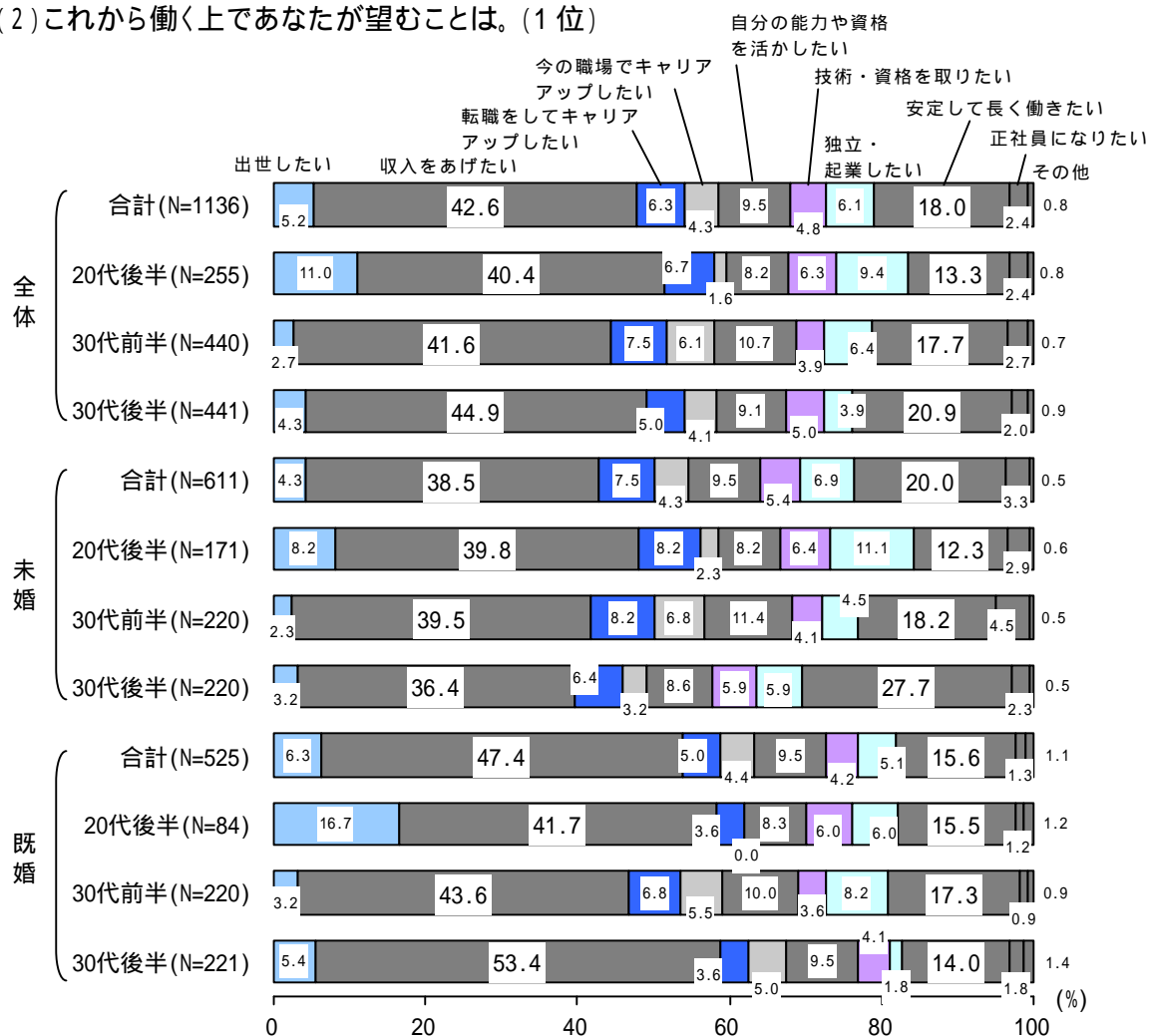
【未婚の年代別・既婚の年代別】

未婚全年代・既婚の30代は「自分の能力、個性を活かせる」が高く、既婚の20代後半は「会社が安定している」が高い。

( )未婚・既婚と年代別を合わせたコメント

## 働く上で望むこと

(2)これから働く上であなたが望むことは。(1位)



### 【概要】

全体では「収入をあげたい」が42.6%と最も高く、次いで「安定して長く働きたい」が18.0%となっている。また、未婚者、既婚者ともに合計で「収入をあげたい」が高くなっている。

### 【未婚】

合計、年代別とも「収入をあげたい」が高く、合計38.5%、20代後半39.8%、30代前半39.5%、30代後半36.4%となっている。

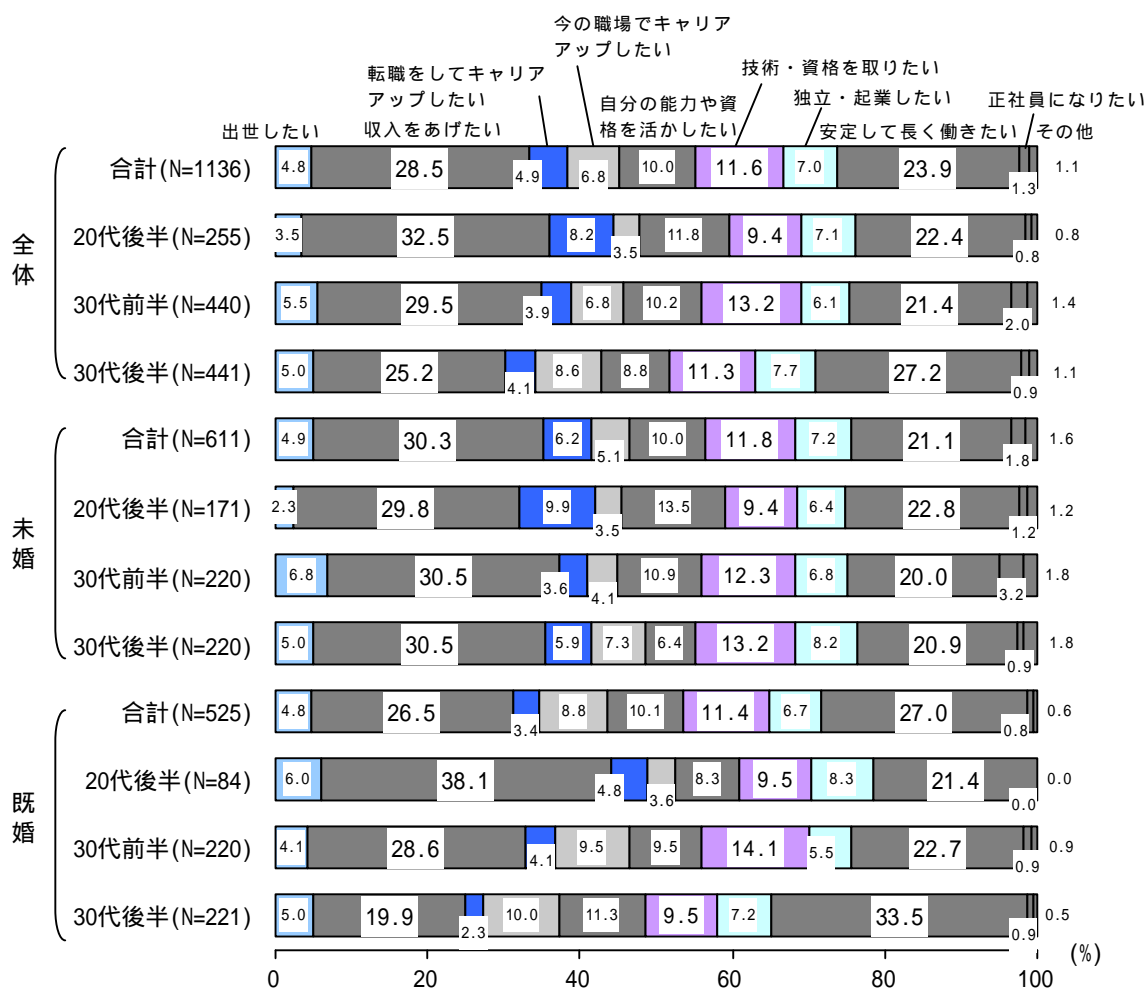
### 【既婚】

合計、年代別とも「収入をあげたい」が高く、合計47.4%、20代後半41.7%、30代前半43.6%、30代後半53.4%となっている。

### 【未婚の年代別・既婚の年代別】

未婚全年代・既婚全年代とも「収入をあげたい」が最も高くなっている。

(2)これから働く上であなたが望むことは。(2位)



【概要】

全体では「収入をあげたい」が28.5%と最も高く、次いで「安定して長く働きたい」が23.9%となっている。未婚者合計は「収入をあげたい」、既婚者合計は「安定して長く働きたい」が最も高くなっている。

【未婚】

合計、年代別とも「収入をあげたい」が高く、合計30.3%、20代後半29.8%、30代前半30.5%、30代後半30.5%となっている。

【既婚】

合計、30代後半は「安定して長く働きたい」が高く、合計27.0%、30代後半33.5%となっている。20代後半、30代前半は「収入をあげたい」が高く、20代後半38.1%、30代前半28.6%となっている。

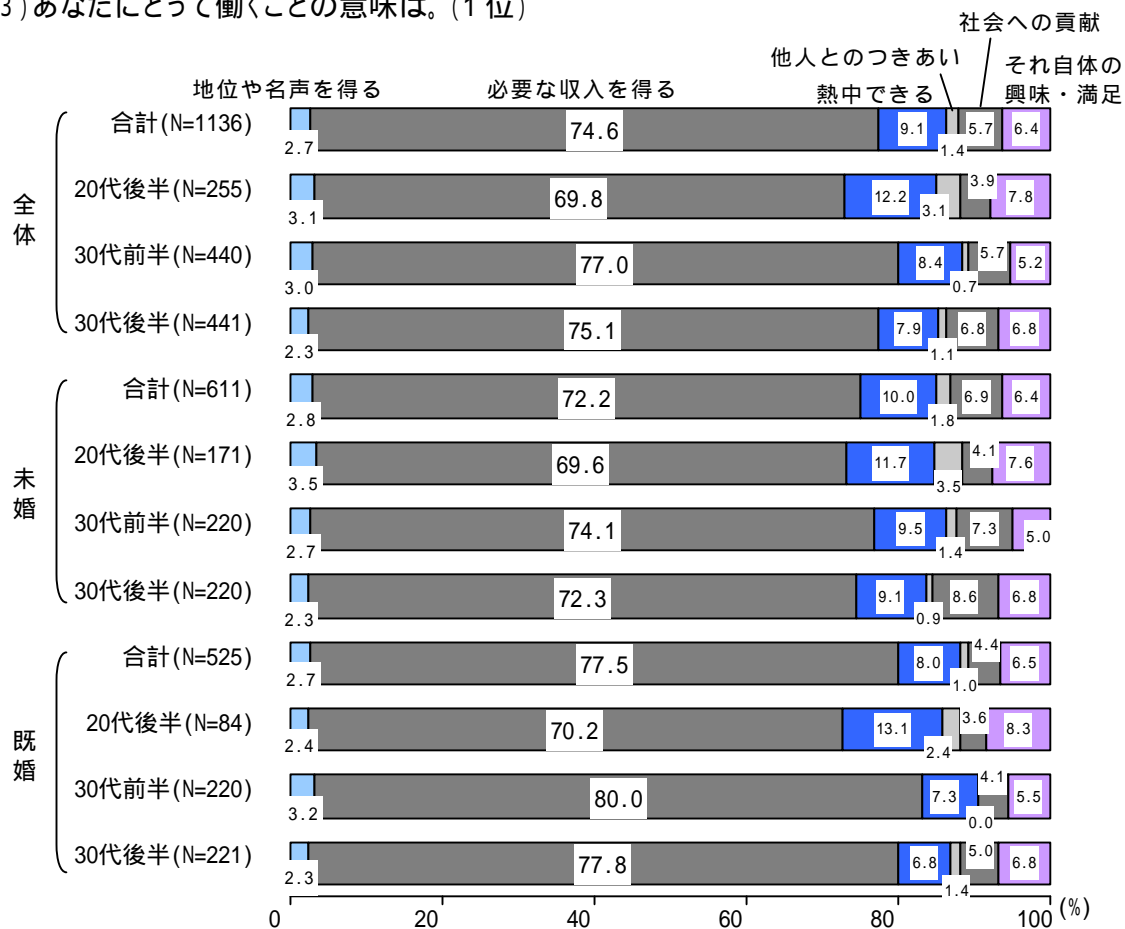
【未婚の年代別・既婚の年代別】

未婚全年代と既婚の20代後半、30代前半は「収入をあげたい」、既婚の30代後半は「安定して長く働きたい」が最も高くなっている。



## 働くことの意味

### (3) あなたにとって働くことの意味は。(1位)



#### 【概要】

全体では「必要な収入を得る」が74.6%と最も高く、次いで「熱中できる」が9.1%となっている。未婚者、既婚者ともに合計で「必要な収入を得る」が最も高くなっている。

#### 【未婚】

合計、年代別とも「必要な収入を得る」が高く、合計72.2%、20代後半69.6%、30代前半74.1%、30代後半72.3%となっている。

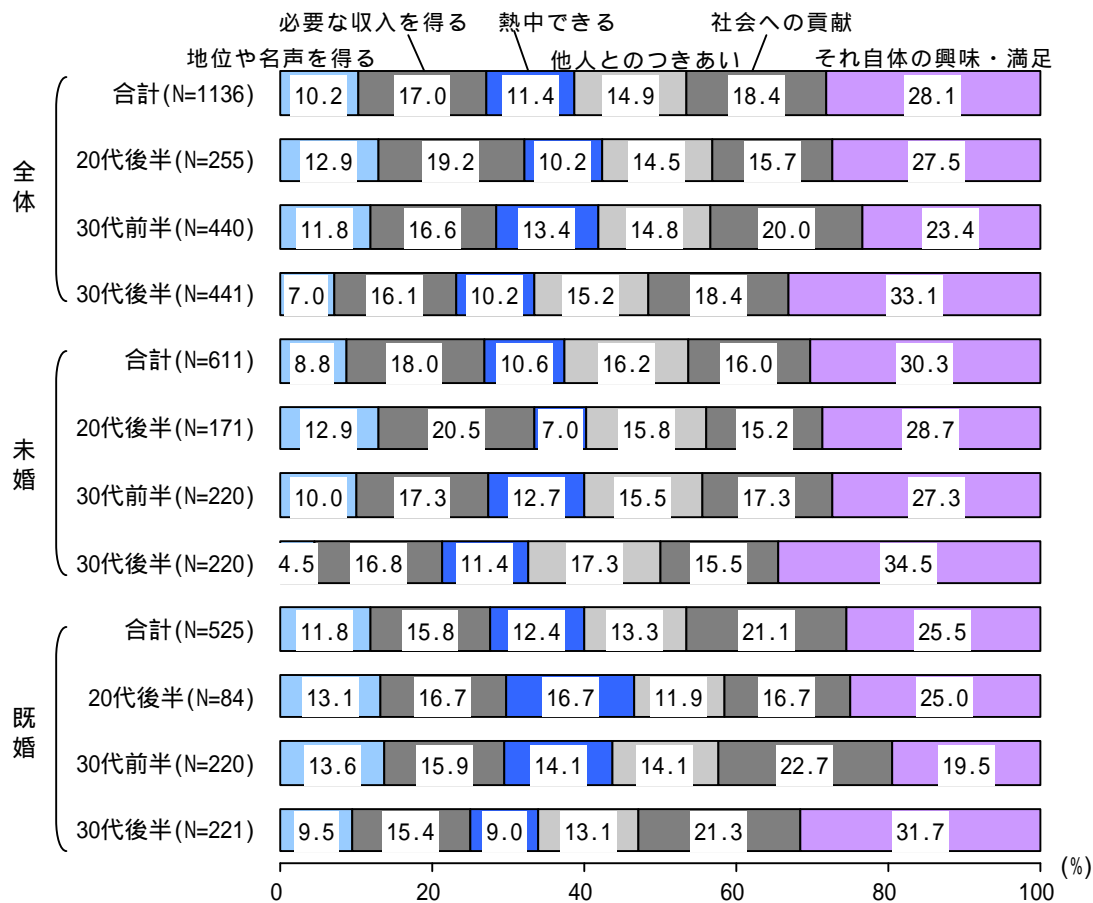
#### 【既婚】

合計、年代別とも「必要な収入を得る」が高く、合計77.5%、20代後半70.2%、30代前半80.0%、30代後半77.8%となっている。

#### 【未婚の年代別・既婚の年代別】

未婚全年代・既婚全年代とも「必要な収入を得る」が最も高くなっている。

(3) あなたにとって働くことの意味は。(2位)



【概要】

全体では「それ自体の興味・満足」が28.1%と最も高く、次いで「社会への貢献」が18.4%となっている。未婚者、既婚者ともに合計で「それ自体の興味・満足」が最も高くなっている。次いで、未婚者では「必要な収入を得る」が18.0%と高く、既婚者では「社会への貢献」が21.1%と高くなっている。

【未婚】

合計、年代別とも「それ自体の興味・満足」が高く、合計30.3%、20代後半28.7%、30代前半27.3%、30代後半34.5%となっている。

【既婚】

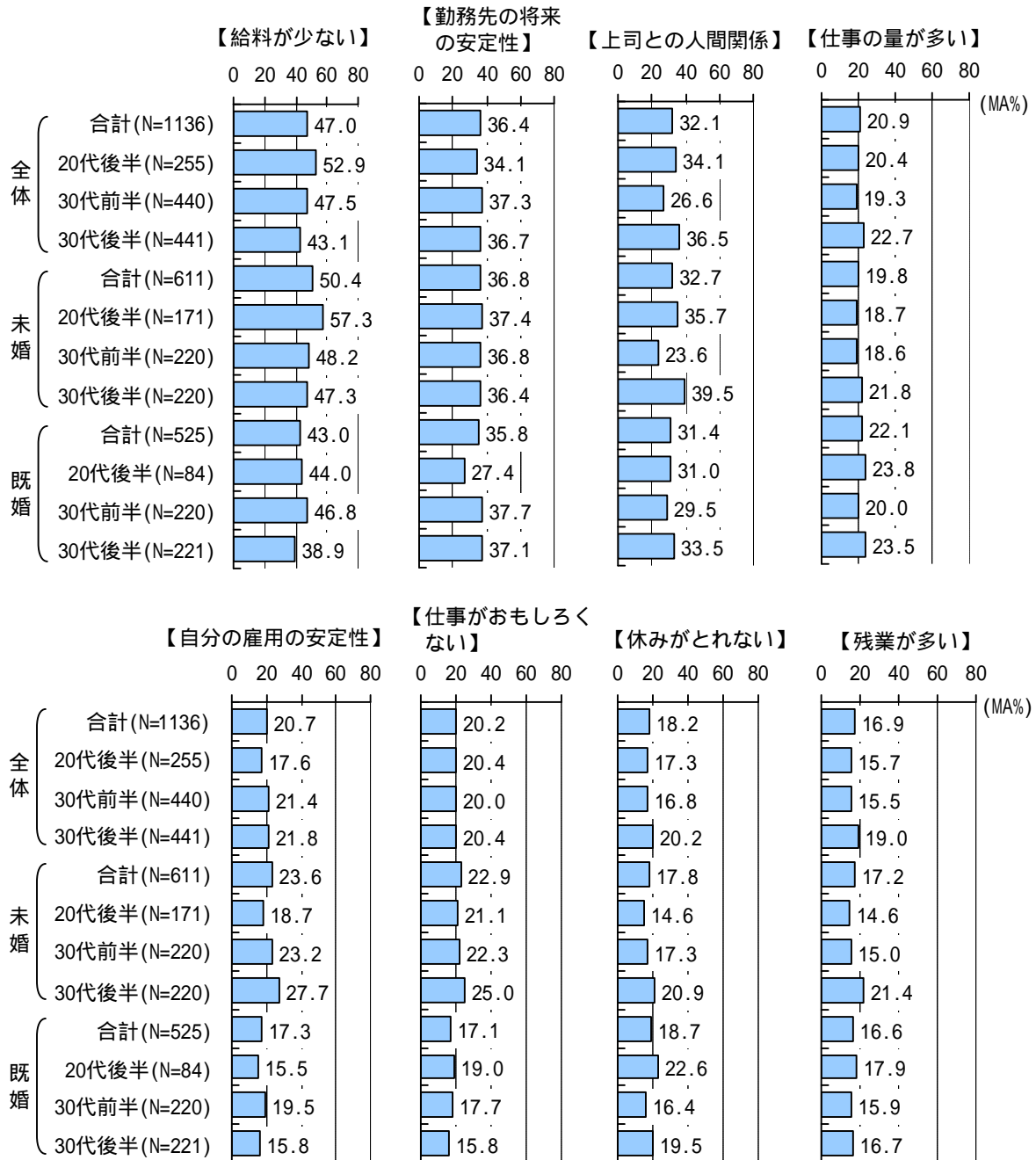
合計、20代後半、30代後半は「それ自体の興味・満足」が高く、合計25.5%、20代後半25.0%、30代後半31.7%となっている。30代前半は「社会への貢献」が22.7%と高くなっている。

【未婚の年代別・既婚の年代別】

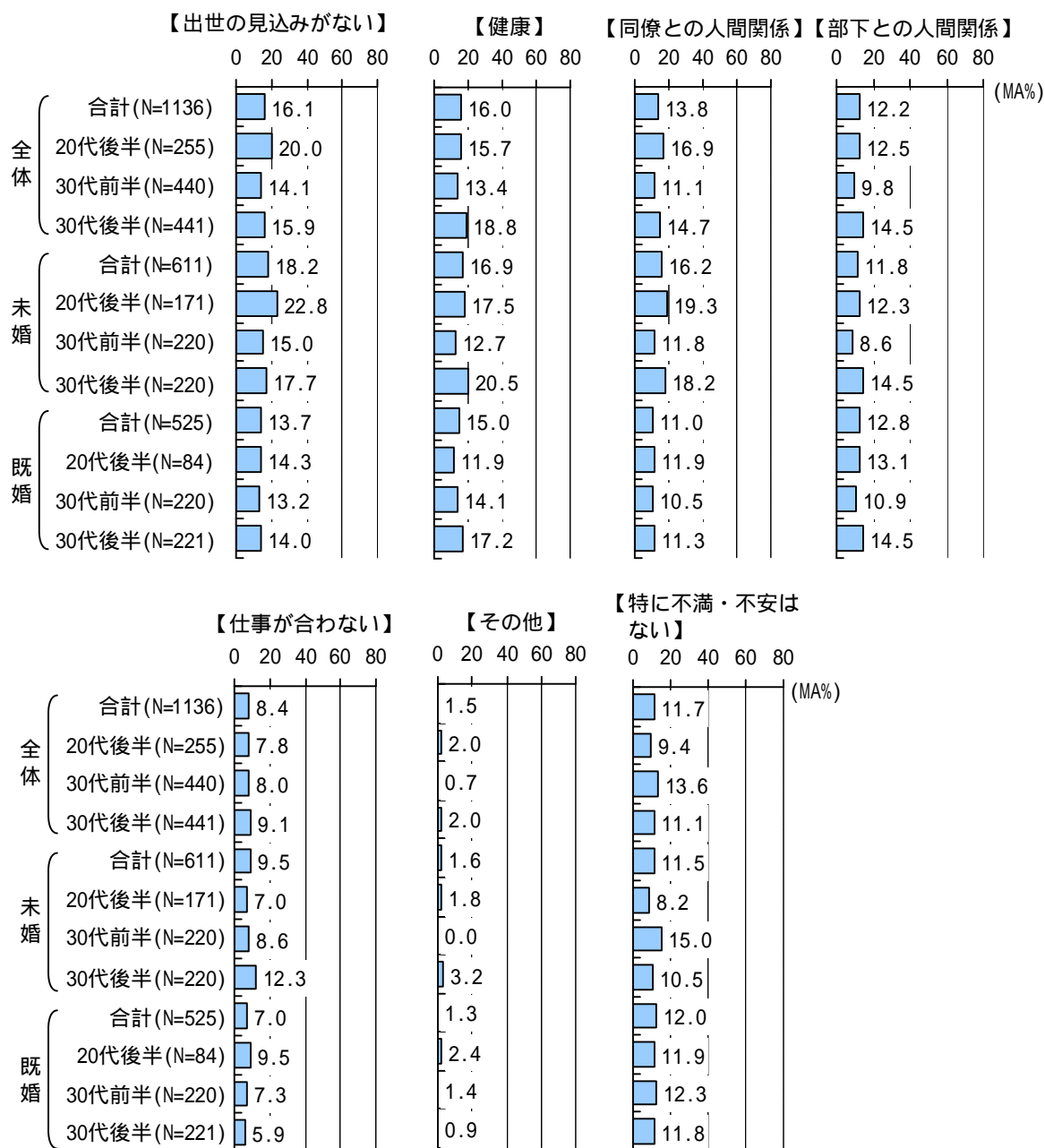
未婚全年代と既婚の20代後半、30代後半で「それ自体の興味・満足」が高く、特に未婚、既婚ともに30代後半で3割以上と高くなっている。

働く上での不満・不安

(4) 働く上でのあなたの不満・不安は。(あてはまるものすべて)



(4) 働く上でのあなたの不満・不安は。(あてはまるものすべて)



【概要】

全体では「給料が少ない」が47.0%と最も高く、次いで「勤務先の将来の安定性」が36.4%となっている。未婚者、既婚者ともに合計で「給料が少ない」が最も高くなっている。

【未婚】

合計、年代別とも「給料が少ない」が高く、合計50.4%、20代後半57.3%、30代前半48.2%、30代後半47.3%となっている。

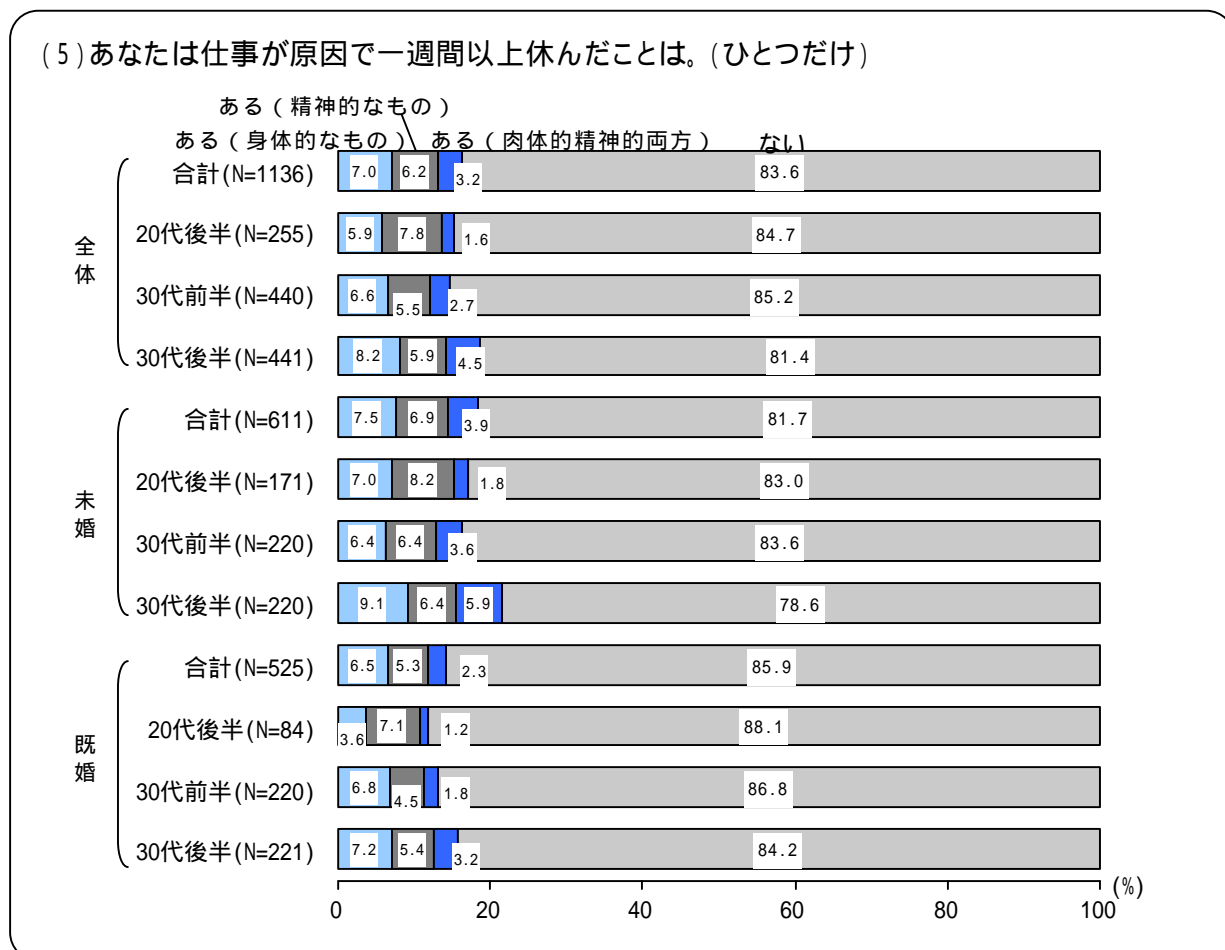
【既婚】

合計、年代別とも「給料が少ない」が高く、合計43.0%、20代後半44.0%、30代前半46.8%、30代後半38.9%となっている。

【未婚の年代別・既婚の年代別】

「給料が少ない」は20代後半で未婚者と既婚者で13.3ポイントと差が大きく、30代後半でも8.4ポイントの差となっている。

仕事の原因で一週間以上休んだことの有無



【概要】

全体では休んだことが「ない」が83.6%と最も高く、次いで、休んだことが「ある(身体的なもの)」が7.0%となっている。未婚者、既婚者ともに合計で休んだことが「ない」の割合が最も高くなっている。

【未婚】

合計、年代別とも休んだことが「ない」の割合が高く、合計81.7%、20代後半83.0%、30代前半83.6%、30代後半78.6%となっている。

【既婚】

合計、年代別とも休んだことが「ない」の割合が高く、合計85.9%、20代後半88.1%、30代前半86.8%、30代後半84.2%となっている。

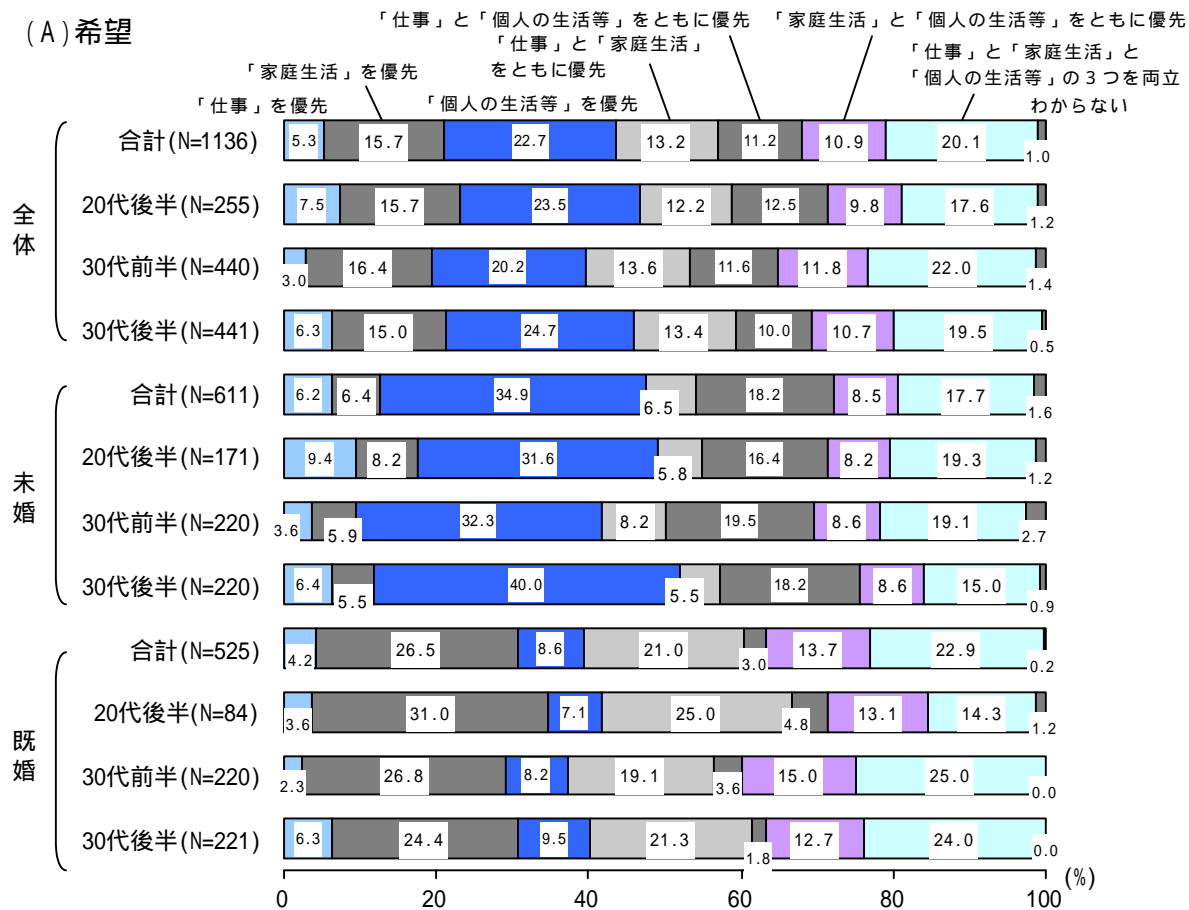
【未婚の年代別・既婚の年代別】

未婚・既婚とも全年代で休んだことが「ない」の割合が高くなっている。また、休んだことが「ある(身体的・精神的・両方)」は未婚者合計で18.3%、既婚者合計で14.1%と1割台にのぼっている。

「仕事」、「家庭生活」、「個人の生活等」の優先度（希望）

(6) - 1 あなたの日常（\*睡眠を除く）における、「仕事」、「家庭生活」、「個人の生活等」の優先度は、(A)あなたの希望に最も近いもの、(B)あなたの現実（現状）に最も近いものを。（それぞれひとつだけ）

(A) 希望



【概要】

全体では「『個人の生活等』を優先」が22.7%と最も高く、次いで「『仕事』と『家庭生活』と『個人の生活等』の3つを両立」が20.1%となっている。未婚者合計は「『個人の生活等』を優先」、既婚者合計は「『家庭生活』を優先」が最も高くなっている。

【未婚】

合計、年代別とも「『個人の生活等』を優先」が高く、合計34.9%、20代後半31.6%、30代前半32.3%、30代後半40.0%となっている。

【既婚】

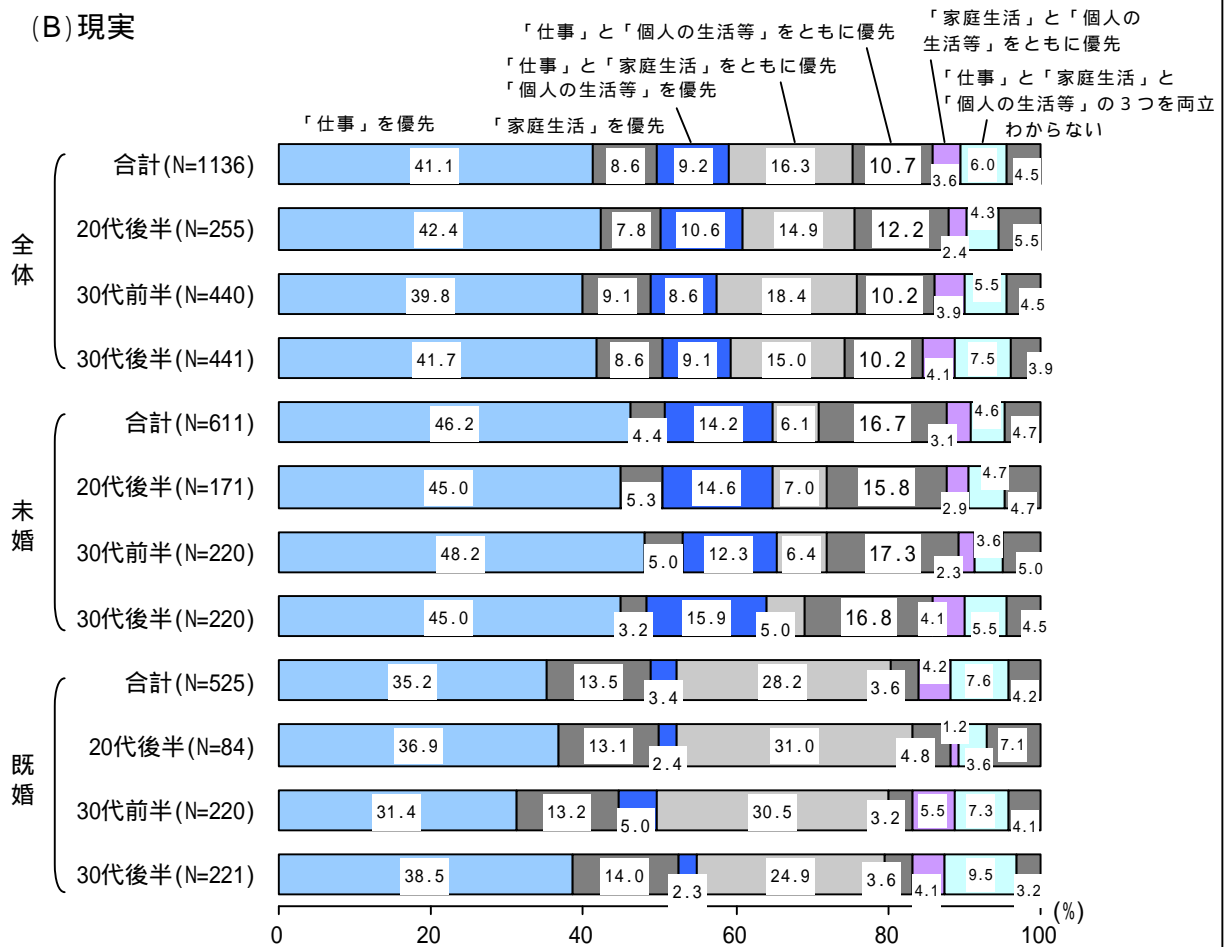
合計、年代別とも「『家庭生活』を優先」が高く、合計26.5%、20代後半31.0%、30代前半26.8%、30代後半24.4%となっている。

【未婚の年代別・既婚の年代別】

未婚の全年代で「『個人の生活等』を優先」、既婚の全年代で「『家庭生活』を優先」が最も高くなっている。

(6) - 1 あなたの日常(\*睡眠を除く)における、「仕事」、「家庭生活」、「個人の生活等」の優先度は。(A)あなたの希望に最も近いもの、(B)あなたの現実(現状)に最も近いものを。(それぞれひとつだけ)

(B)現実



【概要】

全体、年代別とも「『仕事』を優先」が最も高く41.1%、次いで「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」が16.3%となっている。未婚者、既婚者ともに合計で「『仕事』を優先」が最も高く、未婚者で46.2%と既婚者(35.2%)を約10ポイント上回っている。

【未婚】

合計、年代別とも「『仕事』を優先」が高く、合計46.2%、20代後半45.0%、30代前半48.2%、30代後半45.0%となっている。

【既婚】

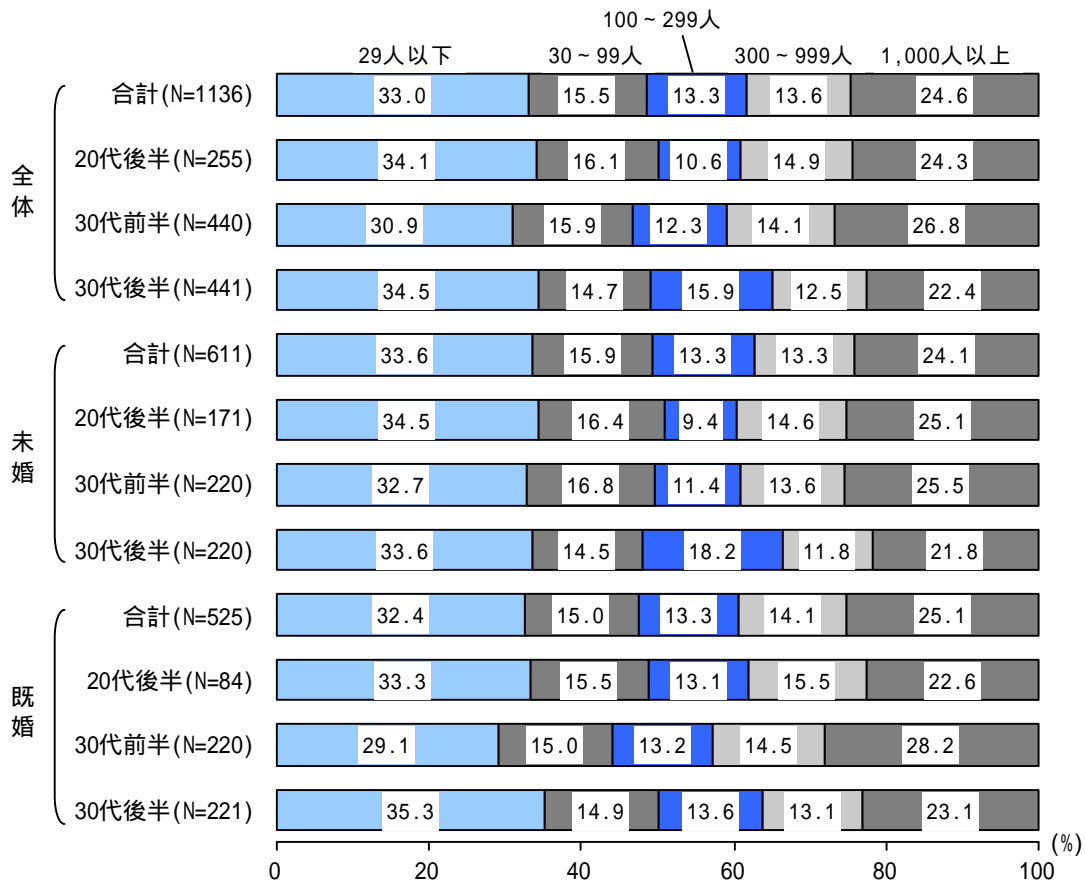
合計、年代別とも「『仕事』を優先」が高く、合計35.2%、20代後半36.9%、30代前半31.4%、30代後半38.5%となっている。

【未婚の年代別・既婚の年代別】

未婚・既婚とも全年代で「『仕事』を優先」が最も高くなっている。第2位は、未婚者合計は「『仕事』と『個人の生活等』をともに優先」(16.7%)であるが、既婚者合計では「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」(28.2%)と差がある。

## 企業規模（従業員数）

(7) あなたが勤める会社の企業規模は。(ひとつだけ)



### 【概要】

全体では「29人以下」が33.0%と最も高く、次いで「1,000人以上」が24.6%となっている。また、未婚者、既婚者ともに合計で「29人以下」が最も高くなっている。

### 【未婚】

合計、年代別とも「29人以下」が高く、合計33.6%、20代後半34.5%、30代前半32.7%、30代後半33.6%となっている。

### 【既婚】

合計、年代別とも「29人以下」が高く、合計32.4%、20代後半33.3%、30代前半29.1%、30代後半35.3%となっている。

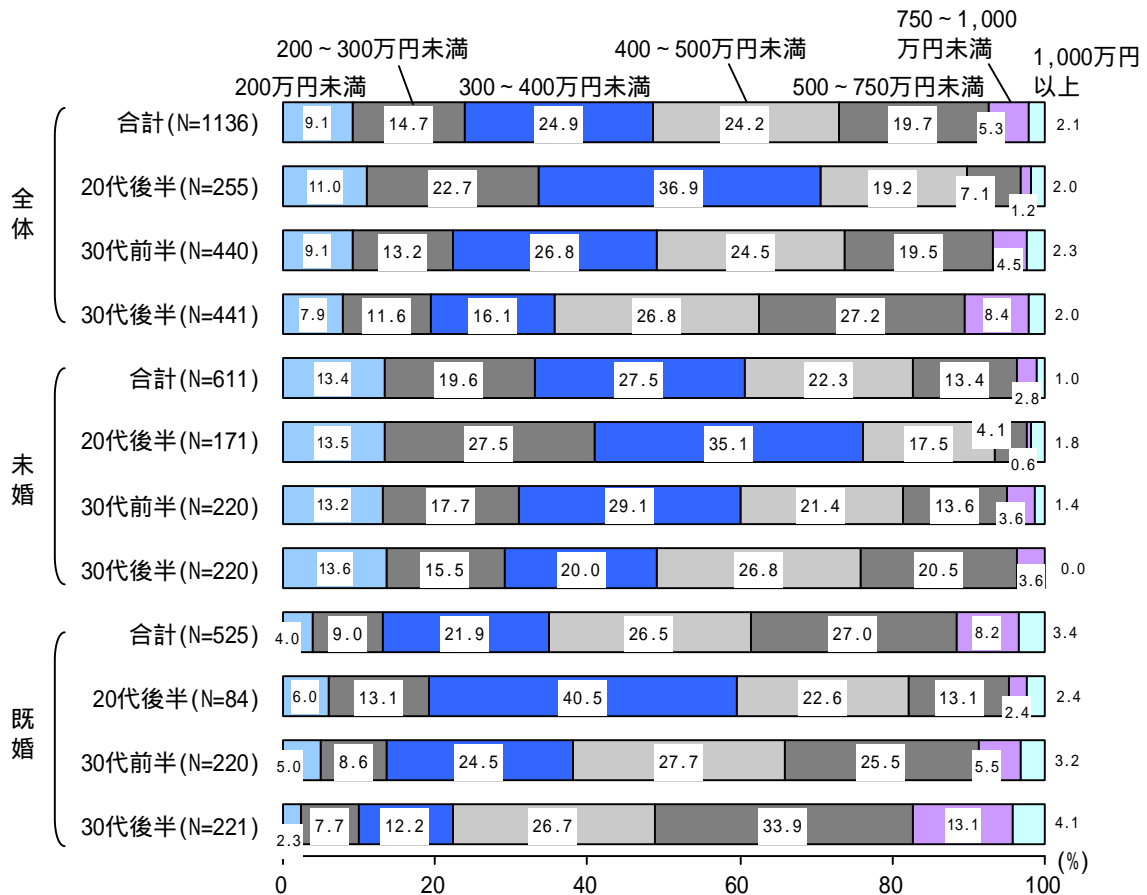
### 【未婚の年代別・既婚の年代別】

未婚の全年代・既婚の全年代ともに「29人以下」が最も高くなっている。



## 年収

(8) あなたの年収(賞与・税込)は。(ひとつだけ)



### 【概要】

全体では「300~400万円未満」が24.9%と最も高く、次いで「400~500万円未満」が24.2%となっている。未婚者合計は「300~400万円未満」、既婚者合計は「500~750万円未満」が最も高くなっている。

### 【未婚】

合計、20代後半、30代前半は「300~400万円未満」が高く、合計27.5%、20代後半35.1%、30代前半は29.1%となっている。30代後半は「400~500万円未満」が高く26.8%となっている。

### 【既婚】

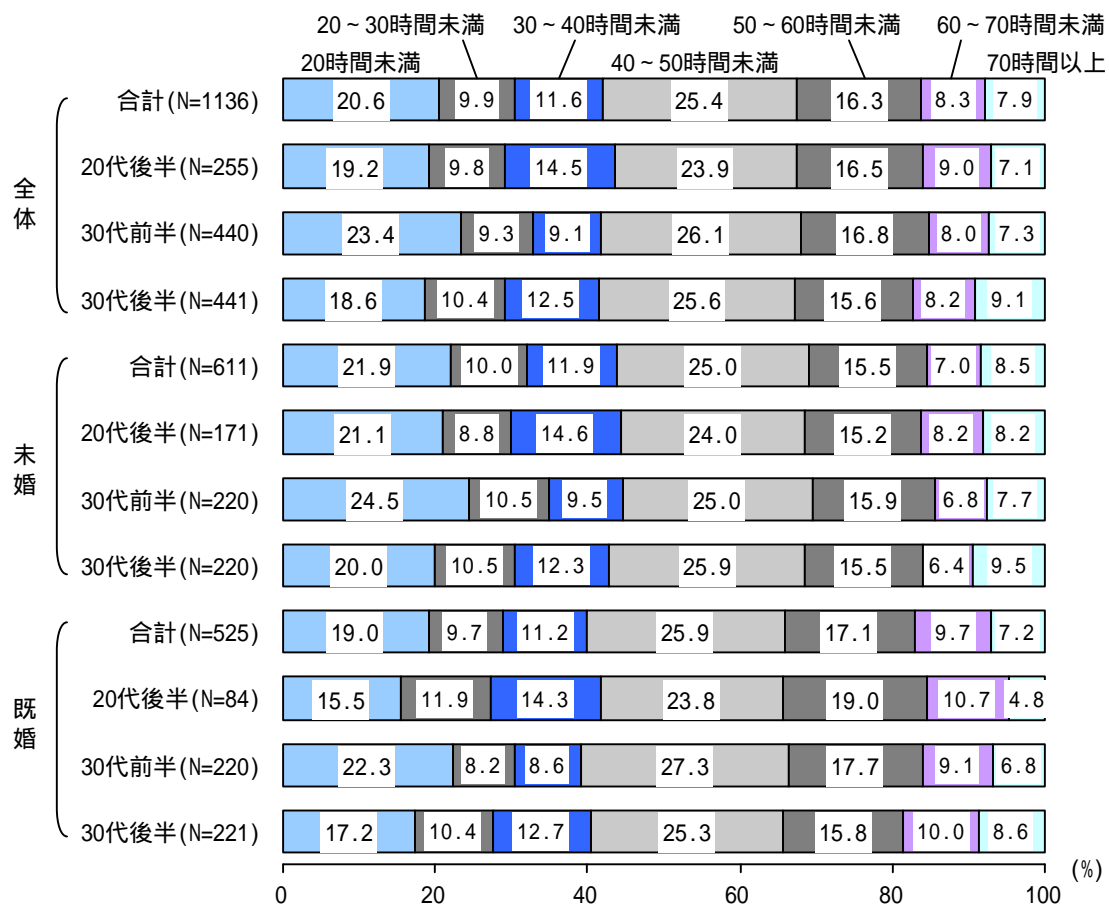
合計では、「500~750万円未満」が高く27.0%、20代後半は「300~400万円未満」が40.5%、30代前半は「400~500万円未満」が27.7%、30代後半は「500~750万円未満」が33.9%とそれぞれ最も高くなっている。

### 【未婚の年代別・既婚の年代別】

未婚の20代後半、30代前半と既婚の20代後半は「300~400万円未満」、未婚の30代後半と既婚の30代前半は「400~500万円未満」、既婚の30代後半は「500~750万円未満」が最も高くなっている。

## 労働時間

(9) あなたの実質の残業を含む平均的な労働時間/週は。(ひとつだけ)



### 【概要】

全体では「40~50時間未満」が25.4%と最も高く、次いで「20時間未満」が20.6%となっている。未婚者、既婚者ともに合計で「40~50時間未満」が最も高くなっている。

### 【未婚】

合計、年代別とも「40~50時間未満」が高く、合計25.0%、20代後半24.0%、30代前半25.0%、30代後半25.9%となっている。

### 【既婚】

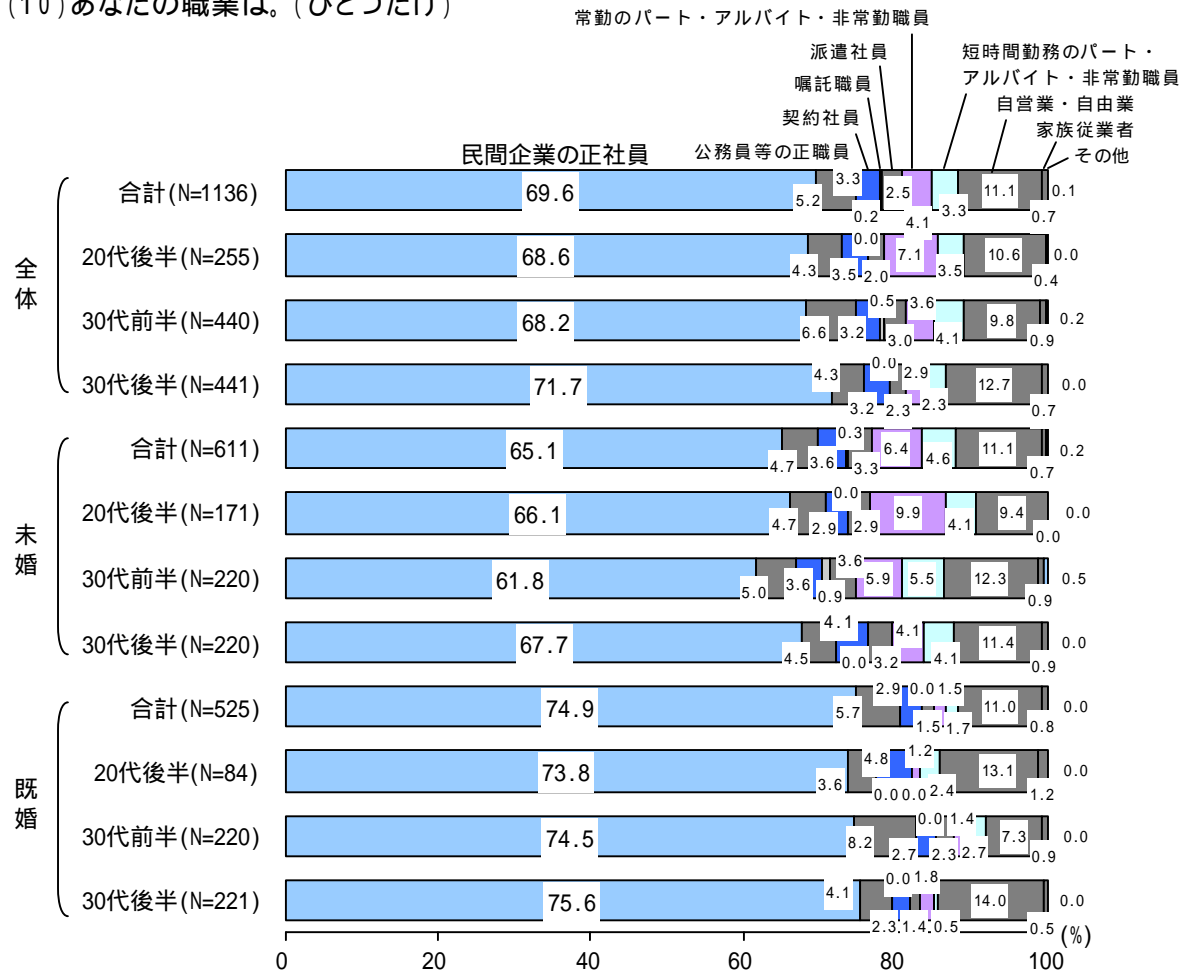
合計、年代別とも「40~50時間未満」が高く、合計25.9%、20代後半23.8%、30代前半27.3%、30代後半25.3%となっている。

### 【未婚の年代別・既婚の年代別】

未婚全年代・既婚全年代とも「40~50時間未満」が最も高くなっている。

# 職業

(10) あなたの職業は。(ひとつだけ)



「内職」は0件だったため割愛

## 【概要】

全体では「民間企業の正社員」が 69.6%と最も高く、次いで「自営業・自由業」が 11.1%となっている。未婚者、既婚者ともに合計で「民間企業の正社員」が最も高くなっている。

## 【未婚】

合計、年代別とも「民間企業の正社員」が高く、合計 65.1%、20代後半 66.1%、30代前半 61.8%、30代後半 67.7%となっている。

## 【既婚】

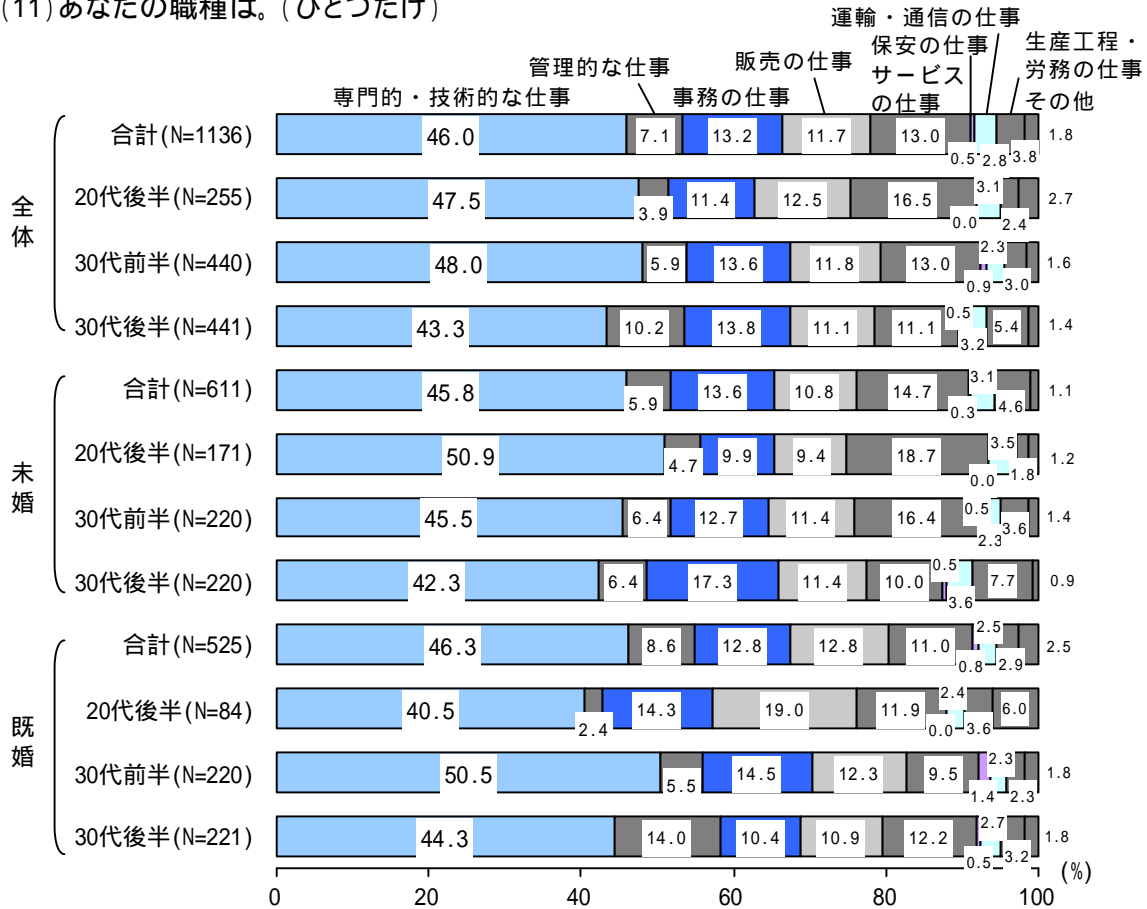
合計、年代別とも「民間企業の正社員」が高く、合計 74.9%、20代後半 73.8%、30代前半 74.5%、30代後半 75.6%となっている。

## 【未婚の年代別・既婚の年代別】

未婚全年代・既婚全年代とも「民間企業の正社員」が最も高くなっている。

# 職業

(11) あなたの職種は。(ひとつだけ)



**【概要】**

全体では「専門的・技術的な仕事」が46.0%と最も高く、次いで「事務の仕事」が13.2%となっている。未婚者、既婚者ともに合計で「専門的・技術的な仕事」が最も高くなっている。

**【未婚】**

合計、年代別とも「専門的・技術的な仕事」が高く、合計45.8%、20代後半50.9%、30代前半45.5%、30代後半42.3%となっている。

**【既婚】**

合計、年代別とも「専門的・技術的な仕事」が高く、合計46.3%、20代後半40.5%、30代前半50.5%、30代後半44.3%となっている。

**【未婚の年代別・既婚の年代別】**

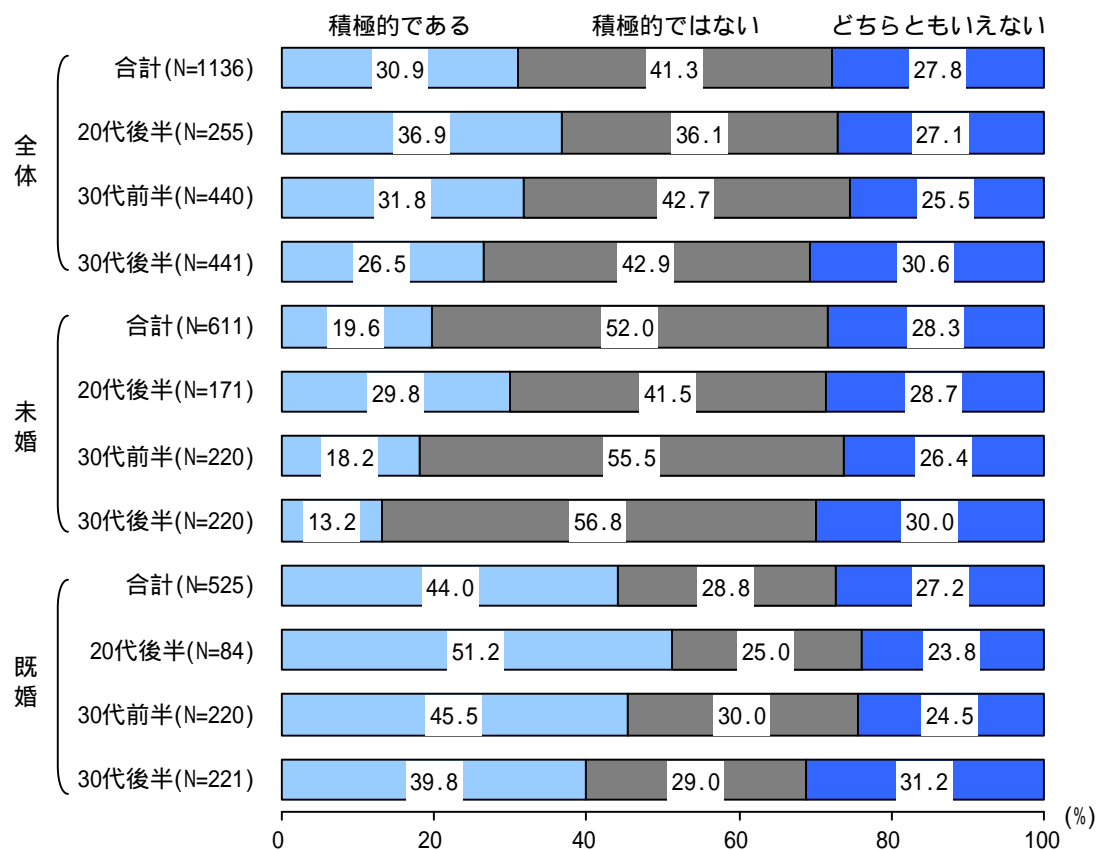
未婚全年代・既婚全年代とも「専門的・技術的な仕事」が最も高くなっている。

## 2 恋愛観

### 恋愛に対する積極性

(1) 恋愛に対するあなたの積極性は。(ひとつだけ):未婚者

(1) 結婚前、恋愛に対するあなたの積極性は。(ひとつだけ):既婚者



#### 【概要】

全体では「積極的ではない」が41.3%と最も高く、次いで「積極的である」が30.9%となっている。未婚者合計は「積極的ではない」、既婚者合計は「積極的である」が最も高くなっている。

#### 【未婚】

合計、年代別とも「積極的ではない」が高く、合計52.0%、20代後半41.5%、30代前半55.5%、30代後半56.8%となっている。

#### 【既婚】

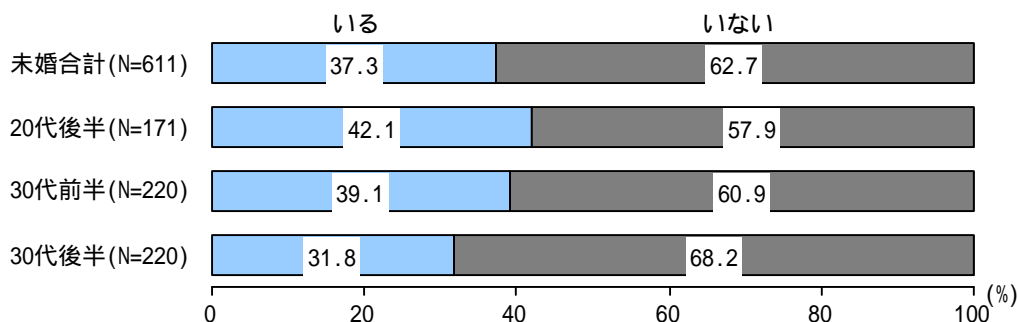
合計、年代別とも「積極的である」が高く、合計44.0%、20代後半51.2%、30代前半45.5%、30代後半39.8%となっている。

#### 【未婚の年代別・既婚の年代別】

未婚全年代は「積極的ではない」、既婚全年代は「積極的である」が最も高くなっている。

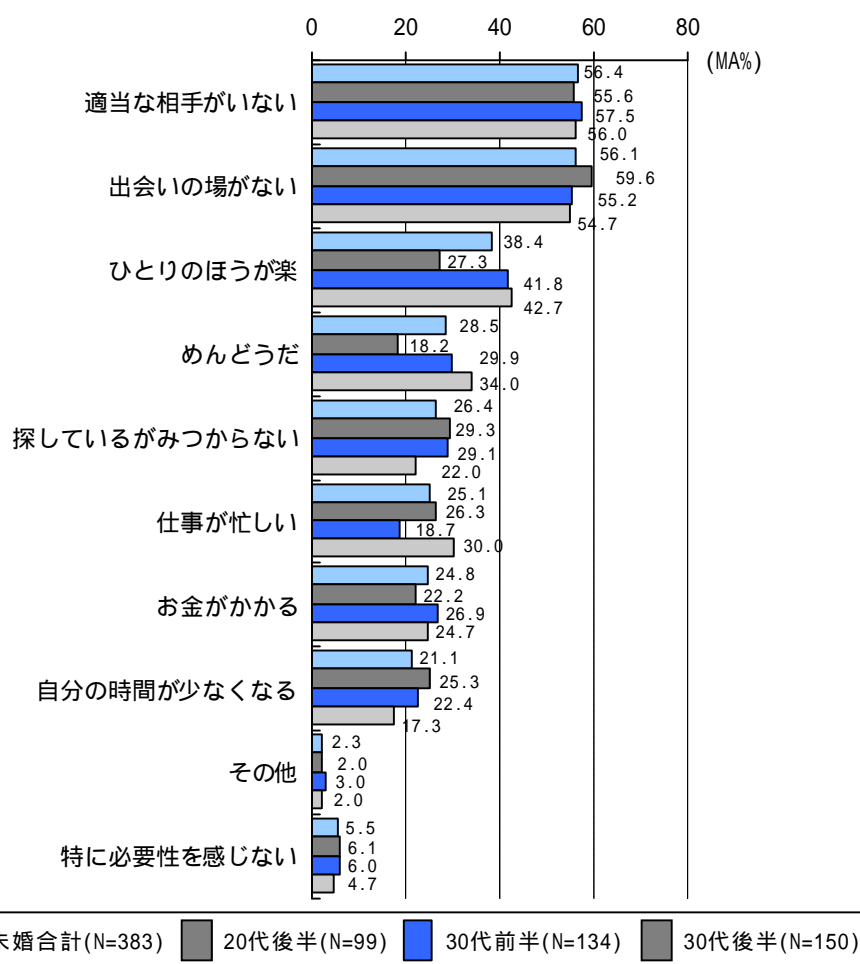
## 恋愛に対する積極性、恋人がいない理由

### (2) 現在、恋人は。(ひとつだけ):未婚者のみ



【現在、恋人がいない方におうかがいします。】

### (2) - 1 現在、恋人がいない理由は。(あてはまるものすべて):未婚者のみ



恋人の有無は、恋人が「いる」は合計で37.3%、年代別では20代後半で42.1%、30代前半で39.1%、30代後半31.8%と若い年代ほど高くなっている。

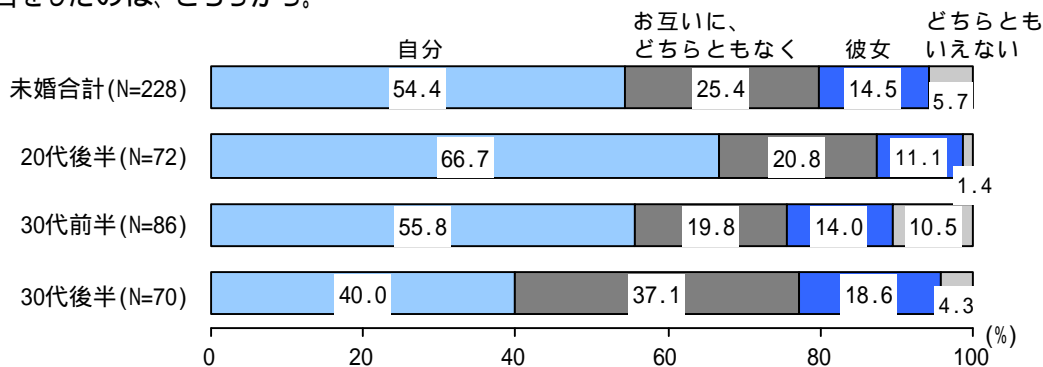
現在恋人がいない理由は、合計では「適当な相手がない」が56.4%、「出会いの場がない」が56.1%と半数以上と高くなっている。「出会いの場がない」は20代後半で59.6%と高く、「ひとりのほうが楽」は30代前半、30代後半で4割以上と20代後半と比べ高くなっている。

## 恋人との関係

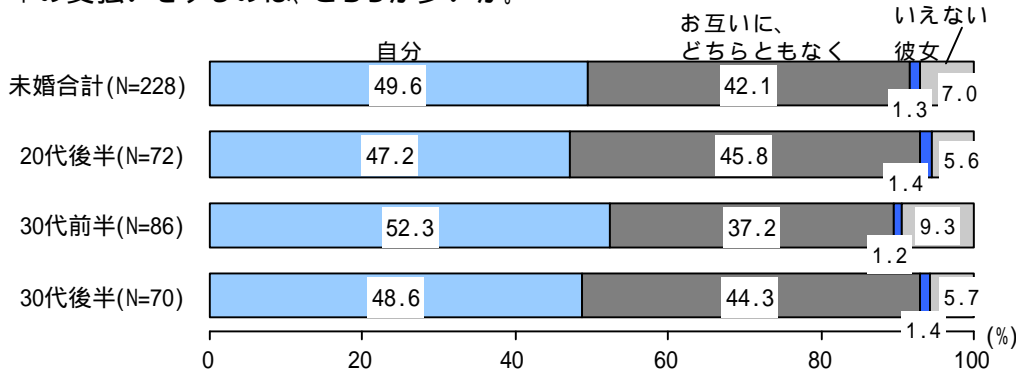
【恋人がいる方におうかがいします。】

(3) あなたと恋人との関係は。：未婚者のみ

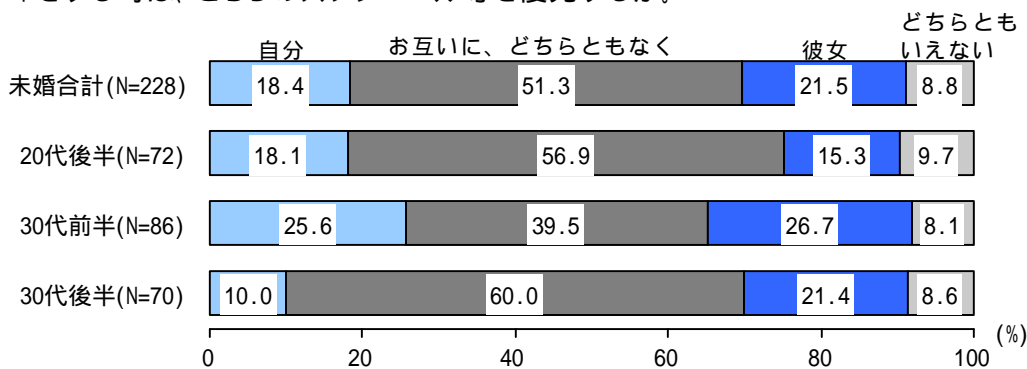
告白をしたのは、どちらから。



デートの支払いをするのは、どちらが多いか。



デートをする時は、どちらのスケジュール等を優先するか。



<告白をしたのは、どちらから>

合計、年代別とも「自分」が高く、合計 54.4%、20 代後半 66.7%、30 代前半 55.8%、30 代後半 40.0%となっている。

<デートの支払いをするのは、どちらが多いか>

合計、年代別とも「自分」の割合が高く、合計 49.6%、20 代後半 47.2%、30 代前半 52.3%、30 代後半 48.6%となっている。

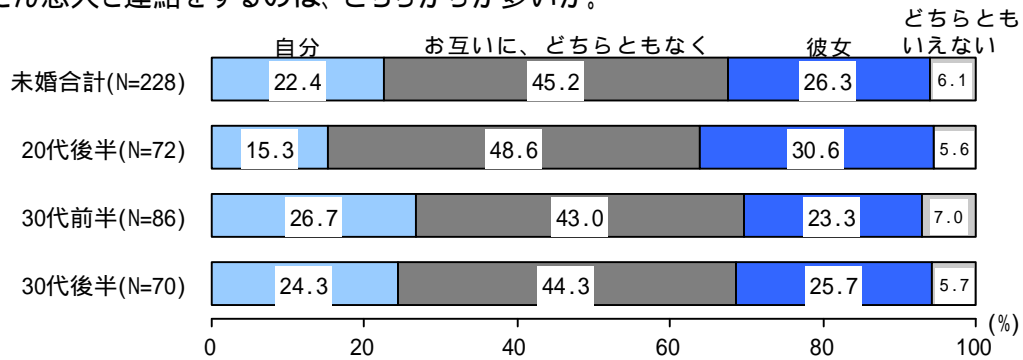
<デートをする時は、どちらのスケジュール等を優先するか>

合計、年代別とも「お互いに、どちらともなく」が高く、合計 51.3%、20 代後半 56.9%、30 代前半 39.5%、30 代後半 60.0%となっている。

【恋人がいる方におうかがいします。】

(3)あなたと恋人との関係は。:未婚者のみ

ふだん恋人と連絡をするのは、どちらからが多いか。



<ふだん恋人と連絡をするのは、どちらからが多いか>

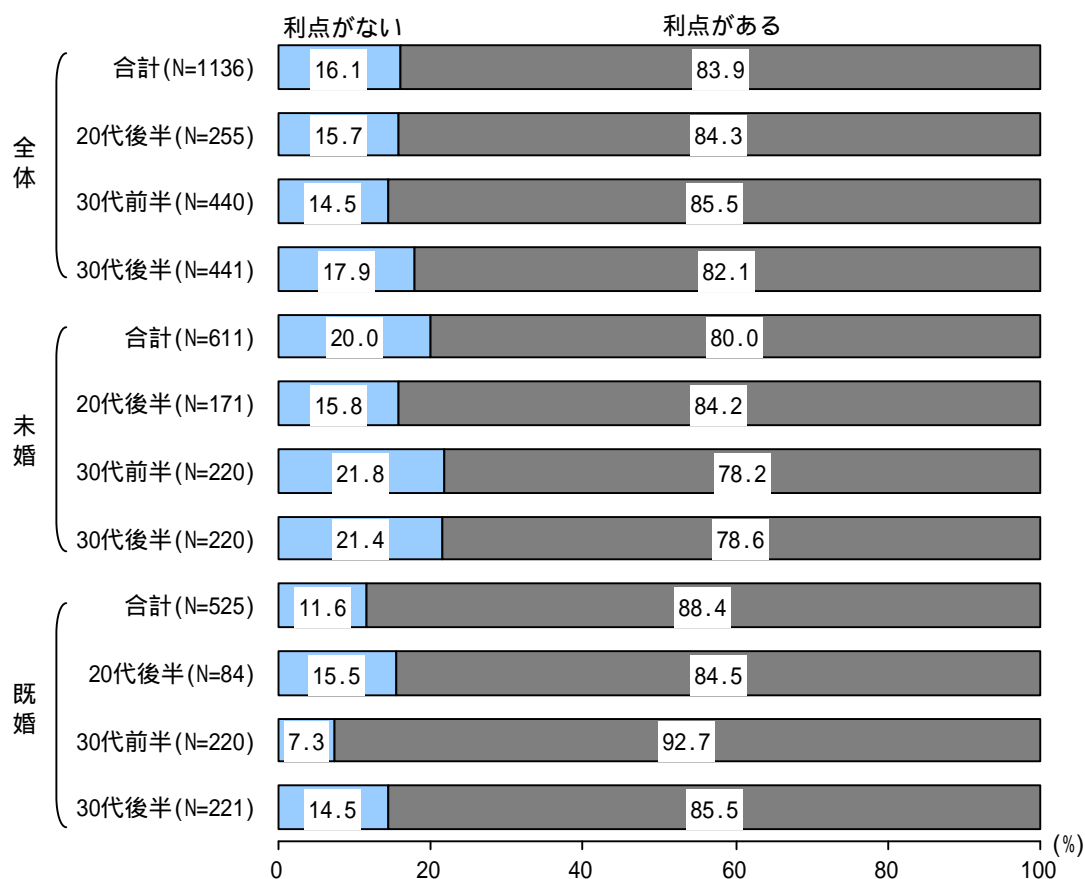
合計、年代別とも「お互いに、どちらともなく」が高く、合計 45.2%、20 代後半 48.6%、30 代前半 43.0%、30 代後半 44.3%となっている。



### 3 結婚観

#### 結婚の利点の有無

(1) 結婚することは何か利点があると思ったか



#### 【概要】

全体では「利点がある」が83.9%と高く、「利点がない」は16.1%となっている。未婚者、既婚者ともに合計で「利点がある」が8割台となっている。

#### 【未婚】

合計、年代別とも「利点がある」が高く、合計80.0%、20代後半84.2%、30代前半78.2%、30代後半78.6%となっている。

#### 【既婚】

合計、年代別とも「利点がある」が高く、合計88.4%、20代後半84.5%、30代前半92.7%、30代後半85.5%となっている。

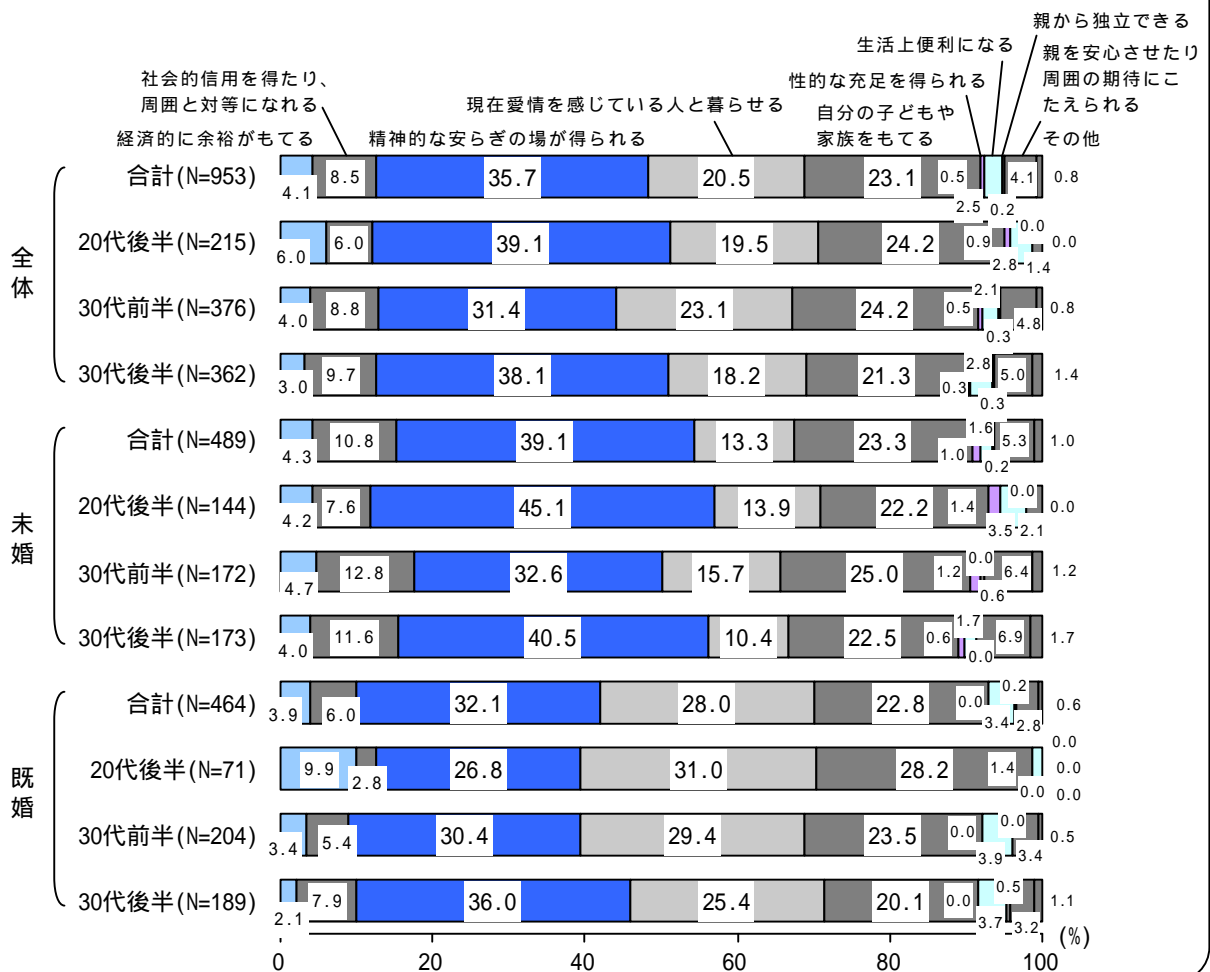
#### 【未婚の年代別・既婚の年代別】

未婚では「利点がある」は20代後半で84.2%と高いが、既婚では30代前半で92.7%と他の年代と比べ、高くなっている。

## 結婚の利点

【結婚することは利点があると回答された方におうかがいします】

(1) 今の(当時の)あなたにとって、結婚することは何か利点があると思いますか？(最大の利点)



### 【概要】

全体では「精神的な安らぎの場が得られる」が35.7%と高く、次いで「自分の子どもや家族をもてる」が23.1%となっている。未婚者、既婚者ともに合計で「精神的な安らぎの場が得られる」が最も高くなっている。

### 【未婚】

合計、年代別とも「精神的な安らぎの場が得られる」が高く、合計39.1%、20代後半45.1%、30代前半32.6%、30代後半40.5%となっている。

### 【既婚】

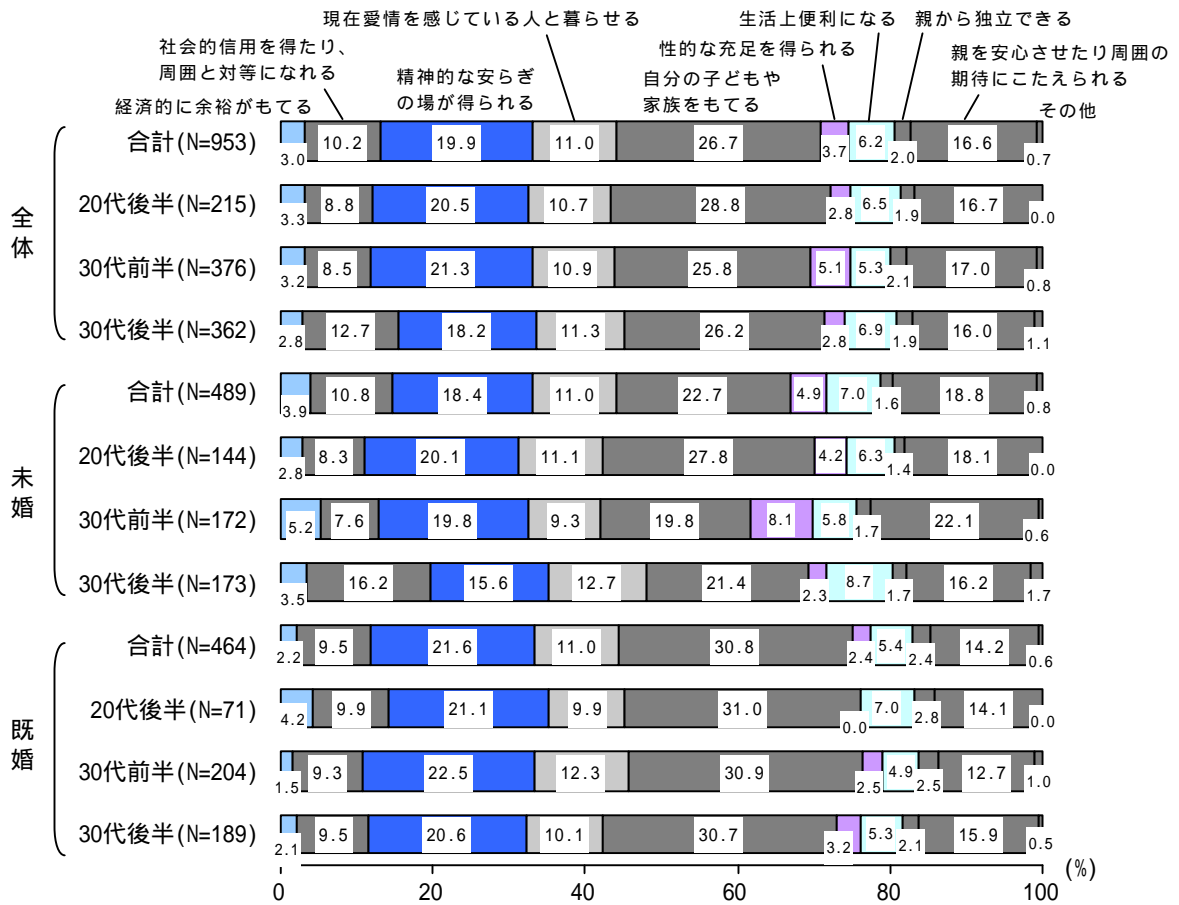
合計、30代は「精神的な安らぎの場が得られる」が高く、合計32.1%、30代前半30.4%、30代後半36.0%となっている。20代後半では「現在愛情を感じている人と暮らせる」が31.0%と最も高くなっている。

### 【未婚の年代別・既婚の年代別】

未婚の全年代・既婚の30代は「精神的な安らぎの場が得られる」、既婚の20代は「現在愛情を感じている人と暮らせる」が最も高くなっている。

【結婚することは利点があると回答された方におうかがいします】

(1) 今の(当時の)あなたにとって、結婚するとは何か利点があると思いますか？(第二の利点)



【概要】

全体では「自分の子どもや家族をもてる」が26.7%と高く、次いで「精神的な安らぎの場が得られる」が19.9%となっている。未婚者、既婚者ともに合計で「自分の子どもや家族をもてる」が最も高くなっている。

【未婚】

合計、20代後半、30代後半は「自分の子どもや家族をもてる」が高く、合計22.7%、20代後半27.8%、30代後半21.4%となっている。30代前半は「親を安心させたり周囲の期待にこたえられる」が22.1%と最も高くなっている。

【既婚】

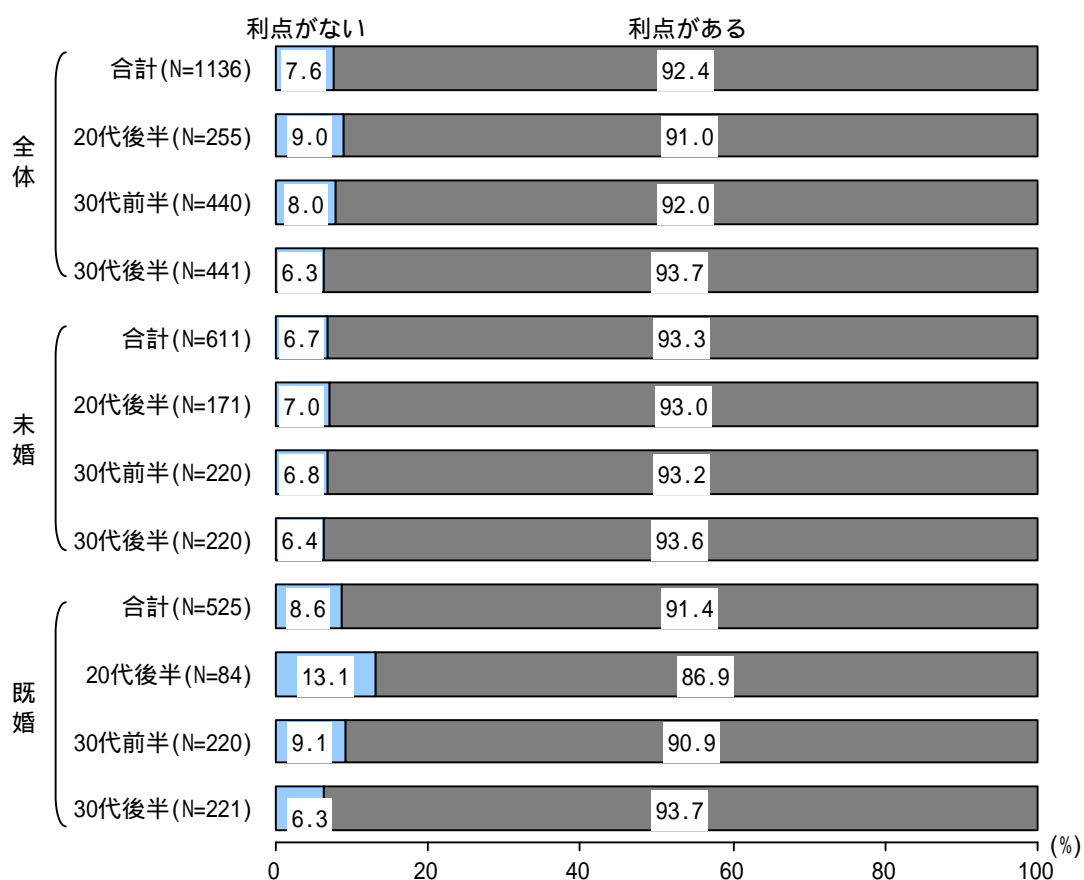
合計、年代別とも「自分の子どもや家族をもてる」が高く、合計30.8%、20代後半31.0%、30代前半30.9%、30代後半30.7%となっている。

【未婚の年代別・既婚の年代別】

未婚の20代後半、30代後半と既婚の全年代で「自分の子どもや家族をもてる」、未婚の30代前半で「親を安心させたり周囲の期待にこたえられる」が最も高くなっている。

## 独身生活の利点の有無

それでは逆に、独身生活には結婚生活にはない利点があると思いますか



### 【概要】

全体では「利点がある」が 92.4%と高く、「利点がない」は 7.6%となっている。未婚者、既婚者ともに合計で「利点がある」が高くなっている。

### 【未婚】

合計、年代別とも「利点がある」が高く、合計 93.3%、20代後半 93.0%、30代前半 93.2%、30代後半 93.6%となっている。

### 【既婚】

合計、年代別とも「利点がある」が高く、合計 91.4%、20代後半 86.9%、30代前半 90.9%、30代後半 93.7%となっている。

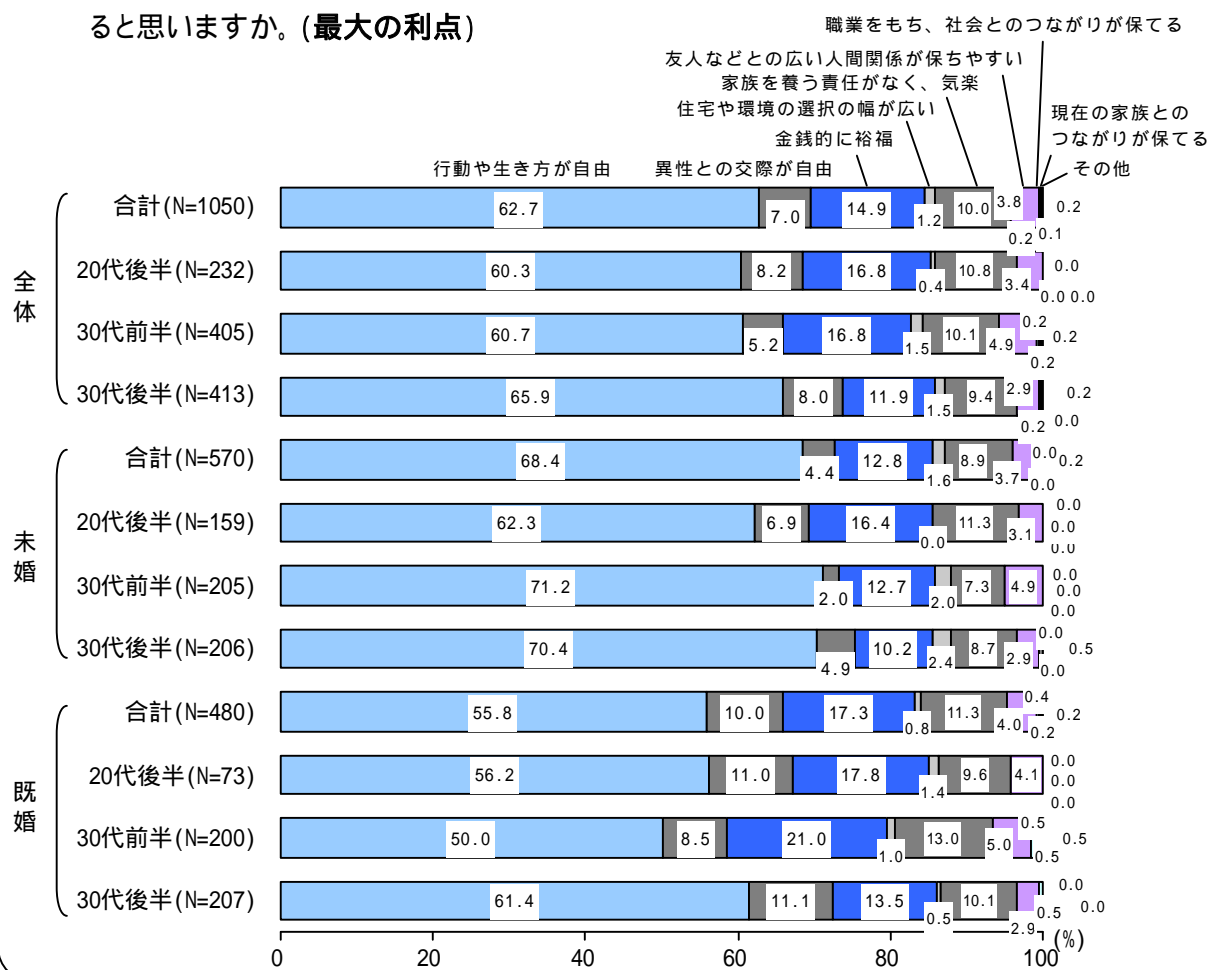
### 【未婚の年代別・既婚の年代別】

未婚全年代・既婚全年代とも「利点がある」が最も高くなっている。

## 独身生活の利点

【独身生活には結婚生活にはない利点があると回答された方におうかがいします】

(2) それでは逆に、今の(当時の)あなたにとって、独身生活には結婚生活にはない利点があると思いますか。(最大の利点)



### 【概要】

全体では「行動や生き方が自由」が62.7%と高く、次いで「金銭的に裕福」が14.9%となっている。未婚者、既婚者ともに合計で「行動や生き方が自由」が最も高くなっている。

### 【未婚】

合計、年代別とも「行動や生き方が自由」が高く、合計68.4%、20代後半62.3%、30代前半71.2%、30代後半70.4%となっている。

### 【既婚】

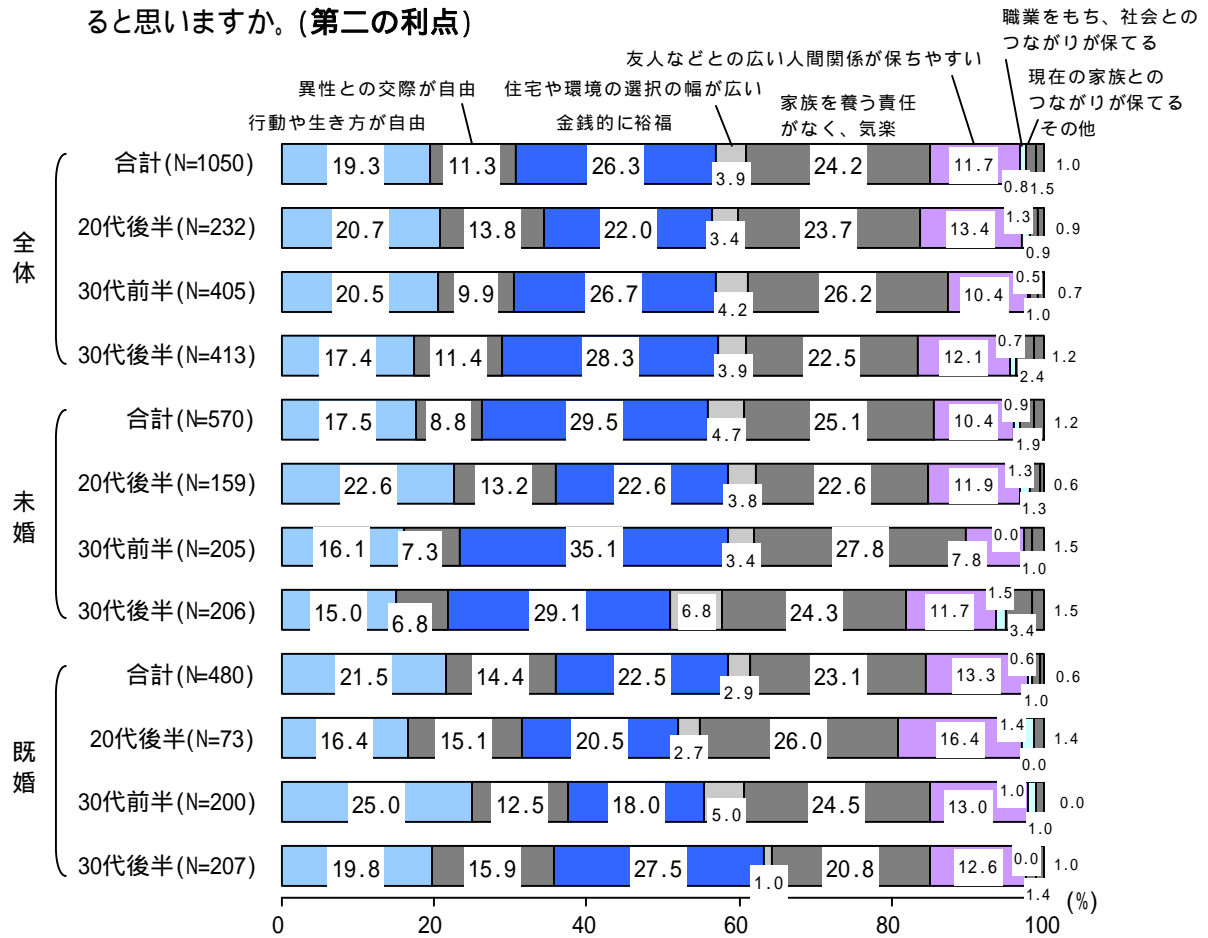
合計、年代別とも「行動や生き方が自由」が高く、合計55.8%、20代後半56.2%、30代前半50.0%、30代後半61.4%となっている。

### 【未婚の年代別・既婚の年代別】

未婚全年代・既婚全年代とも「行動や生き方が自由」が最も高くなっている。

【独身生活には結婚生活にはない利点があると回答された方におうかがいします】

(2) それでは逆に、今の(当時の)あなたにとって、独身生活には結婚生活にはない利点があると思いますか。(第二の利点)



【概要】

全体では「金銭的に裕福」が26.3%と高く、次いで「家族を養う責任がなく、気楽」が24.2%となっている。未婚者合計は「金銭的に裕福」、既婚者合計は「家族を養う責任がなく、気楽」が最も高くなっている。

【未婚】

合計、30代は「金銭的に裕福」が高く、合計29.5%、30代前半35.1%、30代後半29.1%となっている。また、20代後半は「行動や生き方が自由」「金銭的に裕福」「家族を養う責任がなく、気楽」が22.6%と最も高くなっている。

【既婚】

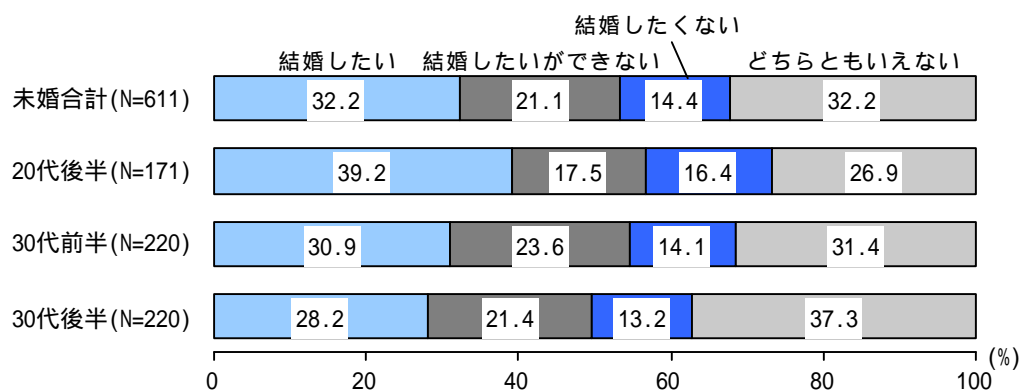
合計、20代後半は「家族を養う責任がなく、気楽」が高く、合計23.1%、20代後半26.0%となっている。また、30代前半は「行動や生き方が自由」が25.0%と高く、30代後半は「金銭的に裕福」が27.5%と高くなっている。

【未婚の年代別・既婚の年代別】

「金銭的に裕福」は全年代で未婚の方が高くなっている。「家族を養う責任がなく、気楽」は既婚では若い年代ほど高いのに対し、未婚では30代前半で高く、20代後半で最も低くなっている。「行動や生き方が自由」は未婚では20代後半で高いが、既婚では30代前半が最も高くなっている。

## 結婚に対する考え

(3) 結婚に対するあなたの現状の考えは。(ひとつだけ): 未婚者のみ

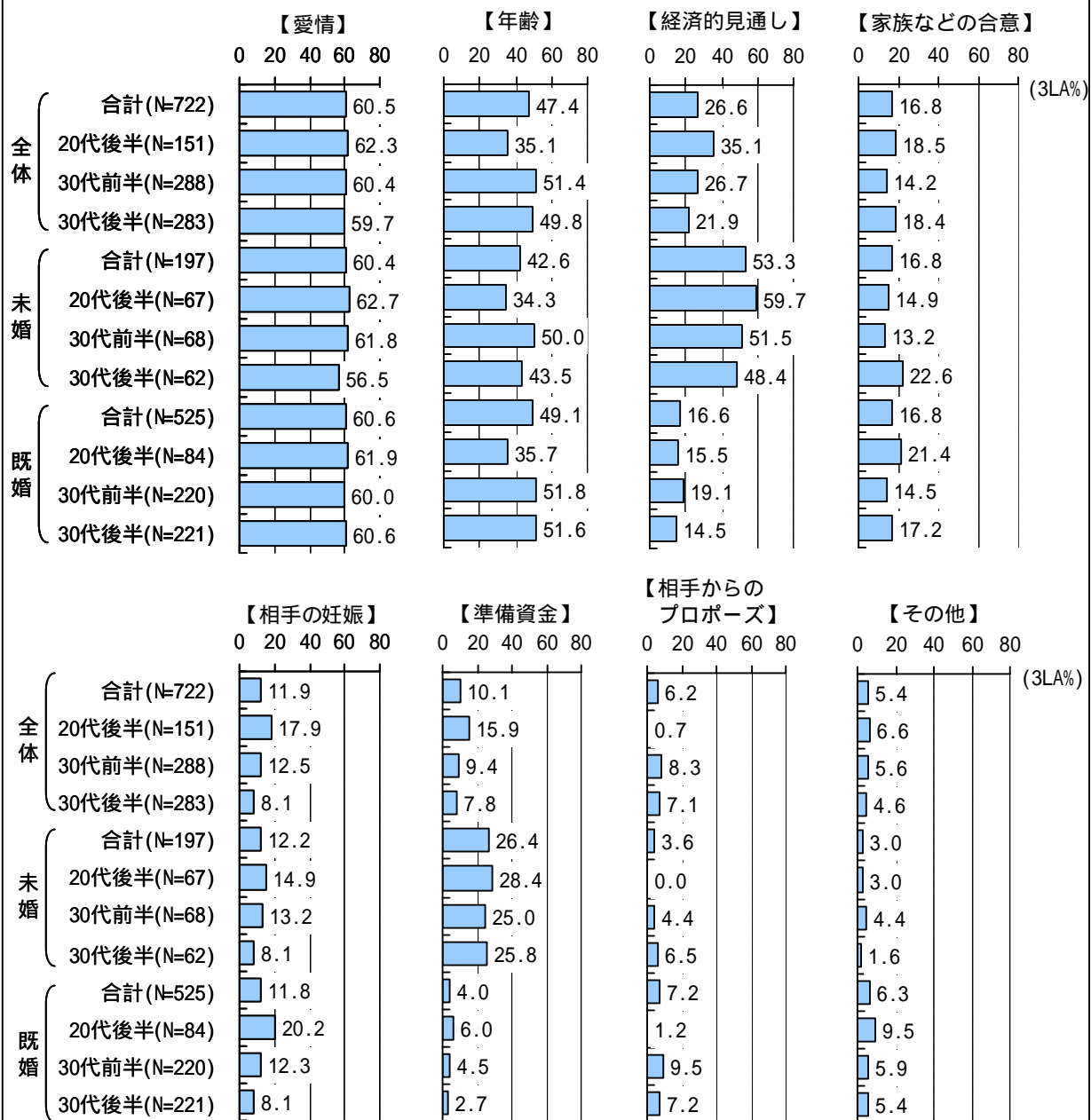


「結婚したい」は合計で32.2%となっている。20代前半では39.2%と高く、年代が上がるほど割合は低くなっている。「どちらともいえない」は30代後半で37.3%と高く、年代が上がるほど割合は高くなっている。「結婚したいができない」は30代前半で23.6%と他の年代と比べ、高くなっている。

## 結婚への決め手

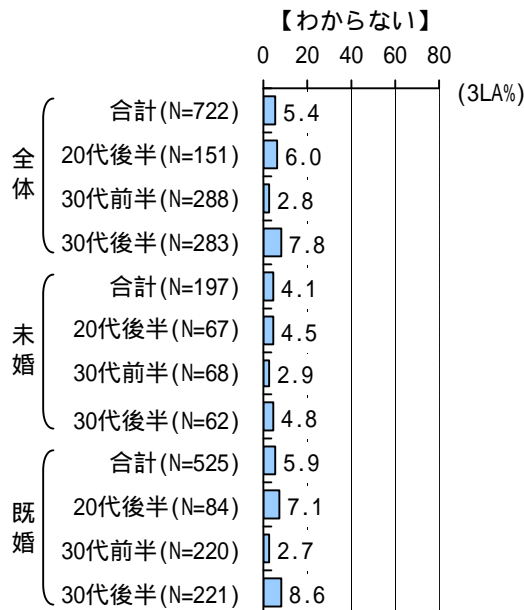
(3) - 1 あなたが今後、結婚を決断する場合の決め手は。(次の中から3つ以内):未婚者

(3)あなたが結婚をした決め手は。(次の中から3つ以内):既婚者





(3) - 1 あなたが今後、結婚を決断する場合の決め手は。(次の中から3つ以内):未婚者  
 (3)あなたが結婚をした決め手は。(次の中から3つ以内):既婚者



【概要】

全体では「愛情」が 60.5%と高く、次いで「年齢」が 47.4%となっている。また、未婚者、既婚者ともに合計で「愛情」が最も高くなっている。

【未婚】

合計、年代別とも「愛情」が高く、合計 60.4%、20代後半 62.7%、30代前半 61.8%、30代後半 56.5%となっている。

【既婚】

合計、年代別とも「愛情」が高く、合計 60.6%、20代後半 61.9%、30代前半 60.0%、30代後半 60.6%となっている。

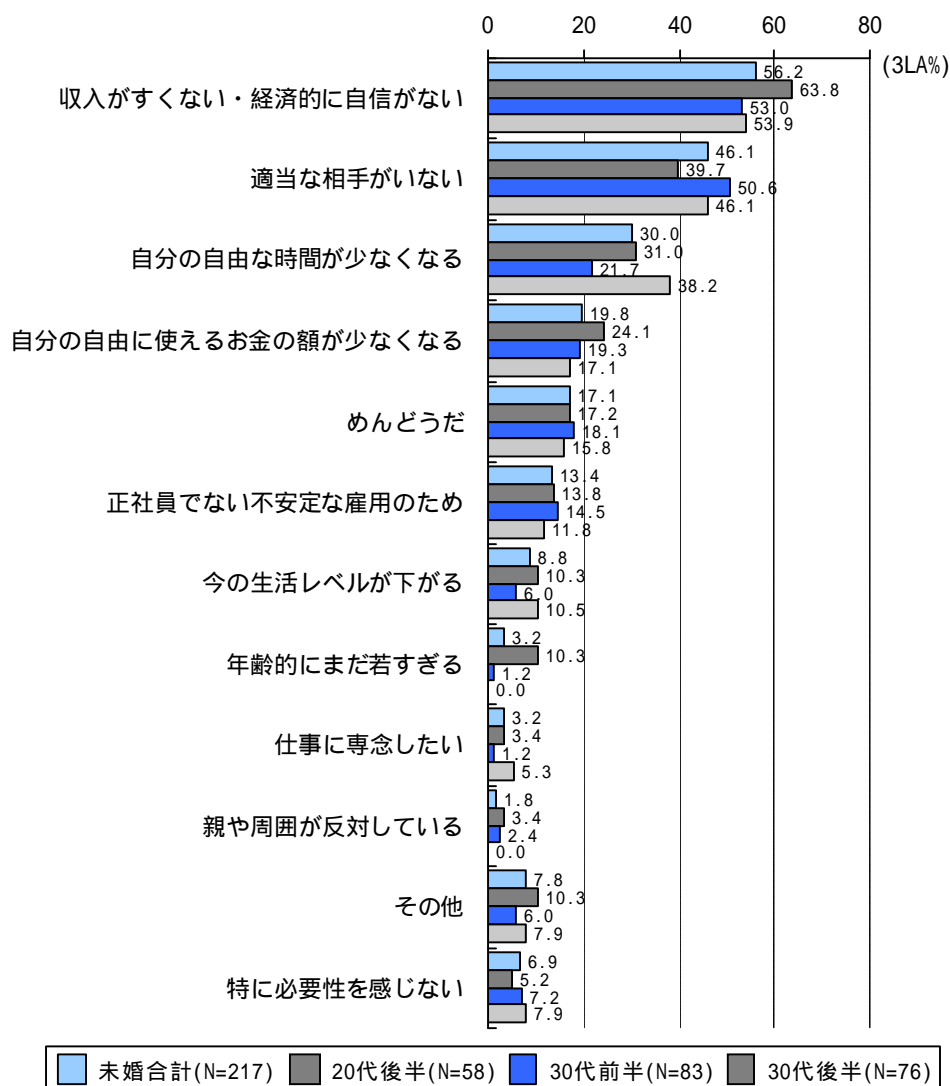
【未婚の年代別・既婚の年代別】

未婚・既婚ともに全年代で「愛情」が最も高くなっている。「経済的見通し」では未婚者合計で 53.3%と高く、既婚者合計( 16.6%)を大きく上回っている。「準備資金」でも未婚合計は 26.4%と既婚合計( 4.0%)を大きく上回っている。

## 結婚をしない理由

【結婚したいができない、結婚したくない方におうかがいします】

(3) - 2 結婚したいができない、結婚したくない理由は。(次の中から3つ以内):未婚者のみ

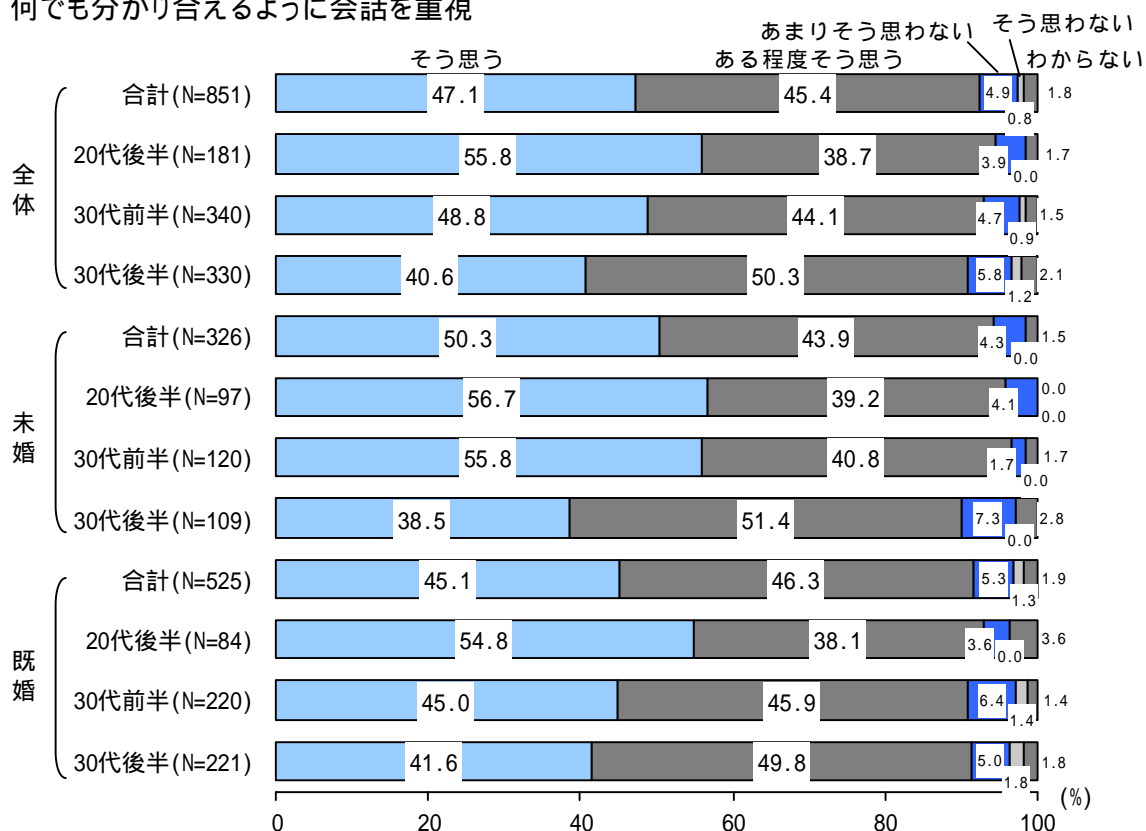


合計では、「収入がすくない・経済的に自信がない」が 56.2%と最も高く、次いで「適当な相手がいない」が 46.1%、「自分の自由な時間が少なくなる」が 30.0%となっている。「収入がすくない・経済的に自信がない」は 20 代後半で 63.8%と他の年代と比べ高く、「適当な相手がいない」は 30 代前半、30 代後半で高くなっている。

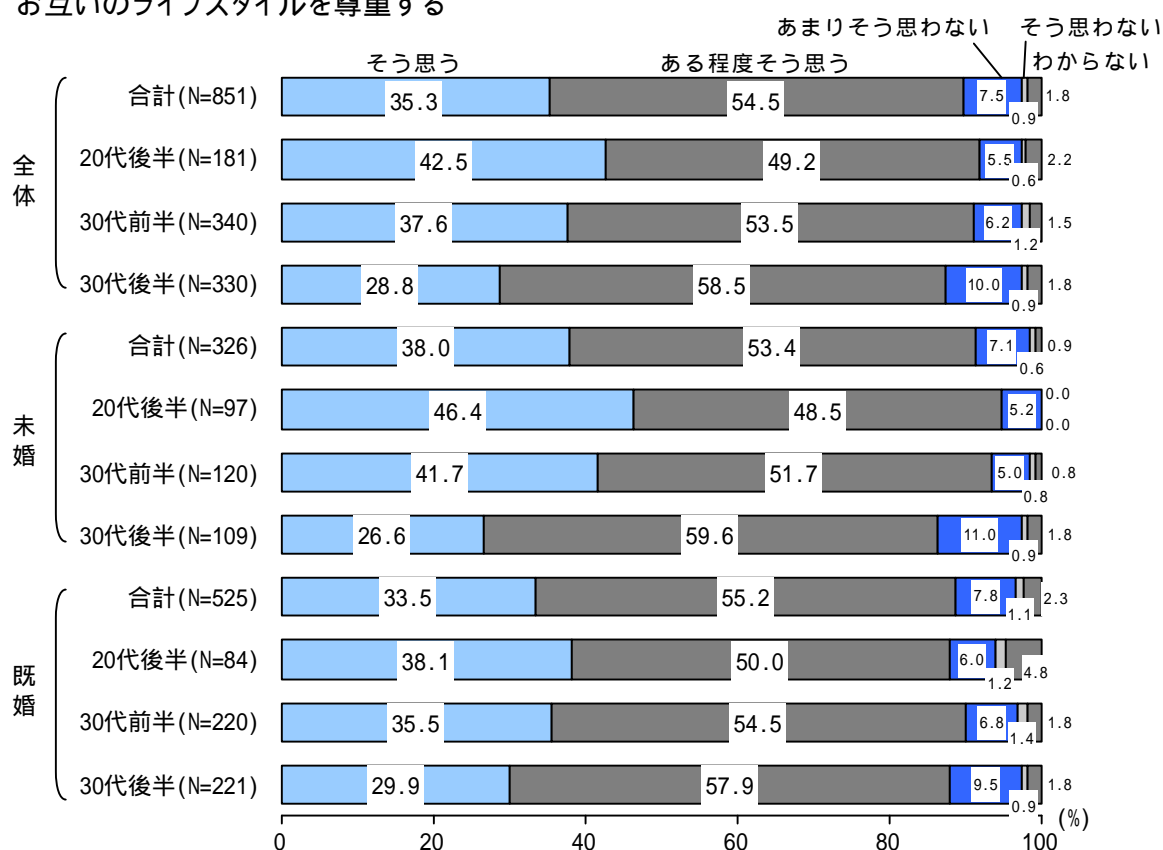
## 理想の結婚生活

(4) あなたが考える結婚生活の理想は。

何でも分かり合えるように会話を重視



お互いのライフスタイルを尊重する



何でも分かり合えるように会話を重視

**【概要】**

全体では「そう思う」が47.1%と高く、「ある程度そう思う」が45.4%となっている。未婚者合計は「そう思う」が高く、既婚者合計は「ある程度そう思う」が高くなっている。

**【未婚】**

合計、20代後半、30代前半は「そう思う」が高く、合計50.3%、20代後半56.7%、30代前半55.8%となっている。また、30代後半は「ある程度そう思う」が51.4%と高くなっている。

**【既婚】**

合計、30代とも「ある程度そう思う」が高く、合計46.3%、30代前半45.9%、30代後半49.8%となっている。20代後半は「そう思う」が54.8%と高くなっている。

**【未婚の年代別・既婚の年代別】**

未婚の20代後半、30代前半と既婚の20代後半は「そう思う」、未婚の30代後半と既婚の30代は「ある程度そう思う」が高くなっている。

お互いのライフスタイルを尊重する

**【概要】**

全体では「ある程度そう思う」が54.5%と高く、次いで「そう思う」が35.3%となっている。未婚者、既婚者ともに合計で「ある程度そう思う」が高くなっている。

**【未婚】**

合計、年代別とも「ある程度そう思う」が高く、合計53.4%、20代後半48.5%、30代前半51.7%、30代後半59.6%となっている。

**【既婚】**

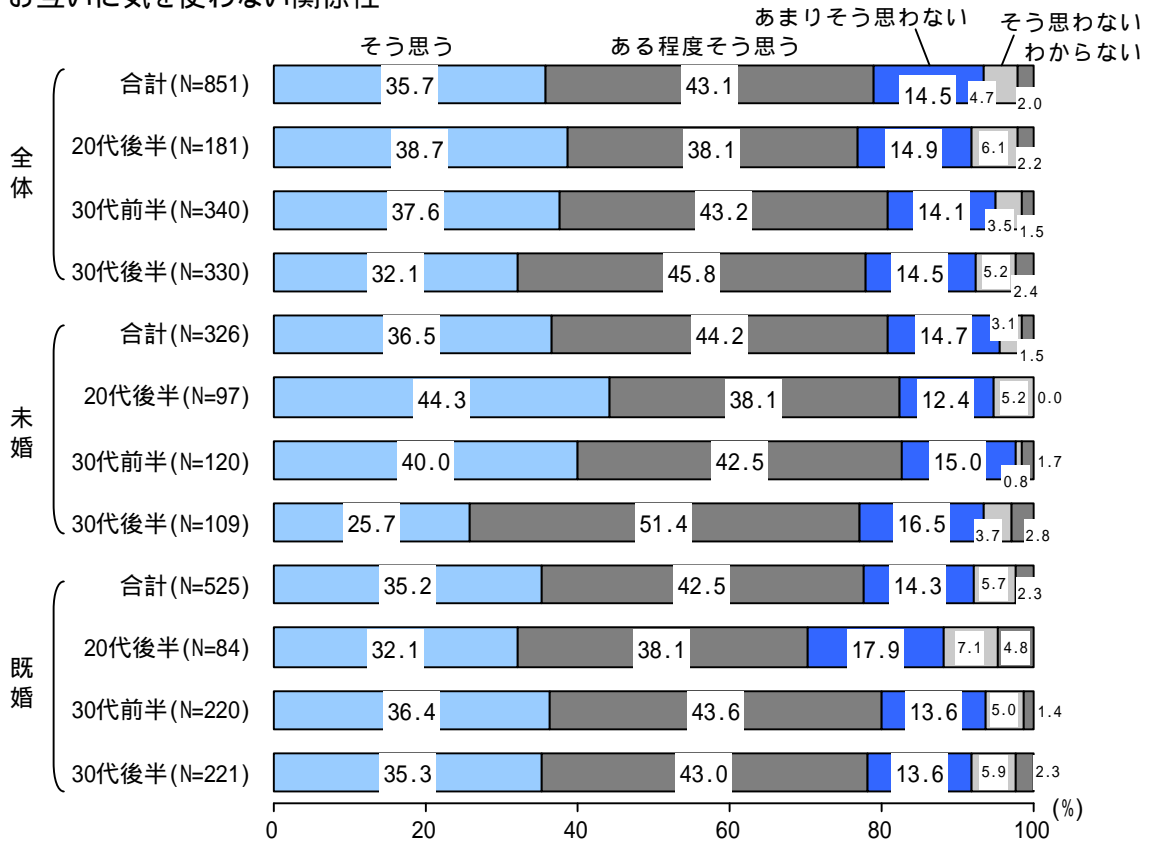
合計、年代別とも「ある程度そう思う」が高く、合計55.2%、20代後半50.0%、30代前半54.5%、30代後半57.9%となっている。

**【未婚の年代別・既婚の年代別】**

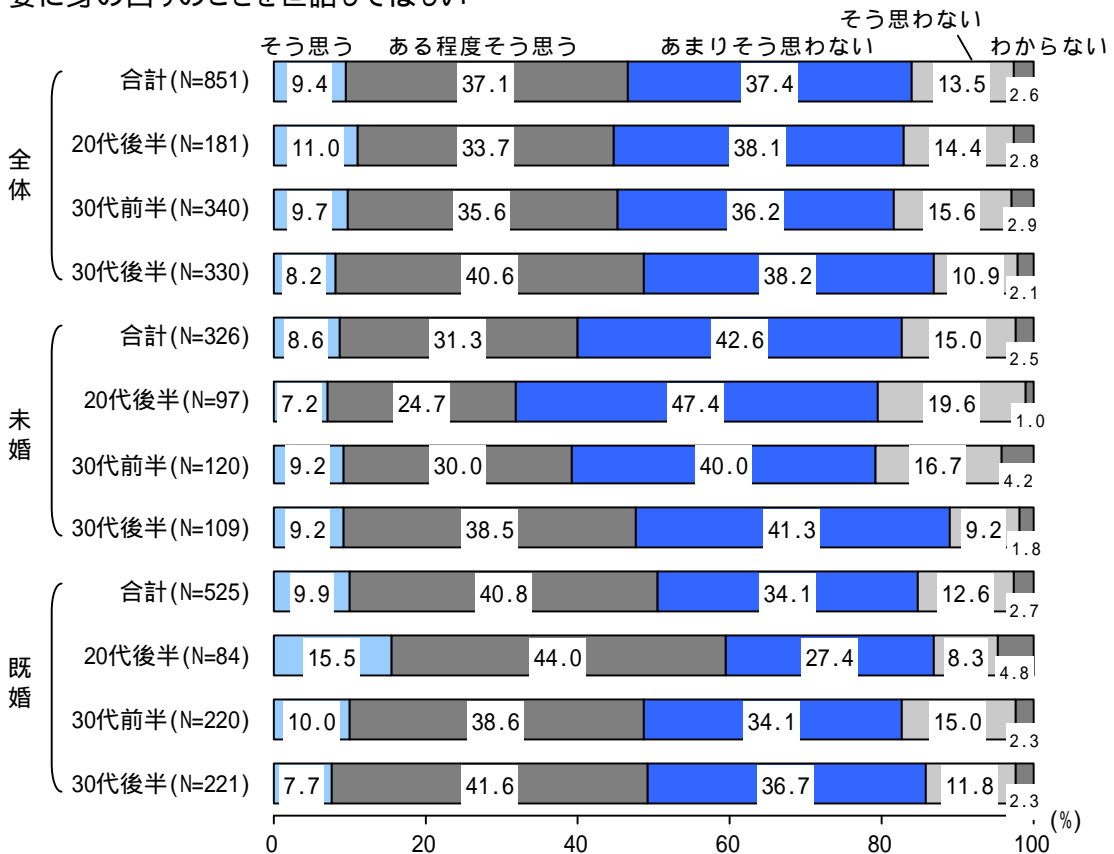
未婚全年代・既婚全年代とも「ある程度そう思う」が高くなっている。

(4) あなたが考える結婚生活の理想は。

お互いに気を使わない関係性



妻に身の回りのことを世話してほしい



## お互いに気を使わない関係性

### 【概要】

全体では「ある程度そう思う」が43.1%と高く、「そう思う」が35.7%となっている。未婚者、既婚者ともに合計で「ある程度そう思う」が高くなっている。

### 【未婚】

合計、30代は「ある程度そう思う」が高く、合計44.2%、30代前半は42.5%、30代後半は51.4%となっている。20代後半は「そう思う」が44.3%と高くなっている。

### 【既婚】

合計、年代別とも「ある程度そう思う」が高く、合計42.5%、20代後半38.1%、30代前半43.6%、30代後半43.0%となっている。

### 【未婚の年代別・既婚の年代別】

未婚の30代と既婚全年代で「ある程度そう思う」、未婚の20代後半で「そう思う」が高くなっている。

## 妻に身の回りのことを世話してほしい

### 【概要】

全体では「あまりそう思わない」が37.4%と高く、「ある程度そう思う」は37.1%となっている。未婚者合計は「あまりそう思わない」が高く、既婚者合計は「ある程度そう思う」が高くなっている。

### 【未婚】

合計、年代別とも「あまりそう思わない」が高く、合計42.6%、20代後半47.4%、30代前半40.0%、30代後半41.3%となっている。

### 【既婚】

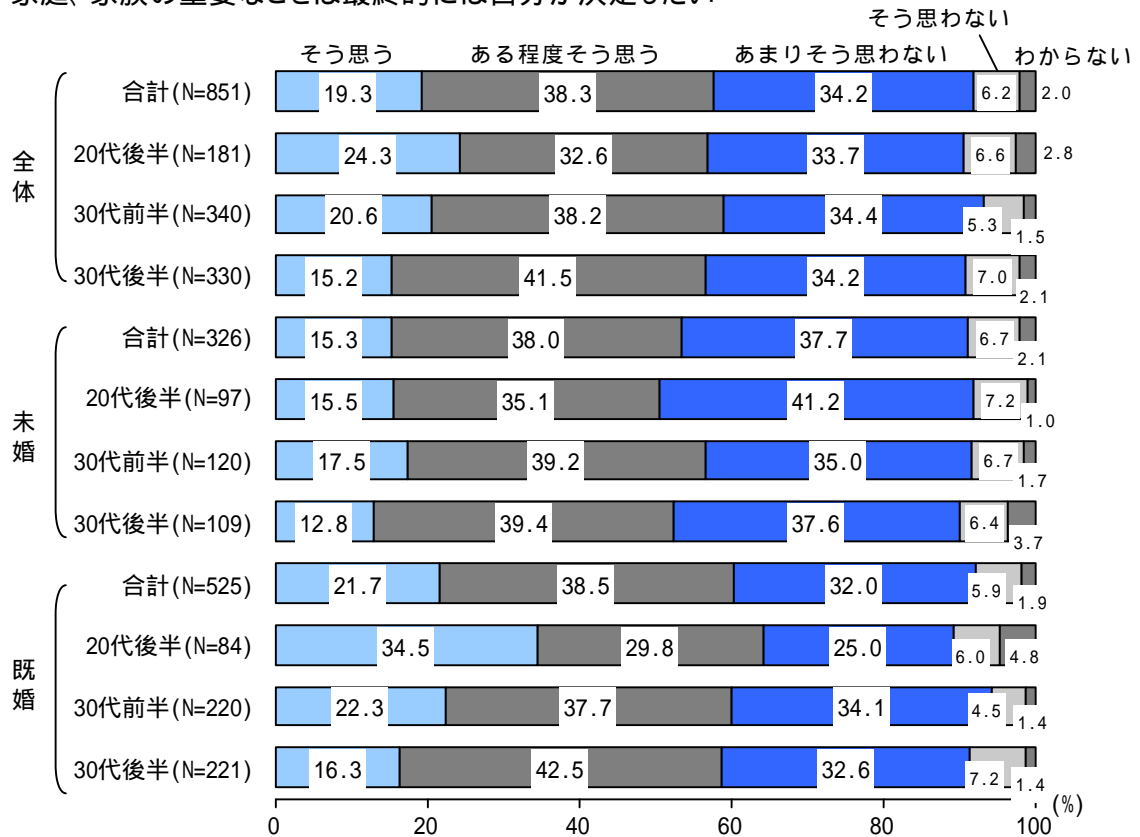
合計、年代別とも「ある程度そう思う」が高く、合計40.8%、20代後半44.0%、30代前半38.6%、30代後半41.6%となっている。

### 【未婚の年代別・既婚の年代別】

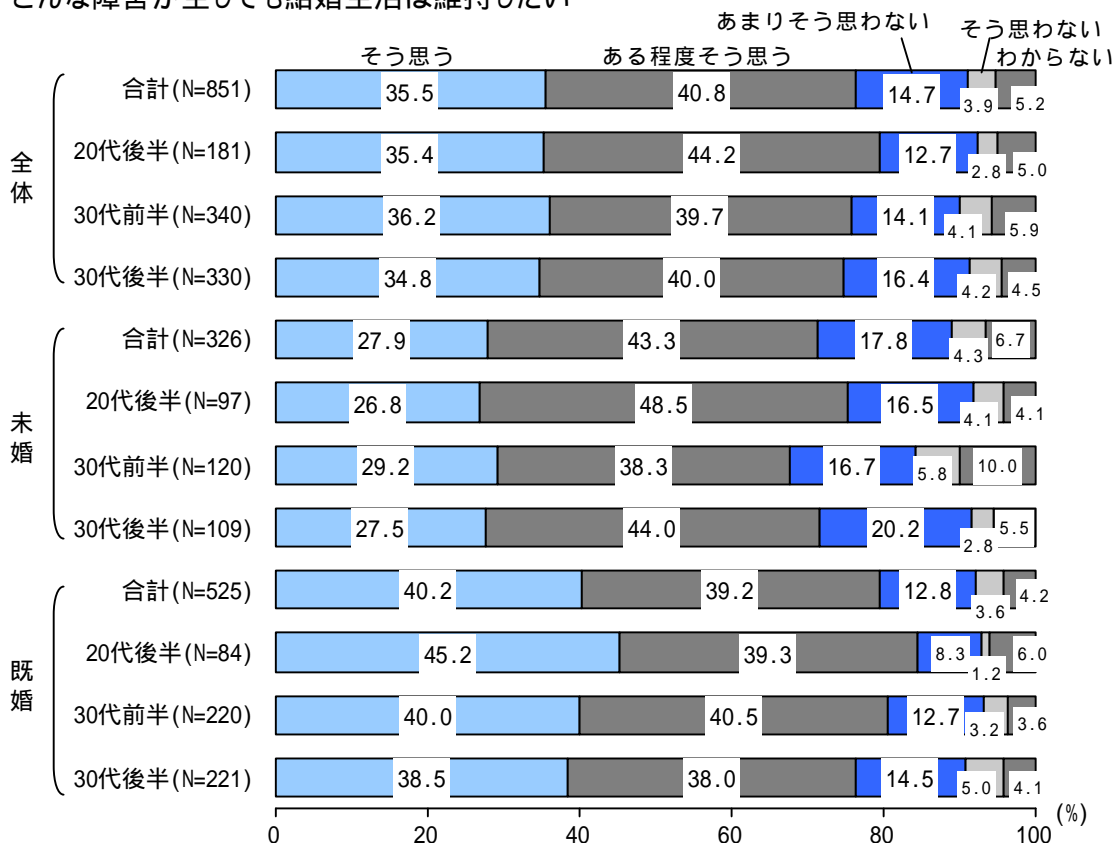
未婚の全年代で「あまりそう思わない」、既婚の全年代では「ある程度そう思う」が高くなっている。

(4) あなたが考える結婚生活の理想は。

家庭、家族の重要なことは最終的には自分が決定したい



どんな障害が生じても結婚生活は維持したい



家庭、家族の重要なことは最終的には自分が決定したい

**【概要】**

全体では「ある程度そう思う」が38.3%と高く、「あまりそう思わない」は34.2%となっている。未婚者、既婚者ともに合計で「ある程度そう思う」が高くなっている。

**【未婚】**

合計、30代は「ある程度そう思う」が高く、合計38.0%、30代前半39.2%、30代後半39.4%となっている。また、20代後半は「あまりそう思わない」が41.2%と高くなっている。

**【既婚】**

合計、30代は「ある程度そう思う」が高く、合計38.5%、30代前半37.7%、30代後半42.5%となっている。また、20代後半は「そう思う」が34.5%と高くなっている。

**【未婚の年代別・既婚の年代別】**

未婚の30代と既婚の30代は「ある程度そう思う」、未婚の20代後半は「あまりそう思わない」、既婚の20代後半は「そう思う」が高くなっている。

どんな障害が生じても結婚生活は維持したい

**【概要】**

全体では「ある程度そう思う」が40.8%と高く、「そう思う」が35.5%となっている。未婚者合計は「ある程度そう思う」が高く、既婚者合計は「そう思う」が高くなっている。

**【未婚】**

合計、年代別とも「ある程度そう思う」が高く、合計43.3%、20代後半48.5%、30代前半38.3%、30代後半44.0%となっている。

**【既婚】**

合計、20代後半、30代後半は「そう思う」が高く、合計40.2%、20代後半45.2%、30代後半38.5%となっている。30代前半は「ある程度そう思う」が40.5%と高くなっている。

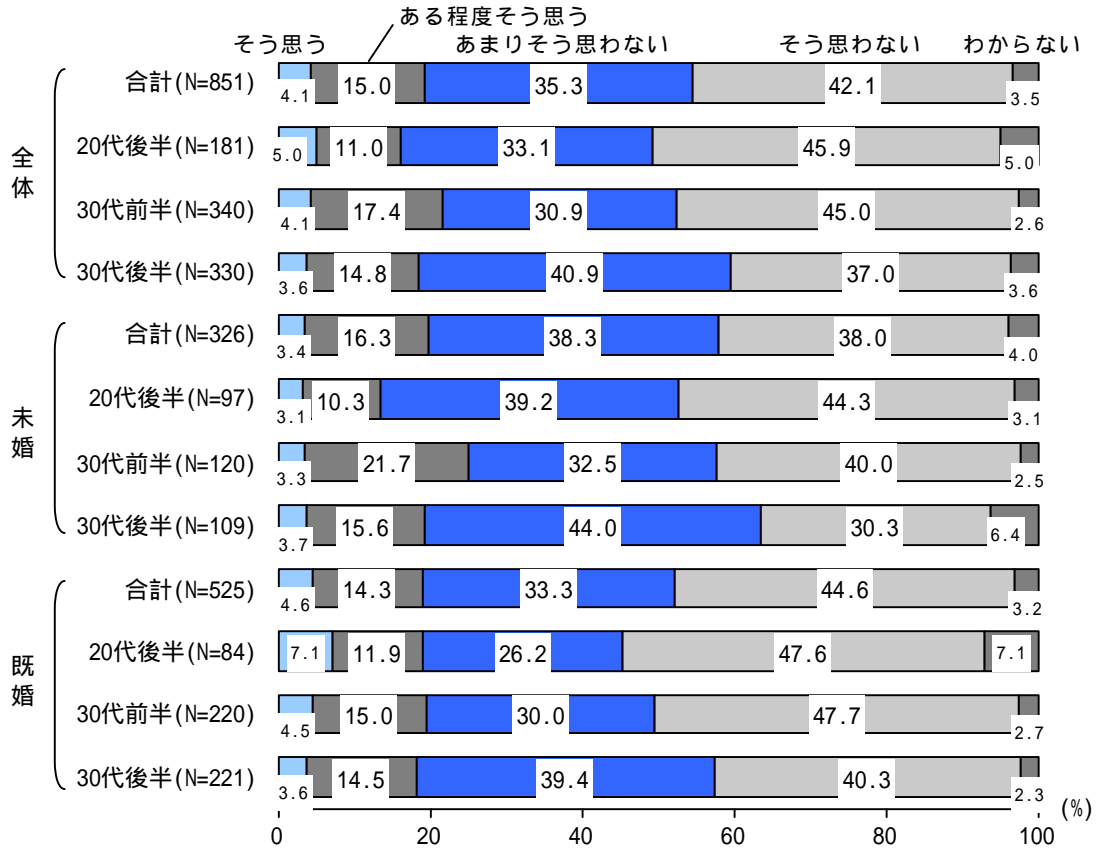
**【未婚の年代別・既婚の年代別】**

未婚全年代と既婚の30代前半は「ある程度そう思う」、既婚の20代後半、30代後半は「そう思う」が高くなっている。

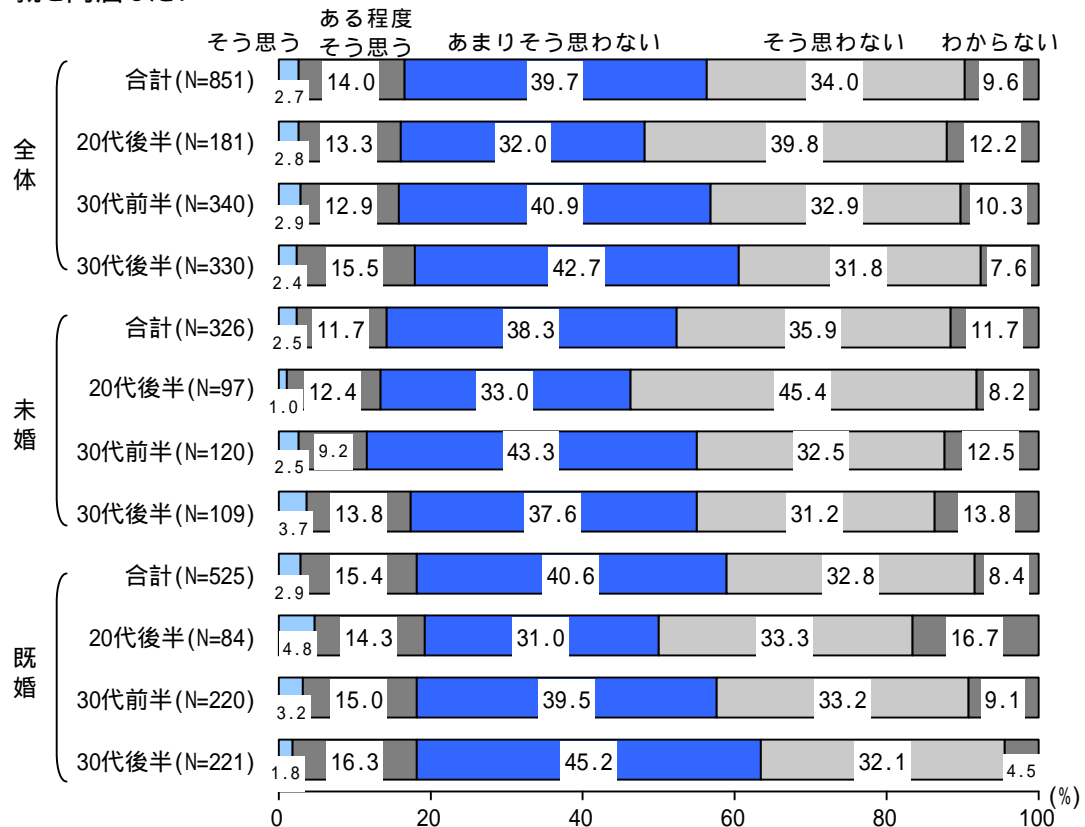


(4) あなたが考える結婚生活の理想は。

お互いの実家や親戚付き合いはしたくない



親と同居したい



お互いの実家や親戚付き合いはしたくない

**【概要】**

全体では「そう思わない」が 42.1%と高く、「あまりそう思わない」が 35.3%となっている。既婚者合計は「そう思わない」が高く、未婚者合計は「あまりそう思わない」が高くなっている。

**【未婚】**

合計、30代後半は「あまりそう思わない」が高く、合計 38.3%、30代後半 44.0%となっている。20代後半と30代前半は「そう思わない」が高く、20代後半 44.3%、30代前半 40.0%となっている。

**【既婚】**

合計、年代別とも「そう思わない」が高く、合計 44.6%、20代後半 47.6%、30代前半 47.7%、30代後半 40.3%となっている。

**【未婚の年代別・既婚の年代別】**

未婚の20代後半、30代前半と既婚全年代は「そう思わない」、未婚の30代後半は「あまりそう思わない」が高くなっている。

親と同居したい

**【概要】**

全体では「あまりそう思わない」が 39.7%と高く、「そう思わない」が 34.0%となっている。未婚者、既婚者ともに合計で「あまりそう思わない」が高くなっている。

**【未婚】**

合計、30代は「あまりそう思わない」が高く、合計 38.3%、30代前半 43.3%、30代後半 37.6%となっている。20代後半は「そう思わない」が 45.4%と高くなっている。

**【既婚】**

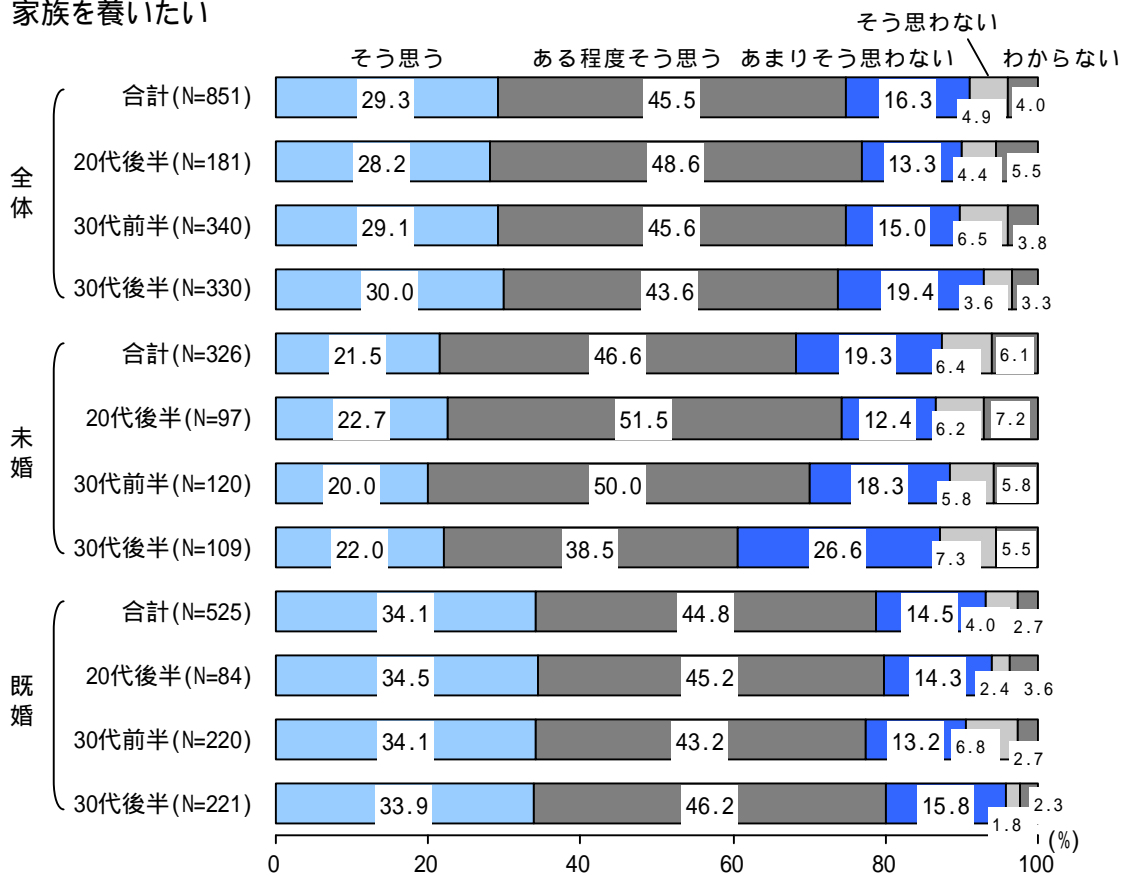
合計、30代は「あまりそう思わない」が高く、合計 40.6%、30代前半 39.5%、30代後半 45.2%となっている。20代後半は「そう思わない」が 33.3%と高くなっている。

**【未婚の年代別・既婚の年代別】**

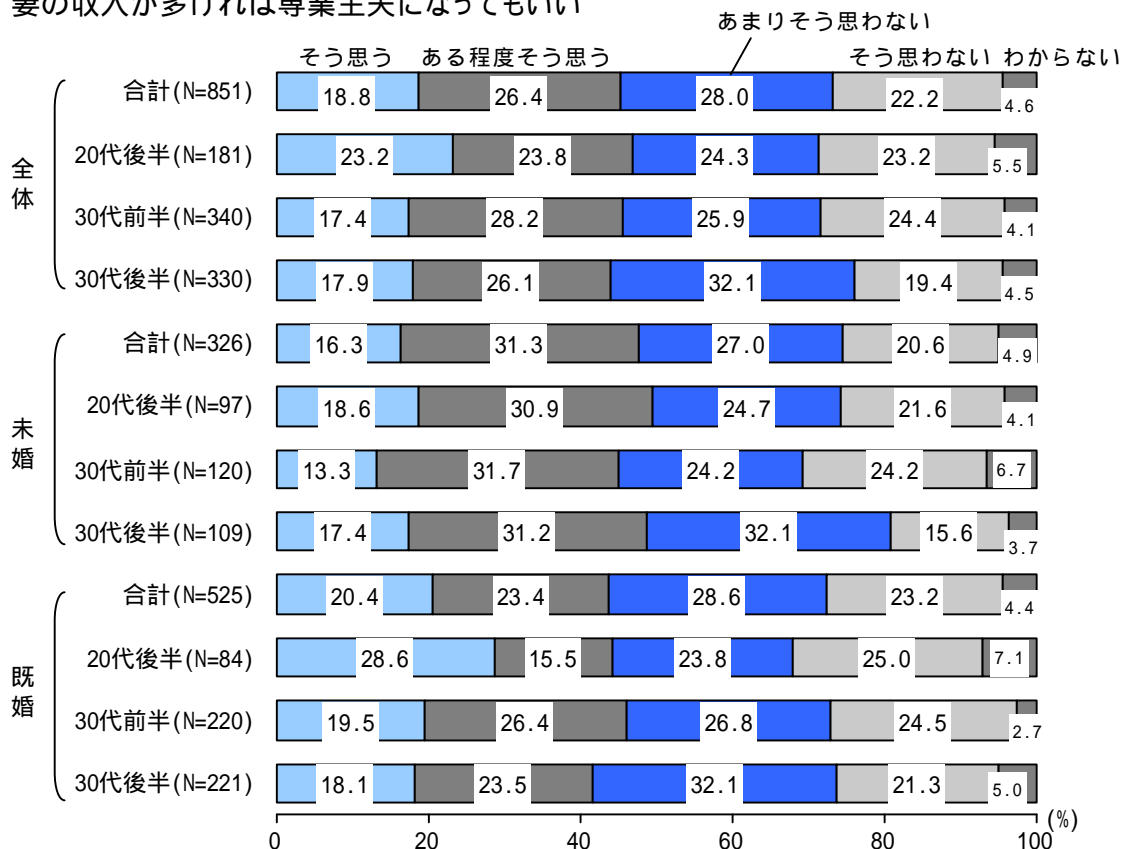
未婚の30代と既婚の30代は「あまりそう思わない」、未婚の20代後半と既婚の20代後半は「そう思わない」が高くなっている。

(4) あなたが考える結婚生活の理想は。

家族を養いたい



妻の収入が多ければ専業主夫になってもいい



## 家族を養いたい

### 【概要】

全体では「ある程度そう思う」が 45.5%と高く、「そう思う」が 29.3%となっている。未婚者、既婚者ともに合計で「ある程度そう思う」が高くなっている。

### 【未婚】

合計、年代別とも「ある程度そう思う」が高く、合計 46.6%、20代後半 51.5%、30代前半 50.0%、30代後半 38.5%となっている。

### 【既婚】

合計、年代別とも「ある程度そう思う」が高く、合計 44.8%、20代後半 45.2%、30代前半 43.2%、30代後半 46.2%となっている。

### 【未婚の年代別・既婚の年代別】

未婚全年代・既婚全年代とも「ある程度そう思う」が高くなっている。

## 妻の収入が多ければ専業主夫になってもいい

### 【概要】

全体では「あまりそう思わない」が 28.0%と高く、「ある程度そう思う」が 26.4%となっている。また、既婚者合計は「あまりそう思わない」が高く、未婚者合計は「ある程度そう思う」が高くなっている。

### 【未婚】

合計、20代後半、30代前半は「ある程度そう思う」が高く、合計 31.3%、20代後半 30.9%、30代前半 31.7%、30代後半は「あまりそう思わない」が高く 32.1%となっている。

### 【既婚】

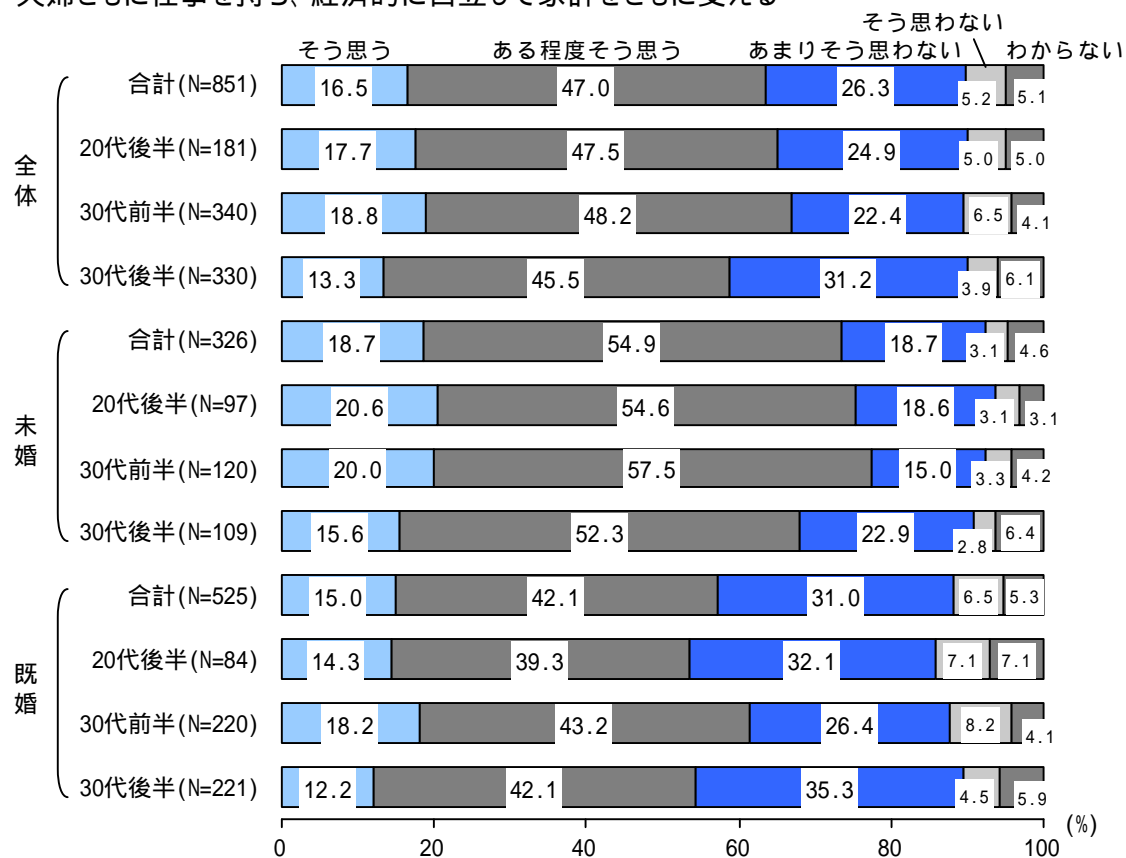
合計、30代は「あまりそう思わない」が高く、合計 28.6%、30代前半 26.8%、30代後半 32.1%となっている。また、20代後半は「そう思う」が 28.6%と高くなっている。

### 【未婚の年代別・既婚の年代別】

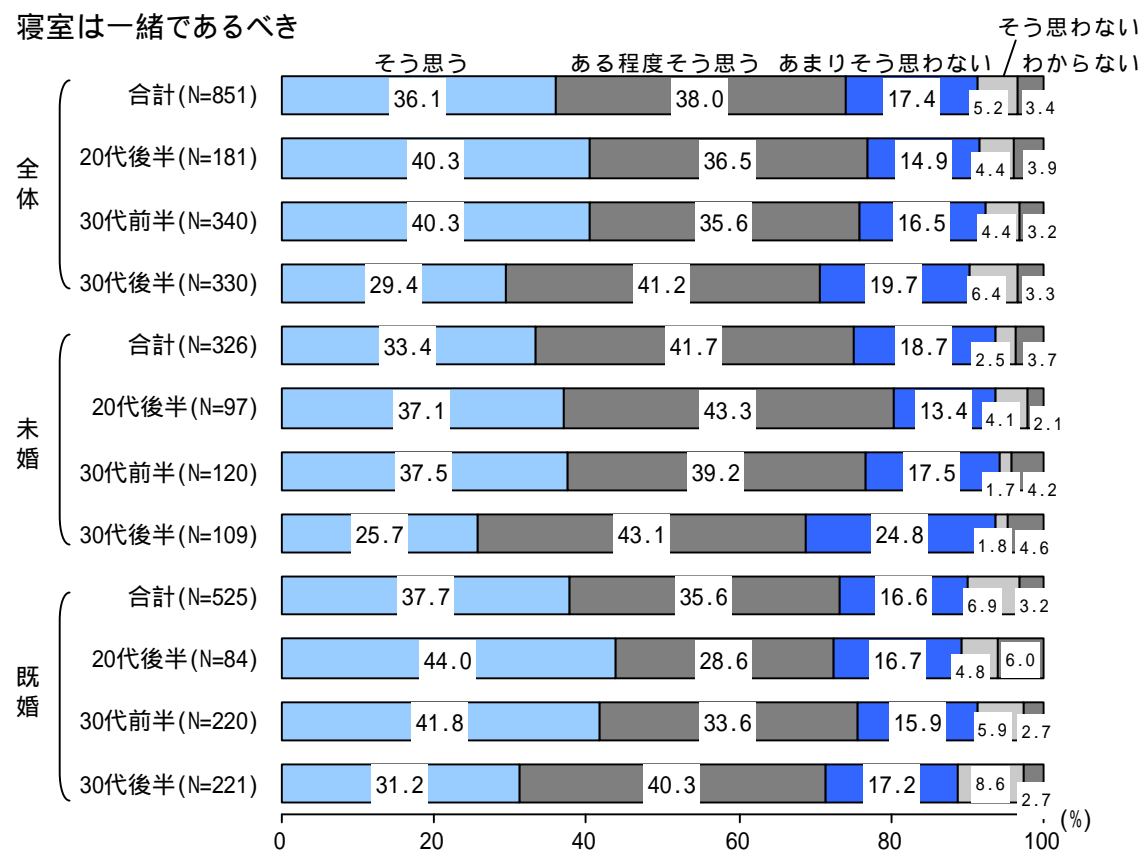
未婚・既婚とも 30代後半では「あまりそう思わない」が高くなっている。

(4) あなたが考える結婚生活の理想は。

夫婦ともに仕事を持ち、経済的に自立して家計をともに支える



寝室は一緒であるべき



夫婦ともに仕事を持ち、経済的に自立して家計をともに支える

**【概要】**

全体では「ある程度そう思う」が最も高く 47.0%、次いで「あまりそう思わない」が 26.3%となっている。また、未婚者、既婚者ともに合計で「ある程度そう思う」の割合が最も高く、未婚者で 54.9%、既婚者では 42.1%とその差は大きくなっている。

**【未婚】**

合計、年代別とも「ある程度そう思う」が高く、合計 54.9%、20代後半 54.6%、30代前半 57.5%、30代後半 52.3%となっている。

**【既婚】**

合計、年代別とも「ある程度そう思う」が高く、合計 42.1%、20代後半 39.3%、30代前半 43.2%、30代後半 42.1%となっている。

**【未婚の年代別・既婚の年代別】**

未婚・既婚ともに全年代で「ある程度そう思う」が高くなっている。

寝室は一緒であるべき

**【概要】**

全体では「ある程度そう思う」が 38.0%と高く、「そう思う」が 36.1%となっている。また、未婚者合計は「ある程度そう思う」が高く、既婚者合計は「そう思う」が最も高くなっている。

**【未婚】**

合計、年代別とも「ある程度そう思う」が高く、合計 41.7%、20代後半 43.3%、30代前半 39.2%、30代後半 43.1%となっている。

**【既婚】**

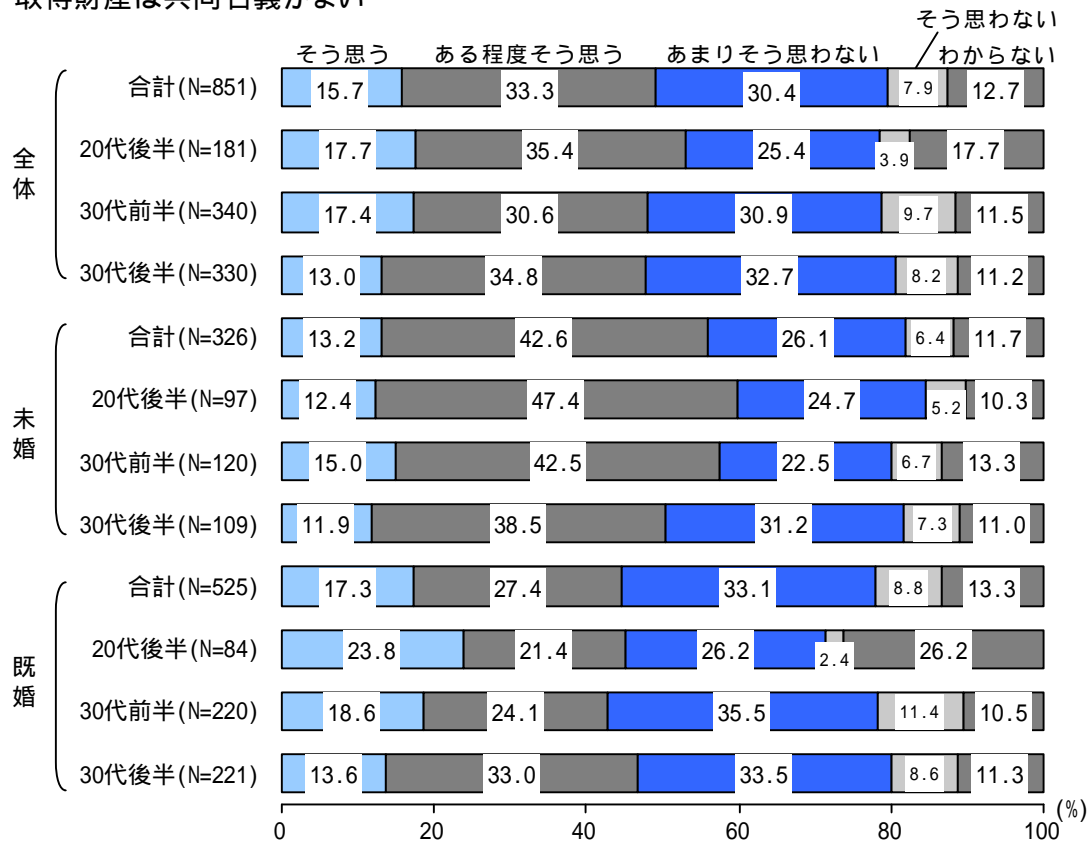
合計、20代後半、30代前半は「そう思う」が高く、合計 37.7%、20代後半 44.0%、30代前半 41.8%となっている。30代後半は「ある程度そう思う」が高く 40.3%となっている。

**【未婚の年代別・既婚の年代別】**

未婚の全年代と既婚の 30代後半は「ある程度そう思う」、既婚の 20代後半、30代前半は「そう思う」が高くなっている。

(4) あなたが考える結婚生活の理想は。

取得財産は共同名義がよい



取得財産は共同名義がよい

【概要】

全体では「ある程度そう思う」が 33.3%と高く、「あまりそう思わない」が 30.4%となっている。未婚者合計は「ある程度そう思う」が高く、既婚者合計は「あまりそう思わない」割合が高くなっている。

【未婚】

合計、年代別とも「ある程度そう思う」が高く、合計 42.6%、20代後半 47.4%、30代前半 42.5%、30代後半 38.5%となっている。

【既婚】

合計、年代別とも「あまりそう思わない」が高く、合計 33.1%、20代後半 26.2%、30代前半 35.5%、30代後半 33.5%となっている。

【未婚の年代別・既婚の年代別】

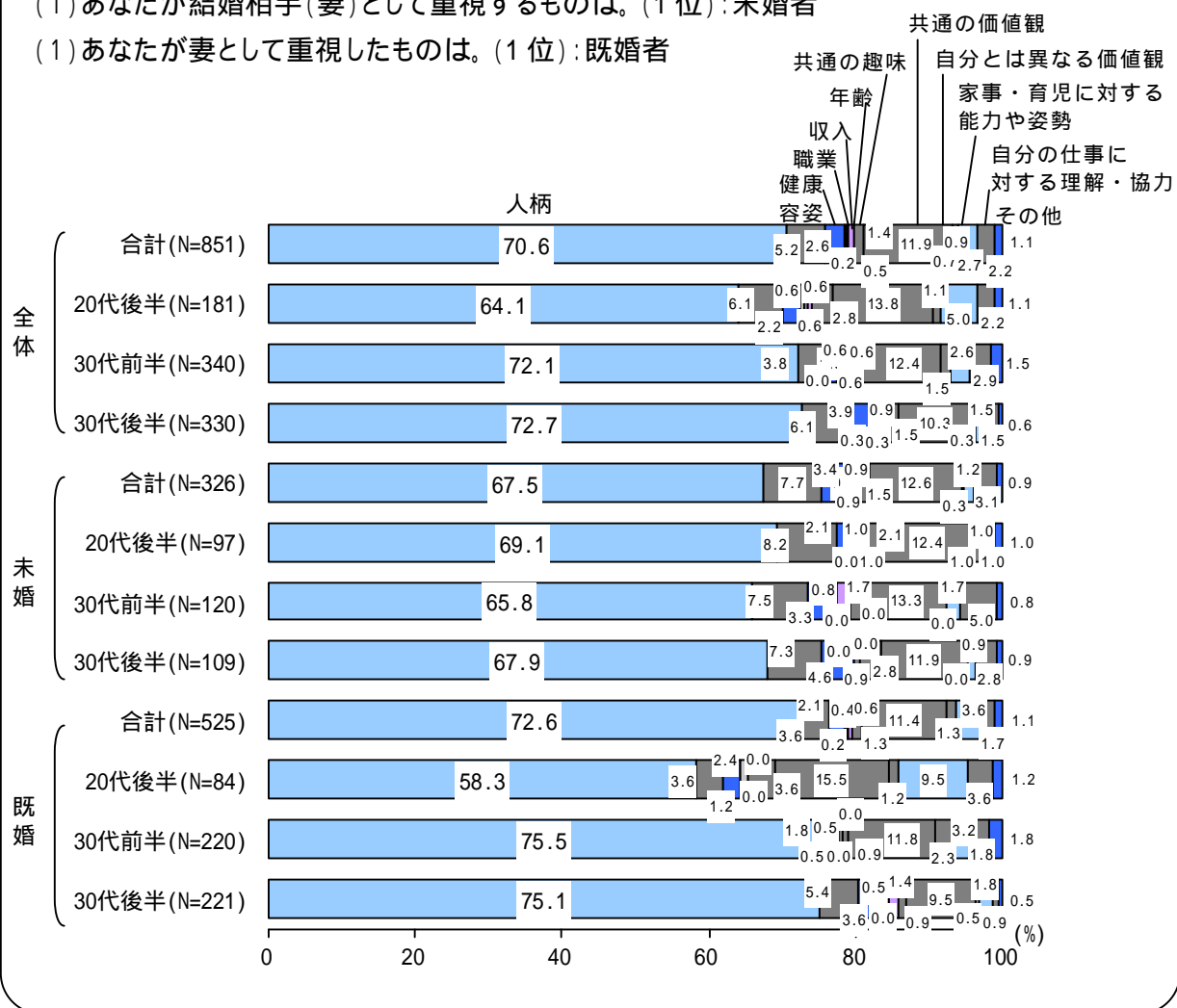
未婚全年代は「ある程度そう思う」、既婚全年代は「あまりそう思わない」が高くなっている。

## 4 妻の理想像

### 妻として重視すること

(1) あなたが結婚相手(妻)として重視するものは。(1位):未婚者

(1) あなたが妻として重視したものは。(1位):既婚者



「学歴」は0件だったため割愛

#### 【概要】

全体では「人柄」が70.6%と高く、次いで「共通の価値観」が11.9%となっている。未婚者、既婚者ともに合計で「人柄」が高くなっている。

#### 【未婚】

合計、年代別とも「人柄」が高く、合計67.5%、20代後半69.1%、30代前半65.8%、30代後半67.9%となっている。

#### 【既婚】

合計、年代別とも「人柄」が高く、合計72.6%、20代後半58.3%、30代前半75.5%、30代後半75.1%となっている。

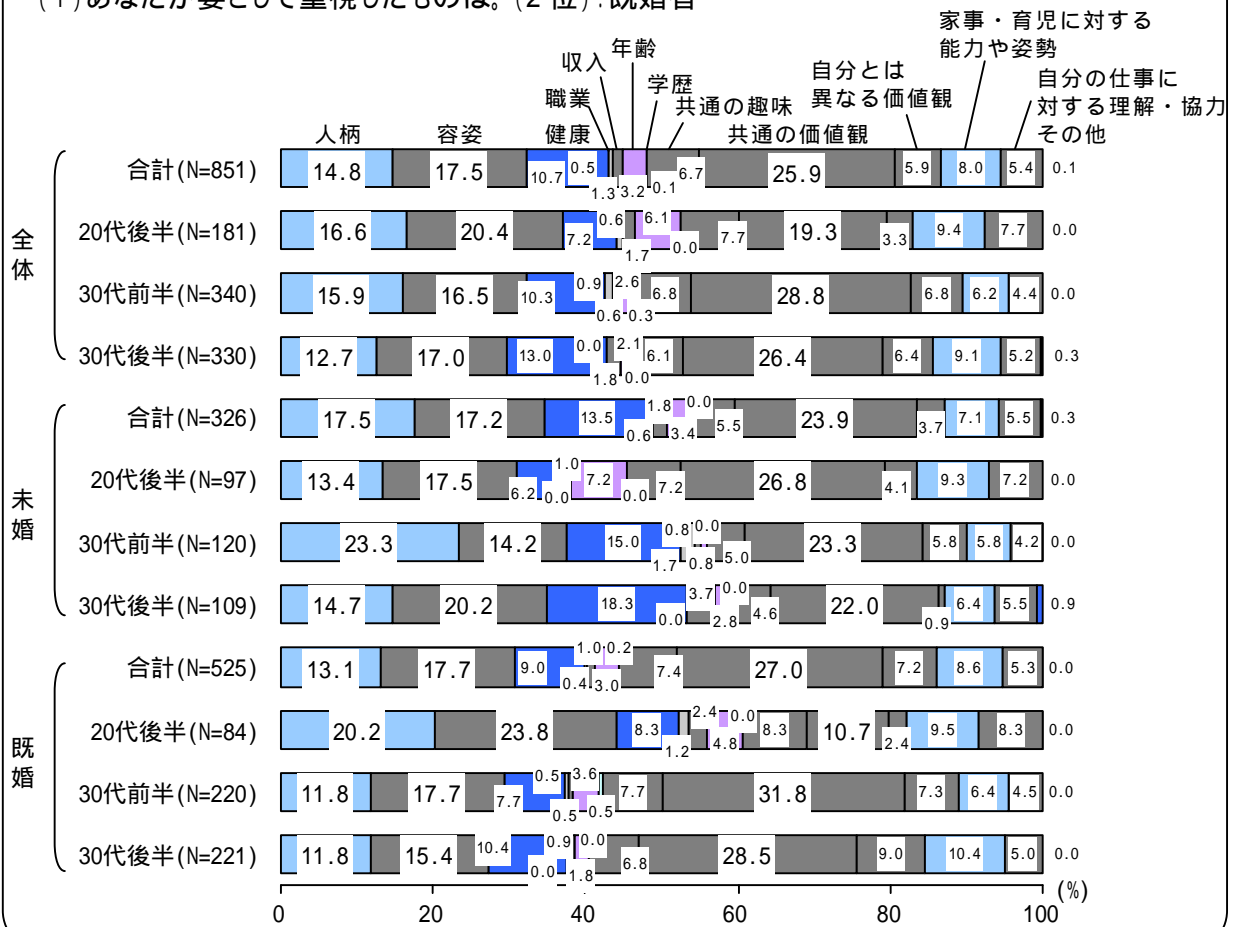
#### 【未婚の年代別・既婚の年代別】

未婚、既婚の全年代で「人柄」が高くなっている。



(1) あなたが結婚相手(妻)として重視するものは。(2位):未婚者

(1) あなたが妻として重視したものは。(2位):既婚者



【概要】

全体では「共通の価値観」が25.9%と高く、次いで「容姿」が17.5%となっている。未婚者、既婚者ともに合計で「共通の価値観」が高くなっている。

【未婚】

合計、年代別とも「共通の価値観」が高く、合計23.9%、20代後半26.8%、30代前半23.3%、30代後半22.0%となっている。30代前半は「人柄」も23.3%と高くなっている。

【既婚】

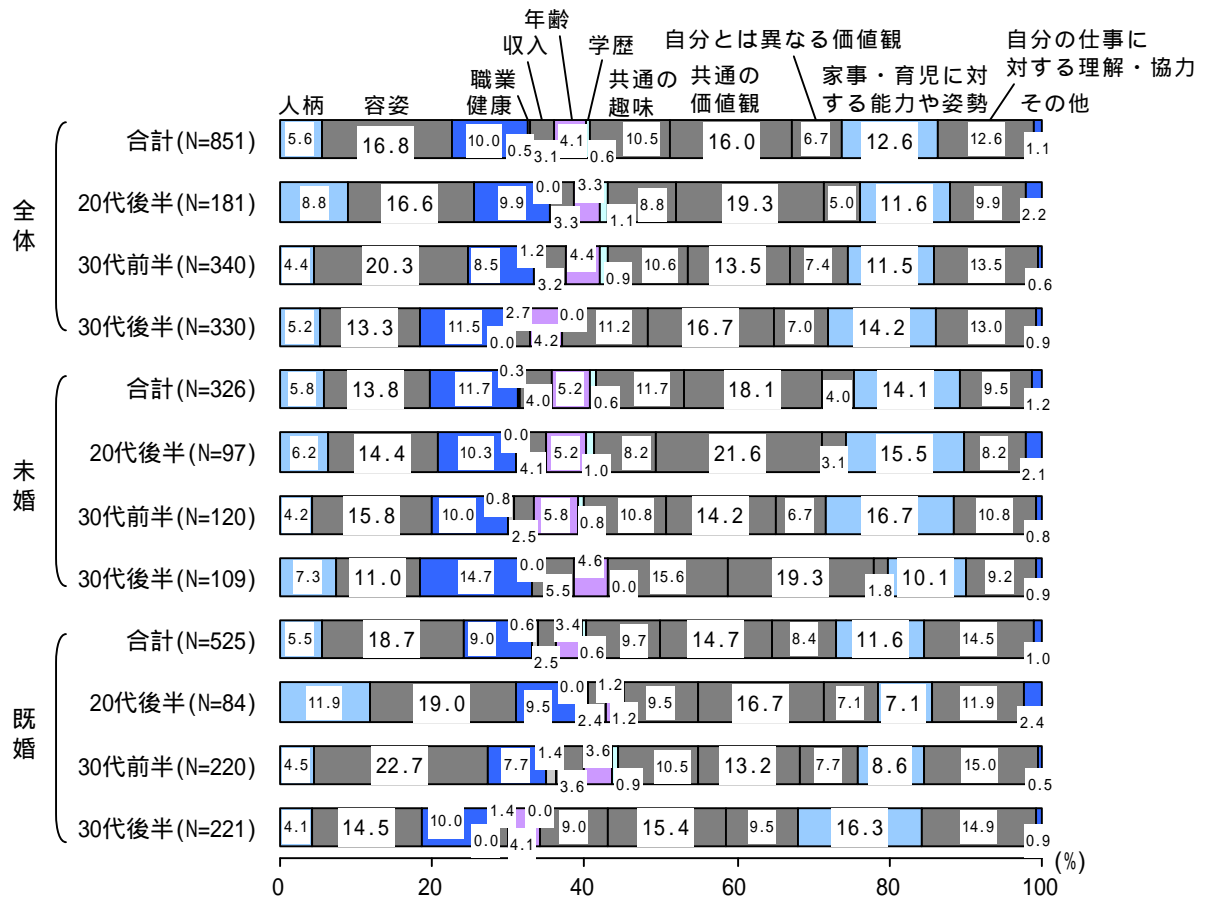
合計、30代は「共通の価値観」が高く、合計27.0%、30代前半31.8%、30代後半28.5%となっている。20代後半は「容姿」が23.8%と高くなっている。

【未婚の年代別・既婚の年代別】

未婚の全年代と既婚の30代は「共通の価値観」、既婚の20代後半は「容姿」が高くなっている。

(1) あなたが結婚相手(妻)として重視するものは。(3位):未婚者

(1) あなたが妻として重視したものは。(3位):既婚者



【概要】

全体では「容姿」が 16.8%と高く、次いで「共通の価値観」が 16.0%となっている。既婚者合計は「容姿」が高く、未婚者合計は「共通の価値観」が高くなっている。

【未婚】

合計、20代後半、30代後半は「共通の価値観」が高く、合計 18.1%、20代後半 21.6%、30代後半 19.3%となっている。30代前半は「家事・育児に対する能力や姿勢」が高く 16.7%となっている。

【既婚】

合計、20代後半、30代前半は「容姿」が高く、合計 18.7%、20代後半 19.0%、30代前半 22.7%となっている。30代後半は「家事・育児に対する能力や姿勢」が 16.3%と高くなっている。

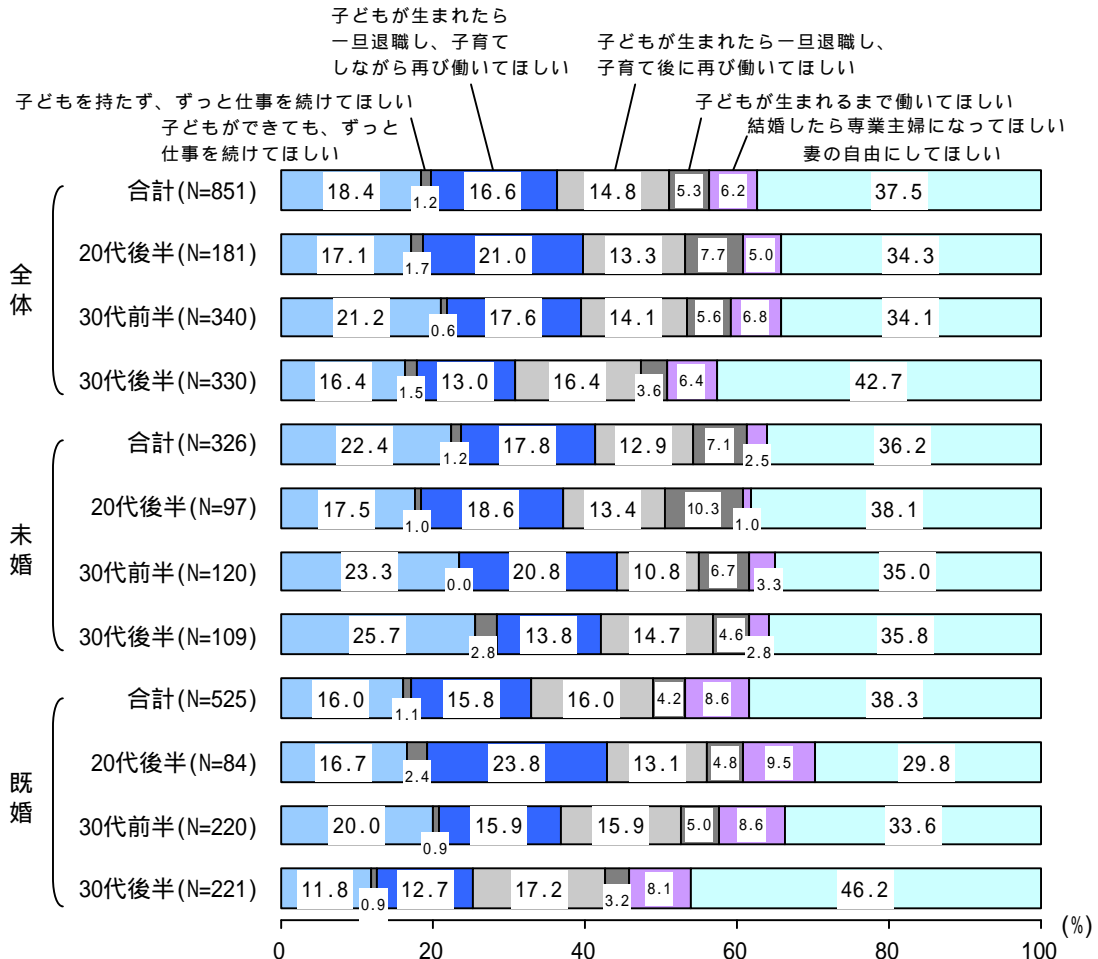
【未婚の年代別・既婚の年代別】

未婚の30代前半、既婚の30代後半は「家事・育児に対する能力や姿勢」が高くなっている。

## 5 妻の仕事

### 希望する妻の働き方

(1) あなたが希望する(結婚後の)妻の働き方は。(ひとつだけ)



#### 【概要】

全体では「妻の自由にしてほしい」が37.5%と高く、次いで「子どもができて、ずっと仕事を続けてほしい」が18.4%となっている。また、未婚者、既婚者ともに合計で「妻の自由にしてほしい」が高くなっている。

#### 【未婚】

合計、年代別とも「妻の自由にしてほしい」が高く、合計36.2%、20代後半38.1%、30代前半35.0%、30代後半35.8%となっている。

#### 【既婚】

合計、年代別とも「妻の自由にしてほしい」が高く、合計38.3%、20代後半29.8%、30代前半33.6%、30代後半46.2%となっている。

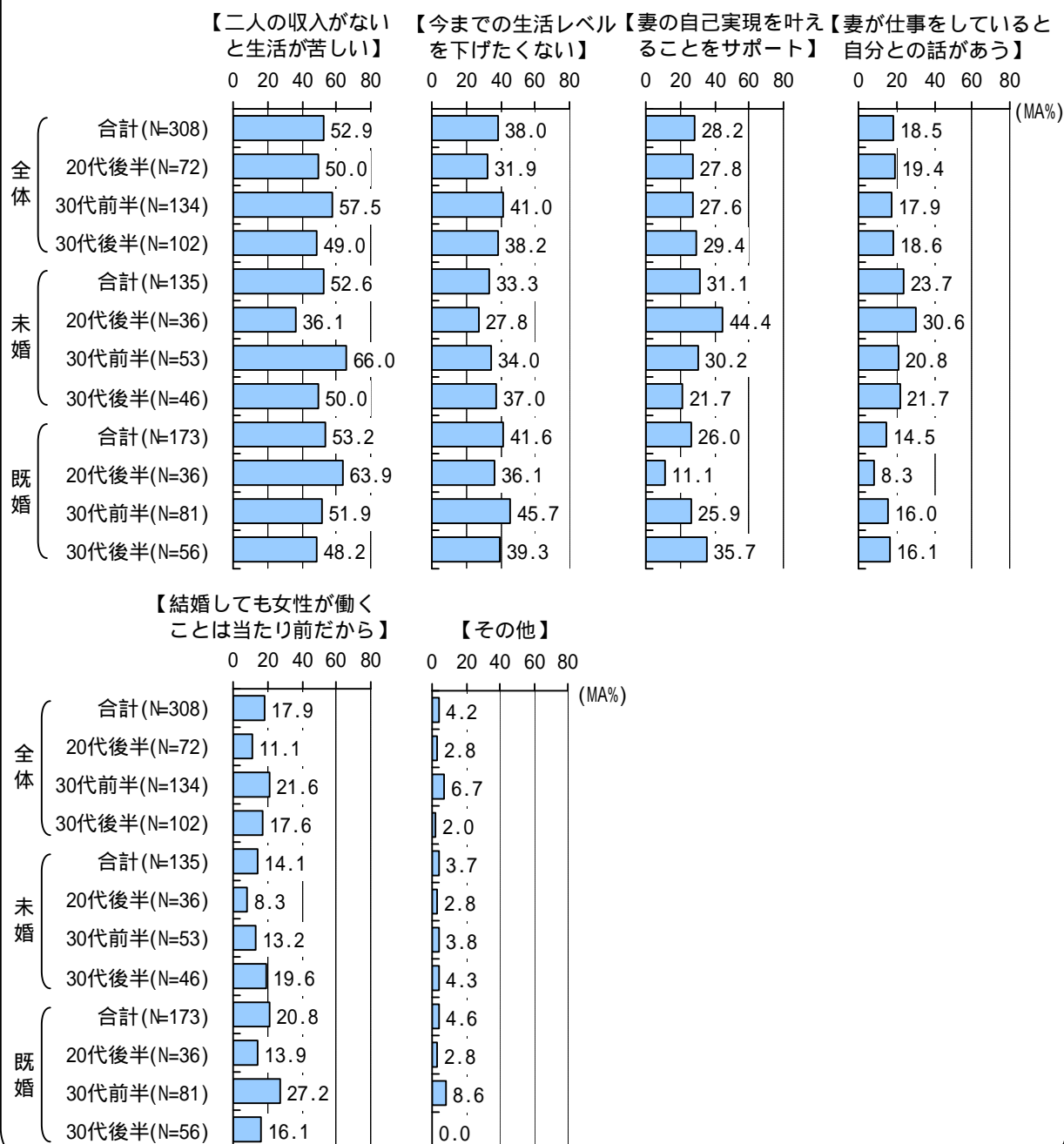
#### 【未婚の年代別・既婚の年代別】

未婚、既婚ともに全年代で「妻の自由にしてほしい」が高くなっている。

## 妻に働いてほしい理由

【ずっと働いてほしい、子育てしながら働いてほしい、子どもが生まれたら一旦退職し、子育てしながら再び働いてほしい方におうかがいします】

(1) - 1 「子どもができて、ずっと仕事を続けてほしい」「子どもを持たず、ずっと仕事を続けてほしい」「子どもが生まれたら一旦退職し、子育てしながら再び働いてほしい」を選んだ理由は。(あてはまるものすべて)



**【概要】**

全体では「二人の収入がないと生活が苦しい」が52.9%と最も高く、次いで「今までの生活レベルを下げたくない」が38.0%となっている。未婚者、既婚者ともに合計で「二人の収入がないと生活が苦しい」が最も高くなっている。

**【未婚】**

合計、30代は「二人の収入がないと生活が苦しい」が高く、合計52.6%、30代前半66.0%、30代後半50.0%となっている。20代後半は「妻の自己実現を叶えることをサポート」が44.4%と高くなっている。

**【既婚】**

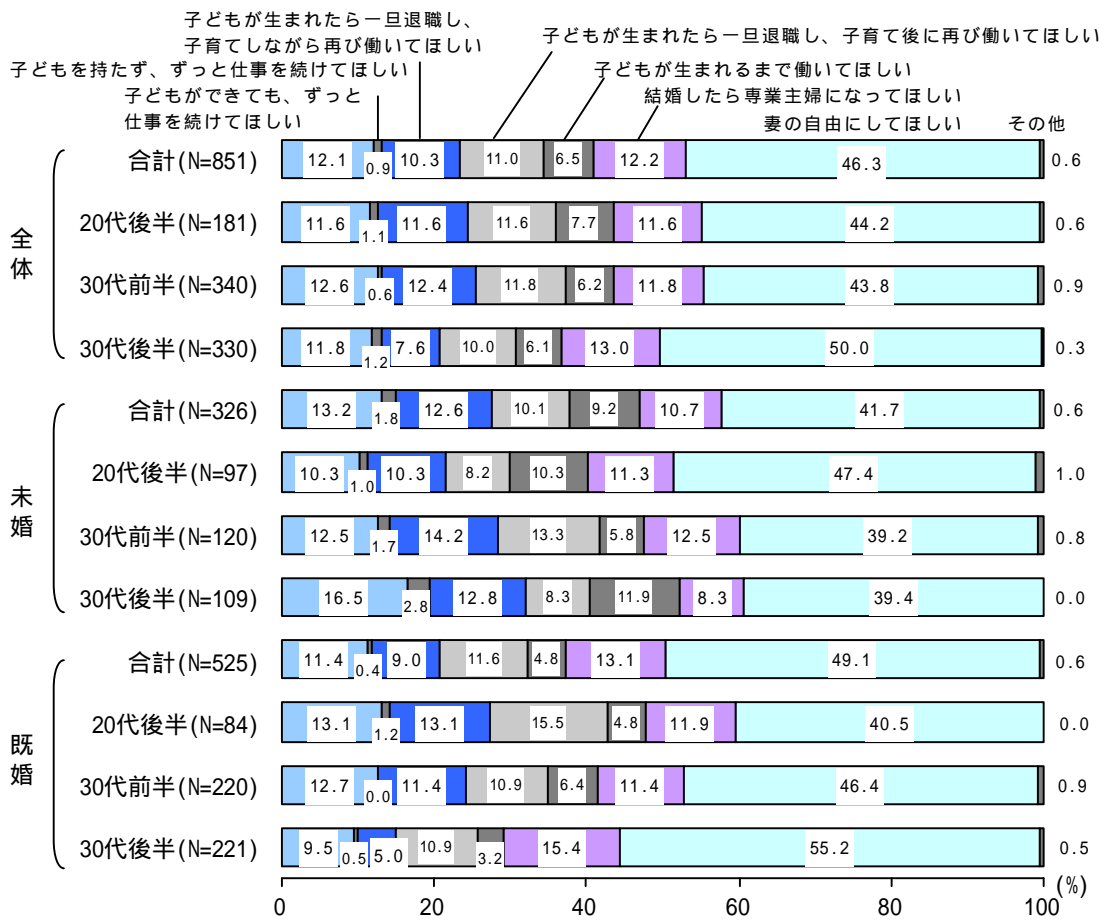
合計、年代別とも「二人の収入がないと生活が苦しい」が高く、合計53.2%、20代後半63.9%、30代前半51.9%、30代後半48.2%となっている。

**【未婚の年代別・既婚の年代別】**

未婚の30代と既婚の全年代で「二人の収入がないと生活が苦しい」、未婚の20代後半で「妻の自己実現を叶えることをサポート」が最も高くなっている。

## 家族を養う収入がある場合の希望する妻の働き方

(2)もし、あなたひとりの収入で家族を養うことができる場合は。(ひとつだけ)



### 【概要】

全体では「妻の自由にしてほしい」が46.3%と高く、次いで「結婚したら専業主婦になってほしい」が12.2%となっている。未婚者、既婚者ともに合計で「妻の自由にしてほしい」が高くなっている。

### 【未婚】

合計、年代別とも「妻の自由にしてほしい」が高く、合計41.7%、20代後半47.4%、30代前半39.2%、30代後半39.4%となっている。

### 【既婚】

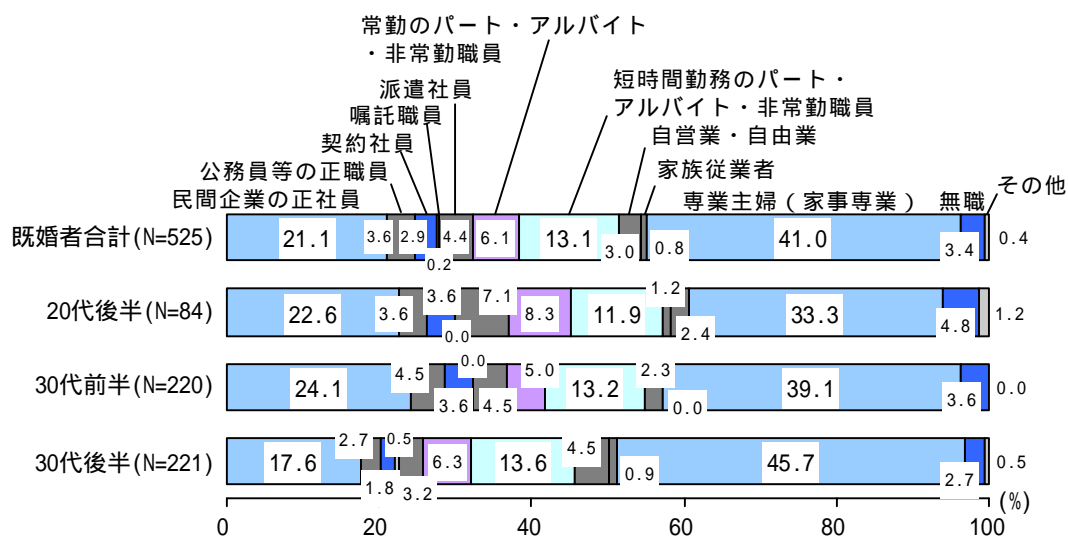
合計、年代別とも「妻の自由にしてほしい」が高く、合計49.1%、20代後半40.5%、30代前半46.4%、30代後半55.2%となっている。

### 【未婚の年代別・既婚の年代別】

未婚、既婚ともに全年代で「妻の自由にしてほしい」が高くなっている。

## 妻の職業

(3) あなたの妻の現在の職業は。(ひとつだけ):既婚者のみ

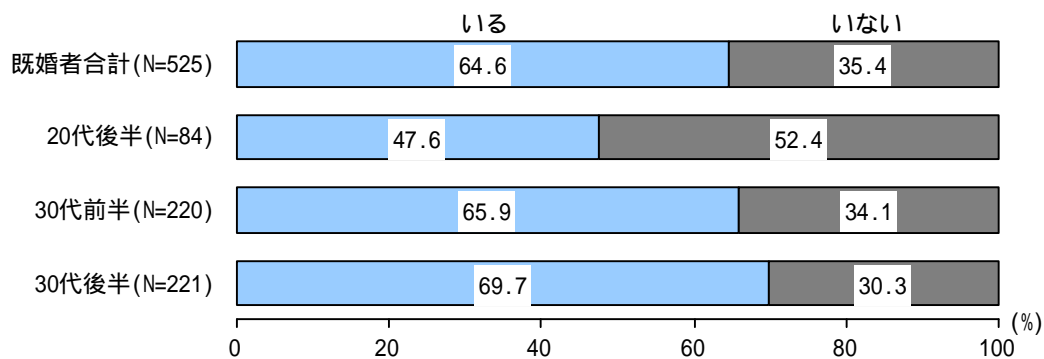


合計、年代別とも「専業主婦(家事専業)」が高く、合計 41.0%、20 代後半 33.3%、30 代前半 39.1%、30 代後半 45.7%となっている。「民間企業の正社員」は 30 代前半で 24.1%、20 代後半で 22.6%と高く、「短時間勤務のパート・アルバイト・非常勤職員」は 30 代後半で 13.6%と他の年代と比べ若干高くなっている。

## 6 子ども

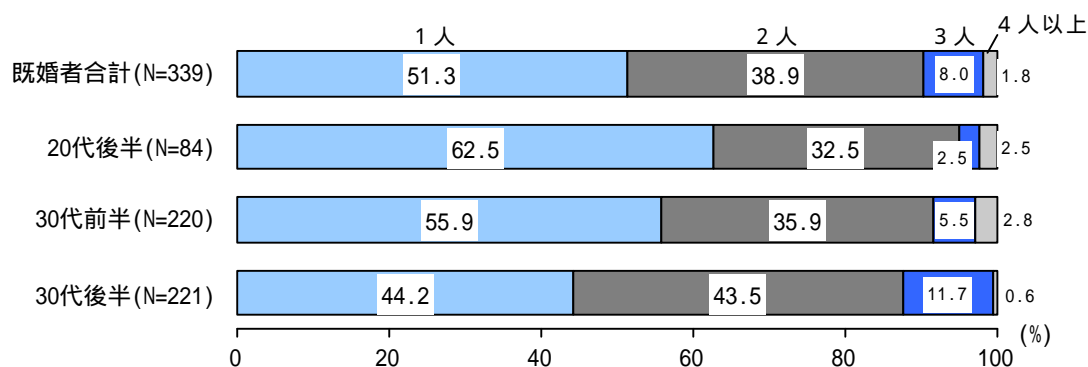
### 子どもの有無、人数

#### (1) 子どもの有無。(ひとつだけ):既婚者のみ



#### 【子どもがいる方におうかがいします】

#### (2) - 1 子どもの数は。(ひとつだけ):既婚者のみ



子どもの有無は、「いる」が合計で 64.6%となっている。30代前半で 65.9%、30代後半で 69.7%と高く、20代後半では「いない」の方が 52.4%と高くなっている。

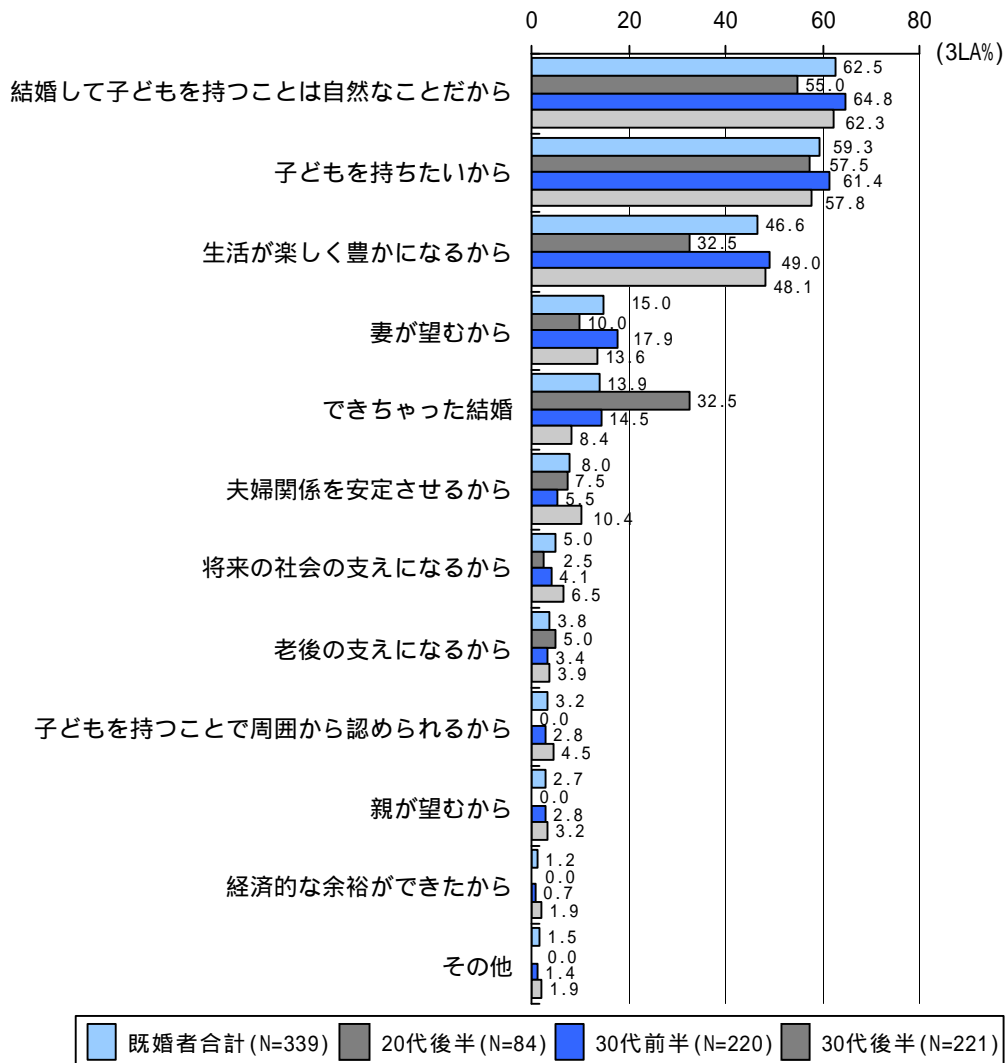
子どもの人数は、合計では「1人」が 51.3%と高く、20代後半で 62.5%、30代前半 55.9%、30代後半 44.2%となっている。「2人」は 30代後半で 43.5%と「1人」とほぼ同数となっている。



## 子どもを持った理由

【子どもがいる方におうかがいします】

(2) - 3 あなたが子どもをもった理由は。(次の中から3つ以内): 既婚者のみ

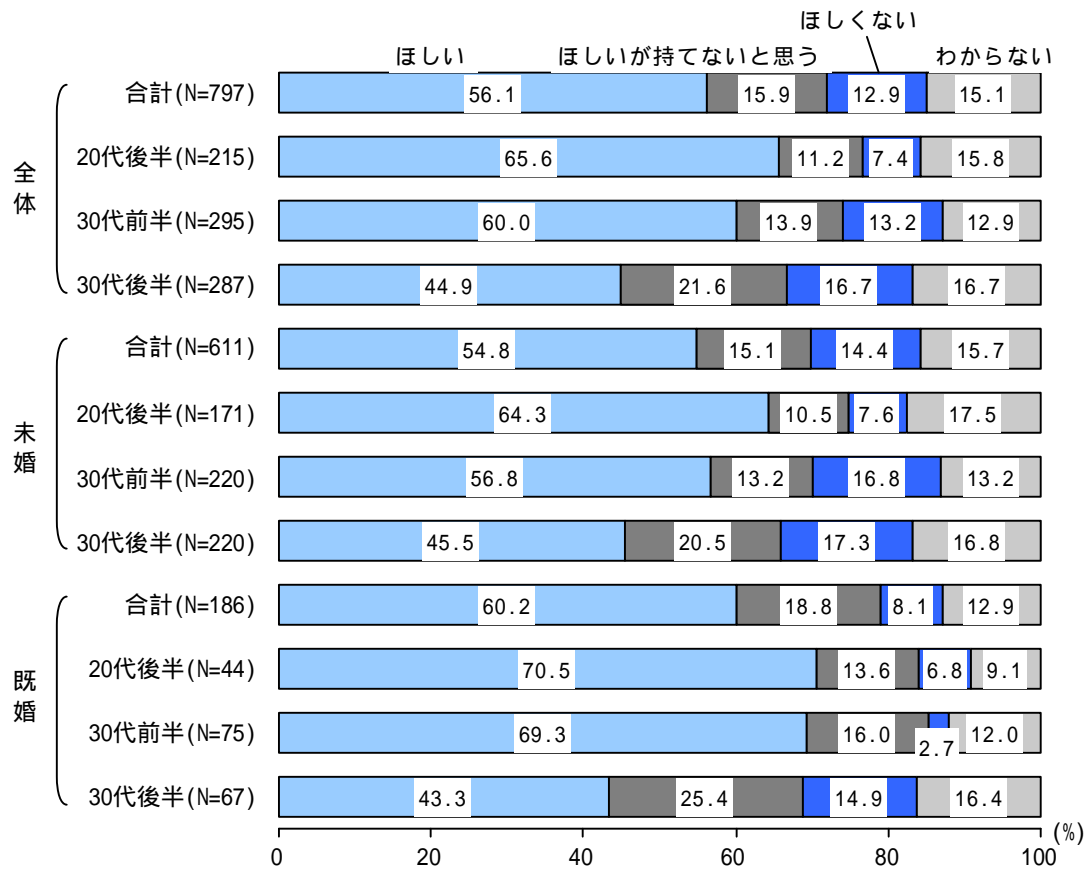


合計では「結婚して子どもを持つことは自然なことだから」が62.5%と最も高く、次いで、「子どもを持ちたいから」59.3%、「生活が楽しく豊かになるから」が46.6%となっている。「結婚して子どもを持つことは自然なことだから」は30代前半、30代後半で6割を超え高く、「できちゃった婚」は20代後半で32.5%と他の年代と比べ高くなっている。

## 子どもを持つ意識

(1)あなたは、子どもがほしいですか？:未婚者

(3) - 1 あなたは、子どもがほしいですか？:既婚者



### 【概要】

全体では「ほしい」が 56.1%と高く、次いで「ほしいが持てないと思う」が 15.9%となっている。未婚者、既婚者ともに合計で「ほしい」が高くなっている。

### 【未婚】

合計、年代別とも「ほしい」が高く、合計 54.8%、20代後半 64.3%、30代前半 56.8%、30代後半 45.5%となっている。

### 【既婚】

合計、年代別とも「ほしい」が高く、合計 60.2%、20代後半 70.5%、30代前半 69.3%、30代後半 43.3%となっている。

### 【未婚の年代別・既婚の年代別】

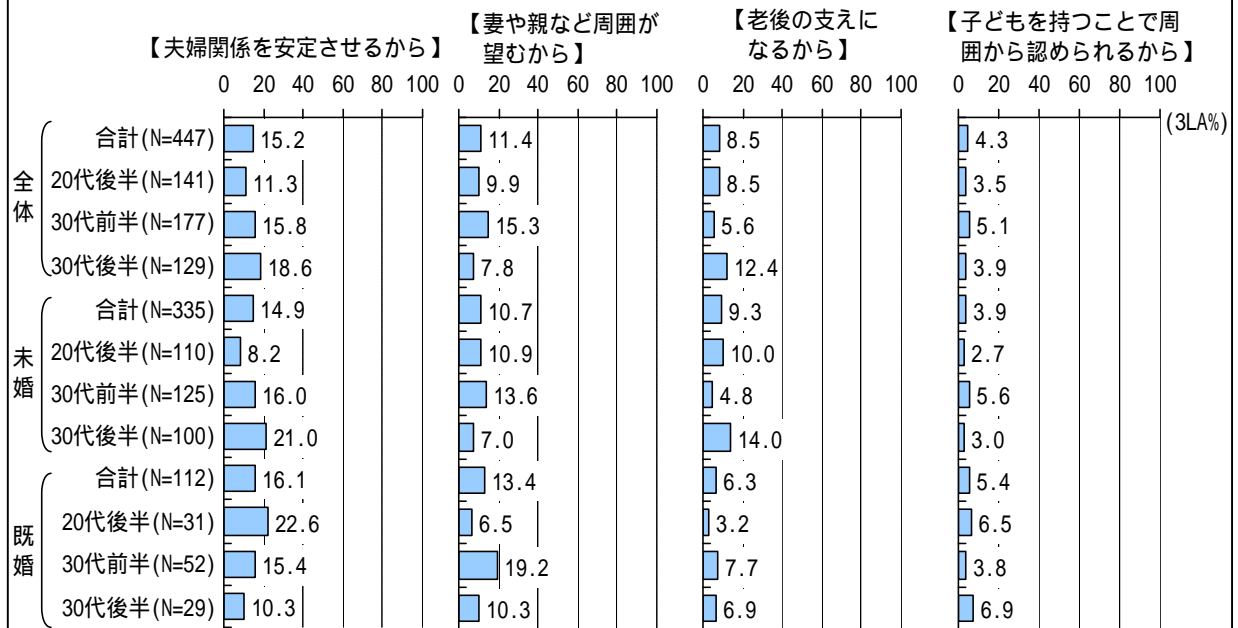
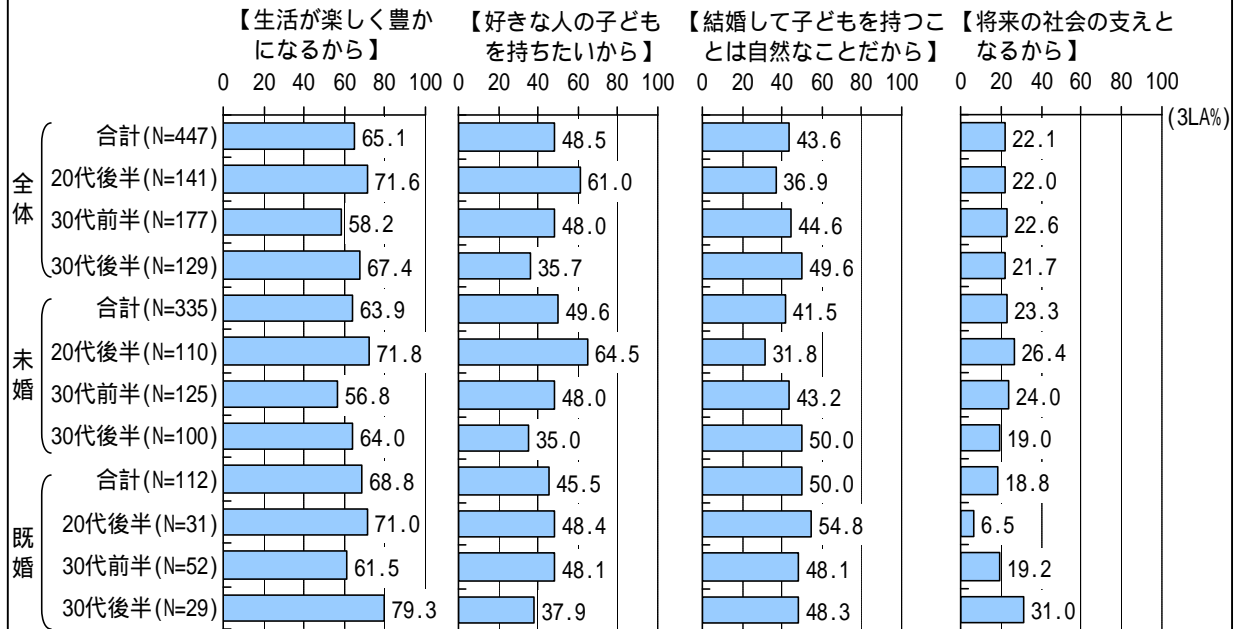
未婚、既婚ともに全年代で「ほしい」が高くなっている。

# 子どもがほしい理由

【子どもがほしい方におうかがいします】

(1) - 1 子どもがほしい理由は。(次の中から3つ以内):未婚者

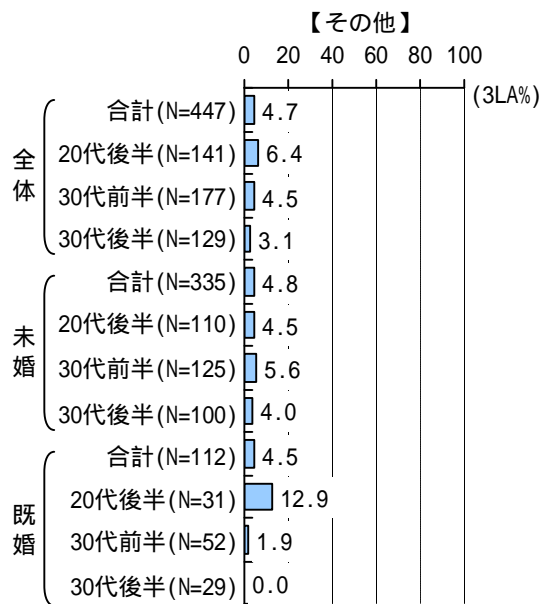
(3) - 2 子どもがほしい理由は。(次の中から3つ以内):既婚者



【子どもがほしい方におうかがいします】

(1) - 1 子どもがほしい理由は。(次の中から3つ以内):未婚者

(3) - 2 子どもがほしい理由は。(次の中から3つ以内):既婚者



【概要】

全体では「生活が楽しく豊かになるから」が65.1%と最も高く、次いで「好きな人の子どもを持ちたいから」が48.5%となっている。未婚者、既婚者ともに合計で「生活が楽しく豊かになるから」が最も高くなっている。

【未婚】

合計、年代別とも「生活が楽しく豊かになるから」が高く、合計63.9%、20代後半71.8%、30代前半56.8%、30代後半64.0%となっている。

【既婚】

合計、年代別とも「生活が楽しく豊かになるから」が高く、合計68.8%、20代後半71.0%、30代前半61.5%、30代後半79.3%となっている。

【未婚の年代別・既婚の年代別】

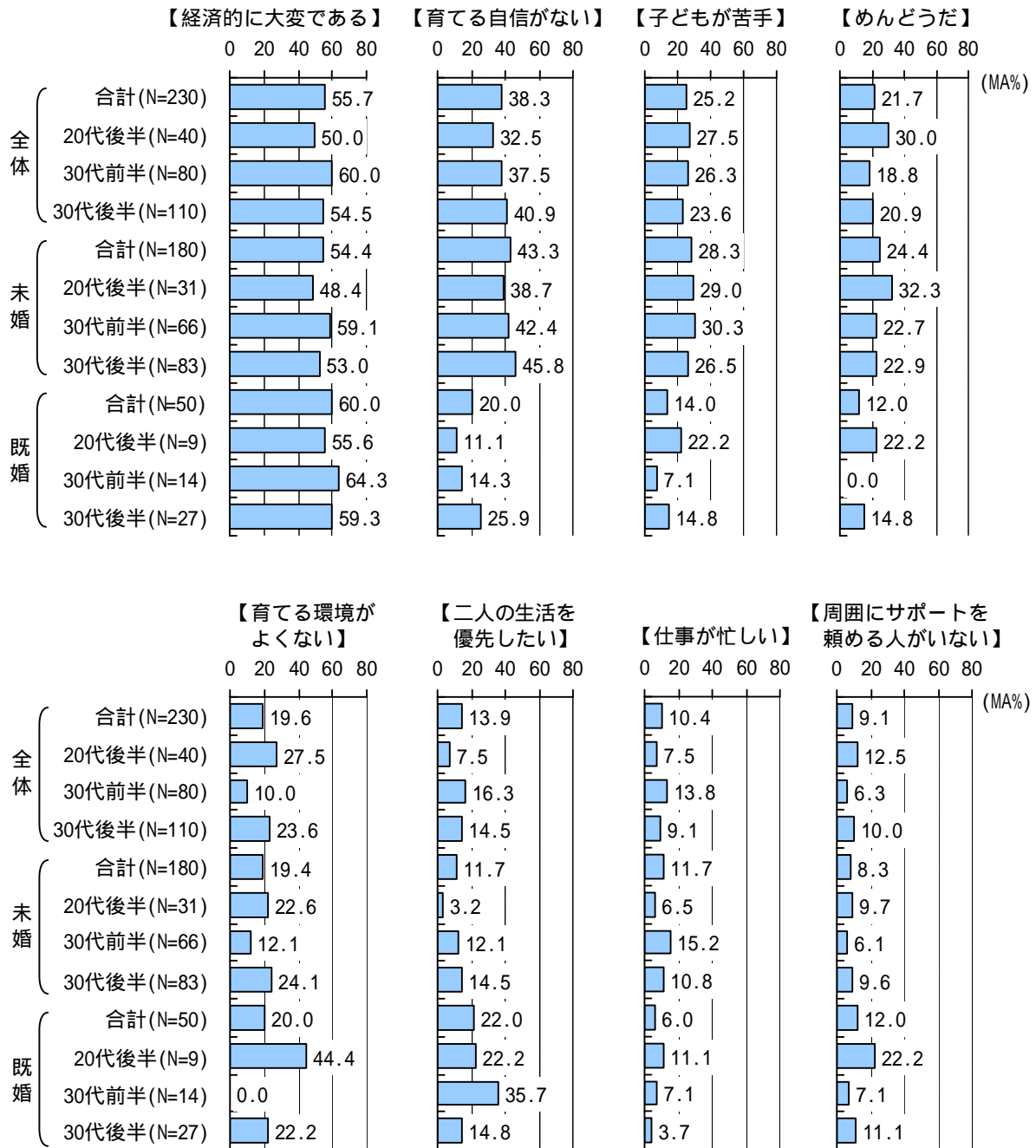
未婚、既婚ともに全年代で「生活が楽しく豊かになるから」が最も高くなっている。

# 子どもがほしくない理由

【子どもがほしいが持てない方、ほしくない方におうかがいします】

(1) - 2 子どもが持てない・ほしくない理由は。(あてはまるものすべて):未婚者

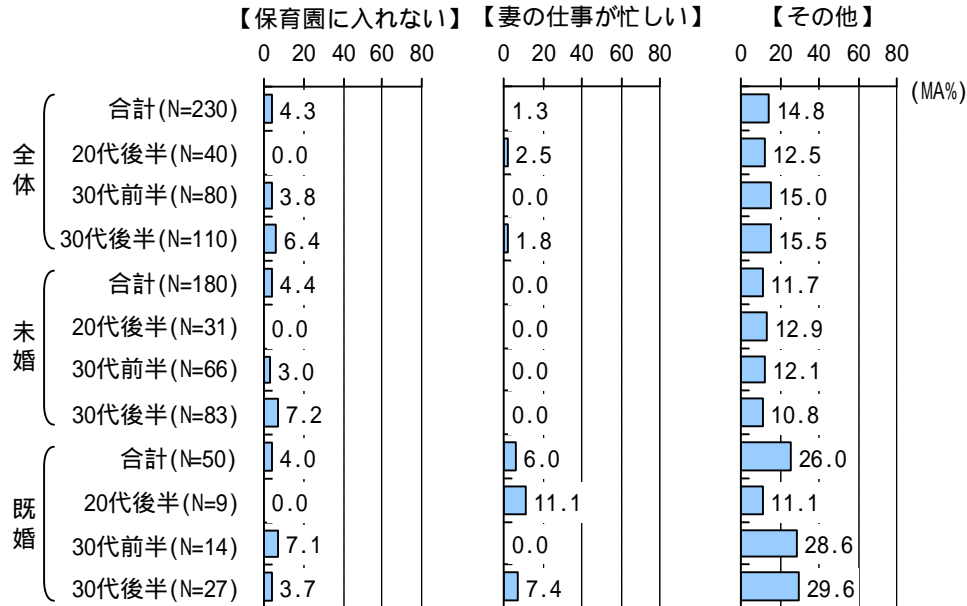
(3) - 3 子どもが持てない・ほしくない理由は。(あてはまるものすべて):既婚者



【子どもがほしいが持てない方、ほしくない方におうかがいします】

(1) - 2 子どもが持てない・ほしくない理由は。(あてはまるものすべて):未婚者

(3) - 3 子どもが持てない・ほしくない理由は。(あてはまるものすべて):既婚者



【概要】

全体では「経済的に大変である」が55.7%と最も高く、次いで「育てる自信がない」が38.3%となっている。未婚者、既婚者ともに合計で「経済的に大変である」が最も高く、未婚者合計では、次いで「育てる自信がない」が43.3%と高くなっている。

【未婚】

合計、年代別とも「経済的に大変である」が高く、合計54.4%、20代後半48.4%、30代前半59.1%、30代後半53.0%となっている。

【既婚】

合計、年代別とも「経済的に大変である」が高く、合計60.0%、20代後半55.6%、30代前半64.3%、30代後半59.3%となっている。

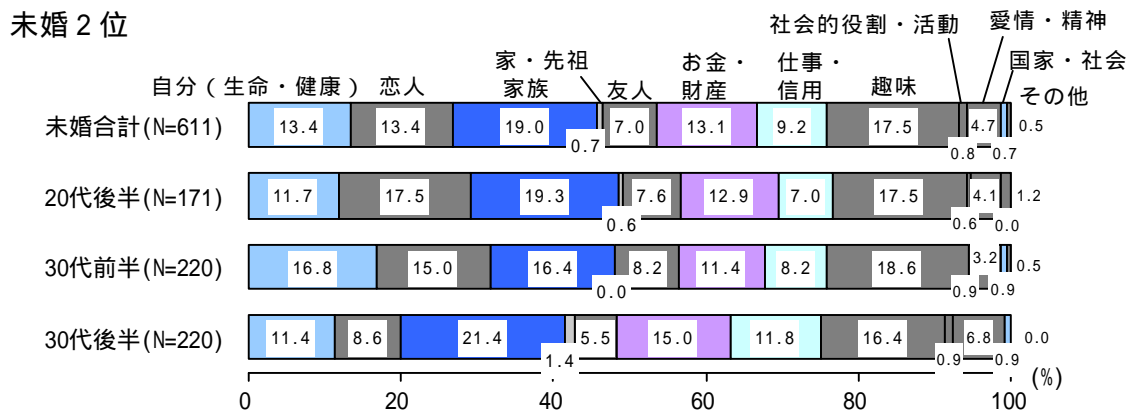
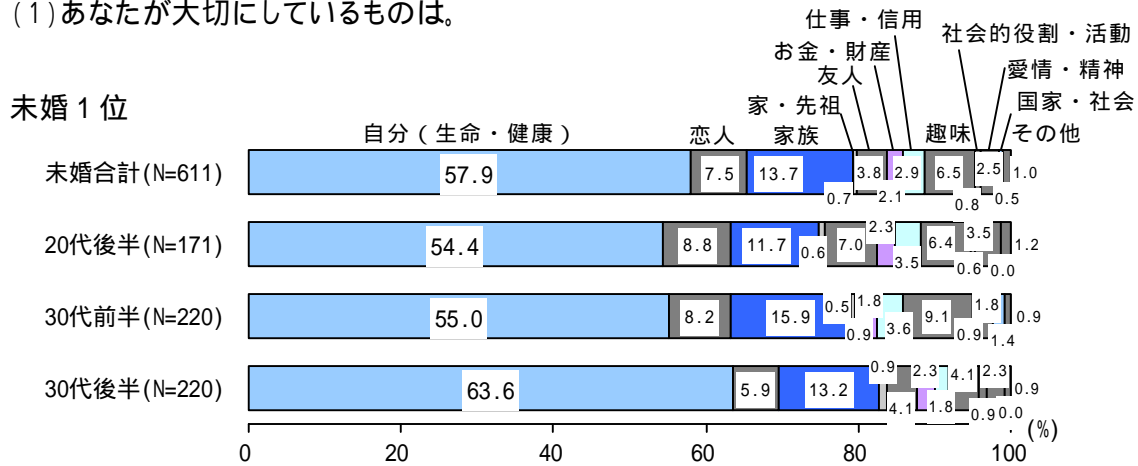
【未婚の年代別・既婚の年代別】

未婚、既婚の全年代とも「経済的に大変である」の割合が最も高くなっている。既婚の20代後半では、次いで「育てる環境がよくない」が44.4%と高く、既婚の30代前半では、「二人の生活を優先したい」が35.7%と高くなっている。

## 7 自分観・社会観

### 大切にしているもの

(1)あなたが大切にしているものは、



#### < 未婚1位 >

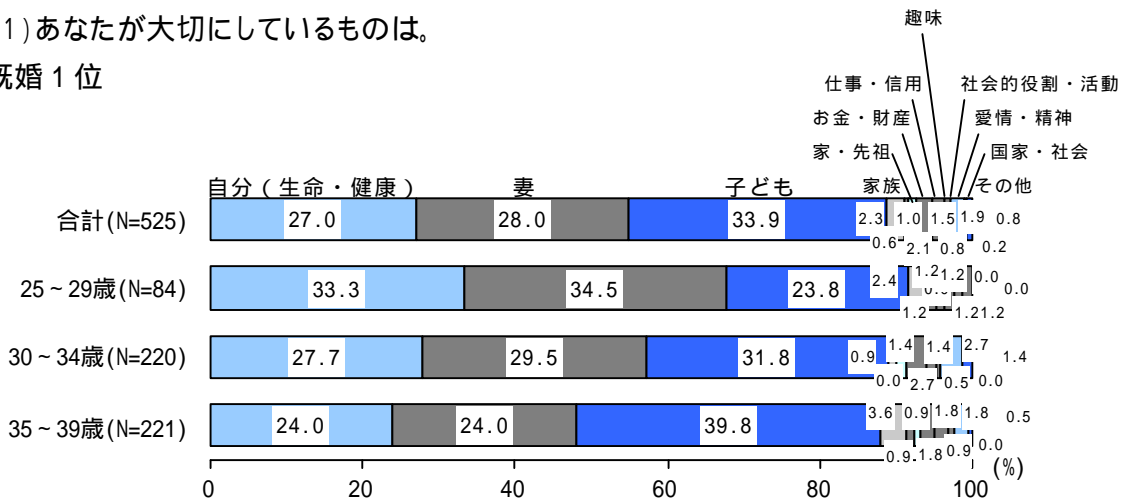
合計、年代別とも「自分(生命・健康)」が高く、合計 57.9%、20 代後半 54.4%、30 代前半 55.0%、30 代後半 63.6%となっている。

#### < 未婚2位 >

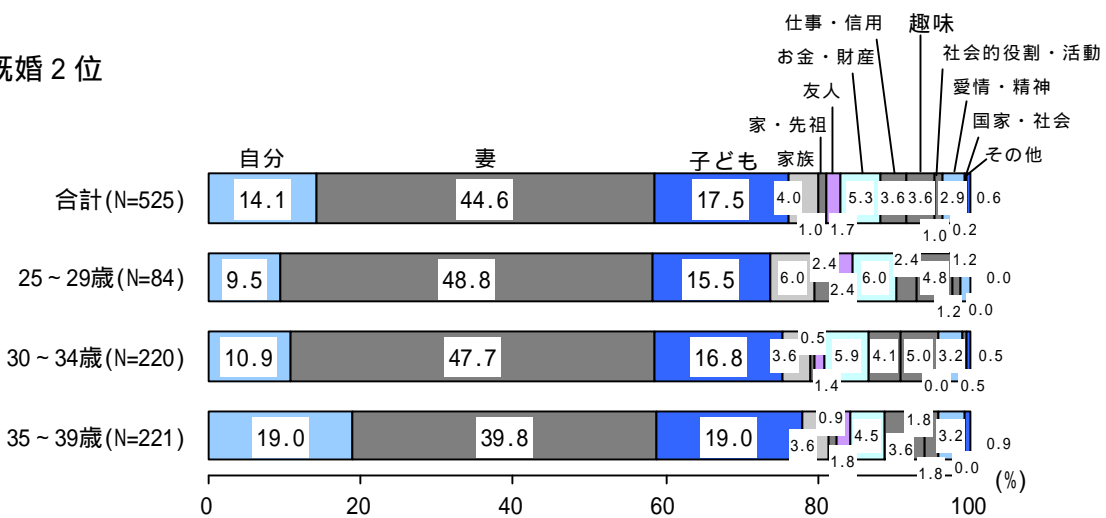
合計、20 代後半、30 代後半は「家族」が高く、合計 19.0%、20 代後半 19.3%、30 代後半 21.4%となっており、30 代前半は「趣味」が 18.6%となっている。

(1)あなたが大切にしているものは、

既婚 1 位



既婚 2 位



< 既婚 1 位 >

合計、30代は「子ども(独身の項目にはなし)」が高く、合計 33.9%、30代前半 31.8%、30代後半 39.8%となっている。20代後半では「妻」が 34.5%と高くなっている。

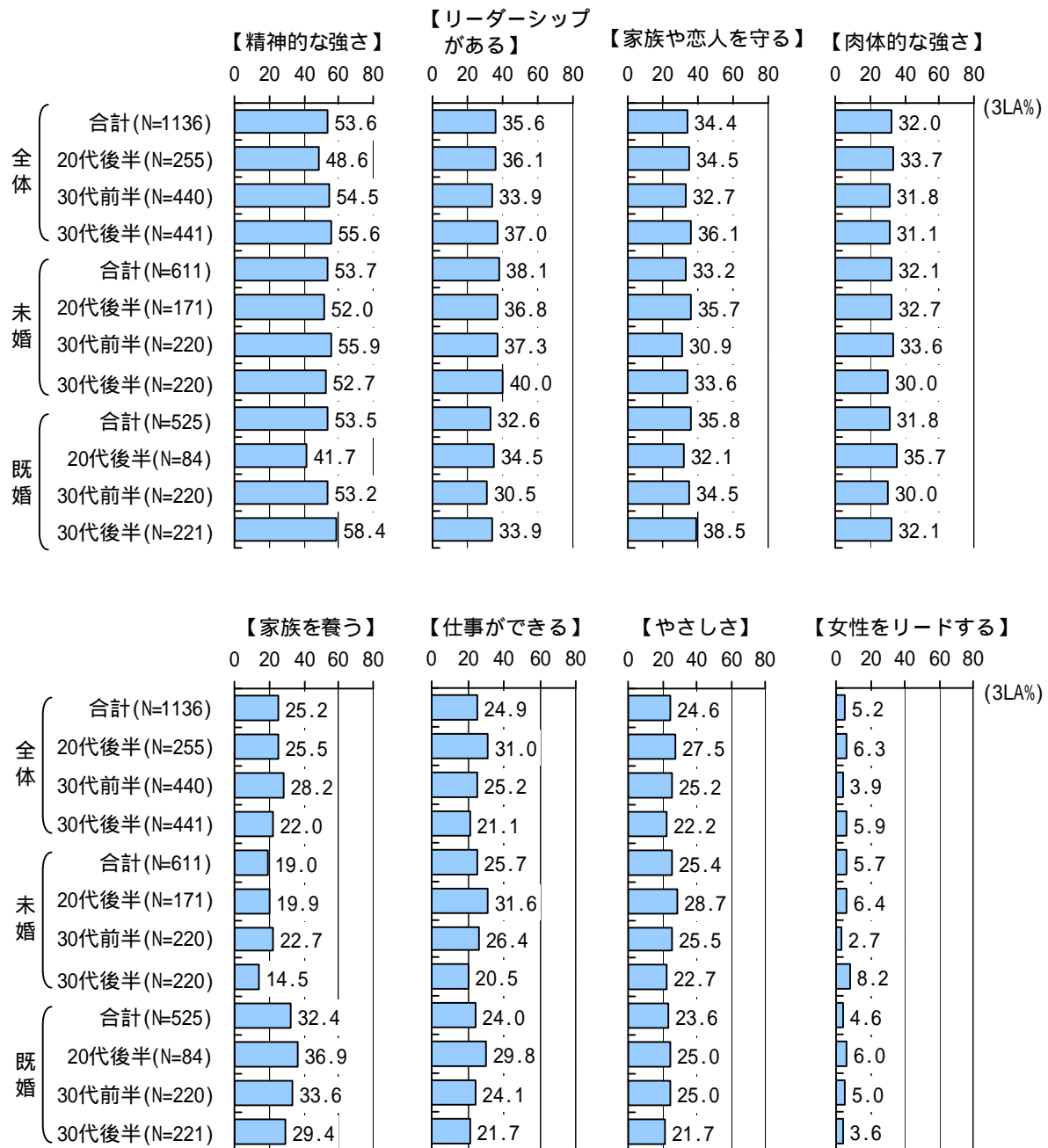
< 既婚 2 位 >

合計、年代別とも「妻」が高く、合計 44.6%、20代後半 48.8%、30代前半 47.7%、30代後半 39.8%となっている。

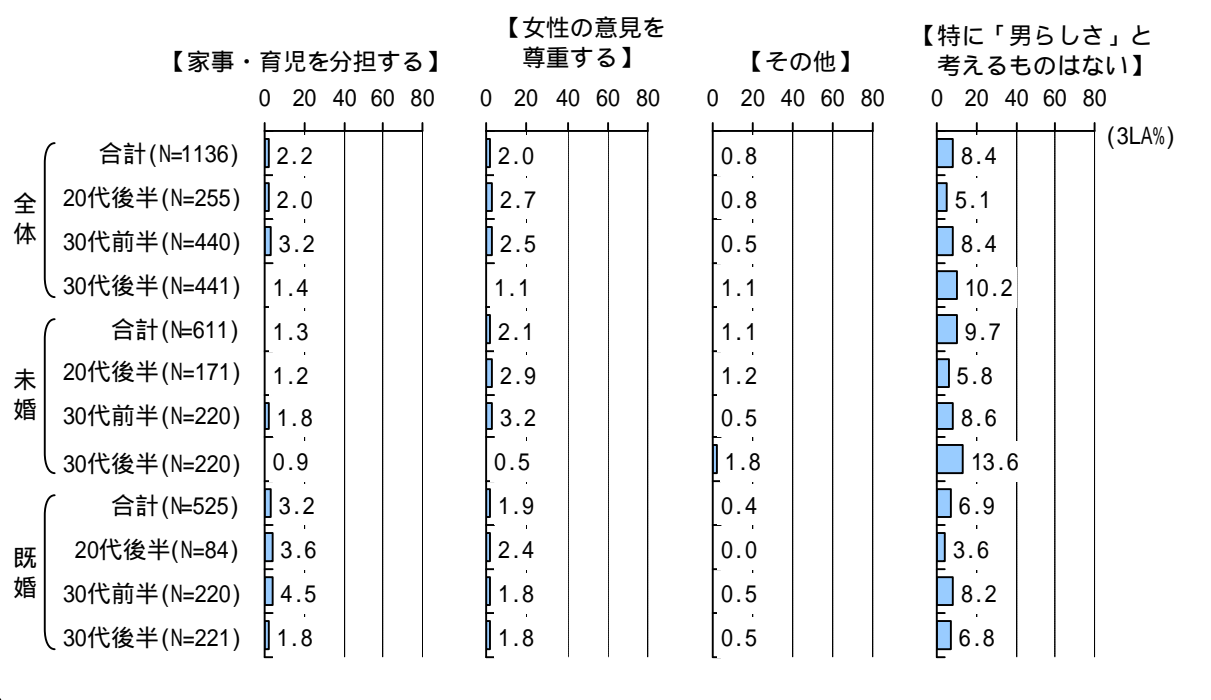


# 「男らしさ」と聞いて思い浮かぶもの

(2) 「男らしさ」と聞いて、あなたが思い浮かぶものは。(この中から3つ以内)



(2)「男らしさ」と聞いて、あなたが思い浮かぶものは。(この中から3つ以内)



【概要】

全体では「精神的な強さ」が 53.6%と最も高く、次いで「リーダーシップがある」が 35.6%となっている。未婚者、既婚者ともに合計で「精神的な強さ」が最も高くなっている。

【未婚】

合計、年代別とも「精神的な強さ」が高く、合計 53.7%、20代後半 52.0%、30代前半 55.9%、30代後半 52.7%となっている。

【既婚】

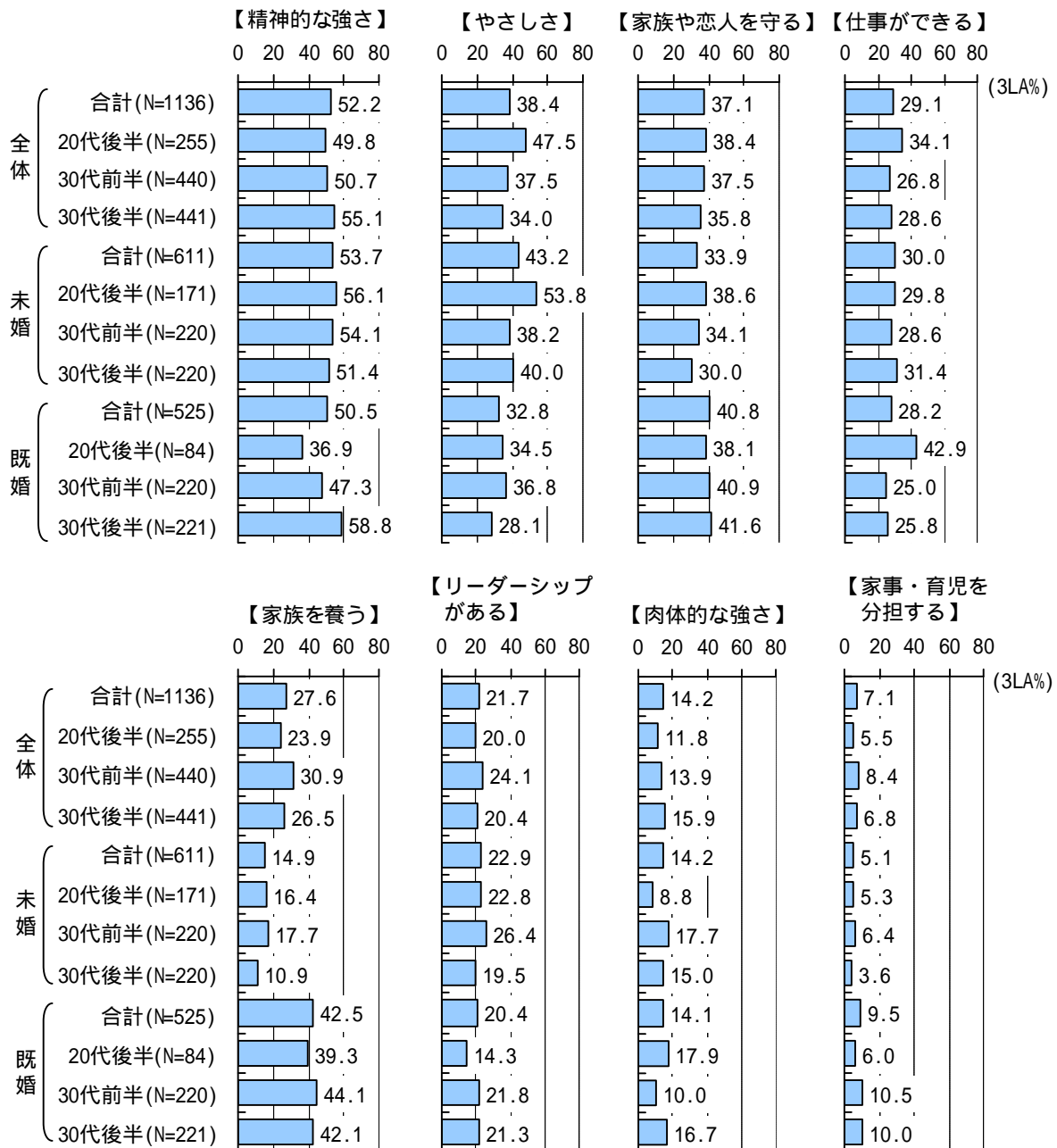
合計、年代別とも「精神的な強さ」が高く、合計 53.5%、20代後半 41.7%、30代前半 53.2%、30代後半 58.4%となっている。

【未婚の年代別・既婚の年代別】

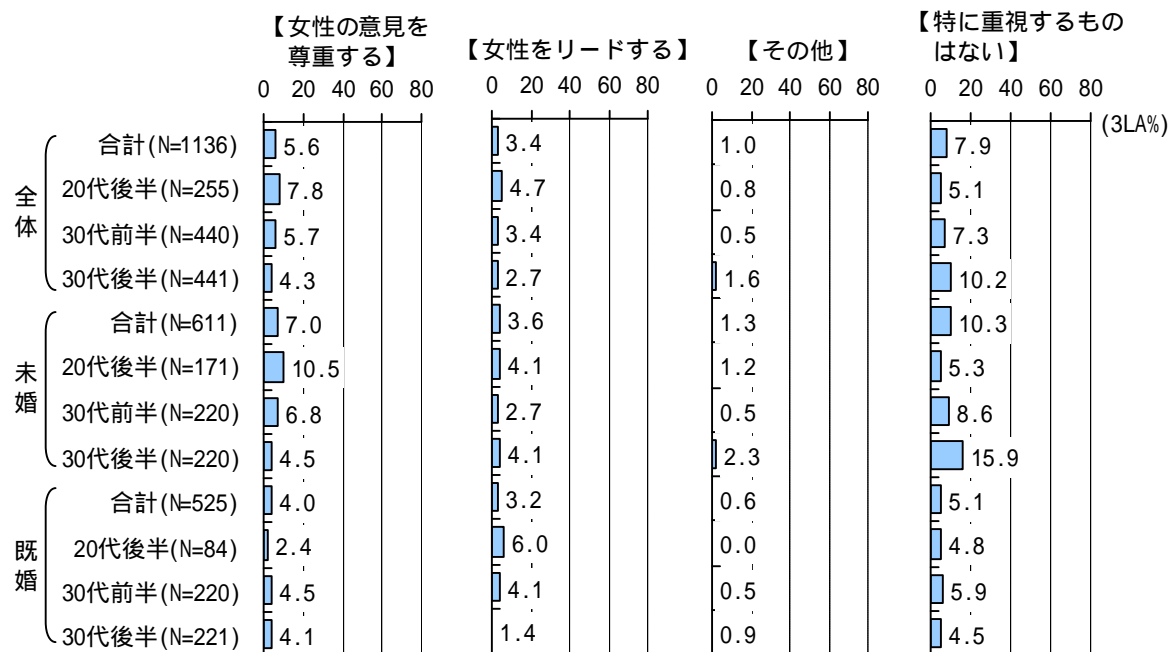
未婚、既婚ともに全年代で「精神的な強さ」が最も高くなっている。

「男らしさ」で重視するもの

(3) それでは、実際にあなた自身が重視するものは、(この中から3つ以内)



(3) それでは、実際にあなた自身が重視するものは。(この中から3つ以内)



【概要】

全体では「精神的な強さ」が52.2%と最も高く、次いで「やさしさ」が38.4%となっている。未婚者、既婚者ともに合計で「精神的な強さ」が最も高く、既婚者は「家族を養う」が次いで高くなっている。

【未婚】

合計、年代別とも「精神的な強さ」が高く、合計53.7%、20代後半56.1%、30代前半54.1%、30代後半51.4%となっている。

【既婚】

合計、30代は「精神的な強さ」が高く、合計50.5%、30代前半47.3%、30代後半58.8%となっている。20代後半は「仕事ができる」が42.9%と高くなっている。

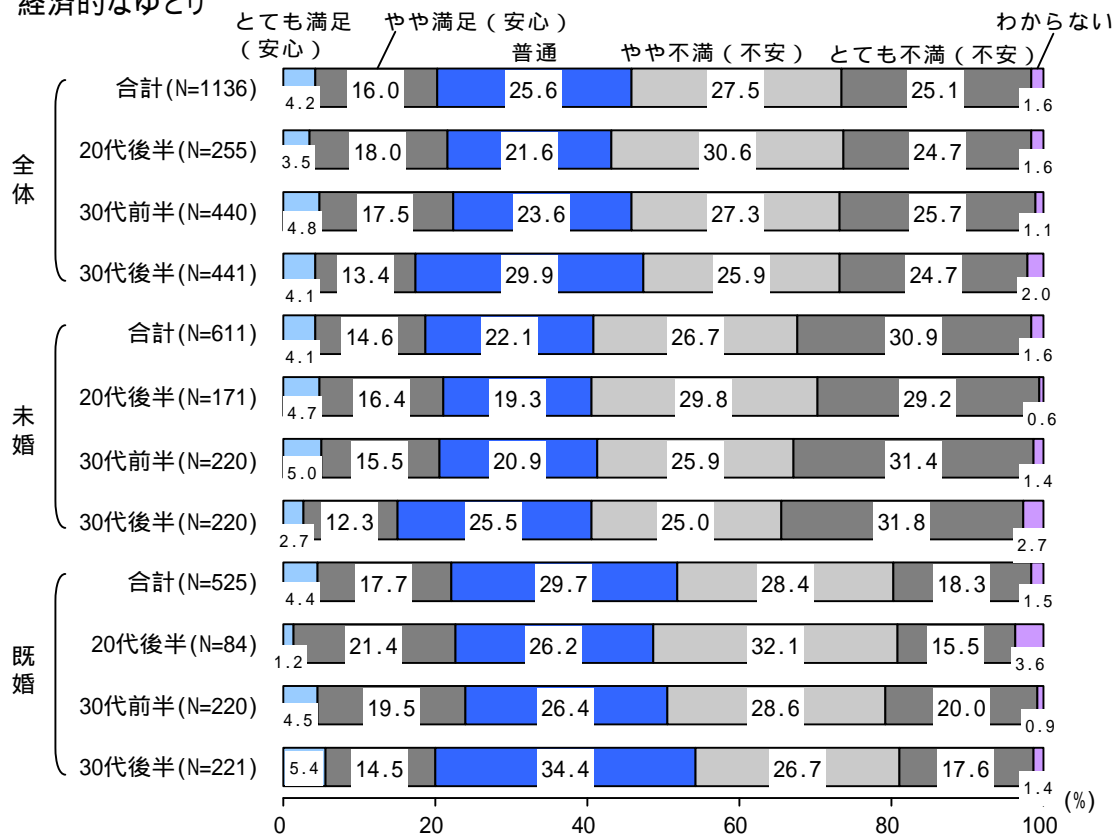
【未婚の年代別・既婚の年代別】

未婚の全年代と既婚の30代は「精神的な強さ」、既婚の20代後半は「仕事ができる」が最も高くなっている。

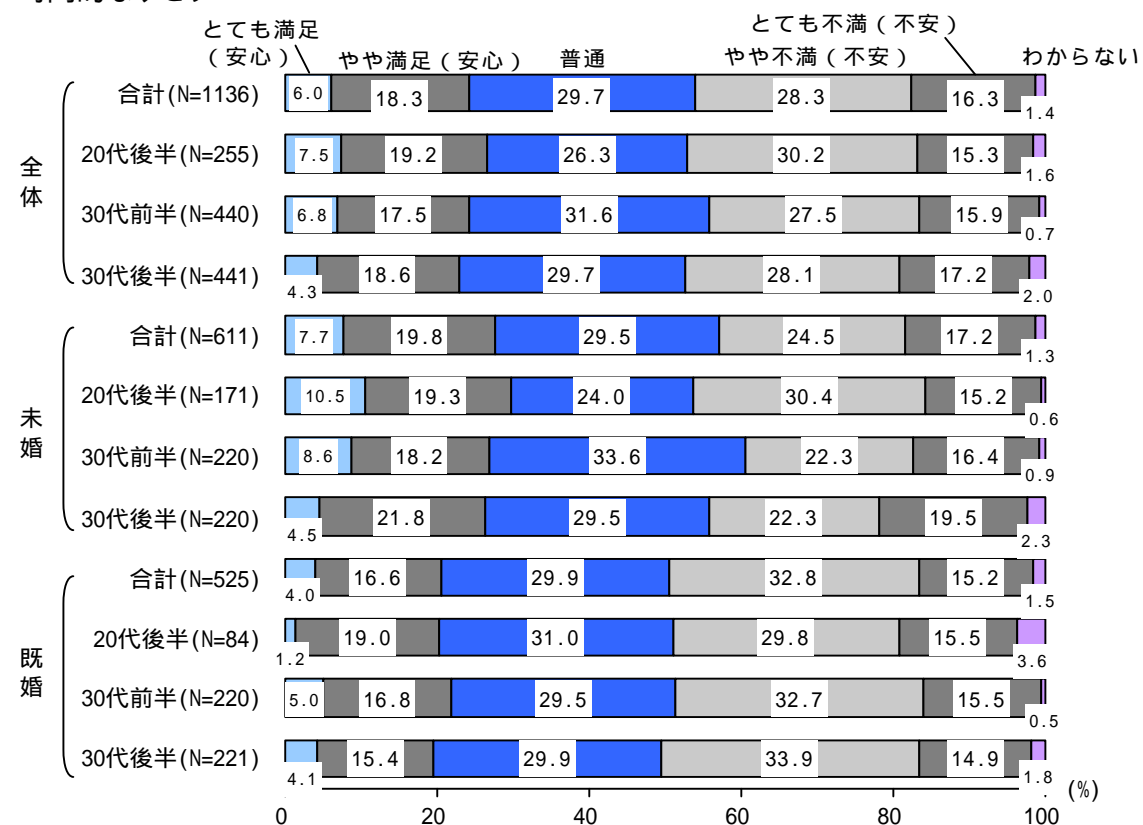
## 満足度（安心度）

(5) 次の項目に対するあなたの満足度(安心度)は。

経済的なゆとり



時間的なゆとり



## 経済的なゆとり

### 【概要】

全体では「やや不満(不安)」が27.5%と高く、次いで「普通」が25.6%となっている。未婚者合計は「とても不満(不安)」、既婚者合計は「普通」が高くなっている。

### 【未婚】

合計、30代は「とても不満(不安)」が高く、合計30.9%、30代前半31.4%、30代後半31.8%となっている。20代後半は「やや不満(不安)」が29.8%と高くなっている。

### 【既婚】

合計、30代後半は「普通」が高く、合計29.7%、30代後半34.4%となっている。20代後半と30代前半は「やや不満(不安)」が高く、20代後半32.1%、30代前半28.6%となっている。

### 【未婚の年代別・既婚の年代別】

未婚の20代後半と既婚の20代後半、30代前半は「やや不満(不安)」、未婚の30代は「とても不満(不安)」、既婚の30代後半は「普通」が高くなっている。

## 時間的なゆとり

### 【概要】

全体では「普通」が29.7%と高く、次いで「やや不満(不安)」が28.3%となっている。未婚者合計は「普通」、既婚者合計は「やや不満(不安)」が高くなっている。

### 【未婚】

合計、30代は「普通」が高く、合計29.5%、30代前半33.6%、30代後半29.5%となっている。20代後半は「やや不満(不安)」が30.4%と高くなっている。

### 【既婚】

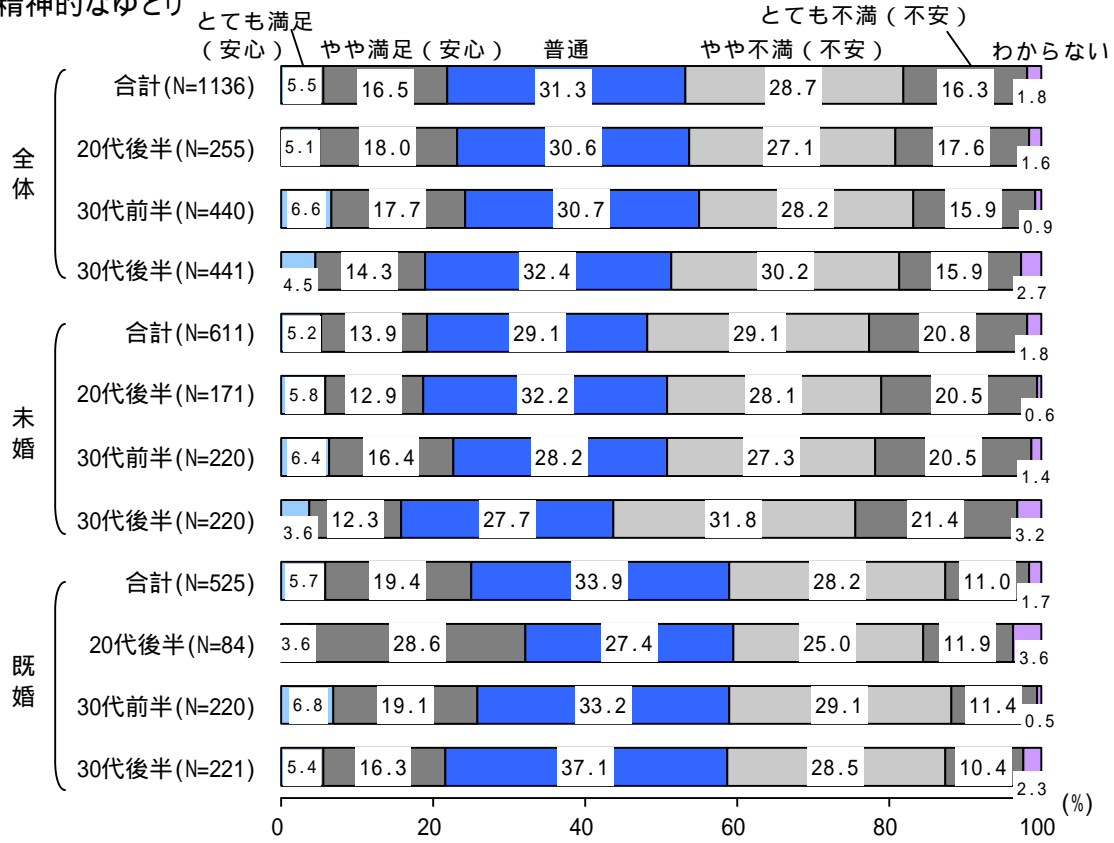
合計、30代は「やや不満(不安)」が高く、合計32.8%、30代前半32.7%、30代後半33.9%となっている。また、20代後半は「普通」が31.0%と高くなっている。

### 【未婚の年代別・既婚の年代別】

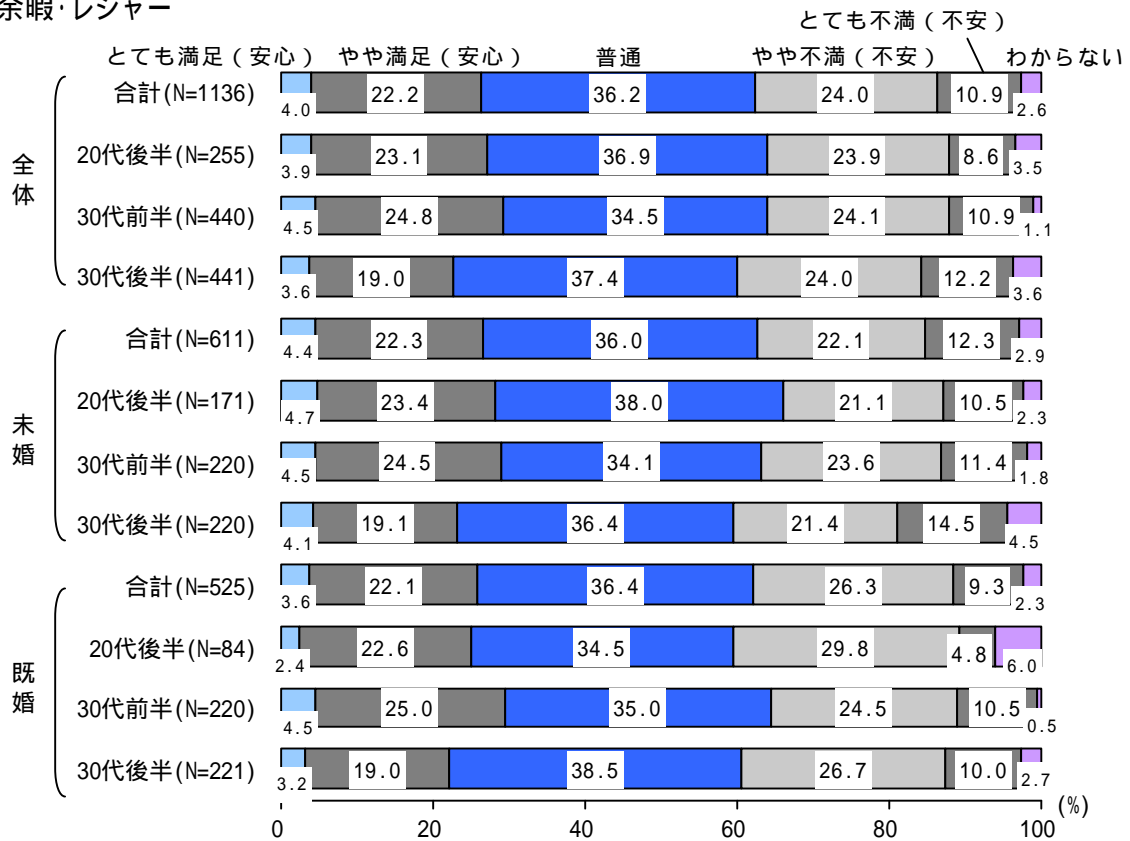
未婚の20代後半と既婚の30代は「やや不満(不安)」、未婚の30代と既婚の20代後半は「普通」が高くなっている。

(5) 次の項目に対するあなたの満足度(安心度)は。

精神的なゆとり



余暇・レジャー



## 精神的なゆとり

### 【概要】

全体では「普通」が31.3%と高く、次いで「やや不満(不安)」が28.7%となっている。未婚者、既婚者ともに合計で「普通」が高くなっている。

### 【未婚】

合計は「普通」と「やや不満(不安)」、20代後半、30代前半は「普通」が高く、合計は「普通」「やや不満(不安)」とも29.1%、20代後半32.2%、30代前半28.2%となっている。30代後半は「やや不満(不安)」が31.8%と高くなっている。

### 【既婚】

合計、30代は「普通」が高く、合計33.9%、30代前半33.2%、30代後半37.1%となっている。20代後半は「やや満足(安心)」が28.6%と高くなっている。

### 【未婚の年代別・既婚の年代別】

未婚の20代後半、30代前半と既婚の30代は「普通」、未婚の30代後半は「やや不満(不安)」、既婚の20代後半は「やや満足(安心)」が高くなっている。

## 余暇・レジャー

### 【概要】

全体では「普通」が36.2%と高く、次いで「やや不満(不安)」が24.0%となっている。未婚者、既婚者ともに合計で「普通」が高くなっている。

### 【未婚】

合計、年代別とも「普通」が高く、合計36.0%、20代後半38.0%、30代前半34.1%、30代後半36.4%となっている。

### 【既婚】

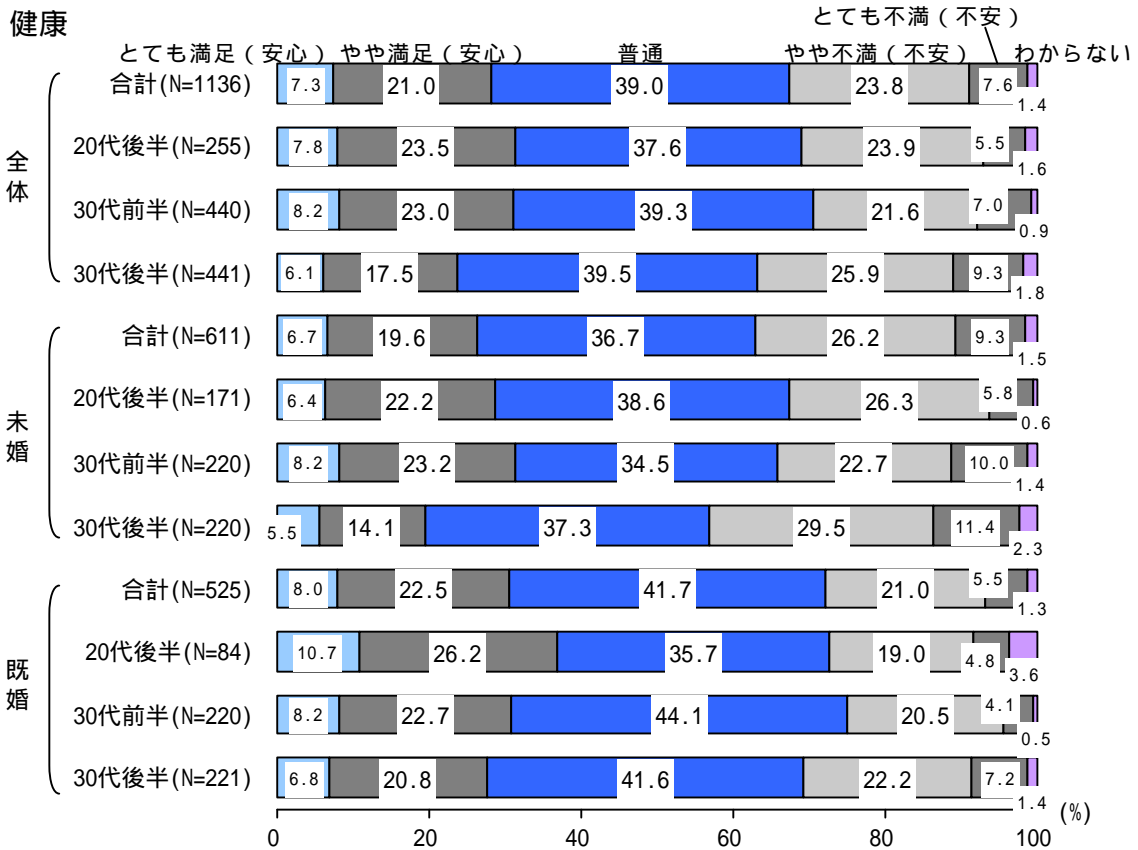
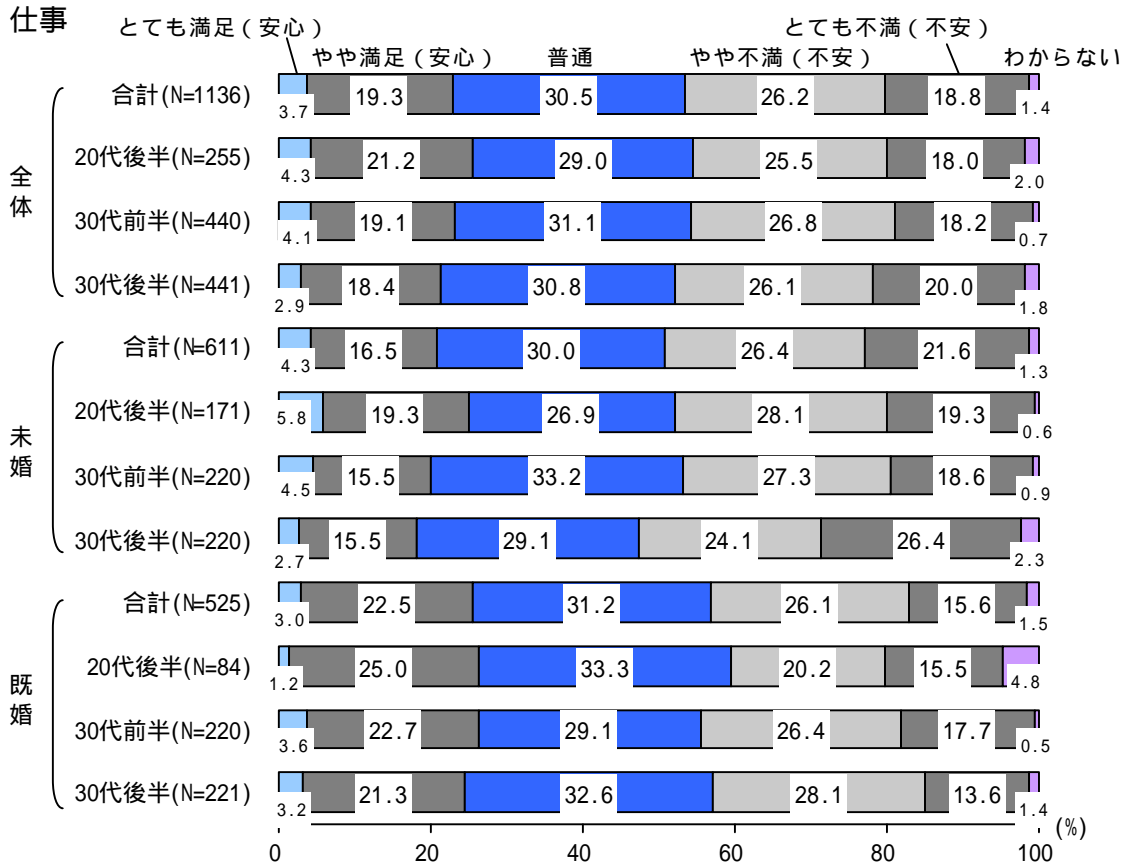
合計、年代別とも「普通」が高く、合計36.4%、20代後半34.5%、30代前半35.0%、30代後半38.5%となっている。

### 【未婚の年代別・既婚の年代別】

未婚、既婚ともに全年代で「普通」が高くなっている。



(5) 次の項目に対するあなたの満足度(安心度)は。



## 仕事

### 【概要】

全体では「普通」が30.5%と高く、次いで「やや不満(不安)」が26.2%となっている。未婚者、既婚者ともに合計で「普通」が高くなっている。

### 【未婚】

合計、30代は「普通」が高く、合計30.0%、30代前半33.2%、30代後半29.1%となっている。20代後半は「やや不満(不安)」が28.1%と高くなっている。

### 【既婚】

合計、年代別とも「普通」が高く、合計31.2%、20代後半33.3%、30代前半29.1%、30代後半32.6%となっている。

### 【未婚の年代別・既婚の年代別】

未婚の30代と既婚の全年代は「普通」、未婚の20代後半は「やや不満(不安)」が高くなっている。

## 健康

### 【概要】

全体では「普通」が39.0%と高く、次いで「やや不満(不安)」が23.8%となっている。未婚者、既婚者ともに合計で「普通」が高くなっている。

### 【未婚】

合計、年代別とも「普通」が高く、合計36.7%、20代後半38.6%、30代前半34.5%、30代後半37.3%となっている。

### 【既婚】

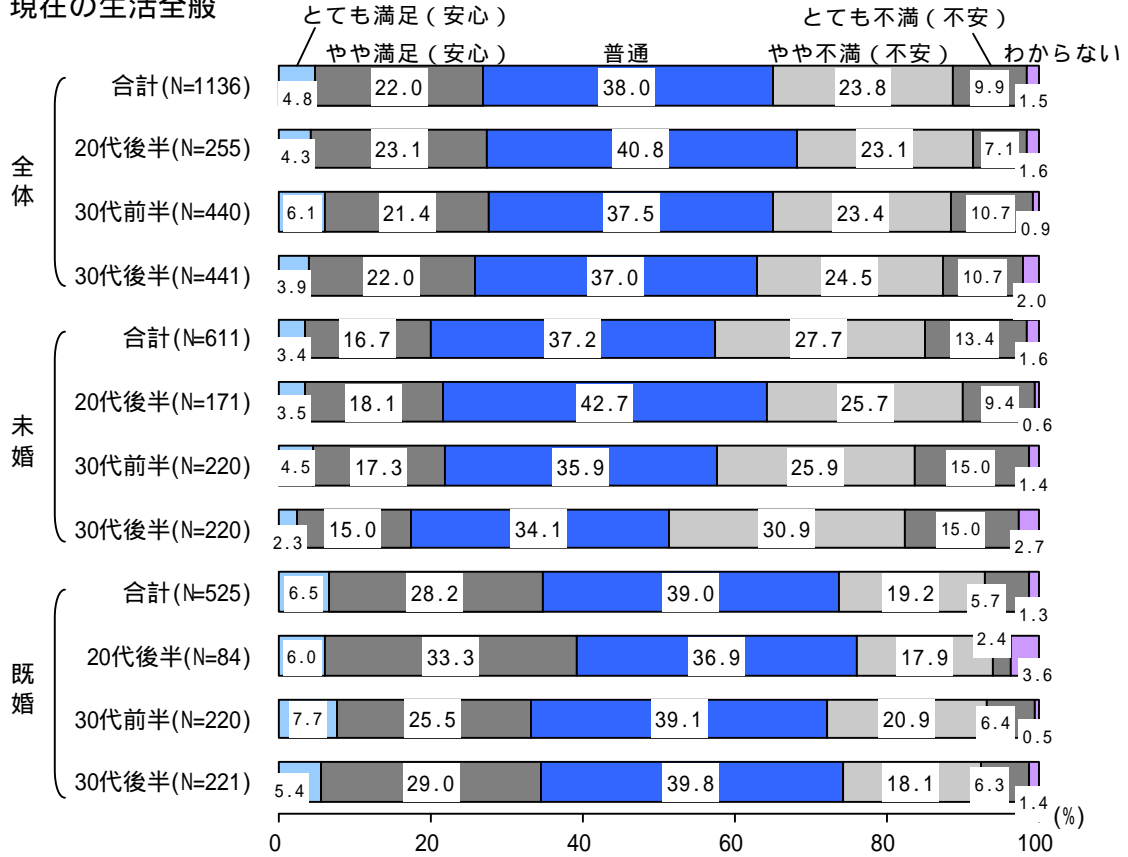
合計、年代別とも「普通」が高く、合計41.7%、20代後半35.7%、30代前半44.1%、30代後半41.6%となっている。

### 【未婚の年代別・既婚の年代別】

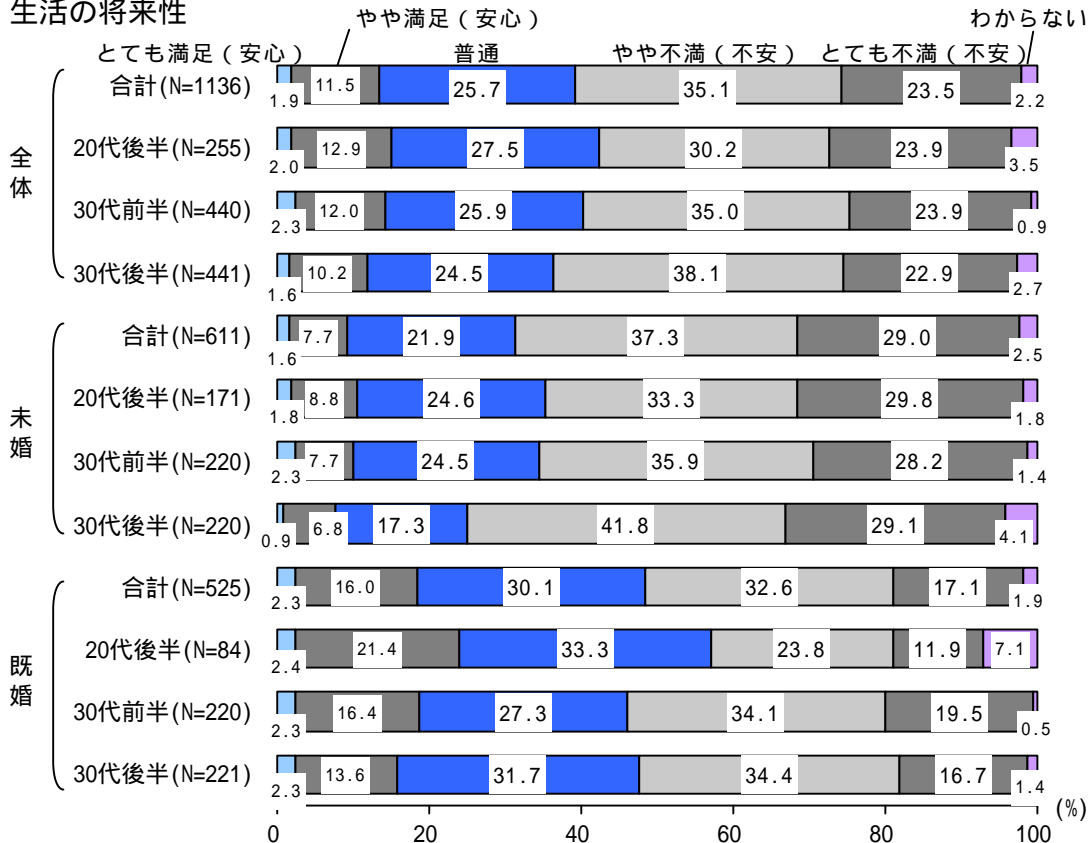
未婚、既婚ともに全年代で「普通」が高くなっている。

(5) 次の項目に対するあなたの満足度(安心度)は。

現在の生活全般



生活の将来性



## 現在の生活全般

### 【概要】

全体では「普通」が38.0%と高く、次いで「やや不満(不安)」が23.8%となっている。未婚者、既婚者ともに合計で「普通」が高くなっている。次いで、未婚者では「やや不満」が27.7%、既婚者では「やや満足」が28.2%と高くなっている。

### 【未婚】

合計、年代別とも「普通」が高く、合計37.2%、20代後半42.7%、30代前半35.9%、30代後半34.1%となっている。

### 【既婚】

合計、年代別とも「普通」が高く、合計39.0%、20代後半36.9%、30代前半39.1%、30代後半39.8%となっている。

### 【未婚の年代別・既婚の年代別】

未婚、既婚ともに全年代で「普通」が高くなっている。

## 生活の将来性

### 【概要】

全体では「やや不満(不安)」が35.1%と高く、次いで「普通」が25.7%となっている。未婚者、既婚者ともに合計で「やや不満(不安)」が高くなっている。次いで、未婚者では「とても不安」が29.0%、既婚者では「普通」が30.1%と高くなっている。

### 【未婚】

合計、年代別とも「やや不満(不安)」が高く、合計37.3%、20代後半33.3%、30代前半35.9%、30代後半41.8%となっている。30代後半では「とても不安」と「やや不安」の合計が70.9%と高くなっている。

### 【既婚】

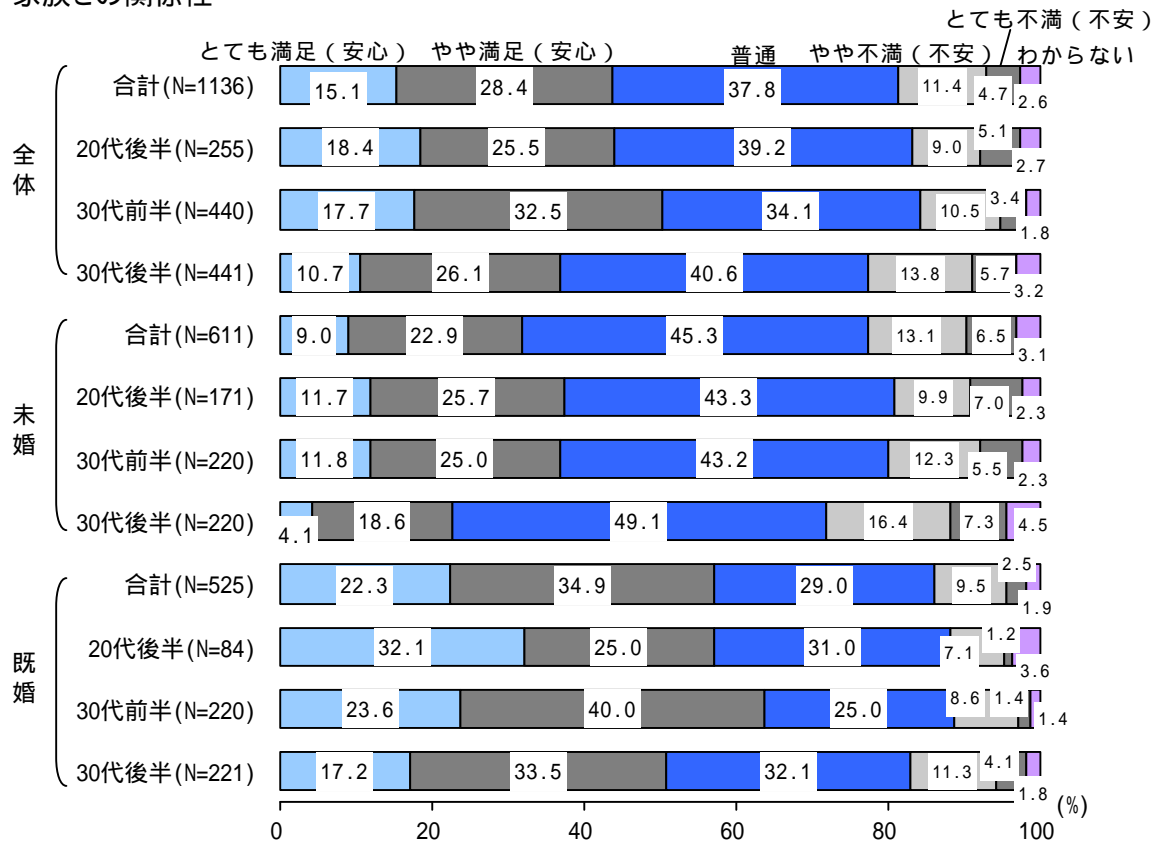
合計、30代は「やや不満(不安)」が高く、合計32.6%、30代前半34.1%、30代後半34.4%となっている。20代後半は「普通」が33.3%と高くなっている。

### 【未婚の年代別・既婚の年代別】

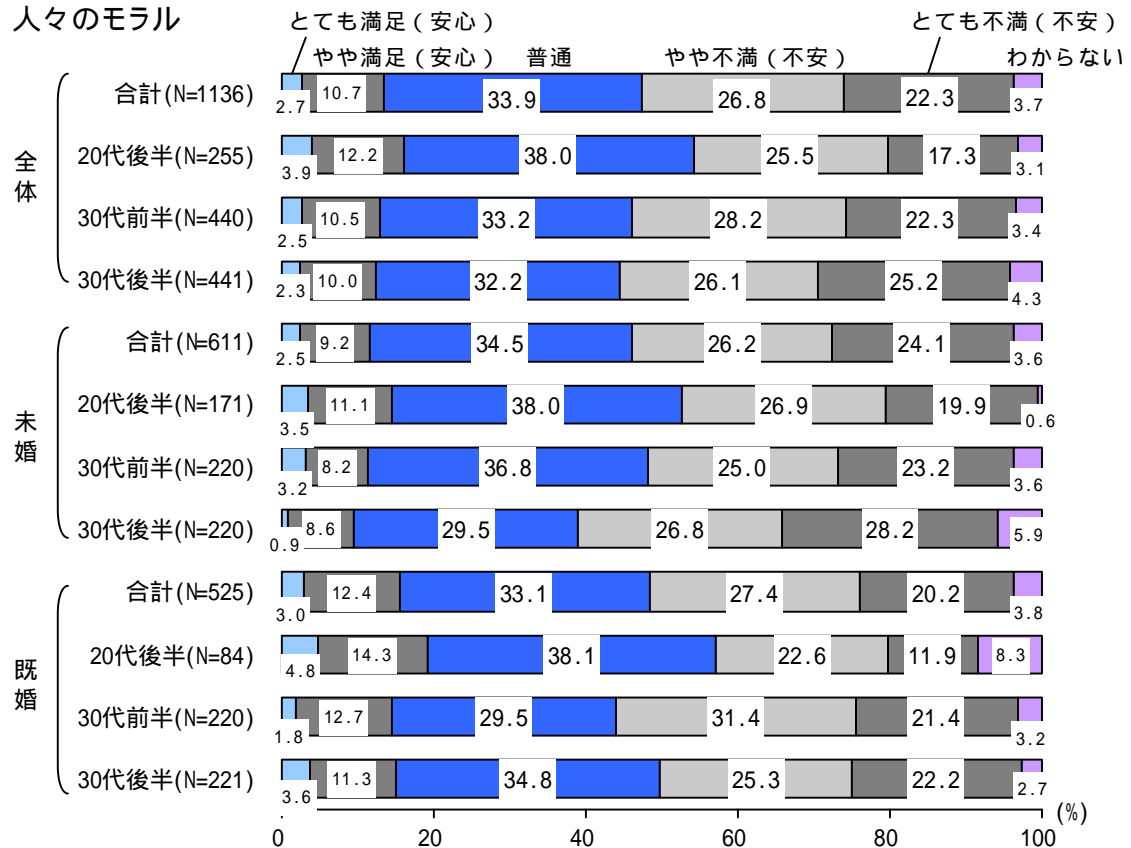
未婚の全年代と既婚の30代は「やや不満(不安)」、既婚の20代後半は「普通」が高くなっている。

(5) 次の項目に対するあなたの満足度(安心度)は。

家族との関係性



人々のモラル



## 家族との関係性

### 【概要】

全体では「普通」が37.8%と高く、次いで「やや満足(安心)」が28.4%となっている。未婚者合計は「普通」、既婚者合計は「やや満足(安心)」が高くなっている。

### 【未婚】

合計、年代別とも「普通」が高く、合計45.3%、20代後半43.3%、30代前半43.2%、30代後半49.1%となっている。

### 【既婚】

合計、30代は「やや満足(安心)」が高く、合計34.9%、30代前半40.0%、30代後半33.5%となっている。20代後半は「とても満足(安心)」が32.1%と高くなっている。

### 【未婚の年代別・既婚の年代別】

未婚全年代は「普通」、既婚の20代後半は「とても満足(安心)」、既婚の30代は「やや満足(安心)」が高くなっている。

## 人々のモラル

### 【概要】

全体では「普通」が33.9%と高く、次いで「やや不満(不安)」が26.8%となっている。未婚者、既婚者ともに合計で「普通」が高くなっている。

### 【未婚】

合計、年代別とも「普通」が高く、合計34.5%、20代後半38.0%、30代前半36.8%、30代後半29.5%となっている。

### 【既婚】

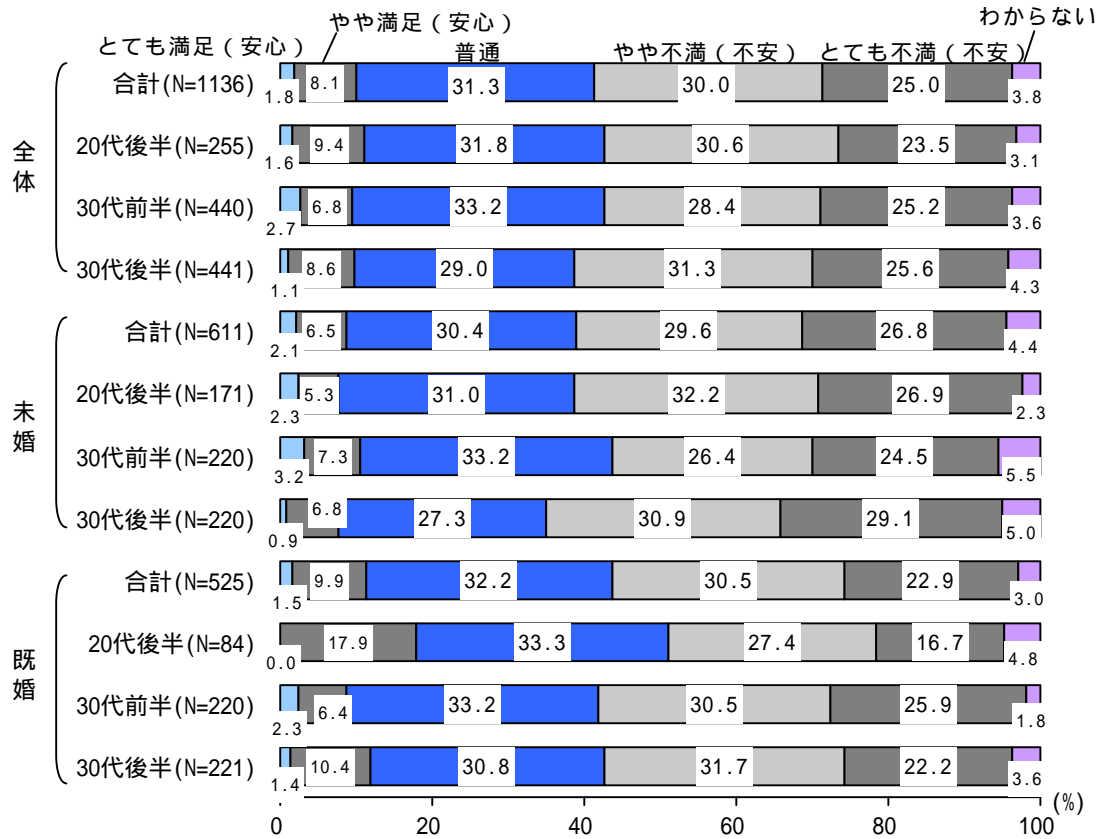
合計、20代後半、30代後半は「普通」が高く、合計33.1%、20代後半38.1%、30代後半34.8%となっている。30代前半は「やや不満(不安)」が31.4%と高くなっている。

### 【未婚の年代別・既婚の年代別】

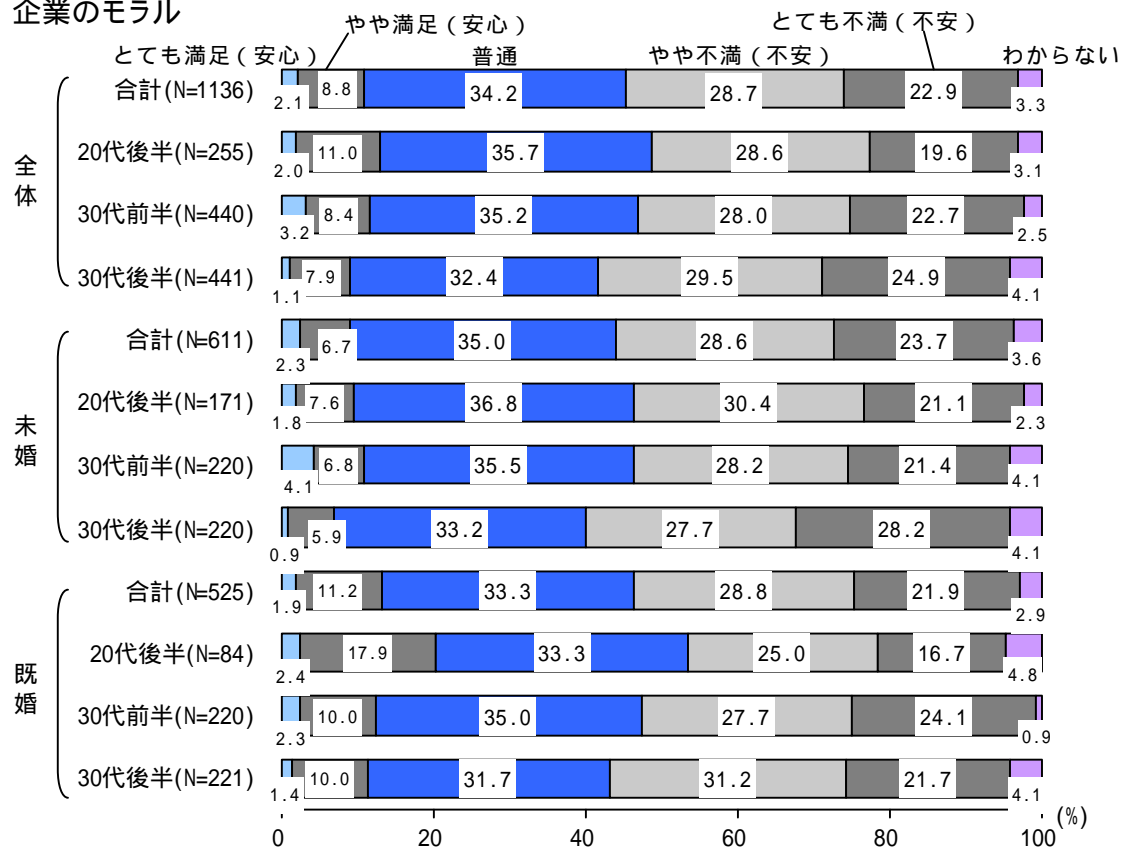
未婚の全年代と既婚の20代後半、30代後半は「普通」、既婚の30代前半は「やや不満(不安)」が最も高くなっている。

(5) 次の項目に対するあなたの満足度(安心度)は。

企業の雇用のあり方



企業のモラル



## 企業の雇用のあり方

### 【概要】

全体では「普通」が31.3%と高く、次いで「やや不満(不安)」が30.0%となっている。未婚者、既婚者ともに合計で「普通」が高くなっている。

### 【未婚】

合計、30代前半は「普通」が高く、合計30.4%、30代前半33.2%となっている。20代後半、30代後半は「やや不満(不安)」が高く、20代後半32.2%、30代後半30.9%となっている。

### 【既婚】

合計、20代後半、30代前半は「普通」が高く、合計32.2%、20代後半33.3%、30代前半33.2%、30代後半は「やや不満(不満)」が31.7%と高くなっている。

### 【未婚の年代別・既婚の年代別】

未婚の20代後半、30代後半、既婚の30代後半は「やや不満(不安)」、未婚の30代前半と既婚の20代後半、30代前半は「普通」が高くなっている。

## 企業のモラル

### 【概要】

全体では「普通」が34.2%と高く、次いで「やや不満(不安)」が28.7%となっている。未婚者、既婚者ともに合計で「普通」が高くなっている。

### 【未婚】

合計、年代別とも「普通」が高く、合計35.0%、20代後半36.8%、30代前半35.5%、30代後半33.2%となっている。

### 【既婚】

合計、年代別とも「普通」が高く、合計33.3%、20代後半33.3%、30代前半35.0%、30代後半31.7%となっている。

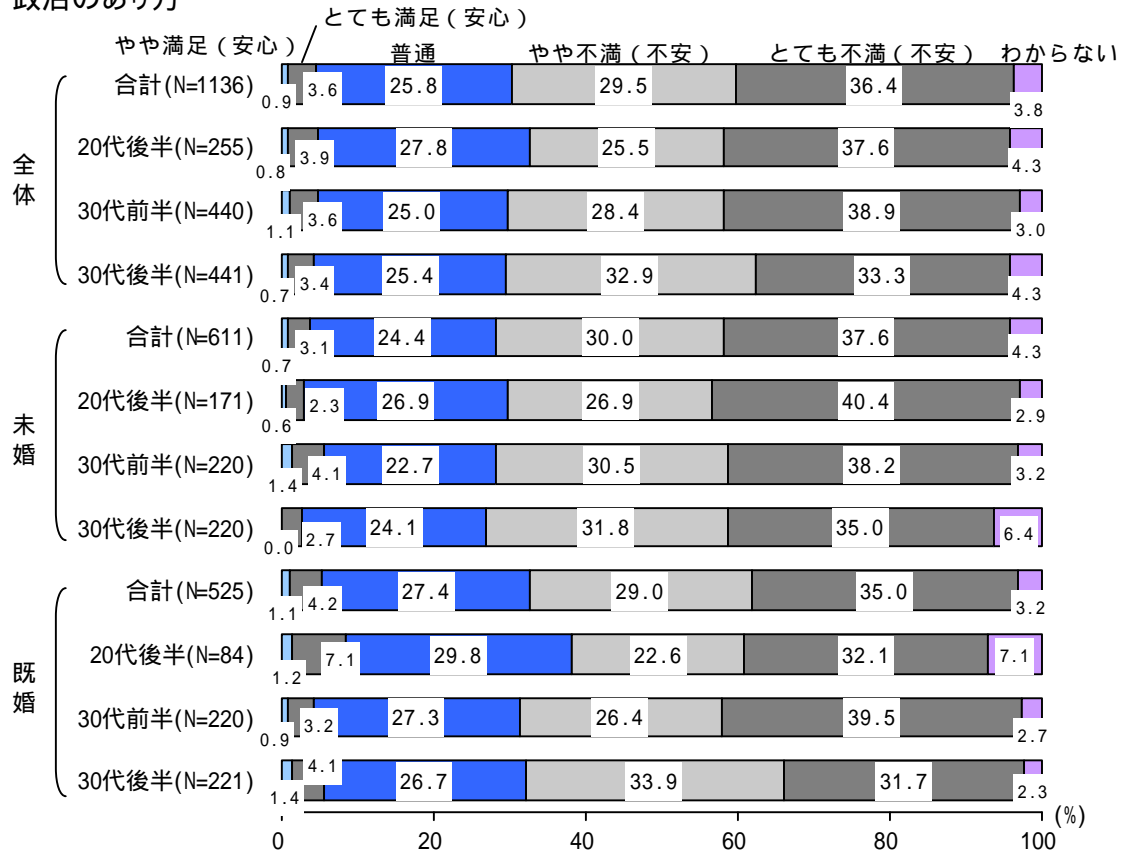
### 【未婚の年代別・既婚の年代別】

未婚、既婚ともに全年代で「普通」が高くなっている。

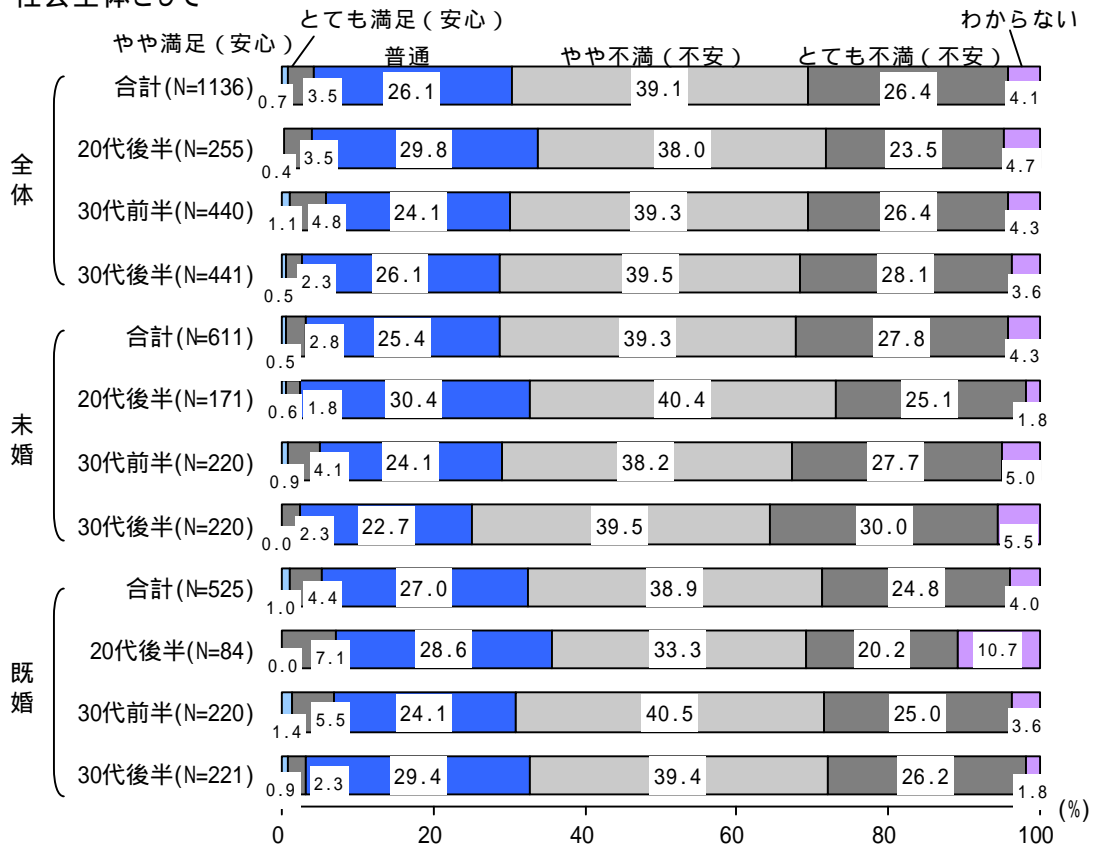


(5) 次の項目に対するあなたの満足度(安心度)は。

政治のあり方



社会全体として



## 政治のあり方

### 【概要】

全体では「とても不満(不安)」が36.4%と高く、次いで「やや不満(不安)」が29.5%となっている。未婚者、既婚者ともに合計で「とても不満(不安)」が高くなっている。

### 【未婚】

合計、年代別とも「とても不満(不安)」が高く、合計37.6%、20代後半40.4%、30代前半38.2%、30代後半35.0%となっている。

### 【既婚】

合計、20代後半、30代前半は「とても不満(不安)」が高く、合計35.0%、20代後半32.1%、30代前半39.5%となっている。30代後半は「やや不満(不安)」が33.9%と高くなっている。

### 【未婚の年代別・既婚の年代別】

未婚の全年代と既婚の20代後半、30代前半は「とても不満(不安)」、既婚の30代後半は「やや不満(不安)」が高くなっている。

## 社会全体として

### 【概要】

全体では「やや不満(不安)」が39.1%と高く、次いで「とても不満(不安)」が26.4%となっている。未婚者、既婚者ともに合計で「やや不満(不安)」が高くなっている。

### 【未婚】

合計、年代別とも「やや不満(不安)」が高く、合計39.3%、20代後半40.4%、30代前半38.2%、30代後半39.5%となっている。

### 【既婚】

合計、年代別とも「やや不満(不安)」が高く、合計38.9%、20代後半33.3%、30代前半40.5%、30代後半39.4%となっている。

### 【未婚の年代別・既婚の年代別】

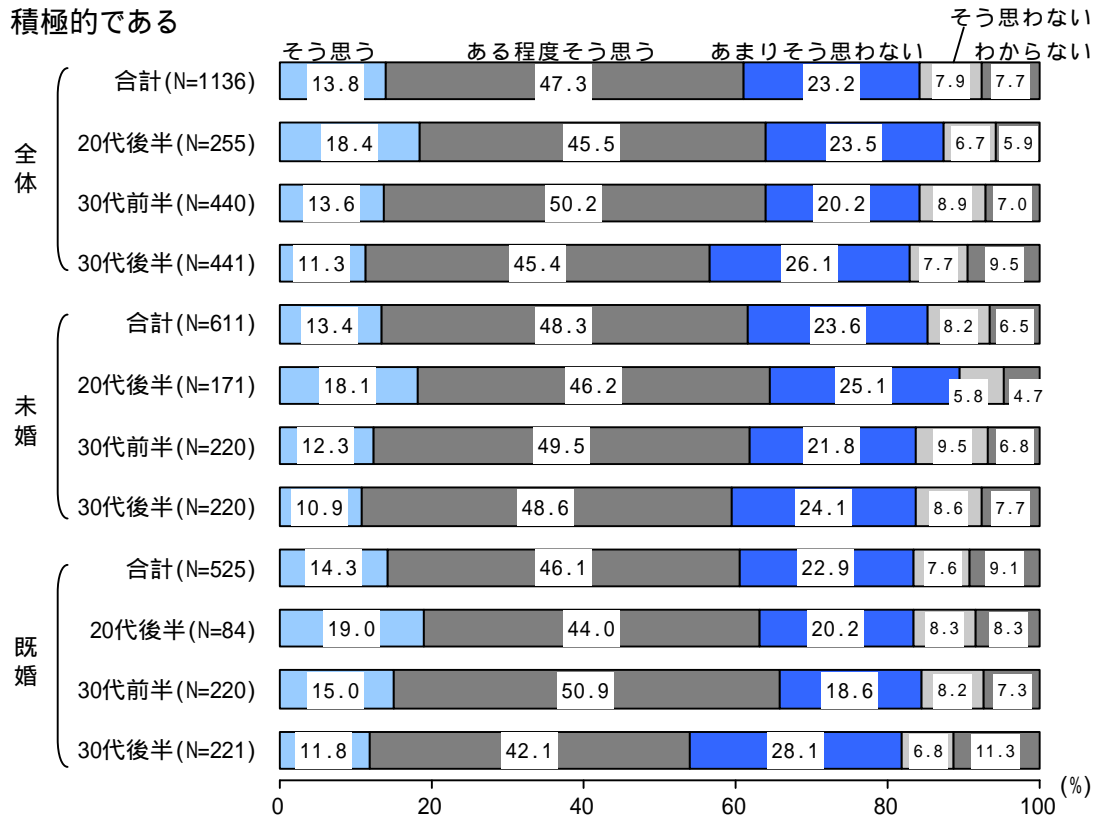
未婚、既婚ともに全年代で「やや不満(不安)」が高くなっている。

## 8 男女共同参画

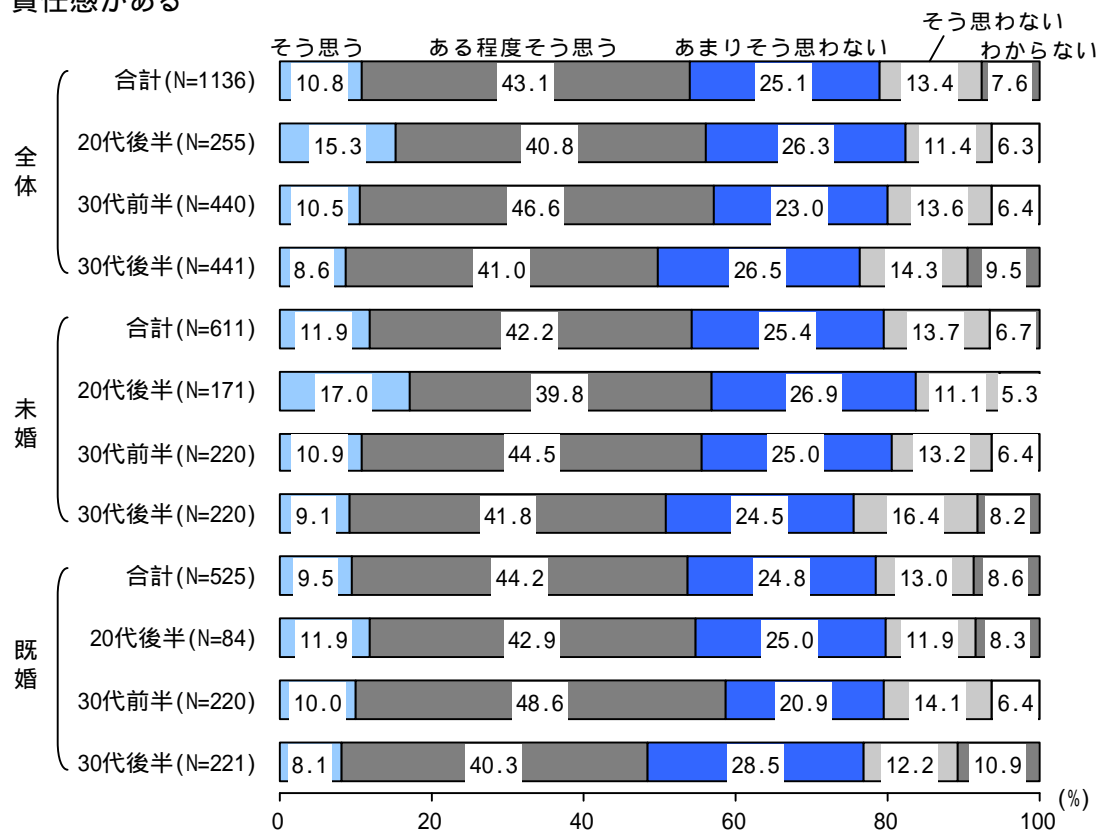
### 女性の働きぶり

(1) あなたの職場や周囲で働く女性の働きぶりは。

積極的である



責任感がある



## 積極的である

### 【概要】

全体では「ある程度そう思う」が 47.3%と高く、次いで「あまりそう思わない」が 23.2%となっている。未婚者、既婚者ともに合計で「ある程度そう思う」が高くなっている。

### 【未婚】

合計、年代別とも「ある程度そう思う」が高く、合計 48.3%、20代後半 46.2%、30代前半 49.5%、30代後半 48.6%となっている。

### 【既婚】

合計、年代別とも「ある程度そう思う」が高く、合計 46.1%、20代後半 44.0%、30代前半 50.9%、30代後半 42.1%となっている。

### 【未婚の年代別・既婚の年代別】

未婚、既婚ともに全年代で「ある程度そう思う」が高くなっている。

## 責任感がある

### 【概要】

全体では「ある程度そう思う」が 43.1%と高く、次いで「あまりそう思わない」が 25.1%となっている。未婚者、既婚者ともに合計で「ある程度そう思う」が高くなっている。

### 【未婚】

合計、年代別とも「ある程度そう思う」が高く、合計 42.2%、20代後半 39.8%、30代前半 44.5%、30代後半 41.8%となっている。

### 【既婚】

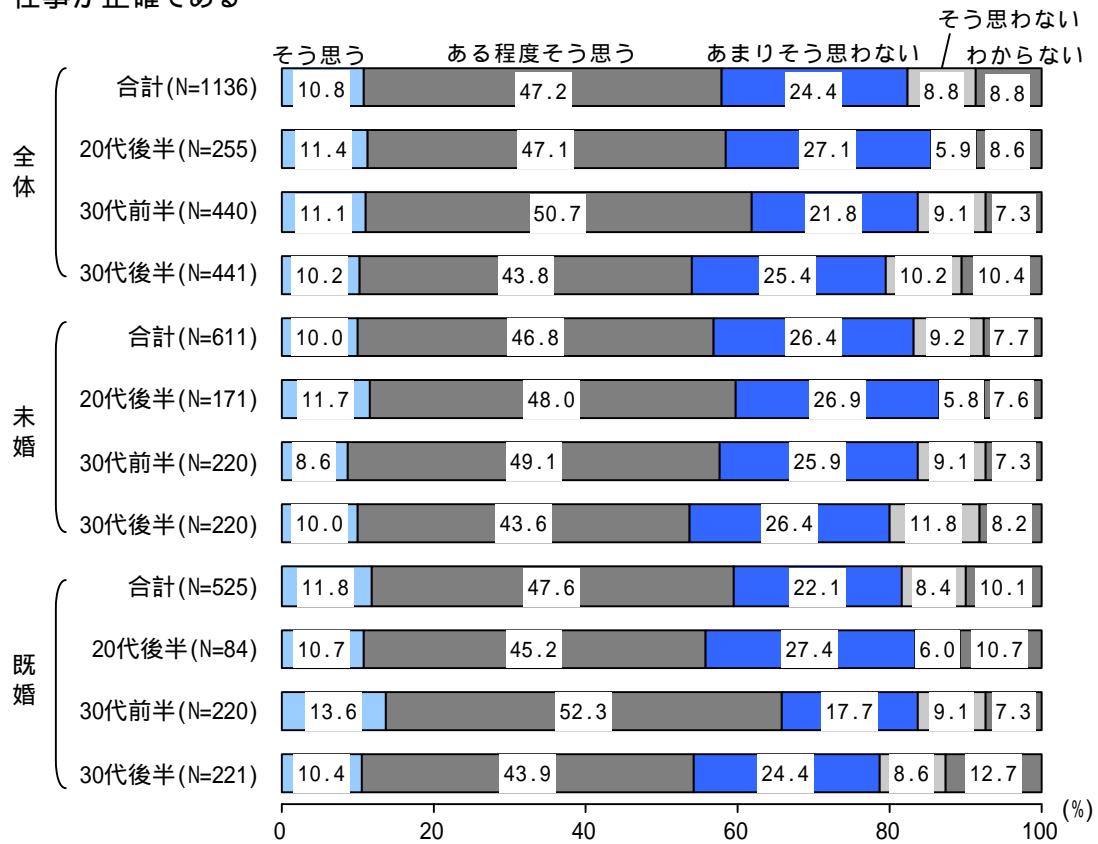
合計、年代別とも「ある程度そう思う」が高く、合計 44.2%、20代後半 42.9%、30代前半 48.6%、30代後半 40.3%となっている。

### 【未婚の年代別・既婚の年代別】

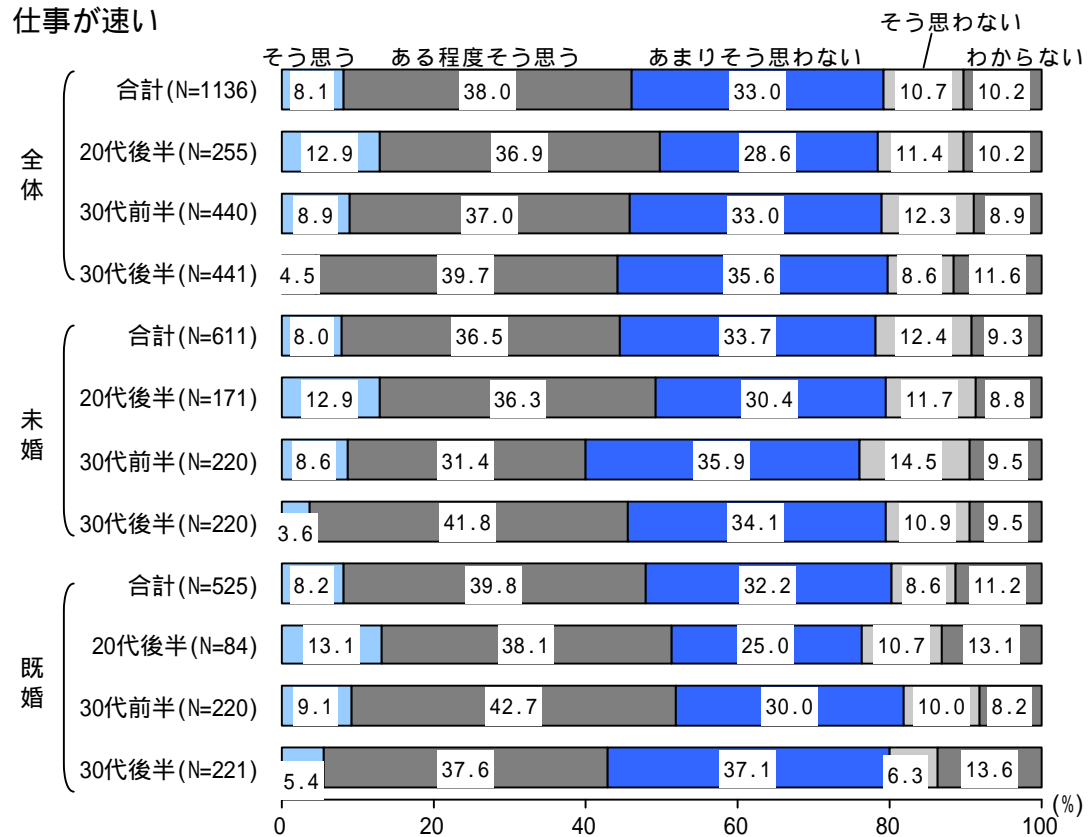
未婚、既婚ともに全年代で「ある程度そう思う」が高くなっている。

(1) あなたの職場や周囲で働く女性の働きぶりは。

仕事が正確である



仕事が速い



## 仕事が正確である

### 【概要】

全体では「ある程度そう思う」が 47.2%と高く、次いで「あまりそう思わない」が 24.4%となっている。未婚者、既婚者ともに合計で「ある程度そう思う」が高くなっている。

### 【未婚】

合計、年代別とも「ある程度そう思う」が高く、合計 46.8%、20代後半 48.0%、30代前半 49.1%、30代後半 43.6%となっている。

### 【既婚】

合計、年代別とも「ある程度そう思う」が高く、合計 47.6%、20代後半 45.2%、30代前半 52.3%、30代後半 43.9%となっている。

### 【未婚の年代別・既婚の年代別】

未婚、既婚ともに全年代で「ある程度そう思う」が高くなっている。

## 仕事が速い

### 【概要】

全体では「ある程度そう思う」が 38.0%と高く、次いで「あまりそう思わない」が 33.0%となっている。未婚者、既婚者ともに合計で「ある程度そう思う」が高くなっている。

### 【未婚】

合計、20代後半、30代後半は「ある程度そう思う」が高く、合計 36.5%、20代後半 36.3%、30代後半 41.8%となっており、30代前半は「あまりそう思わない」が 35.9%と高い。

### 【既婚】

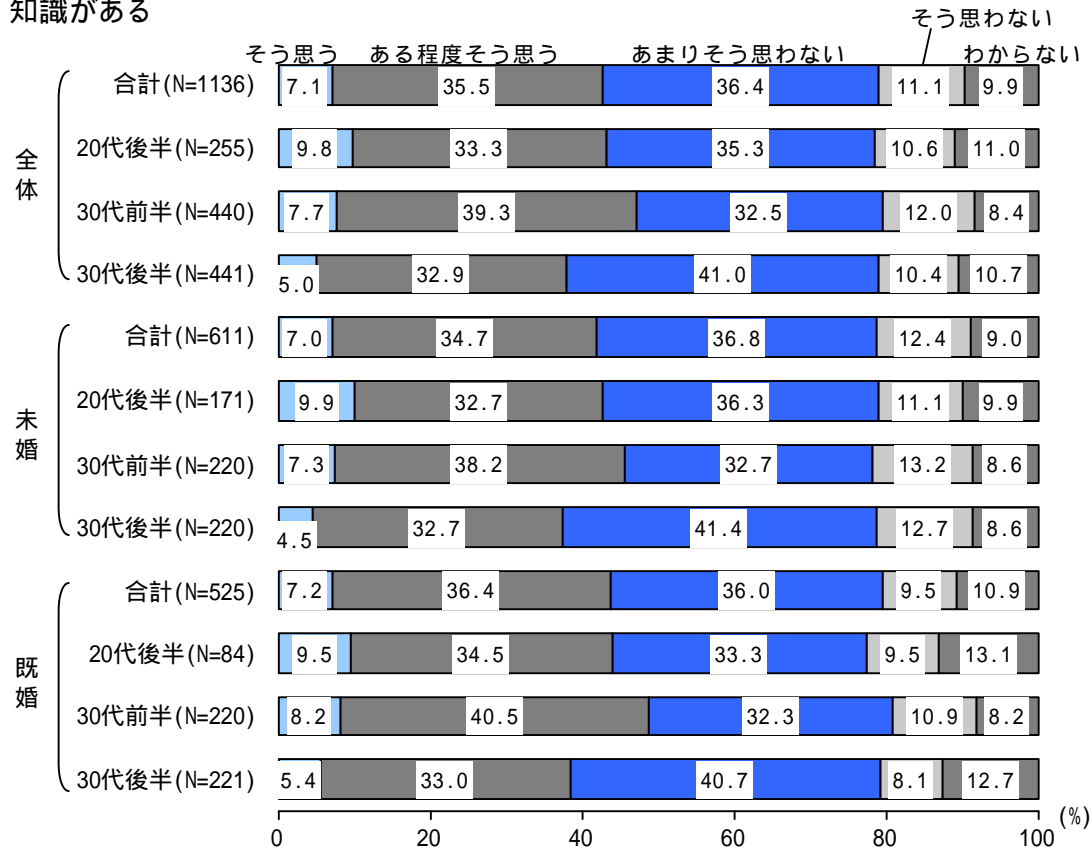
合計、年代別とも「ある程度そう思う」が高く、合計 39.8%、20代後半 38.1%、30代前半 42.7%、30代後半 37.6%となっている。

### 【未婚の年代別・既婚の年代別】

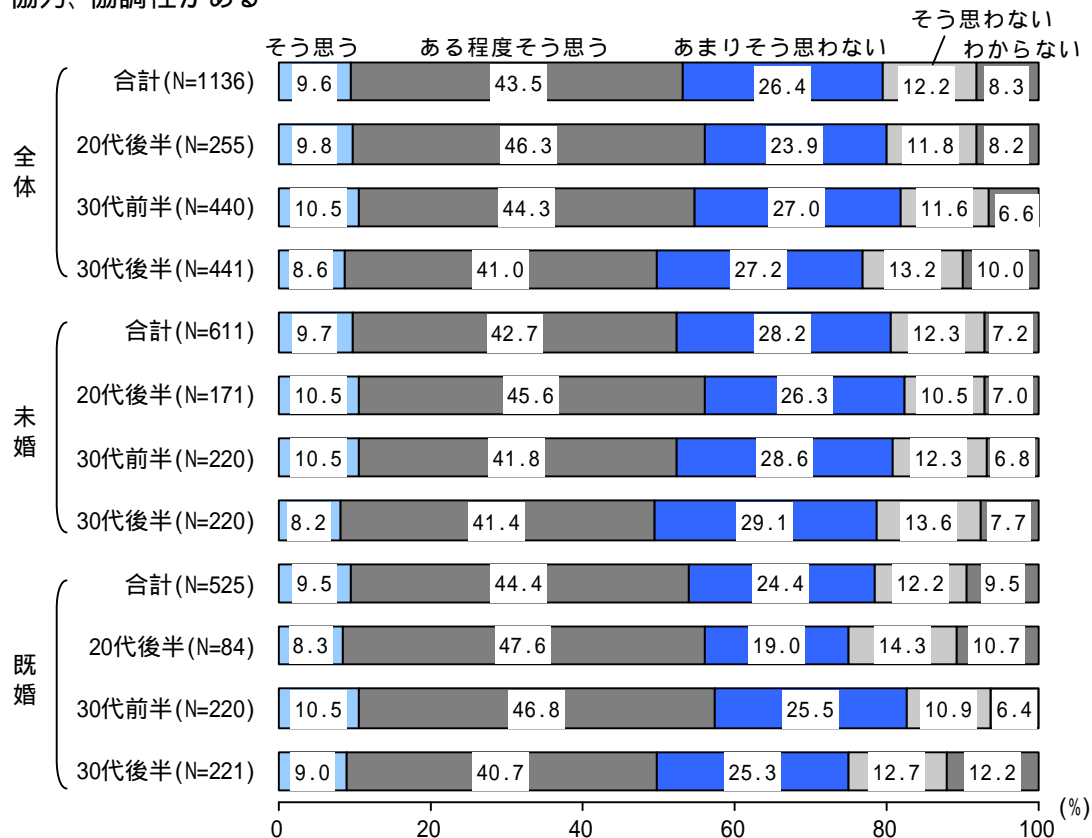
既婚全年代と未婚 20代後半、30代後半は「ある程度そう思う」が高く、未婚 30代前半は「あまりそう思わない」が高い。

(1) あなたの職場や周囲で働く女性の働きぶりは。

知識がある



協力、協調性がある



## 知識がある

### 【概要】

全体では「あまりそう思わない」が 36.4%と高く、次いで「ある程度そう思う」が 35.5%となっている。

### 【未婚】

合計、20代後半、30代後半は「あまりそう思わない」が高く、合計 36.8%、20代後半 36.3%、30代後半 41.4%となっている。30代前半は「ある程度そう思う」が 38.2%と高くなっている。

### 【既婚】

合計、30代後半は「あまりそう思わない」が高く、合計 36.0%、30代後半 40.7%となっている。20代後半、30代前半は「ある程度そう思う」が高く、20代後半 34.5%、30代前半 40.5%となっている。

### 【未婚の年代別・既婚の年代別】

未婚の20代後半、30代後半と既婚の30代後半は「あまりそう思わない」、未婚の30代前半と既婚の20代後半、30代前半は「ある程度そう思う」が高くなっている。

## 協力、協調性がある

### 【概要】

全体では「ある程度そう思う」が 43.5%と高く、次いで「あまりそう思わない」が 26.4%となっている。未婚者、既婚者ともに合計で「ある程度そう思う」が高くなっている。

### 【未婚】

合計、年代別とも「ある程度そう思う」が高く、合計 42.7%、20代後半 45.6%、30代前半 41.8%、30代後半 41.4%となっている。

### 【既婚】

合計、年代別とも「ある程度そう思う」が高く、合計 44.4%、20代後半 47.6%、30代前半 46.8%、30代後半 40.7%となっている。

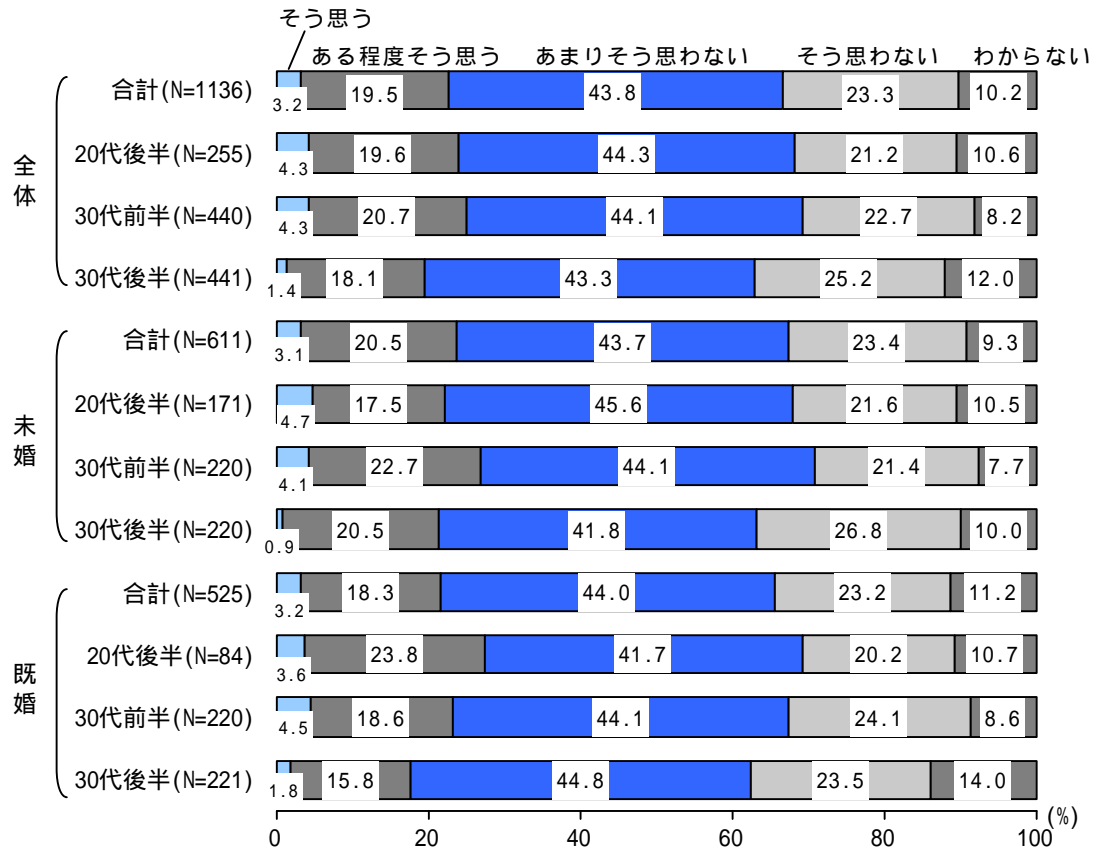
### 【未婚の年代別・既婚の年代別】

未婚、既婚ともに全年代で「ある程度そう思う」が高くなっている。

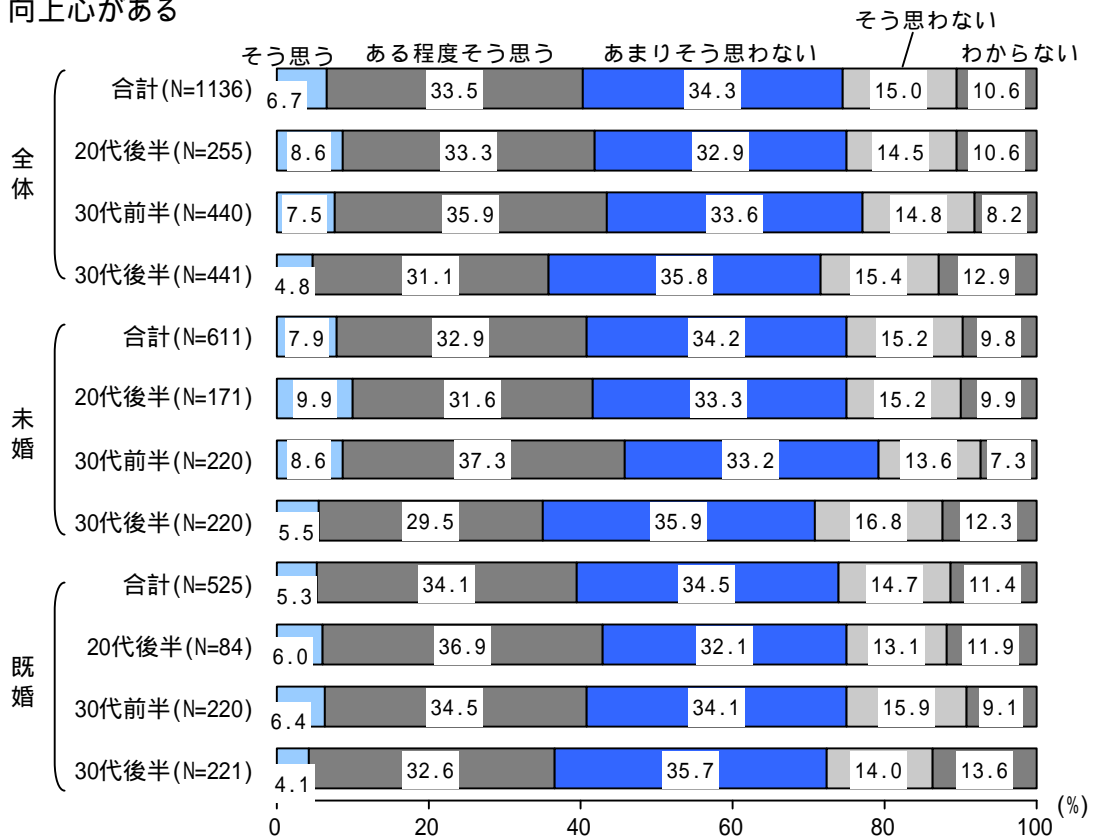


(1) あなたの職場や周囲で働く女性の働きぶりは。

リーダーシップ(統率力)がある



向上心がある



リーダーシップ(統率力)がある

**【概要】**

全体では「あまりそう思わない」が 43.8%と高く、次いで「そう思わない」が 23.3%となっている。未婚者、既婚者ともに合計で「あまりそう思わない」が高くなっている。

**【未婚】**

合計、年代別とも「あまりそう思わない」が高く、合計 43.7%、20代後半 45.6%、30代前半 44.1%、30代後半 41.8%となっている。

**【既婚】**

合計、年代別とも「あまりそう思わない」が高く、合計 44.0%、20代後半 41.7%、30代前半 44.1%、30代後半 44.8%となっている。

**【未婚の年代別・既婚の年代別】**

未婚、既婚ともに全年代で「あまりそう思わない」が高くなっている。

向上心がある

**【概要】**

全体では「あまりそう思わない」が 34.3%と高く、次いで「ある程度そう思う」が 33.5%となっている。未婚者、既婚者ともに合計で「あまりそう思わない」が高くなっている。

**【未婚】**

合計、20代後半、30代後半は「あまりそう思わない」が高く、合計 34.2%、20代後半 33.3%、30代後半 35.9%となっている。30代前半は「ある程度そう思う」が高く 37.3%となっている。

**【既婚】**

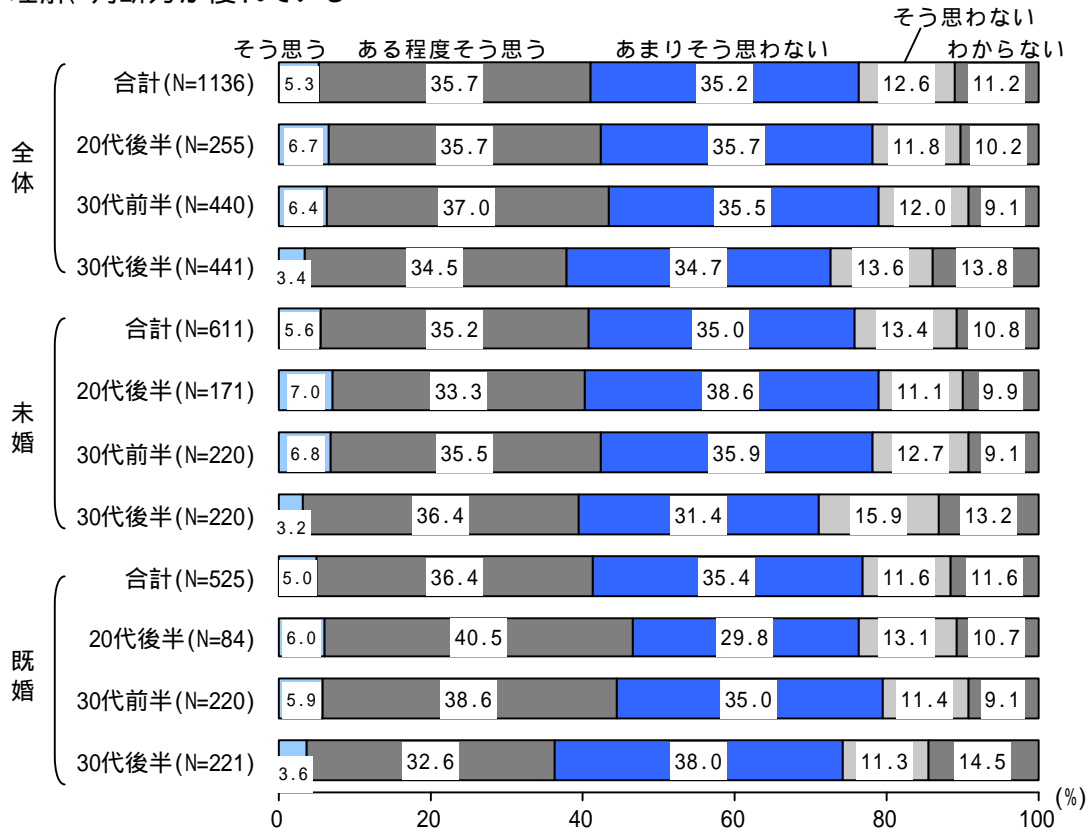
合計、30代後半は「あまりそう思わない」が高く、合計 34.5%、30代後半 35.7%となっている。20代後半、30代前半は「ある程度そう思う」が高く、20代後半 36.9%、30代前半 34.5%となっている。

**【未婚の年代別・既婚の年代別】**

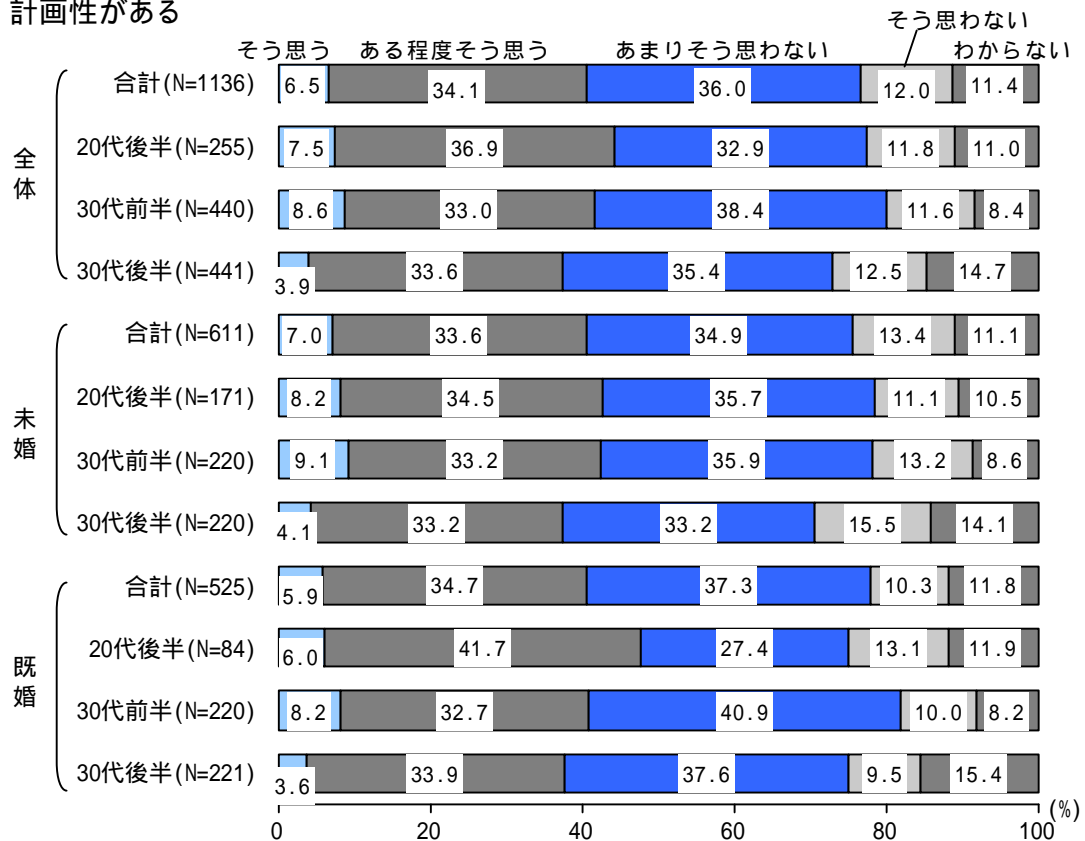
未婚の20代後半、30代後半と既婚の30代後半は「あまりそう思わない」、未婚の30代前半と既婚の20代後半、30代前半は「ある程度そう思う」が高くなっている。

(1) あなたの職場や周囲で働く女性の働きぶりは、

理解、判断力が優れている



計画性がある



理解、判断力が優れている

【概要】

全体では「ある程度そう思う」が 35.7%と高く、次いで「あまりそう思わない」が 35.2%となっている。未婚者、既婚者ともに合計で「ある程度そう思う」が高くなっている。

【未婚】

合計、30代後半は「ある程度そう思う」が高く、合計 35.2%、30代後半 36.4%となっている。20代後半、30代前半は「あまりそう思わない」が高く、20代後半 38.6%、30代前半 35.9%となっている。

【既婚】

合計、20代後半、30代前半は「ある程度そう思う」が高く、合計 36.4%、20代後半 40.5%、30代前半 38.6%となっている。30代後半は「あまりそう思わない」が高く 38.0%となっている。

【未婚の年代別・既婚の年代別】

未婚の30代後半と既婚の20代後半、30代前半は「ある程度そう思う」、未婚の20代後半、30代前半と既婚の30代後半は「あまりそう思わない」が高くなっている。

計画性がある

【概要】

全体では「あまりそう思わない」が 36.0%と高く、次いで「ある程度そう思う」が 34.1%となっている。未婚者、既婚者ともに合計で「あまりそう思わない」が高くなっている。

【未婚】

合計、20代後半、30代前半は「あまりそう思わない」が高く、合計 34.9%、20代後半 35.7%、30代前半 35.9%、30代後半は「ある程度そう思う」「あまりそう思わない」がともに 33.2%となっている。

【既婚】

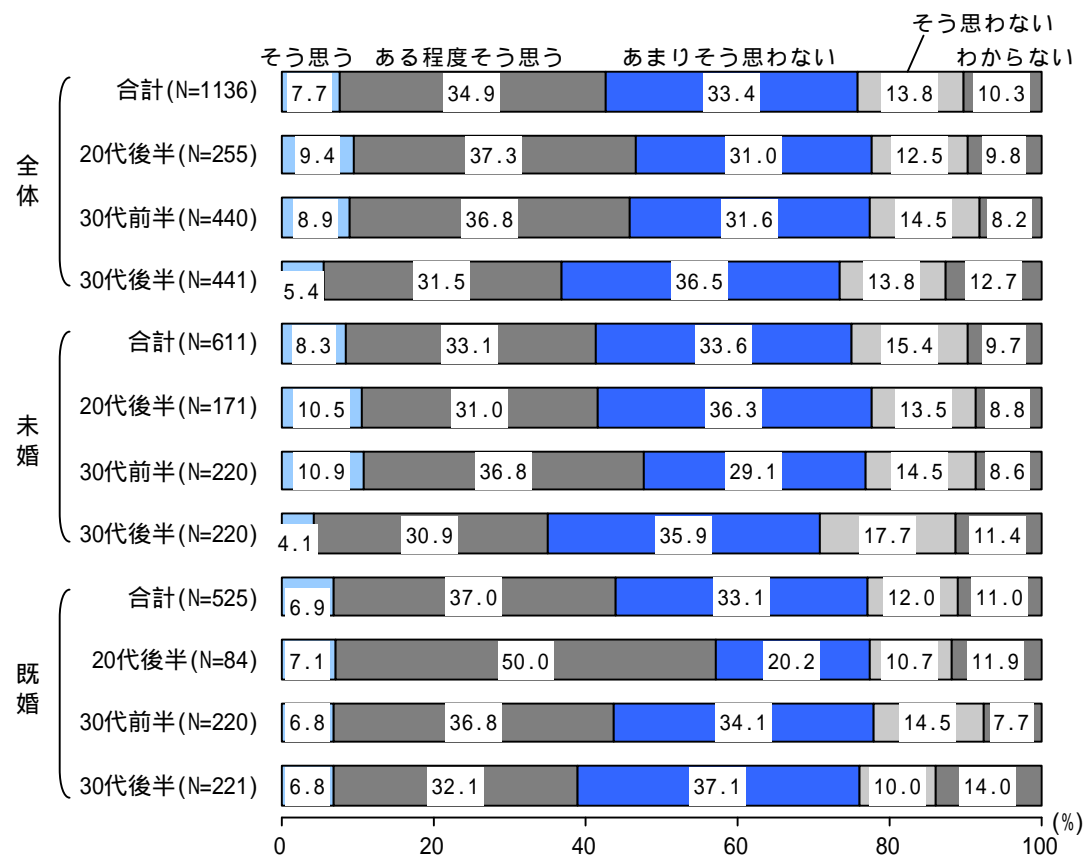
合計、30代は「あまりそう思わない」が高く、合計 37.3%、30代前半 40.9%、30代後半 37.6%となっている。20代後半は「ある程度そう思う」が 41.7%と高くなっている。

【未婚の年代別・既婚の年代別】

未婚 20代後半、30代前半と既婚 30代は「あまりそう思わない」、既婚の20代後半、未婚 30代後半は「ある程度そう思う」が高くなっている。

(1) あなたの職場や周囲で働く女性の働きぶりは。

冷静・客観的である



冷静・客観的である

【概要】

全体では「ある程度そう思う」が 34.9%と高く、次いで「あまりそう思わない」が 33.4%となっている。未婚者合計は「あまりそう思わない」、既婚者合計は「ある程度そう思う」が高くなっている。

【未婚】

合計、20代後半、30代後半は「あまりそう思わない」が高く、合計 33.6%、20代後半 36.3%、30代後半 35.9%となっている。30代前半は「ある程度そう思う」が 36.8%と高くなっている。

【既婚】

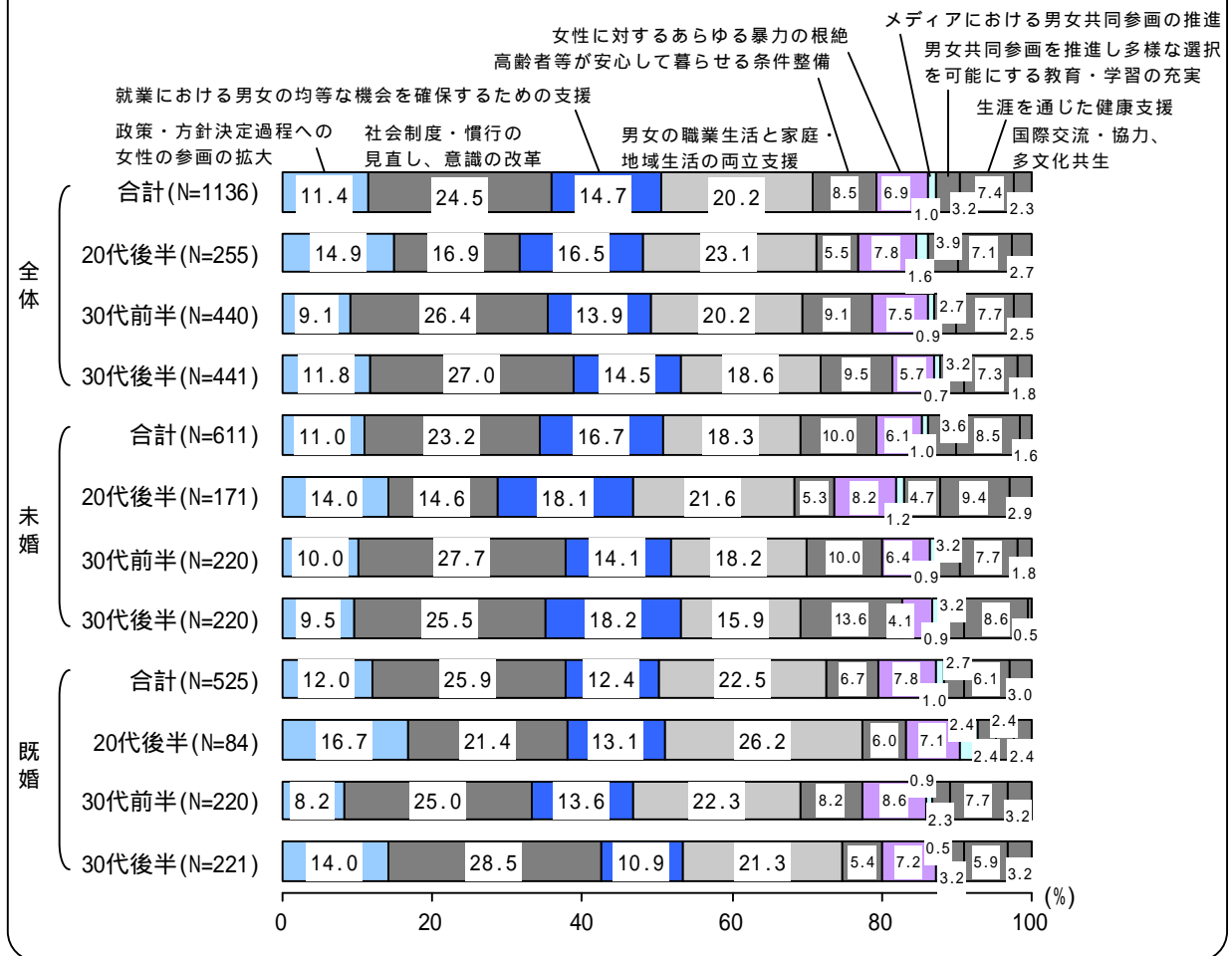
合計、20代後半、30代前半は「ある程度そう思う」が高く、合計 37.0%、20代後半 50.0%、30代前半 36.8%となっている。30代後半は「あまりそう思わない」が高く 37.1%となっている。

【未婚の年代別・既婚の年代別】

未婚の 20代後半、30代後半と既婚の 30代後半は「あまりそう思わない」、未婚の 30代前半と既婚の 20代後半、30代前半は「ある程度そう思う」が高くなっている。

## 市が力を入れる必要があると思う課題

(4)「大阪市男女共同参画基本計画 - 大阪市男女きらめき計画 -」で掲げている10の課題のうち、大阪市がより力を入れる必要があるとあなたが考えるものは。(1位)



### 【概要】

全体では「社会制度・慣行の見直し、意識の改革」が24.5%と高く、次いで「男女の職業生活と家庭・地域生活の両立支援」が20.2%となっている。未婚者、既婚者ともに合計で「社会制度・慣行の見直し、意識の改革」が高くなっている。

### 【未婚】

合計、30代は「社会制度・慣行の見直し、意識の改革」が高く、合計23.2%、30代前半27.7%、30代後半25.5%となっている。20代後半は「男女の職業生活と家庭・地域生活の両立支援」が21.6%と高くなっている。

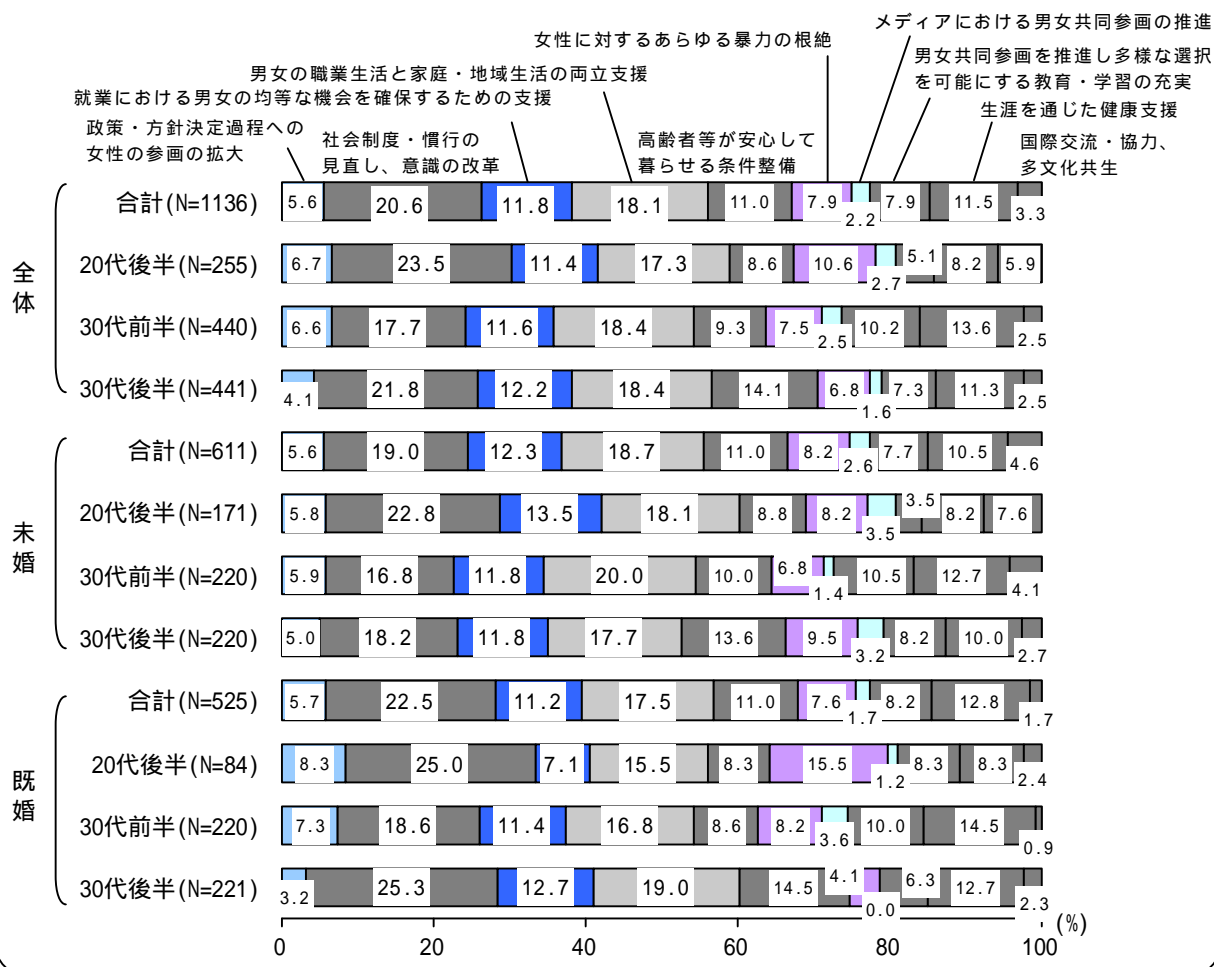
### 【既婚】

合計、30代は「社会制度・慣行の見直し、意識の改革」が高く、合計25.9%、30代前半25.0%、30代後半28.5%となっている。20代後半は「男女の職業生活と家庭・地域生活の両立支援」が26.2%と高くなっている。

### 【未婚の年代別・既婚の年代別】

未婚の30代と既婚の30代は「社会制度・慣行の見直し、意識の改革」、未婚の20代後半と既婚の20代後半は「男女の職業生活と家庭・地域生活の両立支援」が高くなっている。

(4)「大阪市男女共同参画基本計画 - 大阪市男女きらめき計画 -」で掲げている10の課題のうち、大阪市がより力を入れる必要があるとあなたが考えるものは。(2位)



【概要】

全体では「社会制度・慣行の見直し、意識の改革」が20.6%と高く、次いで「男女の職業生活と家庭・地域生活の両立支援」が18.1%となっている。未婚者、既婚者ともに合計で「社会制度・慣行の見直し、意識の改革」が高くなっている。

【未婚】

合計、20代後半、30代後半は「社会制度・慣行の見直し、意識の改革」が高く、合計19.0%、20代後半22.8%、30代後半18.2%となっている。30代前半は「男女の職業生活と家庭・地域生活の両立支援」が20.0%と高くなっている。

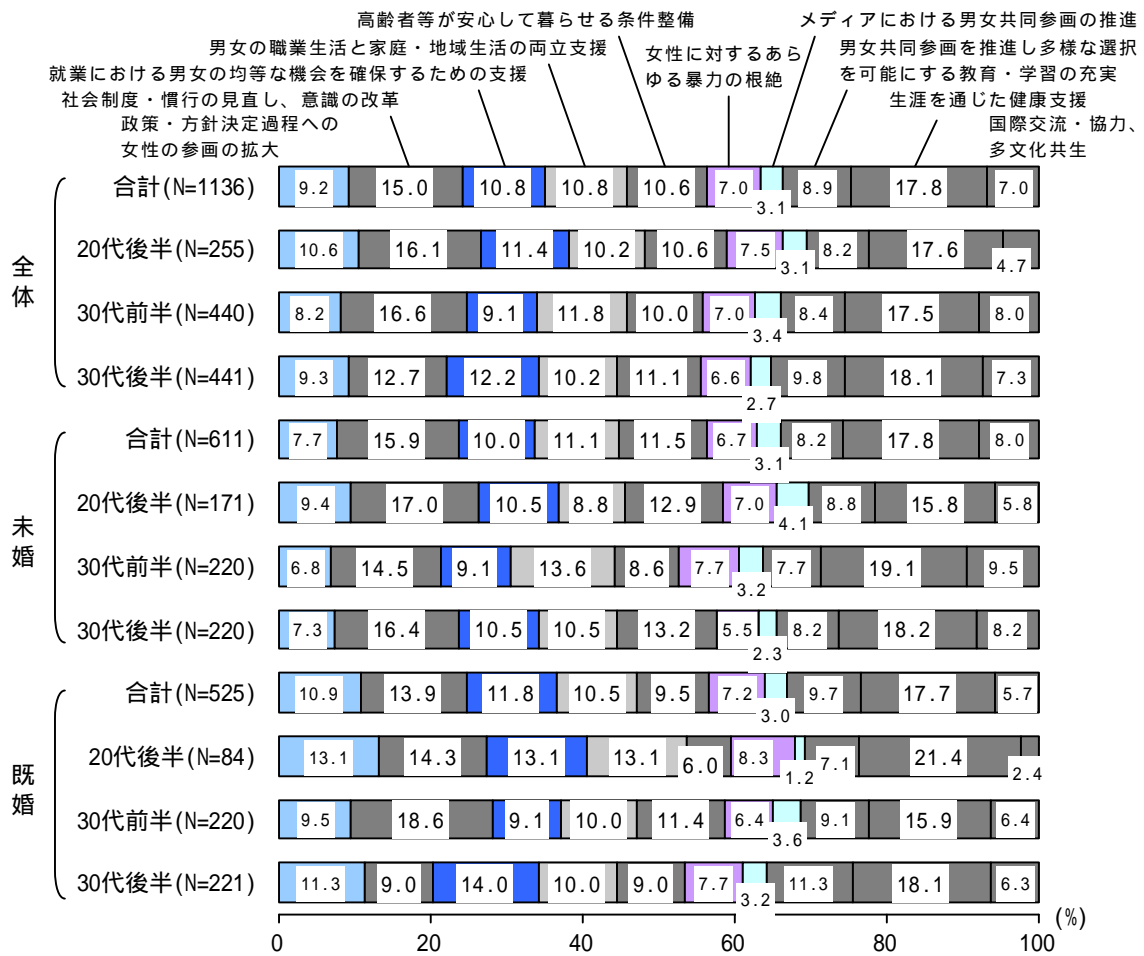
【既婚】

合計、年代別とも「社会制度・慣行の見直し、意識の改革」が高く、合計22.5%、20代後半25.0%、30代前半18.6%、30代後半25.3%となっている。

【未婚の年代別・既婚の年代別】

未婚の20代後半、30代後半と既婚の全年代で「社会制度・慣行の見直し、意識の改革」、未婚の30代前半で「男女の職業生活と家庭・地域生活の両立支援」が高くなっている。

(4)「大阪市男女共同参画基本計画 - 大阪市男女きらめき計画 -」で掲げている10の課題のうち、大阪市がより力を入れる必要があるとあなたが考えるものは。(3位)



【概要】

全体では「生涯を通じた健康支援」が17.8%と高く、次いで「社会制度・慣行の見直し、意識の改革」が15.0%となっている。未婚者、既婚者ともに合計で「生涯を通じた健康支援」が高くなっている。

【未婚】

合計、30代は「生涯を通じた健康支援」が高く、合計17.8%、30代前半19.1%、30代後半18.2%となっている。20代後半は「社会制度・慣行の見直し、意識の改革」が17.0%と高くなっている。

【既婚】

合計、20代後半、30代後半は「生涯を通じた健康支援」が高く、合計17.7%、20代後半21.4%、30代後半18.1%となっている。30代前半は「社会制度・慣行の見直し、意識の改革」が18.6%と高くなっている。

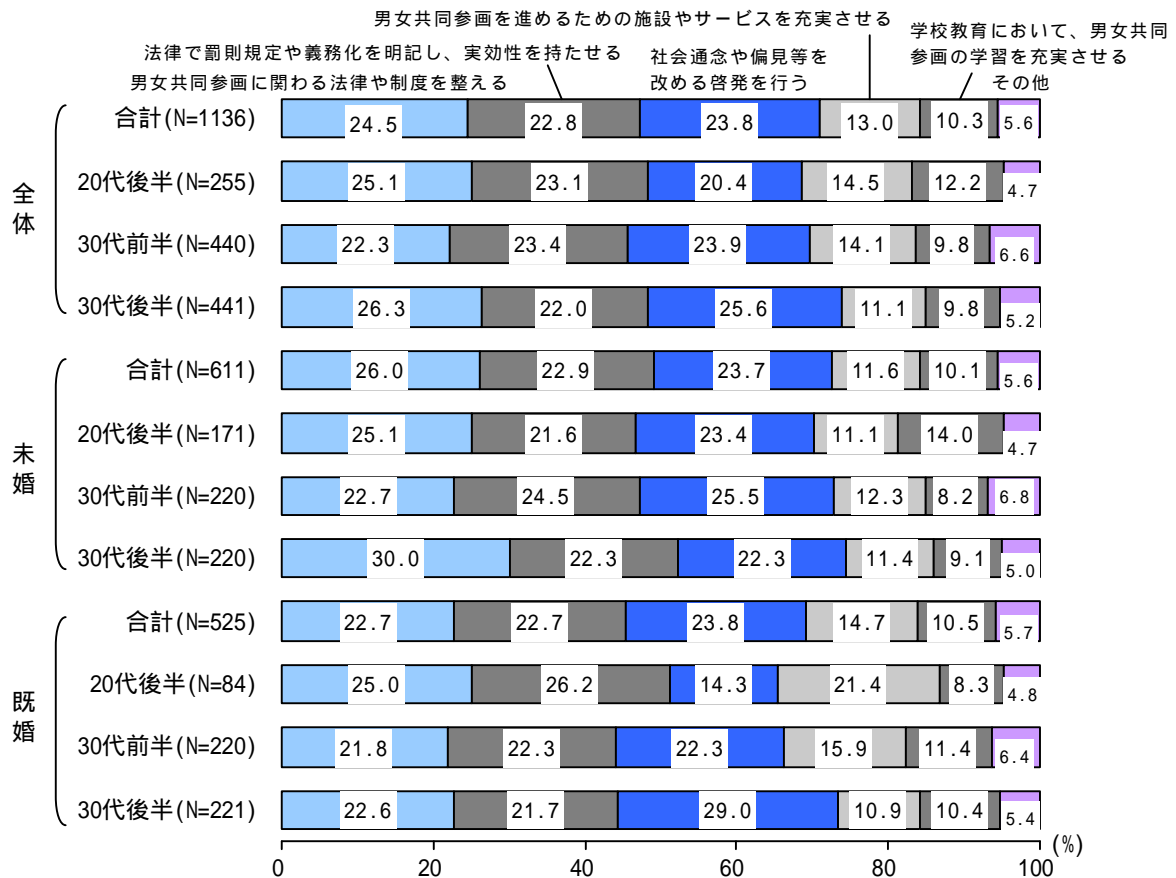
【未婚の年代別・既婚の年代別】

未婚の30代と既婚の20代後半、30代後半は「生涯を通じた健康支援」、未婚の20代後半と既婚の30代前半は「社会制度・慣行の見直し、意識の改革」が高くなっている。



## 男女共同参画社会の実現に必要な行政の取組

(5) 男女共同参画社会の実現のために、行政が取り組む必要があるとあなたが考えるものは。(1位)



### 【概要】

全体では「男女共同参画に関わる法律や制度を整える」が24.5%と高く、次いで「社会通念や偏見等を改める啓発を行う」が23.8%となっている。未婚者合計は「男女共同参画に関わる法律や制度を整える」、既婚者合計は「社会通念や偏見等を改める啓発を行う」が高くなっている。

### 【未婚】

合計、20代後半、30代後半は「男女共同参画に関わる法律や制度を整える」が高く、合計26.0%、20代後半25.1%、30代後半30.0%となっている。30代前半は「社会通念や偏見等を改める啓発を行う」が25.5%と高くなっている。

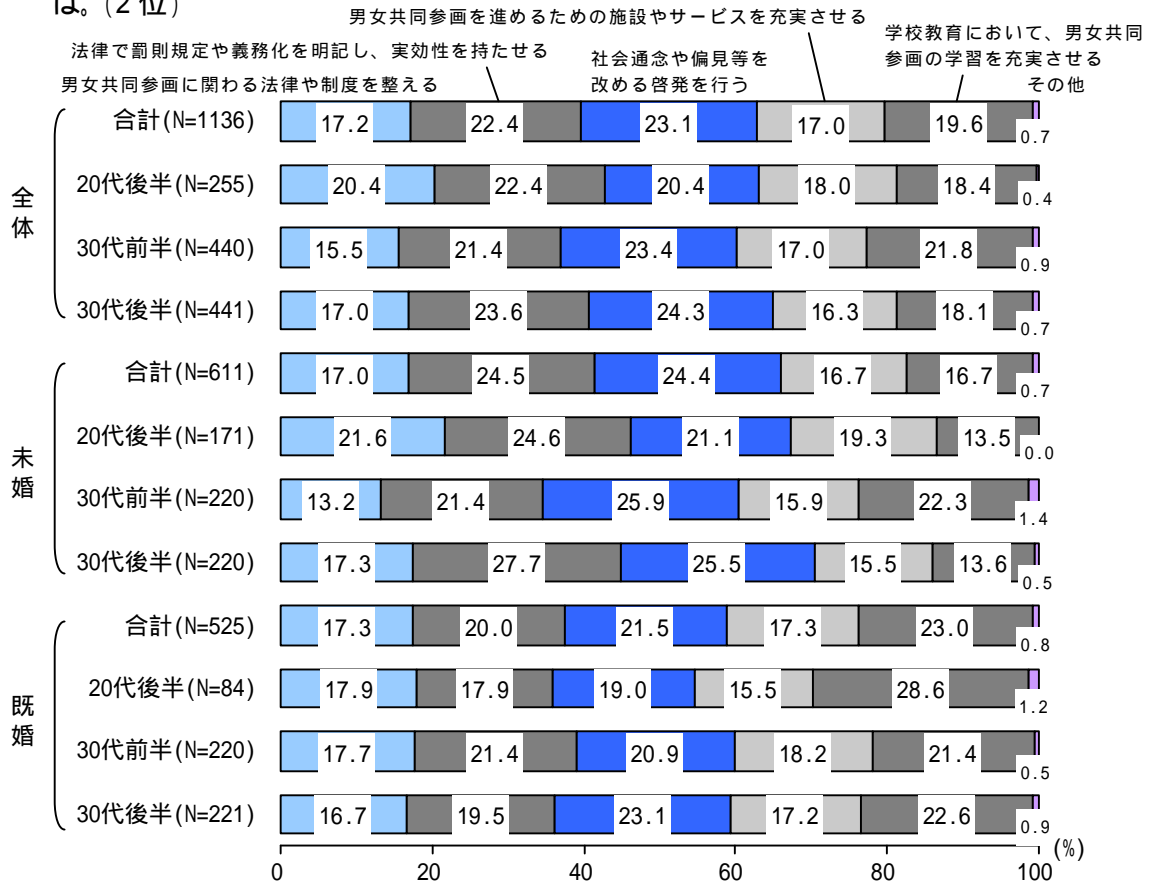
### 【既婚】

合計と30代は「社会通念や偏見等を改める啓発を行う」が高く、合計23.8%、30代前半22.3%、30代後半29.0%となっている。20代後半と30代前半は「法律で罰則規定や義務化を明記し、実効性を持たせる」が高く、20代後半26.2%、30代前半22.3%となっている。

### 【未婚の年代別・既婚の年代別】

未婚の20代後半、30代後半は「男女共同参画に関わる法律や制度を整える」、未婚の30代前半、既婚の30代は「社会通念や偏見等を改める啓発を行う」、既婚の20代後半と30代前半は「法律で罰則規定や義務化を明記し、実効性を持たせる」が高くなっている。

(5) 男女共同参画社会の実現のために、行政が取り組む必要があるとあなたが考えるものは、(2位)



【概要】

全体では「社会通念や偏見等を改める啓発を行う」が23.1%と高く、次いで「法律で罰則規定や義務化を明記し、実効性を持たせる」が22.4%となっている。未婚者合計は「法律で罰則規定や義務化を明記し、実効性を持たせる」、既婚者合計は「社会通念や偏見等を改める啓発を行う」が高くなっている。

【未婚】

合計、20代後半、30代後半は「法律で罰則規定や義務化を明記し、実効性を持たせる」が高く、合計24.5%、20代後半24.6%、30代後半27.7%となっている。30代前半は「社会通念や偏見等を改める啓発を行う」が25.9%と高くなっている。

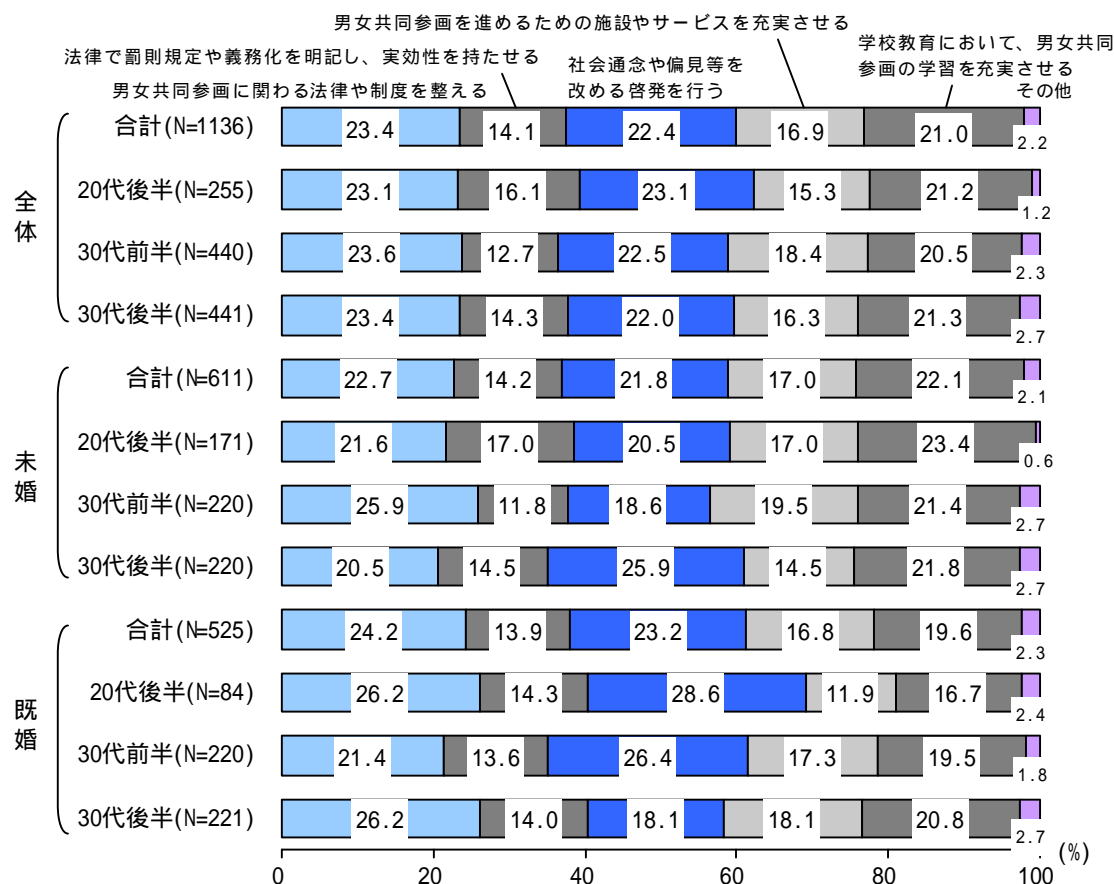
【既婚】

合計、20代後半は「学校教育において男女共同参画の学習を充実させる」が高く、合計23.0%、20代後半28.6%となっている。30代前半は「法律で罰則規定や義務化を明記し、実効性を持たせる」と「学校教育において、男女共同参画の学習を充実させる」がともに21.4%となっており、30代後半は「社会通念や偏見等を改める啓発を行う」が23.1%と高い。

【未婚の年代別・既婚の年代別】

未婚の20代後半、30代後半と既婚の30代前半は「法律で罰則規定や義務化を明記し、実効性を持たせる」、未婚の30代前半と既婚の30代後半は「社会通念や偏見等を改める啓発を行う」、既婚の20代後半、30代前半は「学校教育において、男女共同参画の学習を充実させる」が高くなっている。

(5) 男女共同参画社会の実現のために、行政が取り組む必要があるとあなたが考えるものは。(3位)



【概要】

全体では「男女共同参画に関わる法律や制度を整える」が23.4%と高く、次いで「社会通念や偏見等を改める啓発を行う」が22.4%となっている。未婚者、既婚者ともに合計で「男女共同参画に関わる法律や制度を整える」が高くなっている。

【未婚】

合計、20代後半、30代前半は「男女共同参画に関わる法律や制度を整える」が高く、合計22.7%、20代後半21.6%、30代前半25.9%となっている。30代後半は「社会通念や偏見等を改める啓発を行う」が25.9%と高くなっている。

【既婚】

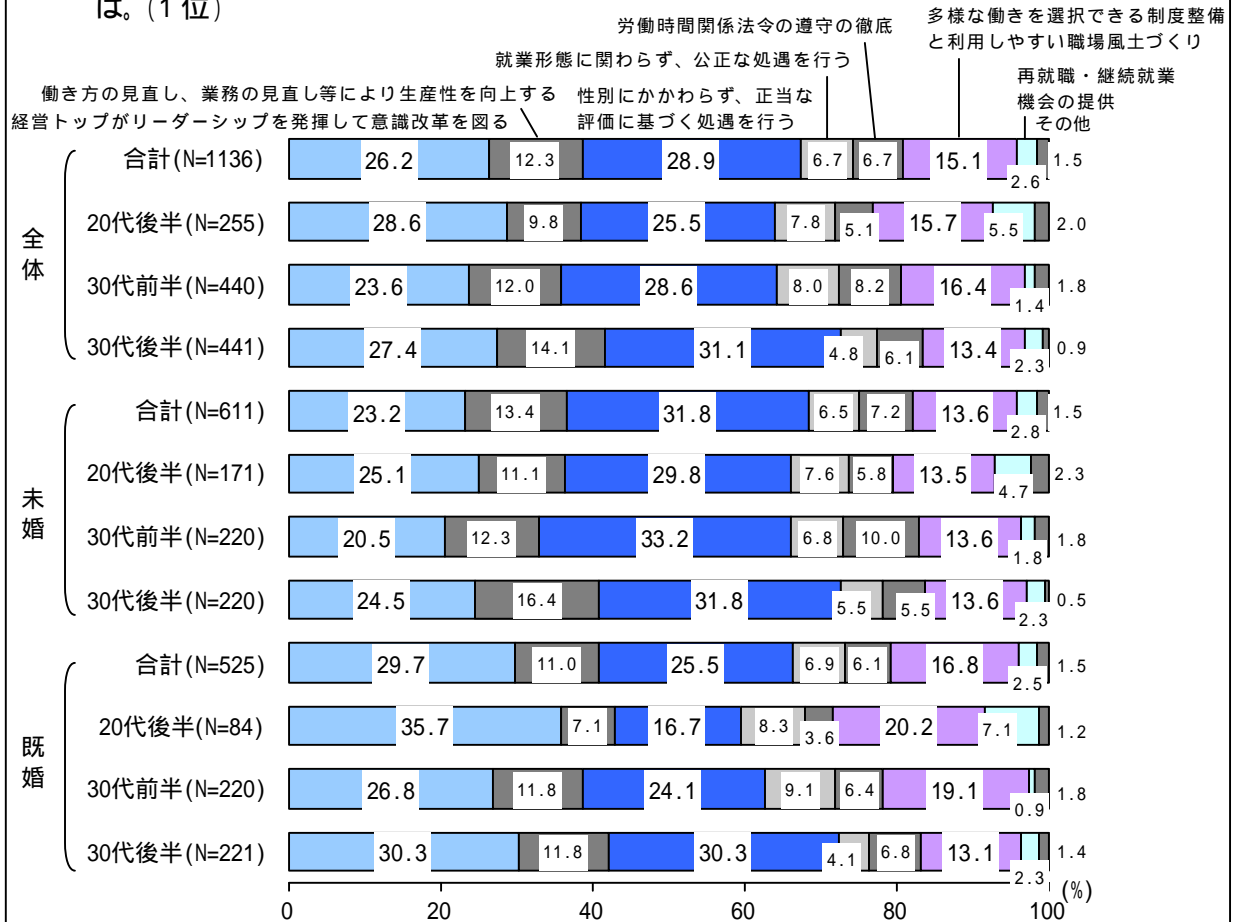
合計、30代後半は「男女共同参画に関わる法律や制度を整える」が高く、合計24.2%、30代後半26.2%となっている。20代後半、30代前半は「社会通念や偏見等を改める啓発を行う」が高く、20代後半28.6%、30代前半26.4%となっている。

【未婚の年代別・既婚の年代別】

未婚の20代後半、30代前半と既婚の30代後半は「男女共同参画に関わる法律や制度を整える」、未婚の30代後半と既婚の20代後半、30代前半は「社会通念や偏見等を改める啓発を行う」が高くなっている。

## 男女共同参画社会の実現に必要な企業の取組

(6) 男女共同参画社会の実現のために、企業が取り組む必要があるとあなたが考えるものは、(1位)



### 【概要】

全体では「性別にかかわらず、正当な評価に基づく処遇を行う」が28.9%と高く、次いで「経営トップがリーダーシップを発揮して意識改革を図る」が26.2%となっている。未婚者合計は「性別にかかわらず、正当な評価に基づく処遇を行う」、既婚者合計は「経営トップがリーダーシップを発揮して意識改革を図る」が高くなっている。

### 【未婚】

合計、年代別とも「性別にかかわらず、正当な評価に基づく処遇を行う」が高く、合計31.8%、20代後半29.8%、30代前半33.2%、30代後半31.8%となっている。

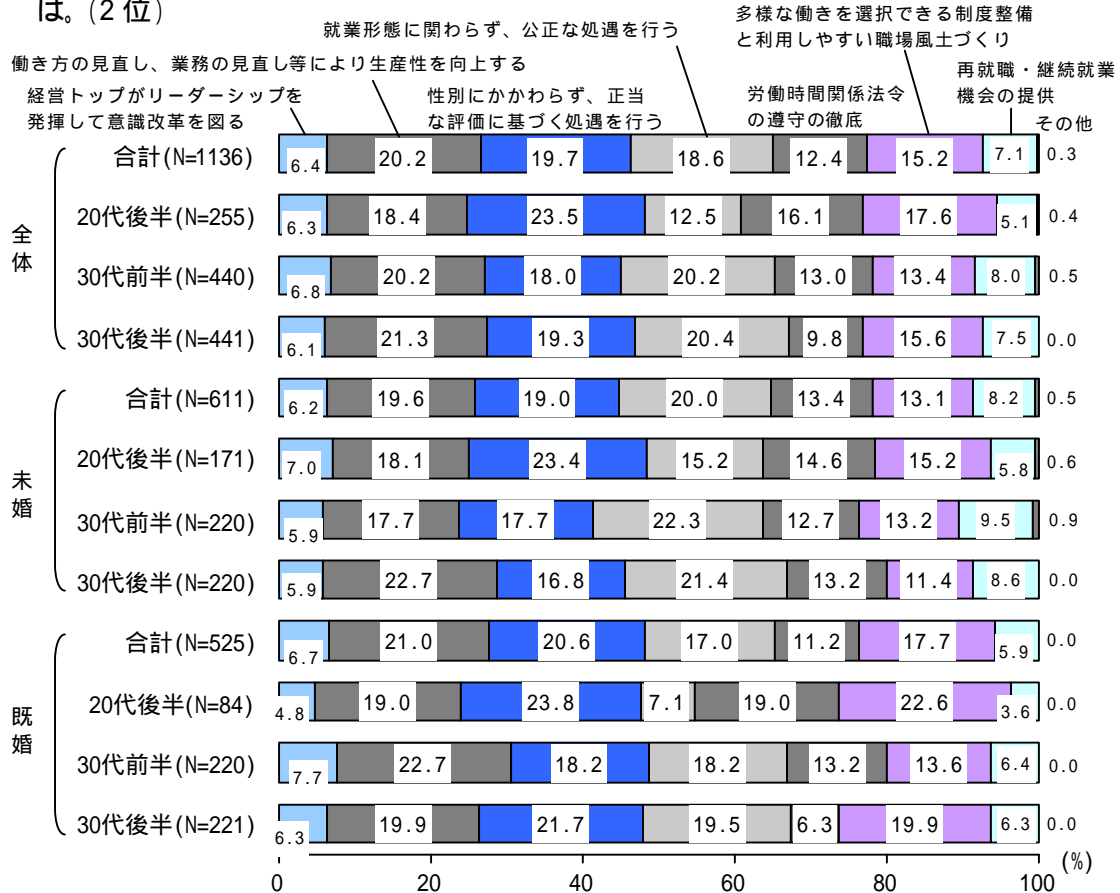
### 【既婚】

合計、年代別とも「経営トップがリーダーシップを発揮して意識改革を図る」が高く、合計29.7%、20代後半35.7%、30代前半26.8%、30代後半30.3%となっている。30代後半は「性別にかかわらず、正当な評価に基づく処遇を行う」も30.3%と高くなっている。

### 【未婚の年代別・既婚の年代別】

未婚の全年代と既婚の30代後半は「性別にかかわらず、正当な評価に基づく処遇を行う」、既婚は全世代で「経営トップがリーダーシップを発揮して意識改革を図る」が高くなっている。

(6) 男女共同参画社会の実現のために、企業が取り組む必要があるとあなたが考えるものは。(2位)



【概要】

全体では「働き方の見直し、業務の見直し等により生産性を向上する」が20.2%と高く、次いで「性別にかかわらず、正当な評価に基づく処遇を行う」が19.7%となっている。未婚者合計は「就業形態に関わらず、公正な処遇を行う」、既婚者合計は「働き方の見直し、業務の見直し等により生産性を向上する」が高くなっている。

【未婚】

合計、30代前半は「就業形態に関わらず、公正な処遇を行う」が高く、合計20.0%、30代前半22.3%となっている。20代後半は「性別にかかわらず、正当な評価に基づく処遇を行う」、30代後半は「働き方の見直し、業務の見直し等により生産性を向上する」が高く、20代後半23.4%、30代後半22.7%となっている。

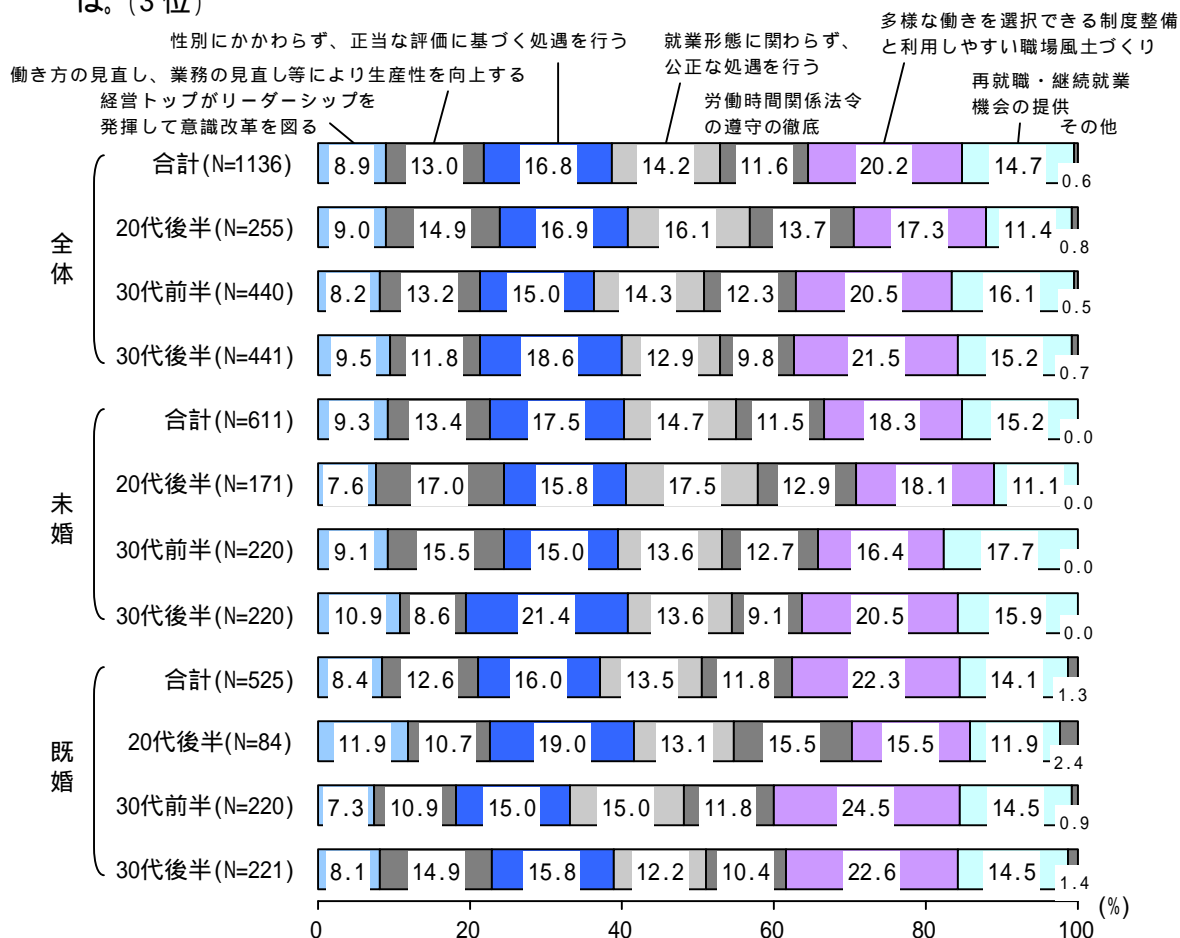
【既婚】

合計、30代前半は「働き方の見直し、業務の見直し等により生産性を向上する」が高く、合計21.0%、30代前半22.7%となっている。20代後半、30代後半は「性別にかかわらず、正当な評価に基づく処遇を行う」が高く、20代後半23.8%、30代後半21.7%となっている。

【未婚の年代別・既婚の年代別】

未婚の20代後半と既婚の20代後半、30代後半は「性別にかかわらず、正当な評価に基づく処遇を行う」、未婚の30代前半は「就業形態に関わらず、公正な処遇を行う」、未婚の30代後半と既婚の30代前半は「働き方の見直し、業務の見直し等により生産性を向上する」が高くなっている。

(6) 男女共同参画社会の実現のために、企業が取り組む必要があるとあなたが考えるものは、(3位)



【概要】

全体では「多様な働きを選択できる制度整備と利用しやすい職場風土づくり」が20.2%と高く、次いで「性別にかかわらず、正当な評価に基づく処遇を行う」が16.8%となっている。未婚者、既婚者ともに合計で「多様な働きを選択できる制度整備と利用しやすい職場風土づくり」が高くなっている。

【未婚】

合計、20代後半は「多様な働きを選択できる制度整備と利用しやすい職場風土づくり」が高く、合計18.3%、20代後半18.1%となっている。30代前半は「再就職・継続就業機会の提供」が17.7%、30代後半は「性別にかかわらず、正当な評価に基づく処遇を行う」が21.4%と高くなっている。

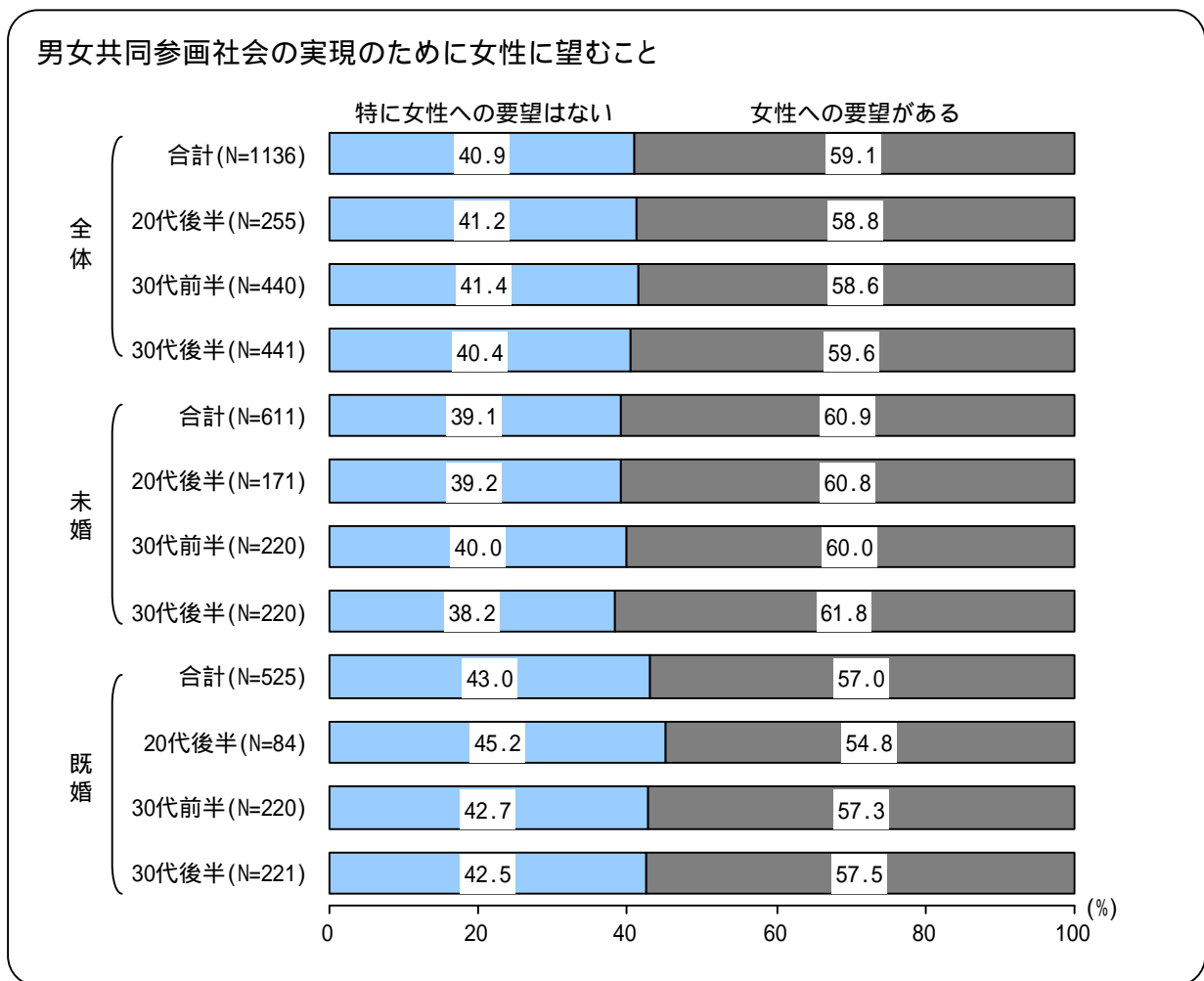
【既婚】

合計、30代は「多様な働きを選択できる制度整備と利用しやすい職場風土づくり」が高く、合計22.3%、30代前半24.5%、30代後半22.6%となっている。20代後半は「性別にかかわらず、正当な評価に基づく処遇を行う」が19.0%と高くなっている。

【未婚の年代別・既婚の年代別】

未婚の20代後半と既婚の30代は「多様な働きを選択できる制度整備と利用しやすい職場風土づくり」、未婚の30代前半は「再就職・継続就業機会の提供」、未婚の30代後半と既婚の20代後半は「性別にかかわらず、正当な評価に基づく処遇を行う」が高くなっている。

## 男女共同参画社会の実現のために女性に望むことの有無



### 【概要】

全体では「女性への要望がある」が59.1%と高く、「特に女性への要望はない」は40.9%となっている。未婚者、既婚者ともに合計で「女性への要望がある」が高くなっている。

### 【未婚】

合計、年代別とも「女性への要望がある」が高く、合計60.9%、20代後半60.8%、30代前半60.0%、30代後半61.8%となっている。

### 【既婚】

合計、年代別とも「女性への要望がある」が高く、合計57.0%、20代後半54.8%、30代前半57.3%、30代後半57.5%となっている。

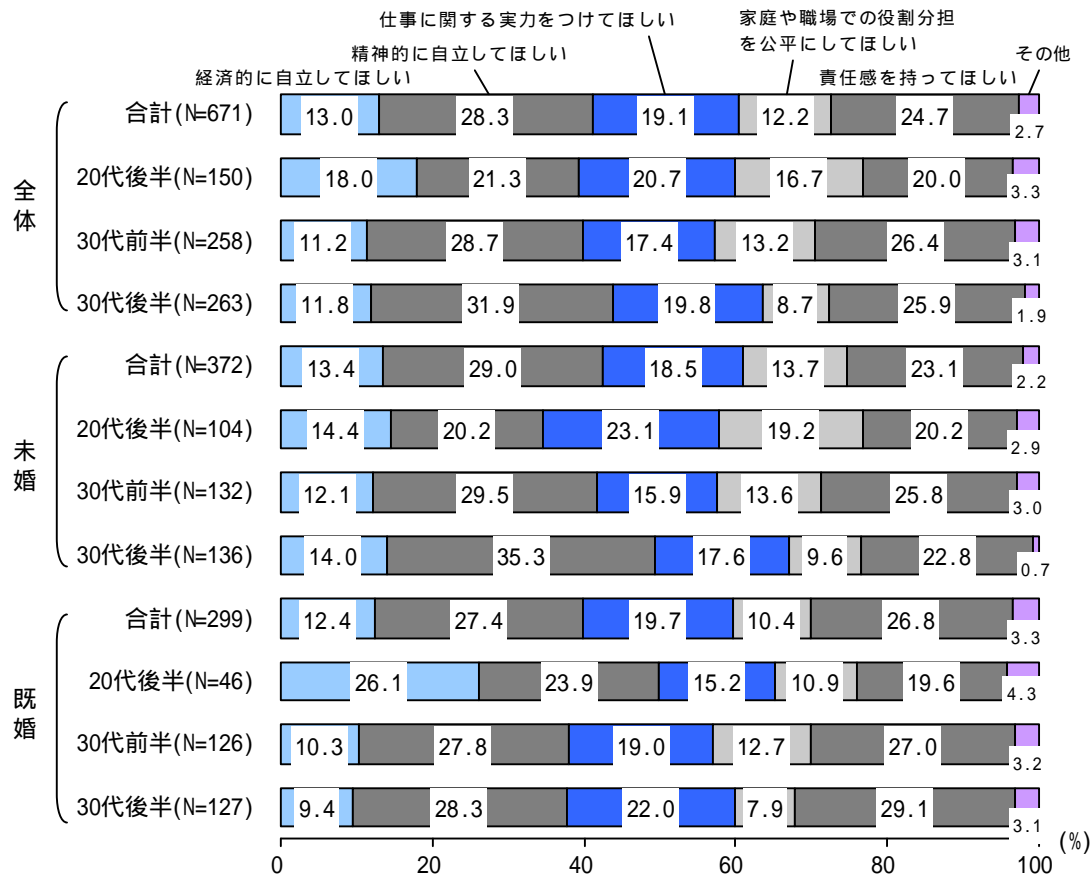
### 【未婚の年代別・既婚の年代別】

未婚、既婚ともに全年代で「女性への要望がある」が高くなっている。

## 男女共同参画社会の実現のために女性に望むこと

【男女共同参画社会実現のために女性に望むことがあると回答した方におうかがいします】

(7) 男女共同参画社会の実現のために、あなたが女性に望むことは、(1位)



### 【概要】

全体では「精神的に自立してほしい」が28.3%と高く、次いで「責任感を持ってほしい」が24.7%となっている。未婚者、既婚者ともに合計で「精神的に自立してほしい」が高くなっている。

### 【未婚】

合計、30代は「精神的に自立してほしい」が高く、合計29.0%、30代前半29.5%、30代後半35.3%となっている。20代後半は「仕事に関する実力をつけてほしい」が23.1%と高くなっている。

### 【既婚】

合計、30代前半は「精神的に自立してほしい」が高く、合計27.4%、30代前半27.8%となっている。20代後半は「経済的に自立してほしい」、30代後半は「責任感を持ってほしい」が高く、20代後半26.1%、30代後半29.1%となっている。

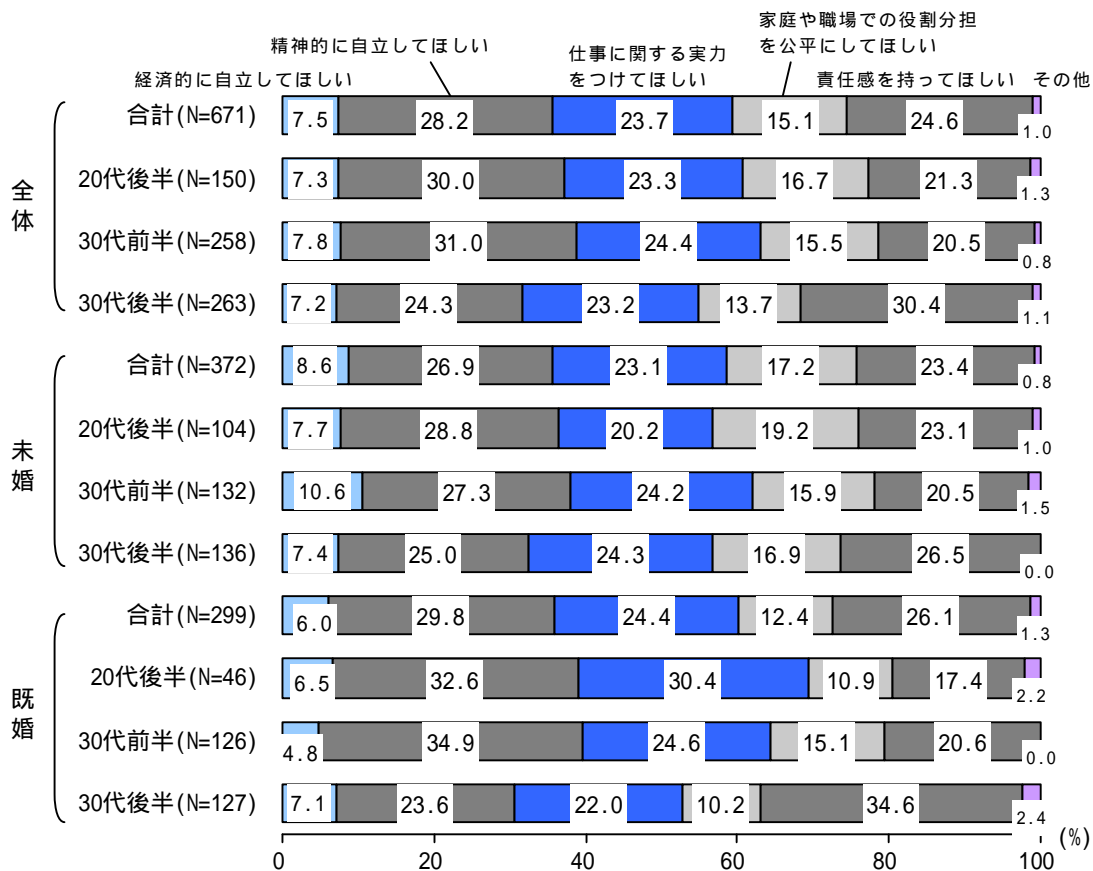
### 【未婚の年代別・既婚の年代別】

未婚の20代後半は「仕事に関する実力をつけてほしい」、未婚の30代と既婚の30代前半は「精神的に自立してほしい」、既婚の20代後半は「経済的に自立してほしい」、既婚の30代後半は「責任感を持ってほしい」が高くなっている。



【男女共同参画社会実現のために女性に望むことがあると回答した方におうかがいします】

(7) 男女共同参画社会の実現のために、あなたが女性に望むことは、(2位)



【概要】

全体では「精神的に自立してほしい」が28.2%と高く、次いで「責任感を持ってほしい」が24.6%となっている。未婚者、既婚者ともに合計で「精神的に自立してほしい」が高くなっている。

【未婚】

合計、20代後半、30代前半は「精神的に自立してほしい」が高く、合計26.9%、20代後半28.8%、30代前半27.3%となっている。30代後半は「責任感を持ってほしい」が26.5%と高くなっている。

【既婚】

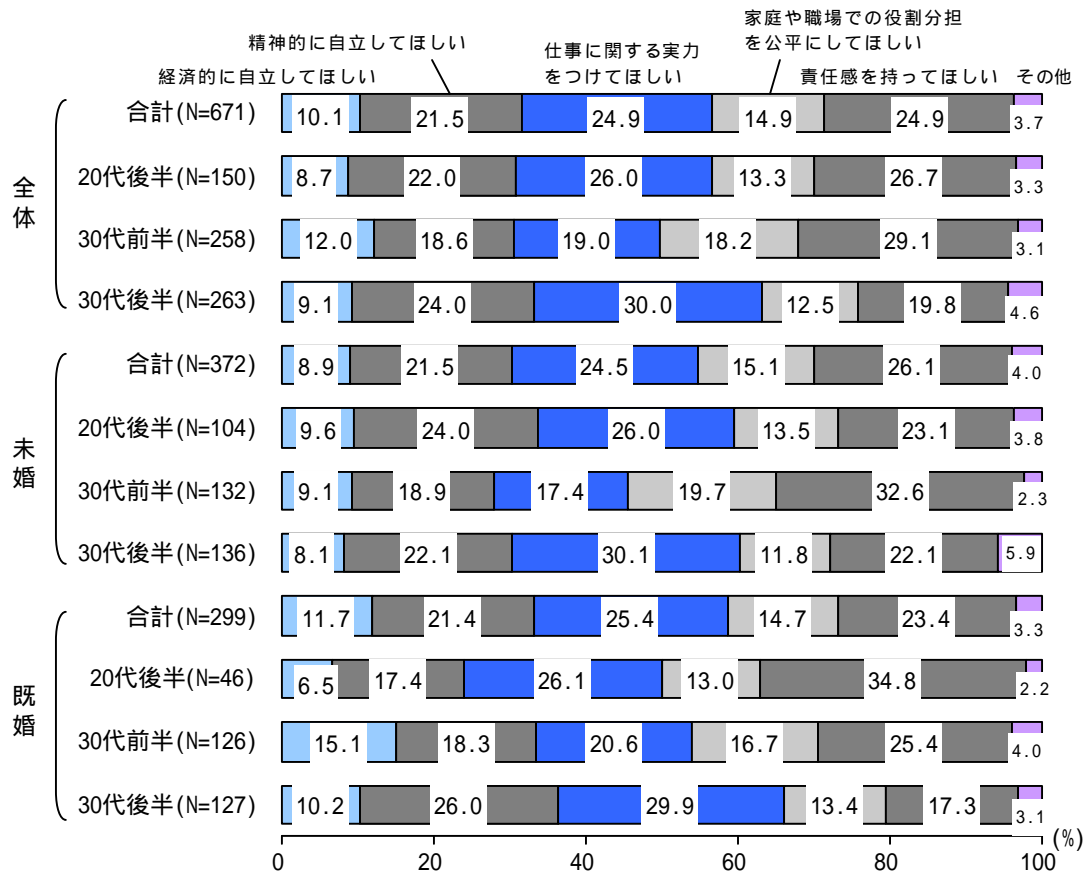
合計、20代後半、30代前半は「精神的に自立してほしい」が高く、合計29.8%、20代後半32.6%、30代前半34.9%となっている。30代後半は「責任感を持ってほしい」が高く34.6%となっている。

【未婚の年代別・既婚の年代別】

未婚の20代後半、30代前半と既婚の20代後半、30代前半は「精神的に自立してほしい」、未婚の30代後半と既婚の30代後半は「責任感を持ってほしい」が高くなっている。

【男女共同参画社会実現のために女性に望むことがあると回答した方におうかがいします】

(7) 男女共同参画社会の実現のために、あなたが女性に望むことは。(3位)



【概要】

全体では「責任感を持ってほしい」と「仕事に関する実力をつけてほしい」がともに24.9%と高く、次いで「精神的に自立してほしい」が21.5%となっている。未婚者合計は「責任感を持ってほしい」、既婚者合計は「仕事に関する実力をつけてほしい」が高くなっている。

【未婚】

合計、30代前半は「責任感を持ってほしい」が高く、合計26.1%、30代前半32.6%となっている。20代後半、30代後半は「仕事に関する実力をつけてほしい」が高く、20代後半26.0%、30代後半30.1%となっている。

【既婚】

合計、30代後半は「仕事に関する実力をつけてほしい」が高く、合計25.4%、30代後半29.9%となっている。20代後半、30代前半は「責任感を持ってほしい」が高く、20代後半34.8%、30代前半25.4%となっている。

【未婚の年代別・既婚の年代別】

未婚の20代後半、30代後半と既婚の30代後半は「仕事に関する実力をつけてほしい」、未婚の30代前半と既婚の20代後半、30代前半は「責任感を持ってほしい」が高くなっている。

## 自由記述

問7(4)「あなたの意識や考え方(例えば恋愛観、結婚観、家庭観、仕事観、社会観など)に親からどのような影響を受けましたか。」問8(2)「あなたが考える「男女が平等である」とは。」および(3)「それでは、「男女が平等である」ためにあなた自身が取り組む必要があるものは。」の自由記述をカテゴリー化し、次のようにまとめた。

Q7-4. あなたの意識や考え方(例えば恋愛観、結婚観、家庭観、仕事観、社会観など)に親からどのような影響を受けましたか。	総合計	未婚			既婚				
		合計	20代後半	30代前半	30代後半	合計	20代後半	30代前半	30代後半
<b>影響あり</b>	<b>635</b>	<b>328</b>	<b>97</b>	<b>118</b>	<b>113</b>	<b>307</b>	<b>48</b>	<b>133</b>	<b>126</b>
見本として影響あり	480	244	69	88	87	236	40	103	93
家族観や結婚観に関すること	172	73	23	28	22	99	11	48	40
家族との会話、愛情を持って育てることの大切さを教えられた	59	21	6	9	6	38	5	20	13
親のような夫婦になりたいと思った	22	10	4	3	3	12	1	5	6
男性が働いてしっかりと稼ぎ、家族を養うこと	21	10	5	3	2	11	0	6	5
結婚観に影響を受けた	15	11	0	4	7	4	1	3	0
お互いを尊重することの大切さを教えられた	15	9	5	4	0	6	0	3	3
経済的不安を家庭に与えてはいけないということ	13	3	1	1	1	10	2	4	4
それぞれが役割を分担すること	7	2	1	1	0	5	1	2	2
一家の大黒柱として家族を引っ張っていく存在であること	6	2	1	1	0	4	0	0	4
相手への思いやりを持つこと	6	4	0	1	3	2	1	1	0
仕事が忙しくて休日には家族サービスをする	2	0	0	0	0	2	0	2	0
家督を維持すること	2	0	0	0	0	2	0	1	1
親が何でもやってくれたから、妻にもしてもらえと思っている	2	1	0	1	0	1	0	0	1
男でも最低限の家事出来ないといけないと言われていた	1	0	0	0	0	1	0	1	0
男尊女卑	1	0	0	0	0	1	0	0	1
マナー、人間関係に関すること	104	65	17	26	22	39	5	10	24
人生において大事だと思う価値観、責任感、行動規範等に影響を受けた	34	30	9	8	13	4	0	0	4
何事にも誠実で、まじめで、礼儀正しくすること	26	12	2	7	3	14	2	3	9
人に迷惑をかけず、感謝する気持ちを持つこと	15	6	0	3	3	9	0	4	5
他人には優しく親切にすること	13	8	4	3	1	5	1	0	4
躰や社会的マナーなどは非常に厳しかった	9	6	1	5	0	3	1	0	2
親の社会観に影響を受けた	4	3	1	0	2	1	0	1	0
交友関係は広く持ったほうがよい	3	0	0	0	0	3	1	2	0
影響を受けている	90	42	16	16	10	48	9	24	15
ある程度、または全てにおいて影響を受けている	50	23	10	8	5	27	6	12	9
親の背中をみて育った	31	14	5	6	3	17	2	9	6
親の良いところは認めている	9	5	1	2	2	4	1	3	0
性格、考え方、精神面に関すること	69	41	9	10	22	28	8	11	9
古い考え方や保守的な考え方	14	10	1	1	8	4	2	1	1
夢を持ち、強く生きること	13	8	3	1	4	5	2	1	2
性格や考え方が似てきたと感じる	13	6	1	1	4	7	2	3	2
逆境や困難に出会ったときに乗り越える忍耐、根性や精神力を学んだこと	11	6	0	2	4	5	0	3	2
自分の進路は自分自身で決めるように言われてきた	7	4	1	3	0	3	1	1	1
自分で考え、調べ、行動することが大切だということ	6	3	1	1	1	3	0	2	1
男らしくすること	5	4	2	1	1	1	1	0	0
仕事に関すること	45	23	4	8	11	22	7	10	5
仕事はまじめで責任感を持ち積極的に進めること	28	8	2	3	3	20	7	8	5
親の仕事観は尊敬している	15	14	2	4	8	1	0	1	0
家で仕事のグチを言わないこと	2	1	0	1	0	1	0	1	0
反面教師として影響あり	131	72	24	26	22	59	7	23	29
悪いところは反面教師として親のようにはなりたくないと思う	97	52	16	19	17	45	6	16	23
結婚しても幸せとは限らないと思った	11	11	4	3	4	0	0	0	0
亭主闖白であった為、自分はそうならないようにしようと思っている	7	1	0	1	0	6	0	3	3
片親(継母)状態にはしたくない	6	5	3	2	0	1	0	1	0
夫婦喧嘩が多いので、こういう夫婦にはなりたくない	5	2	0	1	1	3	0	2	1
仕事人間だったのでそうはなりたくないと思っている	4	1	1	0	0	3	0	1	2
親から得れなかったものを自分は与えていこうと思う	1	0	0	0	0	1	1	0	0
見本・反面教師不明だが影響あり	24	12	4	4	4	12	1	7	4
専業主婦よりも妻には働いて欲しい	10	7	1	3	3	3	0	2	1
親同士の愛情や喧嘩などを見てきたので、自分なりに良いものは吸収している	6	2	1	1	0	4	1	1	2
妻には家にいて子どもに接して欲しい	5	3	2	0	1	2	0	1	1
子育てに積極的に参加したい	3	0	0	0	0	3	0	3	0
<b>影響なし</b>	<b>171</b>	<b>104</b>	<b>30</b>	<b>43</b>	<b>31</b>	<b>67</b>	<b>9</b>	<b>31</b>	<b>27</b>
影響を受けていない	130	80	25	35	20	50	7	21	22
放任主義・親から精神的に自立していた	40	23	5	8	10	17	2	10	5
今までに読んだ本からの影響が強いと思う	1	1	0	0	1	0	0	0	0
<b>不明</b>	<b>1</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>1</b>	<b>1</b>	<b>0</b>	<b>0</b>
親に優しさがなかった	1	0	0	0	0	1	1	0	0
<b>合計</b>	<b>807</b>	<b>432</b>	<b>127</b>	<b>161</b>	<b>144</b>	<b>375</b>	<b>58</b>	<b>164</b>	<b>153</b>

Q8 - 2. あなたが考える「男女が平等である」とは、	総合計	未婚				既婚			
		合計	20代後半	30代前半	30代後半	合計	20代後半	30代前半	30代後半
<b>「男女平等」に対して肯定的な意見</b>	<b>832</b>	<b>463</b>	<b>125</b>	<b>179</b>	<b>159</b>	<b>369</b>	<b>60</b>	<b>154</b>	<b>155</b>
仕事・雇用・家庭に関すること	458	268	71	101	96	190	29	79	82
機会や評価まですべて同じであること	97	62	18	22	22	35	5	14	16
同じ仕事に対して同じ収入、同じ待遇であること	89	48	15	14	19	41	8	20	13
仕事も家庭もそれぞれで役割分担しお互いに協力すること	68	39	11	16	12	29	5	10	14
どんな仕事(家事・育児含む)においても差別なく、平等であること	62	27	4	14	9	35	4	16	15
男性がする仕事とか、女性がする仕事といった区別をせず能力で仕事を分けること	39	25	5	13	7	14	1	4	9
雇用や社会的立場が平等に扱われること	34	24	7	9	8	10	2	3	5
女性も同等の仕事をこなし、同等の責任を負うこと	34	21	3	5	13	13	1	8	4
どんな職場でも男女の格差がなくなること	15	11	3	4	4	4	1	1	2
育児休暇が平等にとれること	7	6	4	1	1	1	1	0	0
女性が、子どもができても独身時代と同じく働ける環境であること	5	2	0	2	0	3	1	1	1
育児に関して女性に役割が偏っているので、もっと改善していくべき(制度的、精神的にも)	4	2	1	0	1	2	0	1	1
女性は仕事より家庭を優先すべきであるという考えを取り去ること	3	1	0	1	0	2	0	1	1
男にも生理休暇に匹敵する休みがほしい	1	0	0	0	0	1	0	0	1
差別や区別に関すること	224	119	28	49	42	105	19	40	46
権利も義務も法の下に平等であること	80	51	10	19	22	29	6	9	14
「男だから」「女だから」と分けて考えないこと	71	39	8	16	15	32	7	11	14
男女において区別や差別をしないこと	62	25	9	12	4	37	4	18	15
あくまで実力主義であり、それを無視して公平にすることではない	4	1	0	1	0	3	1	1	1
女性だからといった偏見を全てなくすこと	4	1	1	0	0	3	0	1	2
人権の面で同等であること	3	2	0	1	1	1	1	0	0
社会・生活環境に関すること	30	17	7	3	7	13	1	8	4
同じ環境や境遇で生活できること	22	13	5	3	5	9	1	5	3
女性が自立して生活できる社会であること	5	4	2	0	2	1	0	1	0
男であっても女であっても夢を追いかけられる	3	0	0	0	0	3	0	2	1
個性の違いを認めて尊重すること	67	35	12	14	9	32	4	16	12
お互い良い点や特徴を認め合い尊重すること	47	25	8	9	8	22	4	14	4
性別や性格など適材適所において物事を行う	20	10	4	5	1	10	0	2	8
対等な関係性をもつこと	53	24	7	12	5	29	7	11	11
お互いの意見を対等に言うことができる	23	13	3	6	4	10	3	4	3
男女の前に1人の人間として扱うこと	20	10	3	6	1	10	3	4	3
お互いが成長し続けられること	4	1	1	0	0	3	0	1	2
男が力で女性をおさえつけないこと	4	0	0	0	0	4	1	2	1
判断力で男女共に平等だと思えること	1	0	0	0	0	1	0	0	1
女性が浮気をしても許される	1	0	0	0	0	1	0	0	1
<b>「男女平等」に対して否定的な意見</b>	<b>149</b>	<b>82</b>	<b>27</b>	<b>26</b>	<b>29</b>	<b>67</b>	<b>10</b>	<b>24</b>	<b>33</b>
男女平等はありえない	113	66	21	23	22	47	6	17	24
体力的、肉体的な差があるので平等ではない(仕事など)	28	12	5	3	4	16	2	7	7
男女がまったくの平等で職場で働けることはないと思う	3	2	1	0	1	1	1	0	0
法のもとでは平等だが、男と女が平等は無理である	3	2	0	0	2	1	0	0	1
基本的に男尊女卑である	2	0	0	0	0	2	1	0	1
<b>「男女平等」に対して部分的に容認・否認</b>	<b>77</b>	<b>39</b>	<b>12</b>	<b>11</b>	<b>16</b>	<b>38</b>	<b>4</b>	<b>22</b>	<b>12</b>
男性には男性の良い点、女性には女性の良い点があるので理解すること	46	19	3	9	7	27	4	17	6
男女差別はいけませんが区別は必要である	18	10	5	1	4	8	0	3	5
女性が極端に優遇され過ぎないこと	13	10	4	1	5	3	0	2	1
その他	4	1	0	0	1	3	1	0	2
価値観は人それぞれなので意味のない定義	2	0	0	0	0	2	1	0	1
精神や構造等科学的に違いが解明されること	1	1	0	0	1	0	0	0	0
「女性」を十把一絡げにして「働きぶり」を評価する態度は「男女平等」の思想に反すると思う	1	0	0	0	0	1	0	0	1
<b>合計</b>	<b>1,062</b>	<b>585</b>	<b>164</b>	<b>216</b>	<b>205</b>	<b>477</b>	<b>75</b>	<b>200</b>	<b>202</b>

Q8-3. それでは、「男女が平等である」ためにあなた自身が取り組む必要があるものは、	総合計	未婚			既婚				
		合計	20代後半	30代前半	30代後半	合計	20代後半	30代前半	30代後半
<b>取り組む必要あり</b>	<b>670</b>	<b>367</b>	<b>106</b>	<b>128</b>	<b>133</b>	<b>303</b>	<b>40</b>	<b>129</b>	<b>134</b>
男女平等に関する意識について	253	148	50	46	52	105	16	47	42
男女を意識せず普通に接すること	67	35	11	13	11	32	3	17	12
偏見の目や先入観を持たないこと	44	22	9	4	9	22	3	9	10
男女で差別や区別をしない	34	29	12	9	8	5	2	2	1
性別によって物事を決め付けないこと	30	25	9	9	7	5	0	2	3
男と女に対する固定概念を考え直し意識改革をする	27	11	1	5	5	16	3	6	7
男女平等の考え方を持つこと	19	13	1	2	10	6	2	4	0
男女平等を意識しないこと	15	4	1	1	2	11	0	5	6
「男だから」とか「女だから」と言わない	13	8	5	3	0	5	1	2	2
女性を下と見る男性には注意をし、また過度に男女平等を謳う女性を正すこと	4	1	1	0	0	3	2	0	1
<b>仕事や雇用に関すること</b>	<b>143</b>	<b>80</b>	<b>19</b>	<b>26</b>	<b>35</b>	<b>63</b>	<b>8</b>	<b>23</b>	<b>32</b>
男女の差別な個人の能力を適正に見極め認め評価をすること	47	32	10	8	14	15	1	6	8
同じ仕事と同じ給与と同じ待遇	32	12	0	5	7	20	2	5	13
女性が働きやすい職場の雰囲気を作ること	19	8	2	2	4	11	2	6	3
女性にも仕事面で責任を持ってもらう	13	9	0	2	7	4	0	1	3
自分が関わる仕事に関しては男女分け隔てなく接する	12	10	6	3	1	2	1	0	1
働きたいと思う女性がいれば、それを支援してあげること	10	3	1	0	2	7	1	3	3
育児休暇後に会社復帰(雇用の確保)ができるようなシステムに賛同	4	3	0	3	0	1	0	0	1
出産後も仕事復帰できるような環境づくり	3	2	0	2	0	1	0	1	0
妻にもずっと仕事を続けてもらう	2	1	0	1	0	1	0	1	0
子どものいる女性従業員に残業をさせない	1	0	0	0	0	1	1	0	0
<b>個性の違いを認めて尊重すること</b>	<b>140</b>	<b>77</b>	<b>19</b>	<b>34</b>	<b>24</b>	<b>63</b>	<b>7</b>	<b>27</b>	<b>29</b>
性別の尊重ではなく個人の意志を尊重すること	51	21	5	7	9	30	3	10	17
お互いに理解し協力し合うこと	31	17	3	8	6	14	2	8	4
お互いを敬うこと、認めること、応援すること、見守ること	22	16	2	9	5	6	1	3	2
性別や性格を踏まえて対応する	19	13	7	4	2	6	0	3	3
相手を補い、こちらの足りない部分を補ってもらう	12	7	1	4	2	5	0	2	3
相手の良い部分を見つけるよう努力する	5	3	1	2	0	2	1	1	0
<b>対等な関係性をもつこと</b>	<b>74</b>	<b>39</b>	<b>11</b>	<b>12</b>	<b>16</b>	<b>35</b>	<b>2</b>	<b>17</b>	<b>16</b>
男女にかかわらず人の意見を積極的に聞き話し合うこと	33	17	5	5	7	16	1	6	9
女性の意見をよく聞き話し合うこと	29	21	6	7	8	8	0	5	3
夫婦で常に話し合ってものごとを決める	6	0	0	0	0	6	0	2	4
あまり自分の意見を押し付けけない	3	0	0	0	0	3	1	2	0
結婚すれば妻の希望も聞くこと	2	1	0	0	1	1	0	1	0
絶対に暴力は振るわないこと	1	0	0	0	0	1	0	1	0
<b>役割分担に関すること</b>	<b>47</b>	<b>17</b>	<b>4</b>	<b>9</b>	<b>4</b>	<b>30</b>	<b>6</b>	<b>13</b>	<b>11</b>
家事や育児を手伝い積極的な家庭への参画をする	40	12	2	7	3	28	6	12	10
身の回りの出来る事には自ら挑戦してみる	7	5	2	2	1	2	0	1	1
<b>考え方、精神面に関すること</b>	<b>13</b>	<b>6</b>	<b>3</b>	<b>1</b>	<b>2</b>	<b>7</b>	<b>1</b>	<b>2</b>	<b>4</b>
思いやりを持って他人と接すること	13	6	3	1	2	7	1	2	4
<b>取り組む必要なし</b>	<b>72</b>	<b>44</b>	<b>12</b>	<b>17</b>	<b>15</b>	<b>28</b>	<b>7</b>	<b>7</b>	<b>14</b>
自分自身が取り組む事はない	42	22	5	9	8	20	5	5	10
今まで通りで良い	16	9	4	3	2	7	2	2	3
現在でも平等である	14	13	3	5	5	1	0	0	1
<b>条件付で取り組む必要あり</b>	<b>16</b>	<b>6</b>	<b>2</b>	<b>4</b>	<b>0</b>	<b>10</b>	<b>0</b>	<b>5</b>	<b>5</b>
それぞれが男または女としての社会的役割を果たすこと	8	5	2	3	0	3	0	3	0
男性にできて女性にできないことを強要しない(力仕事など)	8	1	0	1	0	7	0	2	5
<b>その他</b>	<b>10</b>	<b>7</b>	<b>3</b>	<b>2</b>	<b>2</b>	<b>3</b>	<b>0</b>	<b>2</b>	<b>1</b>
やりすぎた男女平等の為、今は男に不公平であることが多々あるので是正すること	4	2	0	2	0	2	0	2	0
個人で取り組むよりも企業として取り組むべきこと	4	4	2	0	2	0	0	0	0
恋愛感情を持たない	2	1	1	0	0	1	0	0	1
<b>男女平等に対して否定的意見としてコメント</b>	<b>35</b>	<b>16</b>	<b>6</b>	<b>5</b>	<b>5</b>	<b>19</b>	<b>3</b>	<b>7</b>	<b>9</b>
男女平等は基本的にありえない	19	12	5	4	3	7	3	2	2
男女平等である必要はない	7	1	1	0	0	6	0	2	4
男女の体の違い、考え方の違いがあるから完全な平等は無理	4	2	0	1	1	2	0	1	1
取り組む努力をすることが無駄	3	1	0	0	1	2	0	0	2
仕事で男女が平等なことはない	2	0	0	0	0	2	0	2	0
<b>合計</b>	<b>803</b>	<b>440</b>	<b>129</b>	<b>156</b>	<b>155</b>	<b>363</b>	<b>50</b>	<b>150</b>	<b>163</b>

## . 參考資料

20代～30代働く男性の男女共同参画に  
関する意識と実態調査  
調査票

既婚者用.....p.1

未婚者用.....p.12

# 既婚者用

SC1. あなたの職業についてお答えください。

- |           |             |
|-----------|-------------|
| 1 学生      | 5 パート・アルバイト |
| 2 会社員     | 6 無職        |
| 3 自営業・自由業 | 7 その他       |
| 4 公務員     |             |

SC2. あなたの年齢をお答えください。

- |          |          |
|----------|----------|
| 1 24歳以下  | 4 35～39歳 |
| 2 25～29歳 | 5 40歳以上  |
| 3 30～34歳 |          |

SC3. あなたの婚姻形態についてお答えください。

- |      |      |
|------|------|
| 1 未婚 | 2 既婚 |
|------|------|

SC4. あなたのお住まいはどちらですか。

- |         |         |
|---------|---------|
| 1 都島区   | 13 旭区   |
| 2 福島区   | 14 城東区  |
| 3 此花区   | 15 阿倍野区 |
| 4 西区    | 16 住吉区  |
| 5 港区    | 17 東住吉区 |
| 6 大正区   | 18 西成区  |
| 7 天王寺区  | 19 淀川区  |
| 8 浪速区   | 20 鶴見区  |
| 9 西淀川区  | 21 住之江区 |
| 10 東淀川区 | 22 平野区  |
| 11 東成区  | 23 北区   |
| 12 生野区  | 24 中央区  |

Q1 - 1. あなたが今の仕事を選んだ理由にあてはまるものを、すべて選択してください。

- 1 会社の将来性
- 2 一流企業（会社のネームバリュー）
- 3 経営者に魅力
- 4 地理的条件がいい
- 5 給料が高い
- 6 福利厚生が充実
- 7 休みが多い
- 8 職場の雰囲気がいい
- 9 会社が安定している



- 10 ずっと働き続けられる
- 11 時間が自由
- 12 どこにも行くところがなく、やむなく
- 13 自分の能力、個性を活かせる
- 14 仕事がおもしろい
- 15 技術が習得できる
- 16 実力主義の会社
- 17 人や社会の役に立つ
- 18 特にやりたいことがなかったから
- 19 その他

Q1 - 2 .これから働く上であなたが望むことを、上位2位までお答えください。

- |                   |              |
|-------------------|--------------|
| 1 出世したい           | 6 技術・資格を取りたい |
| 2 収入をあげたい         | 7 独立・起業したい   |
| 3 転職をしてキャリアアップしたい | 8 安定して長く働きたい |
| 4 今の職場でキャリアアップしたい | 9 正社員になりたい   |
| 5 自分の能力や資格を活かしたい  | 10 その他       |

Q1 - 3 .あなたにとって働くことの意味を、上位2位までお答えください。

- 1 地位や名声を得る
- 2 必要な収入を得る
- 3 熱中できる
- 4 他人とのつきあい
- 5 社会への貢献
- 6 それ自体の興味・満足

Q1 - 4 .働く上でのあなたの不満・不安にあてはまるものを、すべて選択してください。

- |            |               |
|------------|---------------|
| 1 上司との人間関係 | 9 仕事がおもしろくない  |
| 2 同僚との人間関係 | 10 出世の見込みがない  |
| 3 部下との人間関係 | 11 勤務先の将来の安定性 |
| 4 休みがとれない  | 12 自分の雇用の安定性  |
| 5 残業が多い    | 13 健康         |
| 6 給料が少ない   | 14 その他        |
| 7 仕事の量が多い  | 15 特に不満・不安はない |
| 8 仕事が合わない  |               |

Q1 - 5 .あなたは仕事が原因で一週間以上休んだことがありますか。ひとつだけ選択してください。

- 1 ある（身体的なもの）
- 2 ある（精神的なもの）
- 3 ある（肉体的精神的両方）
- 4 ない

Q1 - 6 . あなたの日常 (\*睡眠を除く)における、「仕事」、「家庭生活」、「個人の生活等」の優先度は、

(A) あなたの希望に最も近いもの

- 1 「仕事」を優先
- 2 「家庭生活」を優先
- 3 「個人の生活等」を優先
- 4 「仕事」と「家庭生活」をともに優先
- 5 「仕事」と「個人の生活等」をともに優先
- 6 「家庭生活」と「個人の生活等」をともに優先
- 7 「仕事」と「家庭生活」と「個人の生活等」の3つを両立
- 8 わからない

Q1 - 6 . あなたの日常 (\*睡眠を除く)における、「仕事」、「家庭生活」、「個人の生活等」の優先度は、

(B) あなたの現実(現状)に最も近いもの

- 1 「仕事」を優先
- 2 「家庭生活」を優先
- 3 「個人の生活等」を優先
- 4 「仕事」と「家庭生活」をともに優先
- 5 「仕事」と「個人の生活等」をともに優先
- 6 「家庭生活」と「個人の生活等」をともに優先
- 7 「仕事」と「家庭生活」と「個人の生活等」の3つを両立
- 8 わからない

Q1 - 6 - 2 . 希望に近いものを選んだ理由

Q1 - 7 . あなたが勤める会社の企業規模を、ひとつだけ選択してください。

- |            |            |
|------------|------------|
| 1 29人以下    | 4 300～999人 |
| 2 30～99人   | 5 1,000人以上 |
| 3 100～299人 |            |

Q1 - 8 . あなたの年収(賞与・税込)を、ひとつだけ選択してください。

- |               |                 |
|---------------|-----------------|
| 1 200万円未満     | 5 500～750万円未満   |
| 2 200～300万円未満 | 6 750～1,000万円未満 |
| 3 300～400万円未満 | 7 1,000万円以上     |
| 4 400～500万円未満 |                 |

Q1 - 9 . あなたの実質の残業を含む平均的な労働時間/週を、ひとつだけ選択してください。

- |             |             |
|-------------|-------------|
| 1 20時間未満    | 5 50～60時間未満 |
| 2 20～30時間未満 | 6 60～70時間未満 |
| 3 30～40時間未満 | 7 70時間以上    |
| 4 40～50時間未満 |             |

Q1 - 10 . あなたの職業を、ひとつだけ選択してください。

- 1 民間企業の正社員
- 2 公務員等の正職員
- 3 契約社員
- 4 嘱託職員
- 5 派遣社員
- 6 常勤のパート・アルバイト・非常勤職員
- 7 短時間勤務のパート・アルバイト・非常勤職員
- 8 自営業・自由業
- 9 家族従業者
- 10 内職
- 11 その他

Q1 - 11 . あなたの職種を、ひとつだけ選択してください。

- |              |              |
|--------------|--------------|
| 1 専門的・技術的な仕事 | 6 保安の仕事      |
| 2 管理的な仕事     | 7 運輸・通信の仕事   |
| 3 事務の仕事      | 8 生産工程・労務の仕事 |
| 4 販売の仕事      | 9 農林漁業の仕事    |
| 5 サービスの仕事    | 10 その他       |

Q2 - 1 . 恋愛に対するあなたの積極性を、ひとつだけ選択してください。

- 1 積極的であった
- 2 積極的ではなかった
- 3 どちらともいえない

Q3 - 1 . 結婚することは何か利点があると思いましたが(ある・ない)

- 1 利点がない
- 2 利点がある

【結婚することは利点があると回答された方におうかがいします】

Q3 - 1 . 当時のあなたにとって、結婚することは何か利点があると思いましたが。最大の利点と第二の利点を、下記の番号からお答えください。

- 1 経済的に余裕がもてる
- 2 社会的信用を得たり、周囲と対等になれる
- 3 精神的な安らぎの場が得られる
- 4 現在愛情を感じている人と暮らせる
- 5 自分の子どもや家族をもてる
- 6 性的な充足を得られる
- 7 生活上便利になる
- 8 親から独立できる
- 9 親を安心させたり周囲の期待にこたえられる
- 10 その他



Q4 - 1. あなたが結婚相手(妻)として重視したものを、上位3位までお答えください。

- |           |                   |
|-----------|-------------------|
| 1 人柄      | 8 共通の趣味           |
| 2 容姿      | 9 共通の価値観          |
| 3 健康      | 10 自分とは異なる価値観     |
| 4 職業      | 11 家事・育児に対する能力や姿勢 |
| 5 収入(経済力) | 12 自分の仕事に対する理解・協力 |
| 6 年齢      | 13 その他            |
| 7 学歴      |                   |

Q5 - 1. あなたが希望する妻の働き方を、ひとつだけ選択してください。

- 1 子どもができて、ずっと仕事を続けてほしい
- 2 子どもを持たず、ずっと仕事を続けてほしい
- 3 子どもが生まれたら一旦退職し、子育てしながら再び働いてほしい
- 4 子どもが生まれたら一旦退職し、子育て後に再び働いてほしい
- 5 子どもが生まれるまで働いてほしい
- 6 結婚したら専業主婦になってほしい
- 7 妻の自由にしてほしい

【「子どもができて、ずっと仕事を続けてほしい」「子どもを持たず、ずっと仕事を続けてほしい」「子どもが生まれたら一旦退職し、子育てしながら再び働いてほしい」を選んだ方におうかがいします】

Q5 - 1 - 1. 「子どもができて、ずっと仕事を続けてほしい」「子どもを持たず、ずっと仕事を続けてほしい」「子どもが生まれたら一旦退職し、子育てしながら再び働いてほしい」を選んだ理由にあてはまるものを、すべて選択してください。

- 1 今までの生活レベルを下げたくない
- 2 二人の収入がないと生活が苦しい
- 3 妻が仕事をしていると自分との話があう
- 4 妻の自己実現を叶えることをサポート
- 5 結婚しても女性が働くことは当たり前だから
- 6 その他

Q5 - 2. もし、あなたひとりの収入で家族を養うことができる場合、あなたが希望する妻の働き方を、ひとつだけ選択してください。

- 1 子どもができて、ずっと仕事を続けてほしい
- 2 子どもを持たず、ずっと仕事を続けてほしい
- 3 子どもが生まれたら一旦退職し、子育てしながら再び働いてほしい
- 4 子どもが生まれたら一旦退職し、子育て後に再び働いてほしい
- 5 子どもが生まれるまで働いてほしい
- 6 結婚したら専業主婦になってほしい
- 7 妻の自由にしてほしい
- 8 その他

Q5 - 3 . あなたの妻の現在の職業を、ひとつだけ選択してください。

- 1 民間企業の正社員
- 2 公務員等の正職員
- 3 契約社員
- 4 嘱託職員
- 5 派遣社員
- 6 常勤のパート・アルバイト・非常勤職員
- 7 短時間勤務のパート・アルバイト・非常勤職員
- 8 自営業・自由業
- 9 家族従業者
- 10 内職
- 11 専業主婦（家事専業）
- 12 学生
- 13 無職
- 14 その他

Q6 - 1 . 子どもの有無

- 1 いる
- 2 いない

【子どもがいる方におうかがいします】

Q6 - 2 - 1 . あなたに、子どもはいらっしゃいますか。ひとつだけ選択してください。

- 1 1人
- 2 2人
- 3 3人
- 4 4人以上

Q6 - 2 - 2 . あなたが子どもをもった理由を、次の中から3つまで選択してください。

- 1 結婚して子どもを持つことは自然なことだから
- 2 生活が楽しく豊かになるから
- 3 子どもを持ちたいから
- 4 夫婦関係を安定させるから
- 5 将来の社会の支えになるから
- 6 老後の支えになるから
- 7 妻が望むから
- 8 親が望むから
- 9 子どもを持つことで周囲から認められるから
- 10 経済的な余裕ができたから
- 11 できちゃった結婚
- 12 その他

【子どもがいない方におうかがいします】

Q6 - 3 - 1. あなたは、子どもがほしいですか。ひとつだけ選択してください。

- |            |         |
|------------|---------|
| 1 ほしい      | 3 ほしくない |
| 2 ほしいが持てない | 4 わからない |

【子どもがほしい方におうかがいします】

Q6 - 3 - 2. 子どもがほしい理由を、次の中から3つまで選択してください。

- 1 結婚して子どもを持つことは自然なことだから
- 2 生活が楽しく豊かになるから
- 3 好きな人の子どもを持ちたいから
- 4 夫婦関係を安定させるから
- 5 将来の社会の支えとなるから
- 6 老後の支えになるから
- 7 妻や親など周囲が望むから
- 8 子どもを持つことで周囲から認められるから
- 9 その他

【子どもがほしいが持てない方、ほしくない方におうかがいします】

Q6 - 3 - 3. 子どもが持てない・ほしくない理由にあてはまるものを、すべて選択してください。

- 1 子どもが苦手
- 2 育てる自信がない
- 3 二人の生活を優先したい
- 4 めんどうだ
- 5 仕事が忙しい
- 6 妻の仕事が忙しい
- 7 育てる環境がよくない
- 8 周囲にサポートを頼める人がいない
- 9 経済的に大変である
- 10 保育園に入れたい
- 11 その他

Q7 - 1. あなたが大切にしているものを、上位2位までお答えください。

- |             |             |
|-------------|-------------|
| 1 自分(生命・健康) | 8 仕事・信用     |
| 2 妻         | 9 趣味        |
| 3 子ども       | 10 社会的役割・活動 |
| 4 家族        | 11 愛情・精神    |
| 5 家・先祖      | 12 国家・社会    |
| 6 友人        | 13 その他      |
| 7 お金・財産     |             |

Q7 - 2 . 「男らしさ」と聞いて、あなたが思い浮かぶものを、次の中から3つまで選択してください。

- |              |                      |
|--------------|----------------------|
| 1 肉体的な強さ     | 7 家族や恋人を守る           |
| 2 精神的な強さ     | 8 やさしさ               |
| 3 リーダーシップがある | 9 女性の意見を尊重する         |
| 4 家族を養う      | 10 家事・育児を分担する        |
| 5 仕事ができる     | 11 その他               |
| 6 女性をリードする   | 12 特に「男らしさ」と考えるものはない |

Q7 - 3 . それでは、実際にあなた自身が重視するものを、次の中から3つまで選択してください。

- |              |                |
|--------------|----------------|
| 1 肉体的な強さ     | 7 家族や恋人を守る     |
| 2 精神的な強さ     | 8 やさしさ         |
| 3 リーダーシップがある | 9 女性の意見を尊重する   |
| 4 家族を養う      | 10 家事・育児を分担する  |
| 5 仕事ができる     | 11 その他         |
| 6 女性をリードする   | 12 特に重視するものはない |

Q7 - 4 . あなたの意識や考え方(恋愛観、結婚観、家庭観、仕事観、社会観)に親の影響を受けたものがありますか。ご自由にお答えください。

Q7 - 5 . 満足度(安心度)

- |         |             |
|---------|-------------|
| 経済的なゆとり | 1 とても満足(安心) |
|         | 2 やや満足(安心)  |
|         | 3 普通        |
|         | 4 やや不満(不安)  |
|         | 5 とても不満(不安) |
|         | 6 わからない     |

- |         |           |
|---------|-----------|
| 時間的なゆとり | 家族との関係性   |
| 精神的なゆとり | 人々のモラル    |
| 余暇・レジャー | 企業の雇用のあり方 |
| 仕事      | 企業のモラル    |
| 健康      | 政治のあり方    |
| 現在の生活全般 | 社会全体として   |
| 生活の将来性  |           |



Q8 - 1. 女性の働きぶり

- |           |                 |
|-----------|-----------------|
| 積極的である    | 1 そう思う          |
|           | 2 ある程度そう思う      |
|           | 3 あまりそう思わない     |
|           | 4 そう思わない        |
|           | 5 わからない         |
| 責任感がある    | リーダーシップ（統率力）がある |
| 仕事が正確である  | 向上心がある          |
| 仕事が速い     | 理解、判断力が優れている    |
| 知識がある     | 計画性がある          |
| 協力、協調性がある | 冷静・客観的である       |

Q8 - 2. あなたが考える「男女が平等である」とは何か、ご自由にお答えください。

Q8 - 3. それでは、「男女が平等である」ためにあなた自身が取り組む必要があることは何か、ご自由にお答えください。

Q8 - 4. 「大阪市男女共同参画基本計画 - 大阪市男女きらめき計画 - 」で掲げている10の課題のうち、大阪市がより力を入れる必要があるとあなたが考えるものを、上位3位までお答えください。

- 1 政策・方針決定過程への女性の参画の拡大
- 2 社会制度・慣行の見直し、意識の改革
- 3 就業における男女の均等な機会を確保するための支援
- 4 男女の職業生活と家庭・地域生活の両立支援
- 5 高齢者等が安心して暮らせる条件整備
- 6 女性に対するあらゆる暴力の根絶
- 7 メディアにおける男女共同参画の推進
- 8 男女共同参画を推進し多様な選択を可能にする教育・学習の充実
- 9 生涯を通じた健康支援
- 10 国際交流・協力、多文化共生

Q8 - 5. 男女共同参画社会の実現のために、行政が取り組む必要があるとあなたが考えるものを、上位3位までお答えください。

- 1 男女共同参画に関わる法律や制度を整える
- 2 法律で罰則規定や義務化を明記し、実効性を持たせる
- 3 社会通念や偏見等を改める啓発を行う
- 4 男女共同参画を進めるための施設やサービスを充実させる
- 5 学校教育において、男女共同参画の学習を充実させる
- 6 その他

Q8 - 6 . 男女共同参画社会の実現のために、企業が取り組む必要があるとあなたが考えるものを、上位3位までお答えください。

- 1 経営トップがリーダーシップを発揮して意識改革を図る
- 2 働き方の見直し、業務の見直し等により生産性を向上する
- 3 性別にかかわらず、正当な評価に基づく処遇を行う
- 4 就業形態に関わらず、公正な処遇を行う
- 5 健康で豊かな生活のための時間を確保するために労働時間関係法令の遵守の徹底
- 6 育児・介護休業、短時間勤務など多様な働きを選択できるための制度整備と利用しやすい職場風土づくりの推進
- 7 再就職・継続就業機会の提供
- 8 その他

Q8 - 7 . 男女共同参画社会の実現のために女性に望むこと(ある・ない)

- 1 特に女性への要望はない
- 2 女性への要望がある

Q8 - 7 . 男女共同参画社会の実現のために、あなたが女性に望むことを、上位3位までお答えください。

- 1 経済的に自立してほしい
- 2 精神的に自立してほしい
- 3 仕事に関する実力をつけてほしい
- 4 家庭や職場での役割分担を公平にしてほしい
- 5 責任感を持ってほしい
- 6 その他

Q9 - 1 . あなたの最終学歴を、ひとつだけ選択してください。

- 1 中学校卒業
- 2 高等学校卒業
- 3 各種学校・専門学校卒
- 4 短期大学・高等専門学校卒業
- 5 4年制大学卒
- 6 大学院卒
- 7 その他

Q9 - 2 . あなたが現在一緒に住んでいる人を、すべて選択してください。

- |                |        |
|----------------|--------|
| 1 単身世帯（ひとり暮らし） | 5 兄弟姉妹 |
| 2 妻            | 6 親戚   |
| 3 親            | 7 友人   |
| 4 子ども          | 8 その他  |

# 未婚者用

SC1. あなたの職業についてお答えください。

- |           |             |
|-----------|-------------|
| 1 学生      | 5 パート・アルバイト |
| 2 会社員     | 6 無職        |
| 3 自営業・自由業 | 7 その他       |
| 4 公務員     |             |

SC2. あなたの年齢をお答えください。

- |          |          |
|----------|----------|
| 1 24歳以下  | 4 35～39歳 |
| 2 25～29歳 | 5 40歳以上  |
| 3 30～34歳 |          |

SC3. あなたの婚姻形態についてお答えください。

- |      |      |
|------|------|
| 1 未婚 | 2 既婚 |
|------|------|

SC4. あなたのお住まいはどちらですか。

- |         |         |
|---------|---------|
| 1 都島区   | 13 旭区   |
| 2 福島区   | 14 城東区  |
| 3 此花区   | 15 阿倍野区 |
| 4 西区    | 16 住吉区  |
| 5 港区    | 17 東住吉区 |
| 6 大正区   | 18 西成区  |
| 7 天王寺区  | 19 淀川区  |
| 8 浪速区   | 20 鶴見区  |
| 9 西淀川区  | 21 住之江区 |
| 10 東淀川区 | 22 平野区  |
| 11 東成区  | 23 北区   |
| 12 生野区  | 24 中央区  |

Q1 - 1. あなたが今の仕事を選んだ理由にあてはまるものを、すべて選択してください。

- 1 会社の将来性
- 2 一流企業（会社のネームバリュー）
- 3 経営者に魅力
- 4 地理的条件がいい
- 5 給料が高い
- 6 福利厚生が充実
- 7 休みが多い
- 8 職場の雰囲気がいい
- 9 会社が安定している
- 10 ずっと働き続けられる

- 11 時間が自由
- 12 どこにも行くところがなく、やむなく
- 13 自分の能力、個性を活かせる
- 14 仕事がおもしろい
- 15 技術が習得できる
- 16 実力主義の会社
- 17 人や社会の役に立つ
- 18 特にやりたいことがなかったから
- 19 その他

Q1 - 2 .これから働く上であなたが望むことを、上位2位までお答えください。

- |                   |              |
|-------------------|--------------|
| 1 出世したい           | 6 技術・資格を取りたい |
| 2 収入をあげたい         | 7 独立・起業したい   |
| 3 転職をしてキャリアアップしたい | 8 安定して長く働きたい |
| 4 今の職場でキャリアアップしたい | 9 正社員になりたい   |
| 5 自分の能力や資格を活かしたい  | 10 その他       |

Q1 - 3 .あなたにとって働くことの意味を、上位2位までお答えください

- 1 地位や名声を得る
- 2 必要な収入を得る
- 3 熱中できる
- 4 他人とのつきあい
- 5 社会への貢献
- 6 それ自体の興味・満足

Q1 - 4 .働く上でのあなたの不満・不安にあてはまるものを、すべて選択してください。

- |            |               |
|------------|---------------|
| 1 上司との人間関係 | 9 仕事がおもしろくない  |
| 2 同僚との人間関係 | 10 出世の見込みがない  |
| 3 部下との人間関係 | 11 勤務先の将来の安定性 |
| 4 休みがとれない  | 12 自分の雇用の安定性  |
| 5 残業が多い    | 13 健康         |
| 6 給料が少ない   | 14 その他        |
| 7 仕事の量が多い  | 15 特に不満・不安はない |
| 8 仕事が合わない  |               |

Q1 - 5 .あなたは仕事が原因で一週間以上休んだことがありますか。ひとつだけ選択してください。

- 1 ある（身体的なもの）
- 2 ある（精神的なもの）
- 3 ある（肉体的精神的両方）
- 4 ない

Q1 - 6 . あなたの日常 (\*睡眠を除く)における、「仕事」、「家庭生活」、「個人の生活等」の優先度は、

(A) あなたの希望に最も近いもの

- 1 「仕事」を優先
- 2 「家庭生活」を優先
- 3 「個人の生活等」を優先
- 4 「仕事」と「家庭生活」をともに優先
- 5 「仕事」と「個人の生活等」をともに優先
- 6 「家庭生活」と「個人の生活等」をともに優先
- 7 「仕事」と「家庭生活」と「個人の生活等」の3つを両立
- 8 わからない

Q1 - 6 . あなたの日常 (\*睡眠を除く)における、「仕事」、「家庭生活」、「個人の生活等」の優先度は、

(B) あなたの現実(現状)に最も近いもの

- 1 「仕事」を優先
- 2 「家庭生活」を優先
- 3 「個人の生活等」を優先
- 4 「仕事」と「家庭生活」をともに優先
- 5 「仕事」と「個人の生活等」をともに優先
- 6 「家庭生活」と「個人の生活等」をともに優先
- 7 「仕事」と「家庭生活」と「個人の生活等」の3つを両立
- 8 わからない

Q1 - 6 - 2 . 希望に近いものを選んだ理由

Q1 - 7 . あなたが勤める会社の企業規模を、ひとつだけ選択してください。

- |            |            |
|------------|------------|
| 1 29人以下    | 4 300～999人 |
| 2 30～99人   | 5 1,000人以上 |
| 3 100～299人 |            |

Q1 - 8 . あなたの年収(賞与・税込)を、ひとつだけ選択してください。

- |               |                 |
|---------------|-----------------|
| 1 200万円未満     | 5 500～750万円未満   |
| 2 200～300万円未満 | 6 750～1,000万円未満 |
| 3 300～400万円未満 | 7 1,000万円以上     |
| 4 400～500万円未満 |                 |

Q1 - 9 . あなたの実質の残業を含む平均的な労働時間/週を、ひとつだけ選択してください。

- |             |             |
|-------------|-------------|
| 1 20時間未満    | 5 50～60時間未満 |
| 2 20～30時間未満 | 6 60～70時間未満 |
| 3 30～40時間未満 | 7 70時間以上    |
| 4 40～50時間未満 |             |

Q1 - 10 . あなたの職業を、ひとつだけ選択してください。

- 1 民間企業の正社員
- 2 公務員等の正職員
- 3 契約社員
- 4 嘱託職員
- 5 派遣社員
- 6 常勤のパート・アルバイト・非常勤職員
- 7 短時間勤務のパート・アルバイト・非常勤職員
- 8 自営業・自由業
- 9 家族従業者
- 10 内職
- 11 その他

Q1 - 11 . あなたの職種を、ひとつだけ選択してください。

- |              |              |
|--------------|--------------|
| 1 専門的・技術的な仕事 | 6 保安の仕事      |
| 2 管理的な仕事     | 7 運輸・通信の仕事   |
| 3 事務の仕事      | 8 生産工程・労務の仕事 |
| 4 販売の仕事      | 9 農林漁業の仕事    |
| 5 サービスの仕事    | 10 その他       |

Q2 - 1 . 恋愛に対するあなたの積極性を、ひとつだけ選択してください。

- 1 積極的である
- 2 積極的ではない
- 3 どちらともいえない

Q2 - 2 . 現在、恋人はいらっしゃいますか。ひとつだけ選択してください。

- |      |       |
|------|-------|
| 1 いる | 2 いない |
|------|-------|

【現在、恋人がいない方におうかがいします】

Q2 - 2 - 1 . 現在、恋人がいない理由にあてはまるものを、すべて選択してください。

- |               |                |
|---------------|----------------|
| 1 仕事が忙しい      | 6 ひとりのほうが楽     |
| 2 出会いの場がない    | 7 適当な相手がない     |
| 3 お金がかかる      | 8 探しているが見つからない |
| 4 めんどうだ       | 9 その他          |
| 5 自分の時間が少なくなる | 10 特に必要性を感じない  |

【恋人のいる方におうかがいします】

Q2 - 3 . 告白したのは、どちらからですか。

- |                |             |
|----------------|-------------|
| 1 自分           | 3 彼女        |
| 2 お互いに、どちらともなく | 4 どちらともいえない |

Q2 - 3 . デートの支払いをするのは、どちらが多いですか。

- |            |             |
|------------|-------------|
| 1 自分       | 3 彼女        |
| 2 どちらも同じ程度 | 4 どちらともいえない |

Q2 - 3 . デートをする時は、どちらのスケジュール等を優先しますか。

- |            |             |
|------------|-------------|
| 1 自分       | 3 彼女        |
| 2 どちらも同じ程度 | 4 どちらともいえない |

Q2 - 3 . ふだん恋人と連絡をするのは、どちらからが多いですか。

- |            |             |
|------------|-------------|
| 1 自分       | 3 彼女        |
| 2 どちらも同じ程度 | 4 どちらともいえない |

Q3 - 1 . 結婚することは、何か利点があると思いますか(ある・ない)

- |         |         |
|---------|---------|
| 1 利点がない | 2 利点がある |
|---------|---------|

【結婚することは利点があると回答された方におうかがいします】

Q3 - 1 . 今のあなたにとって、結婚することは何か利点があると思いますか。最大の利点と第二の利点を、下記の番号からお答えください。

- 1 経済的に余裕がもてる
- 2 社会的信用を得たり、周囲と対等になれる
- 3 精神的な安らぎの場が得られる
- 4 現在愛情を感じている人と暮らせる
- 5 自分子どもや家族をもてる
- 6 性的な充足を得られる
- 7 生活上便利になる
- 8 親から独立できる
- 9 親を安心させたり周囲の期待にこたえられる
- 10 その他

Q3 - 2 . それでは逆に、独身生活には結婚生活にはない利点があると思いますか(ある・ない)

- |         |         |
|---------|---------|
| 1 利点がない | 2 利点がある |
|---------|---------|

【独身生活には結婚生活にはない利点があると回答された方におうかがいします】

Q3 - 2 . それでは逆に、今のあなたにとって、独身生活には結婚生活にはない利点があると思いますか。最大の利点と第二の利点を、下記の番号からお答えください。

- 1 行動や生き方が自由
- 2 異性との交際が自由
- 3 金銭的に裕福
- 4 住宅や環境の選択の幅が広い
- 5 家族を養う責任がなく、気楽
- 6 友人などとの広い人間関係が保ちやすい

- 7 職業をもち、社会とのつながりが保てる
- 8 現在の家族とのつながりが保てる
- 9 その他

Q3 - 3 . 結婚に対するあなたの現状の考えを、ひとつだけ選択してください。

- 1 結婚したい
- 2 結婚したいができない
- 3 結婚したくない
- 4 どちらともいえない

Q3 - 3 - 1 . あなたが今後、結婚を決断する場合の決め手を、次の中から3つまで選択してください。

- 1 年齢
- 2 準備資金
- 3 家族などの合意
- 4 経済的見通し
- 5 相手の妊娠
- 6 相手からのプロポーズ
- 7 愛情
- 8 その他
- 9 わからない

【結婚したいができない、結婚したくない方におうかがいします】

Q3 - 3 - 2 . 結婚したいができない、結婚したくない理由を、次の中から3つまで選択してください。

- 1 年齢的にまだ若すぎる
- 2 適当な相手がいない
- 3 親や周囲が反対している
- 4 収入がすくない・経済的に自信がない
- 5 仕事に専念したい
- 6 自分の自由な時間が少なくなる
- 7 自分の自由に使えるお金の額が少なくなる
- 8 今の生活レベルが下がる
- 9 正社員でない不安定な雇用のため
- 10 めんどうだ
- 11 その他
- 12 特に必要性を感じない

Q3 - 4 . あなたが考える結婚生活の理想について、あてはまるものをそれぞれひとつずつ、お答えください。

- 何でも分かり合えるように会話を重視
- 1 そう思う
- 2 ある程度そう思う
- 3 あまりそう思わない
- 4 そう思わない
- 5 わからない

お互いのライフスタイルを尊重する

お互いに気を使わない関係性

妻に身の回りのことを世話してほしい

家庭、家族の重要なことは最終的には自分が決定したい

どんな障害が生じても結婚生活は維持したい



お互いの実家や親戚付き合いはしたくない  
親と同居したい  
家族を養いたい  
妻の収入が多ければ専業主夫になってもいい  
夫婦ともに仕事を持ち、経済的に自立して家計をともに支える  
寝室は一緒であるべき  
取得財産は共同名義がよい

Q4 - 1. あなたが結婚相手(妻)として重視するものを、上位3位までお答えください。

- |           |                   |
|-----------|-------------------|
| 1 人柄      | 8 共通の趣味           |
| 2 容姿      | 9 共通の価値観          |
| 3 健康      | 10 自分とは異なる価値観     |
| 4 職業      | 11 家事・育児に対する能力や姿勢 |
| 5 収入(経済力) | 12 自分の仕事に対する理解・協力 |
| 6 年齢      | 13 その他            |
| 7 学歴      |                   |

Q5 - 1. あなたが希望する結婚後の妻の働き方を、ひとつだけ選択してください。

- 1 子どもができて、ずっと仕事を続けてほしい
- 2 子どもを持たず、ずっと仕事を続けてほしい
- 3 子どもが生まれたら一旦退職し、子育てしながら再び働いてほしい
- 4 子どもが生まれたら一旦退職し、子育て後に再び働いてほしい
- 5 子どもが生まれるまで働いてほしい
- 6 結婚したら専業主婦になってほしい
- 7 妻の自由にしてほしい

【「子どもができて、ずっと仕事を続けてほしい」「子どもを持たず、ずっと仕事を続けてほしい」「子どもが生まれたら一旦退職し、子育てしながら再び働いてほしい」を選んだ方におうかがいします】

Q5 - 1 - 1. 「子どもができて、ずっと仕事を続けてほしい」「子どもを持たず、ずっと仕事を続けてほしい」「子どもが生まれたら一旦退職し、子育てしながら再び働いてほしい」を選んだ理由にあてはまるものを、すべて選択してください。(MA)

- 1 今までの生活レベルを下げたくない
- 2 二人の収入がないと生活が苦しい
- 3 妻が仕事をしていると自分との話があう
- 4 妻の自己実現を叶えることをサポート
- 5 結婚しても女性が働くことは当たり前だから
- 6 その他

Q5 - 2 .もし、あなたひとりの収入で家族を養うことができる場合、あなたが希望する結婚後の妻の働き方を、ひとつだけ選択してください。

- 1 子どもができて、ずっと仕事を続けてほしい
- 2 子どもを持たず、ずっと仕事を続けてほしい
- 3 子どもが生まれたら一旦退職し、子育てしながら再び働いてほしい
- 4 子どもが生まれたら一旦退職し、子育て後に再び働いてほしい
- 5 子どもが生まれるまで働いてほしい
- 6 結婚したら専業主婦になってほしい
- 7 妻の自由にしてほしい
- 8 その他

Q6 - 3 - 1 .あなたは、子どもがほしいですか。ひとつだけ選択してください。

- 1 ほしい
- 2 ほしいが持てないと思う
- 3 ほしくない
- 4 わからない

【子どもがほしい方におうかがいします】

Q6 - 3 - 2 .子どもがほしい理由を、次の中から3つまで選択してください。

- 1 結婚して子どもを持つことは自然なことだから
- 2 生活が楽しく豊かになるから
- 3 好きな人の子どもを持ちたいから
- 4 夫婦関係を安定させるから
- 5 将来の社会の支えとなるから
- 6 老後の支えになるから
- 7 妻や親など周囲が望むから
- 8 子どもを持つことで周囲から認められるから
- 9 その他

【子どもがほしいが持てない方、ほしくない方におうかがいします】

Q6 - 3 - 3 .子どもが持てない・ほしくない理由にあてはまるものを、すべて選択してください。

- 1 子どもが苦手
- 2 育てる自信がない
- 3 二人の生活を優先したい
- 4 めんどうだ
- 5 仕事が忙しい
- 6 妻の仕事が忙しい
- 7 育てる環境がよくない
- 8 周囲にサポートを頼める人がいない
- 9 経済的に大変である
- 10 保育園に入れない
- 11 その他

Q7 - 1 . あなたが大切にしているものを、上位2位までお答えください。

- |             |            |
|-------------|------------|
| 1 自分(生命・健康) | 7 仕事・信用    |
| 2 恋人        | 8 趣味       |
| 3 家族        | 9 社会的役割・活動 |
| 4 家・先祖      | 10 愛情・精神   |
| 5 友人        | 11 国家・社会   |
| 6 お金・財産     | 12 その他     |

Q7 - 2 . 「男らしさ」と聞いて、あなたが思い浮かぶものを、次の中から3つまで選択してください。

- |              |                      |
|--------------|----------------------|
| 1 肉体的な強さ     | 7 家族や恋人を守る           |
| 2 精神的な強さ     | 8 やさしさ               |
| 3 リーダーシップがある | 9 女性の意見を尊重する         |
| 4 家族を養う      | 10 家事・育児を分担する        |
| 5 仕事ができる     | 11 その他               |
| 6 女性をリードする   | 12 特に「男らしさ」と考えるものはない |

Q7 - 3 . それでは、実際にあなた自身が重視するものを、次の中から3つまで選択してください。

- |              |                |
|--------------|----------------|
| 1 肉体的な強さ     | 7 家族や恋人を守る     |
| 2 精神的な強さ     | 8 やさしさ         |
| 3 リーダーシップがある | 9 女性の意見を尊重する   |
| 4 家族を養う      | 10 家事・育児を分担する  |
| 5 仕事ができる     | 11 その他         |
| 6 女性をリードする   | 12 特に重視するものはない |

Q7 - 4 . あなたの意識や考え方(恋愛観、結婚観、家庭観、仕事観、社会観)に親の影響を受けたものがありますか。ご自由にお答えください。

Q7 - 5 . 満足度(安心度)

- |         |             |
|---------|-------------|
| 経済的なゆとり | 1 とても満足(安心) |
|         | 2 やや満足(安心)  |
|         | 3 普通        |
|         | 4 やや不満(不安)  |
|         | 5 とても不満(不安) |
|         | 6 わからない     |

時間的なゆとり

家族との関係性

精神的なゆとり

人々のモラル

余暇・レジャー

企業の雇用のあり方

仕事

企業のモラル

健康

政治のあり方

現在の生活全般

社会全体として

生活の将来性

Q8 - 1. 女性の働きぶり

- 積極的である
- 1 そう思う
  - 2 ある程度そう思う
  - 3 あまりそう思わない
  - 4 そう思わない
  - 5 わからない

責任感がある	リーダーシップ（統率力）がある
仕事が正確である	向上心がある
仕事が速い	理解、判断力が優れている
知識がある	計画性がある
協力、協調性がある	冷静・客観的である

Q8 - 2. あなたが考える「男女が平等である」とは何か、ご自由にお答えください。

Q8 - 3. それでは、「男女が平等である」ためにあなた自身が取り組む必要があることは何か、ご自由にお答えください。

Q8 - 4. 「大阪市男女共同参画基本計画 - 大阪市男女きらめき計画 - 」で掲げている10の課題のうち、大阪市がより力を入れる必要があるとあなたが考えるものを、上位3位までお答えください。

- 1 政策・方針決定過程への女性の参画の拡大
- 2 社会制度・慣行の見直し、意識の改革
- 3 就業における男女の均等な機会を確保するための支援
- 4 男女の職業生活と家庭・地域生活の両立支援
- 5 高齢者等が安心して暮らせる条件整備
- 6 女性に対するあらゆる暴力の根絶
- 7 メディアにおける男女共同参画の推進
- 8 男女共同参画を推進し多様な選択を可能にする教育・学習の充実
- 9 生涯を通じた健康支援
- 10 国際交流・協力、多文化共生

Q8 - 5. 男女共同参画社会の実現のために、行政が取り組む必要があるとあなたが考えるものを、上位3位までお答えください。

- 1 男女共同参画に関わる法律や制度を整える
- 2 法律で罰則規定や義務化を明記し、実効性を持たせる
- 3 社会通念や偏見等を改める啓発を行う
- 4 男女共同参画を進めるための施設やサービスを充実させる
- 5 学校教育において、男女共同参画の学習を充実させる
- 6 その他

Q8 - 6 . 男女共同参画社会の実現のために、企業が取り組む必要があるとあなたが考えるものを、上位3位までお答えください。

- 1 経営トップがリーダーシップを発揮して意識改革を図る
- 2 働き方の見直し、業務の見直し等により生産性を向上する
- 3 性別にかかわらず、正当な評価に基づく処遇を行う
- 4 就業形態に関わらず、公正な処遇を行う
- 5 健康で豊かな生活のための時間を確保するために労働時間関係法令の遵守の徹底
- 6 育児・介護休業、短時間勤務など多様な働きを選択できるための制度整備と利用しやすい職場風土づくりの推進
- 7 再就職・継続就業機会の提供
- 8 その他

Q8 - 7 . 男女共同参画社会の実現のために女性に望むこと(ある・ない)

- 1 特に女性への要望はない
- 2 女性への要望がある

【男女共同参画社会実現のために女性に望むことがあると回答した方におうかがいします】

Q8 - 7 . 男女共同参画社会の実現のために、あなたが女性に望むことを、上位3位までお答えください。

- 1 経済的に自立してほしい
- 2 精神的に自立してほしい
- 3 仕事に関する実力をつけてほしい
- 4 家庭や職場での役割分担を公平にしてほしい
- 5 責任感を持ってほしい
- 6 その他

Q9 - 1 . あなたの最終学歴を、ひとつだけ選択してください。

- 1 中学校卒業
- 2 高等学校卒業
- 3 各種学校・専門学校卒
- 4 短期大学・高等専門学校卒業
- 5 4年制大学卒
- 6 大学院卒
- 7 その他

Q9 - 2 . あなたが現在一緒に住んでいる人を、すべて選択してください。

- |                |       |
|----------------|-------|
| 1 単身世帯(ひとり暮らし) | 5 親戚  |
| 2 恋人           | 6 友人  |
| 3 親            | 7 その他 |
| 4 兄弟姉妹         |       |

Q1 - 6 (A) あなたの日常(\*睡眠を除く)における、「仕事」、「家庭生活」、「個人の生活等」の優先度は。

選択回答	その理由。
<b>20代後半既婚者</b>	
仕事	仕事 仕事を優先しなければ収入が得られず生活できないから もっと仕事をしたい
家庭生活	職責上の責任が重くなってきたから なんとなく 家族が大事だから ない なんとなく 一番大事だから 家族あつての仕事だから 土日は休みだし、帰宅も自由 残業が多く、家に帰るのが遅いため 5歳と10カ月の子供がいるから 家庭を円満に築いていく為 なんとなく 家庭生活があるから他もあると言う認識のため 子供が好き 家族が支えだから 家庭が円満でない気持ちよく働けないし、働く意欲もわかないから そのまま 家族のために働いているから 家族がいての自分だから 家族と過ごす時間が一番幸せだから 休日は、仕事の疲れを癒すことができ、家族の為に時間を有効に使えているとは思わない 家族は、最も大切なものだから 家族のため 後継者だから なし 家庭の為に働いている
個人の生活	自分のしたい事をしながら家族も養える事が理想的 自由時間が欲しいから 個人の生活のために仕事をするので 人生は自分のためにある 仕事の為に生きてるわけではないので
仕事と家庭生活	仕事が大切なのは当然。でも、家族の支えがあってできるもの。だから、家族は大切にしたい 本当は個人の生活等を含めた3つを両立したいですが、たぶん無理な気がするので仕事と家庭を先ず優先したいです どちらも大切 特に不満はないので 現状なんとか満足している 土日祝日は休みなため、家族と過ごす時間がとれる どうしても仕事優先になる 家族も収入もどちらも大事だから 特になし 仕事も家庭も大切なので そうする事が一番円満になると思うので 理由というより実際そう思う為選んだ なし 家庭ありきの仕事だが、どちらも突出して優先させることはできない 自分の理想だから どちらも生きるとのことだから 子どものため どちらも重要なことだから 勤務時間が不規則なので家族に負担がかかる やはり家族との関係がうまくいけば仕事もうまくいくから
仕事と個人の生活	子どもの為に時間をとりたい 仕事も生活も、つながっているものであり、最終的に切り離して考えることは不可能だと思うから。 なんとなく 自分を支えてくれるのは家族だから、やっぱり家族が一番大事。でも、仕事にもやりがいを感じているし、学生時代からこの仕事のために色々勉強してきたから、仕事も大事にしたい
家庭生活と個人の生活	趣味の時間を増やしたい 会社がすべてではない プライベートを充実させるために仕事をしているのに、仕事を優先すると本末転倒になる。 仕事よりもプライベートを重視したいから なんとなく 仕事は収入を得る手段であって、人生において満たしたいものではない。人生において満たしたいものは仕事ではなく、家庭生活であり個人の生活であるから ゆっくりと人生をあゆみたい 基本は自分の生活や家庭が大事。だからこそ仕事に耐えられる 自分一人で何かをするといったことはほとんどない 「家庭生活」と「個人の生活等」をともに優先したいから 必要最低限の収入を得るためのものであるから
仕事と家庭生活と個人の生活	理想(夢)だから 希望とは叶わないものだから 自分だけの時間はあまりとれていない。 それぞれが充実して初めて、お互いに相互作用でいい効果が現れると思うから。例えば、十分な休養を取れて心身ともにリフレッシュできるから、仕事もは理想 全てバランス良く大事にしたい 3つを両立させることが、充実した人生に結びつくと思うから 両立できるに越したことはない どれも大切なものだと思うから すべて揃っているから バランスが一番 全部あれば申し分ない。(現実的にどれかができれば、どれかができない)
わからない	わからない

## 30代前半既婚者

仕事	<p>そーしてるから</p> <p>仕事あつての生活だから</p> <p>仕事ありきの生活だから</p> <p>なし</p>
家庭生活	<p>仕事はお金 que 得られるならなんでもいい、今は子どもとの時間をたくさん持ちたい</p> <p>家族あつてこそその仕事だから</p> <p>仕事人間にはなりたくない</p> <p>仕事も重要だが、何かあつても会社には助けをもらうことはできないし、最終的には自分と自分の家族で生きていかなければならないから</p> <p>家族といるときが一番幸せ</p> <p>娘二人の成長が何よりの楽しみである</p> <p>家族があつての仕事であるという考えのため</p> <p>生活が優先</p> <p>人生の喜びは仕事ではなく家庭にある為</p> <p>家族が一番大事です</p> <p>家庭優先</p> <p>直接的ではないが、家族の助力によって仕事成り立っているため、家族を大切にしたい</p> <p>特になし</p> <p>大事だから</p> <p>一番困ったときに支えてくれるのは家族だから</p> <p>家族が大事だから</p> <p>家族のために働いているので</p> <p>やはり家族が大事</p> <p>ワークライフバランス</p> <p>仕事の都合でプライベートが無くなる時が多い</p> <p>現在単身赴任です。家族は一緒にいたほうがいいから</p> <p>家庭生活が生活の軸となるから</p> <p>家族あつての仕事だから</p> <p>生活のために働きたくないが、働かない生活も嫌だ</p> <p>仕事のプレッシャーを感じたくない</p> <p>家族が大事で、そのために働いているので</p> <p>家族あつてこそその仕事だから</p> <p>家族との生活が大事だから。</p> <p>家庭を大切にすることで幸せを感じるから</p> <p>家庭が大事だと思うから</p> <p>子ども</p> <p>仕事が忙しい</p> <p>家族が大事</p> <p>なんとなく</p> <p>何より大事なものだから</p> <p>職場環境で飲みに誘う、もしくは誘われる人が周りにいないので、会社が終わるとまっすぐ家に帰ることが多いため、また自分でもそう望んでいるため</p> <p>仕事を優先することにより家庭生活に無理が生じることをできるだけ避けたい</p> <p>休みが少なく、関わりが少ないから</p> <p>家庭があるから仕事の意欲もわく</p> <p>子供との時間を大切にしたい</p> <p>家族が大事だから</p> <p>自分の時間を作らないとやっつけられない</p> <p>家族で平和に楽しく暮らす事が自分の幸せだから</p> <p>家族が1番だから</p> <p>仕事より家庭が大事だと思うから</p> <p>収入さえ得られれば、とくに働く必要はないと考えています</p> <p>仕事の為にいきているのではなく、家庭生活を充実させるために仕事をして収入をえているから</p> <p>働く理由だから</p> <p>家族がいるから、仕事を頑張れるから</p> <p>特になし</p> <p>子供が小さい間は特に家庭を優先させたいから</p> <p>家族あつての自分だから</p> <p>結婚しているため</p> <p>家族が大事</p> <p>家族がいるから自分の存在価値がある</p> <p>'家庭生活'の為に収入が必要であり、そのための仕事</p> <p>家族が1番大切だから</p>
個人の生活	<p>働かなくてもいいくらい貯蓄があれば趣味に没頭したい</p> <p>現実</p> <p>精神不安障害と言う診断が下っているため、精神的に安らげる生活が欲しい</p> <p>プライベートの充実</p> <p>まずは自分第一だから</p> <p>ずっと抑圧されてきたから</p> <p>自分の時間が欲しいから</p> <p>自分の人生を楽しみたいから</p> <p>働くために生きているわけではないから</p> <p>自分の人生だから</p> <p>仕事は生活の手段だから</p> <p>何より自分のために働いている</p> <p>出来れば自分のペースで色々な事をこなしていきたい</p> <p>自分が充足していないと、その他も充実しないから</p> <p>収入がたくさんあつて時間を作りたい</p> <p>プライベートを充実したい</p> <p>自分の時間が取れるため</p> <p>自分のやりたいことをしたいから</p>

仕事と 家庭生活	<p>幸福感を感じるため          必要な収入を得て快適な暮らしを家族と楽しく送りたい          どちらも優先したいから          仕事も大切だから          「生きる」という活動の中に仕事と家庭生活があるので分けて考えることは出来ない。同様に大切にするのが当然だと思う          家庭生活のために、仕事をしている。また、家庭生活がうまくいかないと、仕事に影響する。よって両立のバランスを優先          偏ることは良くない          結婚している以上、それが希望          ふたつがうまく両立できれば幸せだと思うから          家族があってこそその人生だから          仕事も充実させたいが、子どもがまだ幼いため家庭生活も充実させたい為          仕事自身の生活を支えている基礎であり、それが安定、もしくは先が見えていければ家庭は安定する事が出来るから          子どもが小さいので、面倒を見ないといけないときに、実際はなかなか仕事は休めない          結婚してからは、個人の趣味はほとんど諦めており、ほとんど仕事か家庭だけに使っているため。          それが生きがいを感じるから          仕事・家庭生活ともにメリハリをつけて行動できれば最善であるため          どちらも大切          人として家庭を持つ上で必要だと思うから          家庭生活があっての仕事だから          実践しているから          急にはなかなか休めない          今春転職したおかげで、現実になんか近くなった          両方とも優先させているから          家庭があることによって安心して仕事ができるので          子どもがいても正社員で働きたい          双方問題なく進められている          家族あっての生活だから          中庸がよいと思われるから          両立したいけどできないから          楽しいから          収入と家庭を両立したい          個人の生活に充てる時間が取りにくいから          そうしたいと思うから          責任感          仕方なく仕事をしていることが多いから          仕事も家庭も大事にしたいから          重要だから          仕事で収入を得ているから家族を養えるし、家族がいるから仕事のモチベーションになる          仕事にやりがいを感じているし、家族サービスもしたい          なし          家に持ち帰る仕事が多い          仕事も家庭生活も大切なので</p>
仕事と 個人の生活	<p>子どもの世話に忙しい、会社以外のところの仕事で余計に時間をとられる(会社以外の仕事がかかりストレス)          どちらも大切          今は仕事を中心に考えてるから          両方優先なので          家族が何より大切だから          仕事に比重を置きすぎず、生活と両立させたいため          ある一定のレベルまで満たされている          仕事以外の自分の時間を大切にしたい</p>
家庭生活と 個人の生活	<p>仕事より家庭、個人を重視          仕事ですべてと絶対に思いたくない          自分や家族の生活が最も大切な基盤だから          「家庭生活」「個人の生活等」の充実があってこそその人生だと思う。仕事か人生かと思わないので          仕事を中心に生きる生活をしたくない。家族のため、自分のために生活したい          仕事を重視したくない          子ども優先の生活のため          個人と家庭を優先したいから          仕事ばかりでは、面白くない。あくまで大事なのは家族          なし          プライベートが充実してこそいい仕事が出来ると思うから          家族と自分の時間があるのが一番          いくら収入などが多くても家族を犠牲にしていたら意味が無いと思う          あくまで仕事は家庭生活や個人の生活の手段だと考えているから          生活を充実させるために仕事をしているから          仕事は収入を得るための手段          楽しいから          希望だから          自分の時間がないということ          家族との時間が少ない気がするから          プライベートの時間を大切にしたいから          子どもがいてるので、子ども中心でいきたい          仕事はしよせん生活のためであるという考えから          まず家族があって、その為に仕事がある。でも自分の時間を作れるようになると、仕事にも力が回り、それがおのずと家族のためにもなるから          年齢を重ねるにつれ、仕事量を減らしたいから          一人の時間がない          家族や生活を仕事より大事にしている          仕事よりも、家族との時間や、自分の趣味の時間を優先したいから          仕事を中心になりたくない          仕事は収入を得るための手段だと考えており、人生の楽しみは家族と過ごすことと自分の趣味が大きいから          仕事は生活のためのお金を得るためのもの。仕事は目的ではない          普通に生きたい</p>



仕事と 家庭生活と 個人の生活	バランスのとれた生活
	人生、一度きりなので全てうまく満足いくように頑張りたい
	どれも大切だから
	事実
	バランスが必要だから
	社会のため
	個人の趣味を追求しきれていない
	大きな不満はない
	充実した人生にしたい
	わからない
	人として、親として
	誰もが望むもの
	そうしたいから
	どれも大事だから
	自分を犠牲にして仕事、家庭生活を優先しているから
	なかなか自分の自由な時間が取れない
	どれも生活を豊かなものにする上で欠かすことのできないものと考えたため
	仕事、家庭生活、個人の生活の3つが両立できれば、充実した毎日が過ごせると感じるから
	仕事がないと生活ができないが、仕事で生活が崩れるのは本末転倒であるので、生活が過度に犠牲にならないよう、仕事にもある一定のリミットが必要、(残業ナシ、公休消化)つまり、ワークライフバランス、ということ
	趣味もできる精神的・時間的・場所的に余裕があればやりたい
	理想だから
	趣味も仕事も充実し、家庭も大事にしたいので
	なんとなく
	すべてが充実すれば満足感が高まりどんなことにも前向きになると思ったから
	あくまでも個人の主観かもしれないが、上手く時間を配分できていると思っているため
	特に優先を決めていないが、バランス良くできればいいと思うため
	両立できる事が一番良いと感じるから
	安定した収入と家族の幸せと自分自身の生きる楽しみはどれも欠かしたくないため
	公私共に充実した生活を送りたい
	全て両立したいから
	家庭も大事だが、自分の時間ももっと欲しい
	バランスが取れていることが望ましいと思うから
	仕事に追われている。ほとんど満足に休みが取れていない
	どれも大切なため、バランスを重視した
	どれも大切だから
	個人の生活が減ったから
	どれも甲乙つけがたいので
	仕事優先になってしまってるから
	仕事、家庭、個人の生活はどれもかけてもバランスを失う気がするので
	普通に
	3つ全てが充実すれば、不満のない人生があくれるから
	仕事の量が、質、賃金ともに満足できるものではない。働き始めた当時の熱意はないので
	家庭を持っている以上、両立させるのが理想だから
	どれも自分を満たす大切な要素だから
	バランスが大事
	仕事とプライベートを明確に区別していると、自分の幅が広がらないから。仕事中でも、プライベートのことを考えているし、プライベートでも、仕事のことを考えています。結局、お金をもらえないなら努力はしない、という人にはなりたくないから
	全部重要
	バランスが取れた生活に憧れる
	欲張りだから
	何事もバランスだと思っているから
	一番理想的だから
	家庭があって仕事ができ、仕事があって家庭の良さを知ることができます。その中で、個人としての趣味等を持てたら良いなと思っています
	週末の予定はどうしても自分の趣味から入れてしまう
	特になし

30代後半既婚者

仕事	家庭よりも仕事です
	仕事が先に来てるから家庭生活があるから仕事優先
	特になし
	仕事一筋だから
	大切だから
	今は、仕事を優先することで、いずれ家庭生活や個人の生活等を充実させることができる時期が来ると思っているから
	仕事が基盤
	収入あって家庭もあるため
	他にないから
	仕事があまくいけば、私生活もうまくいく
	仕事有っての生活だから
	家庭があつてこそ仕事
	一家の大黒柱として必須条件だから
	仕事をするからこそ家庭が成り立ってると思ってるから
家庭生活	これからのことを考えると仕事中心ではやっていけない。仕事に依存しない家・自分を見直す必要がある
	家族あつての仕事だから
	何となくそんな感じ
	なんとなく
	親が仕事優先だったため
	おろそかにしているわけではないが、仕事を優先しているという意識はない
	子どもが最優先
	家族に支えられているから
	そうするべく、まゝ職を辞め、独立したから
	家庭あつての仕事だから
	仕事より家族
	家庭が人生の基本だと思うから
	家庭を大切にしたいから
	仕事は収入のためであり、家族が基本だから
	仕事よりも家族との時間を大切にしたいから
	特になし
	家庭が一番
	生活の基盤は家庭だから
	家族がいなければ自分の人生はどうに破綻していたと思うから
	家族が自分の中で一番大事だから
	家族あつての仕事ですから
	仕事のみならず、充実した人生を送るには、その人の家庭生活がしっかり安定したものである必要があると思うから
	家庭のために働くのです
	家庭が大切だから
	家族に支えられて生きていけるので
	何より家族が大切だから
	今の自分の中で家庭が一番大事だから
	理想
	家庭があるから働く
	特になし
	仕事はあくまでも、家計(家庭)を支えるもの
	ファミリーを大事にしたい
	毎日帰りが深夜近くになるので
	やはり家庭が一番大切でかけがえの無いものだから
	子どもとの時間をもちたいから
	金
	理想
	特になし
	仕事はたとえ、辞めてもなんとかなるが家族はならないから。会社ごときで家族が犠牲になるなんて考えられない
	プライベートは、充実させたい
	ない
	やはり家庭を大事にしたい
	自由に出来る
	家庭は大事
	あまり働きたくないから
	「家庭生活」のために働いているため、「家庭生活」を最優先する。
	それが一番だから
	家庭があつてこそ自分や仕事だから
	家族が大事だから
	家族が第一だと思います
	家族第一
	なし
	家族(子ども)という時間がほしい
	会社のために働いているわけではないので

個人の生活	楽しく生きたい
	働く意欲がわからないから
	自分の時間が欲しい
	プライベートの充実が人間の生きている意味だと思う
	個人の時間を満喫したいから
	友達とも会っていないので
	なし
	自分だけの時間を持つためには睡眠時間を削る必要がある
	妻が大事だから
	出張が多く、休日がつぶれやすいので、定期的な休みで自分の時間を作りたいから
	自分自身の為に生きているのだから
	社会に貢献するには自分の時間必要と考えているから
	個人の生活が仕事を支えると考えているから
	現実で精神をおかしくしたから
	自分の健康が保てる為には、個人が大切
	自分の時間が欲しいから
	特になし
	趣味に時間をさきたい
	自分が楽しいと思えることをしたい
	現状では、日々において個人の生活が全くなっているから
	私生活が充実しないと仕事もうまくいかないから
仕事と家庭生活	仕事を優先すると家庭が疎かになるし、子どもの教育にも悪い影響が出そうだと思う
	公私共々、充実させたい。プライベートでは、最小組織の単位の家族の絆を深めたい。また仕事では、それを達成する為に経済的な理由と、自分自身の能力UPと近い将来の夢、独立を目指しているため
	仕事も家庭も充実していれば片方のストレスをもう片方で発散できるから
	自営業なので休むと即収入減になるので、なかなか休むことが出来ない
	自身の理想
	今は、満足いく形が取れていると思う
	家族が大事
	仕事は家庭生活のためにあるが、それ自体にもやりがいを見出せないと続けられないから
	家族も仕事も大事
	「仕事」も「家庭生活」も、自分にとってはどちらも重要なことであるため
	今重要だから
	どちらも大事だから
	家族が一番大切だから
	金が欲しい
	家族、仕事ともに大事だから
	今はバランスがとれていると感じている
	家庭生活を重要視してくれる会社
	仕事と家庭生活は一体同体のようなものだから
	仕事と家庭を両立したいから
	家庭あつての仕事、仕事あつての家庭
	平日は仕事、休みは家庭サービスのパターンが出来ているから。
	仕事には自己実現が含まれるので重要。しかし同じくらい家庭は人生を豊かにしてくれる重要なものだから
	義務の分野と権利の分野とのバランスが取れて居る事が最も健康的で人間的で有ると考えるから。権利である家庭の幸福(子どもの幸福な成長:現在の個人の幸福でもある)は、義務の仕事を果たせば今の所保てられると考える
	個人的な時間は特にどうでも良い。仕事も大事だが、家庭生活も大事に考えている
	連休が取れないので
	特になし
	家族が一番
	家族を大事にしたいから
	なんとなく
	当然のことだから
	仕事場も近いし、多少の融通が利く
	現状だから
	なんとなく
	仕事に追われている
	仕事だけでなく、家族のことも大切にしたい
	そう思ったから
	双方の充実が自分にとって大切だから
	両立させるのがバランスが良い
	両方大切だから
	家庭があつての仕事だから
	家庭生活が一番大切だが、現実としては仕事も共にやらないと人生においての達成感等を感じられないから
仕事は絶対大事だが、家庭も大事だから	
自己犠牲の精神から	
家庭の安定なくして仕事の充実は図れないと考えているから	
どちらも大事	
家庭が安定していると、仕事の活力源になるし、家庭のために給料を上げようと仕事も頑張れるから	
仕事も家庭も大事だから	

仕事と 個人の生活	個人の趣味を充実させたいから 自分の時間も必要だから 仕事に満足出来るようになれば、十分可能だから 自分の人生を楽しみたい、仕事もその一つ
家庭生活と 個人の生活	仕事よりも家族、自分が大事だから 仕事のために家庭を犠牲にはしたくないから 仕事以外で充実したい 特になし 子どもが小さく家庭生活を優先すべきであるが、少しでも自分の時間が欲しいため 家庭が一番と思うから 仕事の為に生活をしているのではなく、生活の為に仕事をしているから あくせく働かず、家族や自分の個性を大切にしたい 「仕事は代わりがきくが、家族に代わりはきかない」が理由 自由に働きたい そうなので 仕事は生きていくためにしている行為。人間本来の目的は「家族」と「個人」に収束すると考えているため 仕事よりも生活を優先したいから 自分の家庭以外に興味を持つ金銭的、時間的余裕がないから 居場所 仕事する為に働いてる訳じゃない！ 仕事は手段に過ぎないため優先度は下がる 遊ぶために働く！ ゆとりある生活を送りたい 仕事は、家庭と個人の生活を充実させるための1つの手段であるので、家庭と個人の生活を犠牲にするのは、本末転倒である 仕事人間にはなりたくない 自分と自分の家族が一番大事だと思うから 自分の自由な時間がほしい 仕事は、生活する為に必要な糧を得るものだから 家族が大事で自分の趣味も楽しみたいから 個人の考え方になるが、お金があれば、仕事の比率は下げて、家族、個人の生活を優先させたい。お金があるのに、家族、個人の生活を犠牲にして仕事をするのは、仕事しかすることがないが、仕事が趣味かだと考えます。勿論、このお金が重要で、仕事が優先になるのですが 子どもは宝 家庭生活と個人の生活が充実しないと、仕事に打ち込むことができないため
仕事と 家庭生活と 個人の生活	働かなくては収入を得られないし社会貢献ができない。家庭生活も大事だが自分の時間もほしい。そのため、「仕事」と「家庭生活」と「個人の生活等」の3つが両立できることが理想である 何も犠牲にたくない それぞれバランス良く出来ている 人生は1回しかないで、すべてにおいて充実した人生をおくりたいため なんとなく すべてを優先するのは難しい 全てが両立できて充実していると言えると思うので 全部大事でバランスを取れば安定するから そうありたいと思っているから やるからにはすべてに全力投球でいきたい 安心 ワークライフバランスを明確にすることが、仕事の意欲、ひいては充実にも影響してくると思う 全てがバランスよい状態が理想だと思うので とくにない すべて大事だから 全てが等しく大切である そこそこ 理想 どれもやりたいようにやっているのだから そのような環境にある 全てが充実するのが一番だと思うから 可能であれば仕事と家庭と趣味を両立する事が夢だから 人生のバランス 特に不満もなく、出来ているため いろいろとしがらみが出て全てを同じように扱いたい。とくに自分だけの時間が欲しい 全てに充実したい バランスが取れるべき選択肢だから どれもバランスが大事だから 自分のことは何もできない 理想です 全て充実させたい メリハリをつけて、バリッと仕事してバリッと遊ぶ！を実践していきたいから 3つとも大事なもののなので、両立できるにこしたことはない 仕事と家庭の両立はもちろん自分の時間も作れることが全てに+1に働くから 全部満たしたいから 家庭や個人の趣味等が充実してこそ仕事に活力が生まれると思うからです 今のところ3つを分ける事が不可能な状態なので すべてが充実している方がよいから 両立できればいいねと 特になし 常々こうありたいと思っている 個人の時間はとても取れそうに無いのですが、時には欲しい 自営業の為、自分の時間は作ることが出来るし、家族と常に一緒に過ごせる それがストレスなく暮らせるから 自由 仕事、家庭生活、個人生活はバランス良くやっていかないと人としての真つ当な生活を営んでいるとは言えないと思うから 家族や自分にもゆとりを持つことができ、ストレスなく生活できそうだから なかなか自分の時間が取れない 全てにおいて充実した生活を送りたい 理想なので 普通そうじゃないでしょうか？ 理想的 現状で自分の趣味などに費やす時間が無いから

平成 21 年度 「20～30 代働く男性の男女共同参画に関する意識と実態」調査研究報告書

発 行 大阪市(市民局 男女共同参画担当)  
〒530-8201 大阪市北区中之島 1 丁目 3 - 20

調 査 実 施 機 関 財団法人大阪市女性協会  
〒543-0002 大阪市天王寺区上汐 5 丁目 6 - 25  
電話 06 - 6770 - 7200

発 行 日 平成 22 年 3 月